

PC-9801対応ソフト(98用/MS-DOS汎用/Windows用)を満載した第3弾

秀 作

# フリーソフトウェア

3.5

イン  
チ  
ユーザー版

◆本書の付属ディスクは3.5インチ2HD (1.2Mバイト) タイプです。5インチ2HDタイプのユーザーの方は「5インチユーザー版」をお買い求めください。◆MS-DOS 汎用およびWindows用のソフトはPC-9801以外の機種でも動作可能ですが、2HD (1.2Mバイト) タイプが読めない機種で利用するためには、メディアコンバートが必要です。

ネットワークス編集部  
月刊アスキー編集部 編

PART 3

98ユーザーのための定番114本を付属ディスク10枚に一挙収録!

選

アスキー出版局





9784756105486



1913055058003

ISBN4-7561-0548-3 C3055 P5800E

## 収録ソフトウェア一覧

※「動作環境」欄は、「98」-PC-9800シリーズ用、「DOS」-MS-DOS汎用、「WIN」-Microsoft Windows用。ここでの表示は大まかな分類であり、対応機種や動作条件の詳細については、マニュアルのSoftware Indexの「動作環境」の項目をご覧ください。また「①」「②」印がついているのはシェアウェア、その他はフリーソフトウェアです。「①」「②」はそれぞれ「秀作フリーソフトウェア100選」「秀作フリーソフトウェア100選PART 2」への収録ソフトですが、今回収録したのは、その後のバージョンアップを経た最新版です。※付属ディスクにはMS-DOSのシステムは含まれていないので、別途必要になります。

名称	動作環境
ADDRESS	98②
A-WORD	98
CALPET	98②
C-GRAPH 3Dimension	98
DDWin	WIN
EditEngine	98②
FDB, FDB for Windows	DOS, WIN
FILMTN	98①
FL	98
FMWIN	WIN
HF	98
JED	98
OZMENU	98
Quick-Note	98③
Real Editor I / II	98
Tele-Book	98
Winhd.exe	WIN
YF	98
√menu / plus	98
おかみさんの家計簿	98
卓駆★ファイルマネージャ	WIN③
秘書98	98③
秀丸エディタ	WIN③
ファイル管理のワークシートAUTO123	98ほか
BATCP	DOS①
BU (BATUTY)	DOS
comlist	DOS
compdir	DOS
DIET	DOS①
DV.exe	98
izgrep	DOS
LHA	DOS①②
LHA.DLL	WIN
LHA Tree	98②
LHD	98
LHQ	98①
LOOK	98
MIEL	98①②
MS	DOS①
osanpo.exe	98③
PATCH IO.SYS	98
pm	DOS
PRC.COM	98
SCOPY	98
SDU	98
TODAY	DOS②
uncompak / un e2c	DOS
vlabel	DOS
wild / fox	DOS
WSP	DOS
zkill	DOS
ぐらふいいくECHO	98
age.com	98
CHOICE-plus	DOS
CRD	DOS
DOSHIGH	98①
ERDISK	DOS

名称	動作環境
kframe	WIN
OKPP	98
Q's MOUSE	98
REX	98
sec.com	98
SIG.EXE	98
TMonCB.EXE	WIN
Windows History	WIN
WinLog.exe	WIN
WISER	98③
XRDISK.EXE	DOS
30行BIOS	98
49L.COM	98
びゅうまるち	98
ファイルマネージャ拡張メニュー	WIN③
EasyTERM	98①
NIFMCR3	98ほか
NIFP	98
air craft	98
WTERM	98①
秀Term	WIN③
BMPUT	98
Canvas-98	98
GRIFFON	98
JPGV98	98
RNDDOT.EXE	98
team	98
VR-Simulator	98
WP.EXE	98
FMP-SYSTEM	98
Mdrv2 System	98
MIMPI	98①
Ray	98①
Windows PCM Player	98
Jazz Bound II	98
Jazz Race	98
MARKADIA	98
NyaHaX'93	98
SAVANNA	98
SURAMAUS	98
*100m徒競走*	98
4×4 TILE GAME	98
原発 (安定装置付)	98
スピード	98
大貧民	98
どぼん	WIN
マッチメーカー	98
*みつみね*	98, WIN
ロールプレイングゲームメーカー	WIN
RPGrun	WIN
HOSop	98
Triangle!!	98
スクリーンセーバーツール	98
「空飛ぶお釜」	98
nakimaus 2 dash	98
にゃん文字	98
バイオリズム	WIN

3.5インチユーザー版 定価5,800円 (本体5,631円)



PC-9801対応ソフト(98用／MS-DOS汎用／Windows用)を満載した第3弾

秀 作

フリーソフトウェア

ネットワークス編集部  
月刊アスキー編集部 編

100  
PART 3  
選

アスキー出版局



秀 作  
フリーソフトウェア

100  
PART 3  
選

アスキー出版局



- 
- 本書に収録したソフトウェアは、それぞれの作者が著作権を有するフリーソフトウェアまたはシェアウェアです。各ソフトウェアの著者は本書「Software Index」に明記されています。
  - 本書に収録したフリーソフトウェアおよびシェアウェアは一般に再配布が可能です。ただし、収録バージョンの再配布を禁じているものや、再配布の条件が定められているものもありますので、再配布の際には各ソフトウェアのドキュメントを必ず確認してください。
  - 本書に収録したフリーソフトウェアおよびシェアウェアは、その性質上、ソフトウェア著作者によるプログラム改修などの保証義務が免除されています。また、ソフトウェアの実行結果について、ソフトウェア著作者および株式会社アスキーは責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
  - MS-DOSは米国マイクロソフト社の登録商標です。
  - 本書に登場するシステム名・製品名は、一般に開発メーカーの登録商標・商標または製品名・商品名です。本文中では、TMおよび®マークは表示していません。



## 目をみはる完成度の高さ

本書は、「秀作フリーソフトウェア100選」および「秀作フリーソフトウェア100選 PART2」（いずれも弊社刊）の続編としてお届けするものです。前者は、第1回フリーソフトウェア大賞にノミネートされた103本のソフトウェア、後者は、ネットワーク編集（現ネットワークス編集部）と月刊アスキー編集部が独自に選んだ111本のソフトウェアを収録させていただきました。

ユーザーが自ら作り、主にパソコン通信を通じて配布されるフリーソフトウェアに、非常に魅力的なプログラムが多いことは、この本を手にとられている読者の方なら、すでによくご存じのことでしょう。作者とそれを使う人が、パソコン通信を利用して、直接コミュニケーションをとりながら、市販のアプリケーションとはまた違ったソフトウェアの世界を作り上げていることは、まさに、パソコンというメディアならではのことでないでしょうか？

「秀作フリーソフトウェア100選 PART3」は、新たにニューメディア開発協会・電子ネットワーク懇談会を選考母体に行なわれた、第2回フリーソフトウェア大賞のノミネート作品をもとに構成されています。この中からPC-9801で動くものを選び出し、これにネットワークス編集部と月刊アスキー編集部が推薦する優れたフリーソフトウェアを加えた114本を収録させていただきました。

今回、編集作業を進めるに当たって、あらためて痛感させられたのは、パソコン通信にアップロードされるフリーソフトウェアの数の豊富さと、それ以上に、完成度の高いソフトウェアが登場していることでした。また、新しい動きとしては、本格的に立ち上がったWindows3.1関連のソフトウェアが登場しはじめていることがあげられます。

本書は、こうしたフリーソフトウェアを、電話回線経由ではなく、書籍パッケージによる流通という形で、より多くのパソコンユーザーの元にお届けしようというものです。作者の方々に尊重し、フリーソフトウェアの発展に微力ながら貢献したいと思います。

ネットワークス編集部  
月刊アスキー編集部  
編集長 遠藤 諭



# 目次

目をみはる完成度の高さ——ネットワークス/月刊アスキー編集長 遠藤諭 .....	3
付属ディスクの使い方 .....	7
付属ディスクの収録ソフト一覧 .....	16
フリーソフトとシェアウェアについて .....	20

## Software Index .....

31

Software Indexの使い方 .....	32
--------------------------	----

### 《アプリケーション (APLI)》

ADDRESS	住所録用のカード型データベース.....	34
A-WORD	エディタのように使える実用ワープロソフト .....	34
CALPET	3次元計算/複数ウィンドウ表示が可能な表計算ソフト .....	35
C-GRAPH 3Dimension	計測データなどの3次元グラフを描画 .....	35
DDWin	Windows上で電子ブックやCD-ROMを検索.....	36
EditEngine	マルチウィンドウ/マルチファイルスクリーンエディタ .....	36
FDB, FDB for Windows	フロッピー管理用のデータベースを作成 .....	37
FILMTN	操作性のよい30行BIOS対応ファイル .....	37
FL	複数ディスク内のファイルを管理するデータベース .....	38
FMWIN	FILMTNライクなWindows用ファイル .....	38
HF	細かい気配りに富んだ多機能ファイル .....	39
JED	コンパクトで高速なスクリーンエディタ .....	39
OZMENU	アプリケーションをマウスで起動するメニュープログラム .....	40
Quick-Note	数学記号や関数グラフが入力できる数式用ワープロ.....	40
Real Editor I / II	複数のファイルを同時に編集可能なエディタ .....	41
Tele-Book	モデムを使って電話をかけるユーティリティ .....	41
ファイル操作HD Winhd.exe	オールマウス操作のWindows用ファイル管理ツール .....	42
YF	ネットワークドライブに対応したファイラプログラム .....	42
y/menu/plus	スケジューラ機能を持つメニュープログラム.....	43
おかみさんの家計簿	「おかみさんにも使える」家計簿ソフト .....	43
卓駆★ファイルマネージャ	Windows用の本格的ファイル管理ツール .....	44
秘書98	「98が秘書代わりになる」スケジューラソフト.....	44
秀丸エディタ for Windows	Windows用の高速/多機能エディタ.....	45
ファイル管理のワークシートAUTO123	1-2-3のマクロでファイラ機能を実現 .....	45





## 《ツール (TOOL)》

BATCP	バッチファイルをCOM形式の実行ファイルに変換	46
BU (BATUTY)	バッチファイル中で使えるユーティリティ	46
comlist	compact/exe2comで変換されたCOMファイルを検索/表示	47
compdir	2つのディレクトリ中のファイルを比較	47
DIET	実行ファイルやデータファイルを圧縮	48
Drive information Viewer (DV.exe)	ディスクの詳細情報を表示	48
izgrep	テキストファイル中から高速に文字列を検索	49
LHA	国内標準の高圧縮アーカイバ	49
LHA.DLL	Windows上でLHAのアーカイブを操作するDLL	50
LHA Tree	LHAのアーカイブファイルをメニュー形式で閲覧/展開	50
LHD	LHAを使用した高圧縮バックアップツール	51
LHQ	アーカイブファイル用メニューユーティリティ	51
LOOK	アーカイブ内のアーカイブも操作できるアーカイブ管理ツール	52
MIEL	ファイラ機能を備えた高速ページャ	52
MS	EMSやXMSなど各種メモリの状態を詳細表示	53
osanpo.exe	メモリの状態をグラフで表示	53
PATCH IO.SYS	起動ドライブに関わらずドライブ名を固定	54
pm	バイナリファイル中の文字列を抽出/書き換え	54
PRC.COM	「レーザショット」の設定をパソコン側で実行	55
SCOPY	フロッピーディスクのフォーマット/コピーを実行	55
SDU	接続されたディスクドライブ/デバイスドライバの情報を表示	56
TODAY	旧暦や歴史上の事件など、「今日」の情報を表示	56
uncompak/une2c	compact/exe2comされたCOMファイルを逆変換	57
vlabel	ボリュームラベルの表示/変更/削除	57
wild/fox	コマンドライン入力を便利にするツール2題	58
WSP	差分ファイルの作成	58
zkill	テキストファイル中のEOFコードを削除するフィルタ	59
ぐらふいっくECHO	文字をグラフィカルに表示する拡張ECHOコマンド	59

## 《常駐プログラム (TSR)》

age.com	西暦と和暦の変換など、年計算を実行	60
CHOICE-plus	デバイスドライバの組み込みをメニュー形式で選択	60
CRD	XMS方式のメモリを使用するRAMディスクドライバ	61
DOSHIGH	MS-DOS3.3でシステムエリアをHMAに転送	61
ERDISK	EMS方式のメモリを使用するRAMディスクドライバ	62
kframe	ウィンドウ枠の拡大/縮小をアニメーション表示	62
OKPP	98で親指シフト配列をシミュレート	63
Q's MOUSE Device Driver	アスキー/マイクロソフト版互換のマウスドライバ	63
REX	プログラムをワンタッチで起動させる常駐型ローダ	64
sec.com	時間の計算を行ない、結果を標準出力に出す	64
SIG.EXE	日本語入力FEPの起動キーを変更	65
TMonCB.EXE	Windowsアプリの切り替えをポップアップメニューで	65
Windows History	Windowsの文字列入力にヒストリー機能を追加	66
WinLog.exe	Windowsの使用時間を集計/表示	66
WISER	MS-DOSで擬似マルチタスク/マルチウィンドウを実現	67
XRDISK.EXE	XMS方式のメモリを使用するRAMディスクドライバ	67
30行BIOS	98のテキスト表示行数を25行以上に拡張	68
49L.COM	98で画面に表示される行数を倍にする	68
びゅうまるち	ユーザー定義文字を使って各種フォントを表示	69
ファイルマネージャ拡張メニュー	Windowsのファイルマネージャの機能を拡張	69



## 《通信 (COM)》

EasyTERM	バックグラウンドエディタを内蔵した通信ソフト	70
NIFMCR3	NIFTYのオートパイロットを実現するWTERM用マクロ	70
NIFP	NIFTY専用ログブラウザ/ログカッター	71
air craft	NIFTY専用オートパイロットシステム	71
WTERM	初心者でも安心して使える「定番」通信ソフト	72
秀Term for Windows	Windows用高速/高機能通信ソフト	72

## 《画像 (GRAPH)》

BMPUT	各種画像ファイルをWindows用BMPファイルに変換	73
Canvas-98	高速なペイント系グラフィックエディタ	73
GRIFFON	JPEG形式の画像ファイルを擬似多色表示	74
JPGV98	JPEG形式の画像ファイルを16色に減色表示	74
RNDDOT.EXE	ランダムドット・ステレオグラムを作成/表示	75
team	MAG形式の画像ファイルを高速に画面表示	75
VR-Simulator	回転しながら移動する立体の動きをシミュレート	76
WP.EXE	壁紙風のステレオグラムを作成/表示	76

## 《音楽 (MUSIC)》

FM音源ドライバー FMP-SYSTEM	FM音源によるBGM機能を実現	77
Mdrv2 System	各種音源ボードに対応した音楽データ再生用ドライバ	77
MIMPI	MIDI音源用の各種音楽データを再生	78
Ray	演奏も画像も楽しめるAudio&Visual統合ソフト	78
Windows PCM Player	WindowsのPCMファイルを再生するライブラリ	79

## 《ゲーム (GAME)》

Jazz Bound II	ボールを避けながらエリアを塗り潰すアクションゲーム	79
Jazz Race	ヘビを操作して餌を食べるゲーム	80
MARKADIA	「正統派」縦スクロール型シューティングゲーム	80
NyaHa'93	制限時間内に敵を撃破するシューティングゲーム	81
SAVANNA	画面上で生物が増殖/減少の様子をシミュレート	81
SURAMAUS	マウスを使って操作するスキーゲーム	82
“100m徒競走”	マウスを使って100メートル競走を行なうゲーム	82
4x4 TILE GAME	タイルを並べて遊ぶパズルゲーム	83
原発 (安定装置付)	原子炉を舞台にしたテキスト画面シューティングゲーム	83
スピード	リアルタイム型カードゲーム	84
大貧民	シンプルルールの古典的カードゲーム	84
どぼん	「ページワン」に似たWindows用カードゲーム	85
マッチメーカー	ロボットを作成して格闘させるシミュレーションゲーム	85
“みつみね”	「mine sweeper」に似た3次元パズルゲーム	86
ロールプレイングゲームメーカー	Windows用RPGのシナリオを作成	86
RPGRun	ロールプレイングゲームメーカーのシナリオを実行	87

## 《ジョーク (JOKE)》

HOSop	篠原重工製レイバー用OS「HOS」の起動画面を表示	87
Triangle!!	三角形が画面を飛び回る非常駐型スクリーンセーバ	88
スクリーンセーバツクール	パターンの自作が可能な常駐型スクリーンセーバ	88
「空飛ぶお釜」	「お釜」が画面を飛び回る非常駐型スクリーンセーバ	89
nakimaus 2 dash	マウスを操作してメロディーを奏でる	89
にゃん文字	たくさんの猫が文字を作る「猫文字」を表示	90
バイオリズム	Windows用のバイオリズム表示プログラム	90

サンプルデータについて .....91

ソフト名順索引 .....92



# 付属ディスクの使い方

ここでは、本書の付属ディスクの使い方を説明します。付属ディスクをご利用いただく前に必ずお読みください。

付属ディスクを利用するためには、お使いになっているマシンやMS-DOSについて、ある程度の知識が必要です。ここでも一通り説明しますが、パソコンの初心者の方は、マシンの付属マニュアルやMS-DOSの入門書をお読みになっておくことをお勧めします。

## 付属ディスクの構成

本書には、付属ディスクの種別によって「3.5インチユーザー版」と「5インチユーザー版」の2種類があります。いずれも付属ディスク10枚組（No.1～10）の構成で、各ディスクの内容もまったく同じです。なお、本書はPC-9800シリーズのユーザーを対象としているため、付属ディスクは、98で標準的な「2HD」というフロッピー形式になっています。

**参考** 本書には、98専用ソフトだけでなく、MS-DOS汎用やMS-Windows用のソフトも含まれますが、2HD形式が読めない機種で利用するためには「メディアコンバート」という作業が必要になります。

付属ディスクが破損した場合などに備えて、バックアップディスク（予備ディスク）を作成しておくことをお勧めします。そのためには、2HD形式でフォーマットしたディスクを10枚用意し、DISKCOPYコマンドや市販のディスク管理ソフトなどでディスクコピーします [→素朴な疑問1～3]。

## 素朴な疑問① 「2HD形式でフォーマットする」方法は？

未使用のフロッピーディスクを初めて使用する際には、「フォーマット（初期化）」という作業を行なう必要があります。この作業は、MS-DOSのシステムディスクに入っているFORMATコマンド（ファイル名はFORMAT.EXEまたはFORMAT.COM）によって行ないます。なお、FORMATコマンドでは、“2DD”および“2HD”のうちのどちらの形式でフォーマットするかを聞いてきますが、通常は“2HD”形式を指定しておけば間違いありません。

例えば、MS-DOSをAドライブから起動し、未使用のフロッピーディスクをBドライブに挿入した場合は、MS-DOSのコマンドラインから次のように入力します (Enterはリターンキー、以下同じ) [→素朴な疑問2]。

A>format b: (Enter)

あとは、画面に表示される指示に従って、図Aのように操作してください。なお、FORMATコマンドが表示するメッセージは、MS-DOSのバージョンによって若干異なります。

```
A>format b: (Enter)
Format Version 5.10
新しいディスクをドライブ B: に挿入し
どれかキーを押してください (Enter)
ディスクのタイプは 1: 2DD(640KB) 2: 2HD(1MB) = 2 (Enter)
目的のディスクは 1MB FD です

フォーマットが終了しました
0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
|-----|
1250304 バイト 全ディスク容量
1250304 バイト 使用可能ディスク容量

別のディスクをフォーマットしますか(Y/N) n (Enter)
A>
```

図A FORMATコマンドの実行例



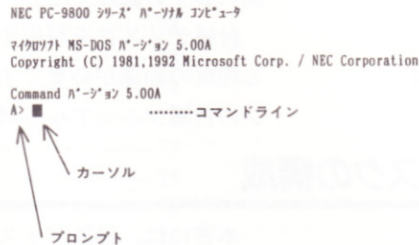
## 素朴な疑問②

パソコンの電源を入れたら、MS-DOSが起動し、(メニュープログラムなどが起動するような設定になっている場合を除いて)「A>」というプロンプトが表示され、その後ろに四角いカーソルが点滅した状態の行が現われます(図B)。この行のことを「コマンドライン」と呼びます。

コマンドラインが表示されている状態で、キーボードからコマンド名を入力することにより、MS-DOSのコマンド(DIR、COPY、FORMATなど)やその他の各種プログラムを起動することができます。

MS-DOSの起動後に、MS-DOSやハードディスクに付属するメニュープログラムが起動するようになっている場合も、所定の操作でメニュープログラムを終了させれば、MS-DOSのコマンドラインが表示されます。

MS-DOSに付属するメニュープログラムを終了させるためには、画面にメニューが表示された状態で、F9キーまたはSTOPキーを押します。他のメニュープログラムをお使いの方は、メニュープログラムの付属マニュアルをご覧ください。メニュープログラムを終了してコマンドラインを表示させてください。



図B MS-DOS起動直後に表示されたコマンドライン

## 付属ディスクの内容とアーカイブについて

付属ディスクNo.1～No.10に収録したファイルは「付属ディスクの収録ソフト一覧」(P. 16～19)のとおりです。

この表を見ると、ほとんどのファイルの拡張子が“.LZH"になっていることが分かります [→素朴な疑問4]。これは「アーカイブ」と呼ばれるファイル形式の一種であり、プログラムやデータ、ドキュメントなど複数のファイルを圧縮して1つのファイルにまとめたものです。このような形になっているのは、

- ・各ソフトの関係ファイルを1つにまとめておける
- ・限られたディスク容量の中にできるだけ多くのソフトを収録できる

という理由からです。

ただし、アーカイブの形になっているソフトは、そのままでは利用できません。ソフトを実際に動かすためには、「アーカイブ内のファイルを展開してハードディスクまたはフロッピーディスクに書き込む」という作業が必要です。この作業には「アーカイバ」と呼ばれるアーカイブ管理用のソフトを使用します。

アーカイバにもさまざまな種類がありますが、日本ではLHA（吉崎栄泰氏作）というアーカイバが主流になっています。拡張子が“.LZH”となっているファイルは、すべてこのアーカイバで作成したアーカイブであり、アーカイブ内のファイルを展開するためにもLHAを使用します。

## 収録ソフトの展開方法

ここでは、LHAによってアーカイブ内のファイルをハードディスクまたはフロッピーディスクに展開する方法を説明します。

なお、ソフトをフロッピーディスクに展開する場合は、フォーマットしてMS-DOSシス



テムを組み込んだ作業用フロッピーディスク（以下「作業用ディスク」と略記）を用意しておいてください [→素朴な疑問5]。

**【注意】** 付属ディスク自体は書き込み禁止の状態になっているため、アーカイブの内容を付属ディスク上に展開することはできません。また、たとえ書き込み禁止を解除しても、ディスクはほぼ満杯状態であり、ファイルを展開する余地はほとんどありません。したがって、ソフトをフロッピーディスクに展開して利用するためには、必ず作業用ディスクを用意してください。

**【注意】** 作業用ディスクをフォーマットする際に、MS-DOSシステムを組み込まないでよくと、アーカイブを作業用ディスクに展開する際に「COMMAND.COMが見つかりません」というエラーメッセージが表示される可能性があります。

### 素朴な疑問③ 「DISKCOPYコマンドでディスクコピー」する方法は？

DISKCOPYコマンド（ファイル名はDISKCOPY.EXEまたはDISKCOPY.COM）は、フロッピーディスクをまるごとコピー（ディスクコピー）するためのコマンドです。

コピー先のフロッピーディスクは、あらかじめFORMATコマンドでフォーマットしておく必要があります [→素朴な疑問1]。

**【参考】** MS-DOS Ver.3.3D以降では、コピー先のディスクがフォーマットされていない場合、DISKCOPYコマンドでフォーマット作業も行なってくれますが、以下の説明では、コピー先のフロッピーディスクがあらかじめFORMATコマンドでフォーマットされているものとします。

例えば、Aドライブがハードディスク、B、Cドライブがフロッピーディスクドライブになっているとき、ディスクコピーを行なうためには、MS-DOSのコマンドラインから次のように入力します。

```
A> diskcopy b: c: [F]
```

あとは、画面に表示される指示に従って、図Cのように操作してください。このとき、コピー元ディスク（付属ディスク）をBドライブ、コピー先ディスク（バックアップディスク）をCドライブに挿入するの

で、間違えないように十分注意してください。なお、DISKCOPYコマンドが表示するメッセージは、MS-DOSのバージョンによって若干異なります。

```
A>diskcopy b: c: [F]
DISKCOPY version 5.00
ディスクのコピーを行います
送り側ディスクをドライブ B: に挿入してください
受け側ディスクをドライブ C: に挿入してください
準備ができたらどれかキーを押してください [F]
照合中 残り 126 トラックです
0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
|-----|-----|-----|-----|-----|
コピーは終了しました
もう一度実行しますか(Y/N)N
A>
```

図C DISKCOPYコマンドの実行情例

### 素朴な疑問④ 「ファイル名」と「拡張子」について教えてください

MS-DOSでは、ファイルに名前をつけることで、それぞれのファイルを区別しています。ファイル名は、“ADRES386.LZH” “LHA.EXE”というように、半角文字で最大8文字までの「（狭義の）ファイル名」と、最大3文字までの「拡張子」とをピリオド（.）でつなぐ形になっています。拡張子は省略可能であり、拡張子を省略する場合はピリオドも不要です。

通常、「ファイル名」と呼ぶ場合は、「（狭義の）ファイル名」と「拡

張子」とを合わせたものを指します。

ファイル名に含まれる半角の英字については、大文字と小文字の区別はありません。例えば、“LHA.EXE” “lha.exe” “LhA.eXe”は区別されません。

同じドライブの同じディレクトリの中には、ファイル名がまったく同じ（「（狭義の）ファイル名」と「拡張子」とがいずれも同じ）ファイルが2つ以上置くことはできません。



LHAによるアーカイブには、

- ・通常のアーカイブファイル（拡張子“.LZH”）
- ・自己展開型アーカイブファイル（拡張子“.EXE”）

の2種類があります。以下、それぞれのタイプのアーカイブファイルについて、展開方法を説明します。

## ◆アーカイブの展開手順1：拡張子“.LZH”の場合

拡張子が“.LZH”となっている通常のアーカイブファイルを展開するためには、付属ディスクをフロッピーディスクドライブに挿入し、そのドライブをカレントドライブにしたうえで、LHAコマンドを次の形式で実行します [→素朴な疑問6]。

lha x アーカイブ名 展開先

ここで、アーカイブ名のところには、展開したいアーカイブファイルのファイル名を指定します。拡張子の“.LZH”は省略できます。


展開先のところには、ドライブ名（“a:” “b:” など）やディレクトリ名が指定できます。ディレクトリ名を指定する場合は、“¥bin¥” “a:¥tool¥”というように、ディレクトリ名の最後に必ず“¥”をつけなければなりません [→素朴な疑問7]。


**参 考** 展開先は省略可能です。展開先を省略したときは、カレントドライブのカレントディレクトリに展開されます [→素朴な疑問6、8]。

では、ディスクNo.1に収録されている住所録データベース「ADDRESS」（石川英明氏作）を例にとって、実際の展開作業を見てみましょう。ADDRESSは、ADRES386.LZHというアーカイブファイルの形で収録されています。ADDRESS以外のソフトの場合は、ディスクNo.とアーカイブファイル名を適宜読み替えてください。

ここでは、Aドライブを展開先（ハードディスクまたは作業用ディスク）とし、また、Bドライブに付属ディスクを挿入するものとして説明します。ご自分のパソコンのドライブ構成に合わせて、ドライブ名を適宜読み替えて作業を行なってください。

- ①MS-DOSを起動してコマンドラインを表示する [→素朴な疑問2]
- ②Bドライブに付属ディスクNo.1を挿入する
- ③カレントドライブをBドライブに変更する。具体的には、MS-DOSのコマンドラインから、

A> b: 

と入力する（はリターンキー、以下同じ）。プロンプトが“A>”から“B>”に変わるはずなので確認のこと

以後の手順は、ファイルをハードディスクに展開する場合と、フロッピーディスク（作業用ディスク）に展開する場合とで異なります。それぞれの場合に分けて説明します。



## 素朴な疑問⑤ 「フォーマットしてMS-DOSシステムを組み込む」方法は?

フロッピーディスクからMS-DOSを起動できるようにするためには、フォーマットの際に、フロッピーディスクに「MS-DOSシステム」と呼ばれるものを組み込んでおく必要があります。「フォーマットしてMS-DOSシステムを組み込む」ためには、MS-DOSのFORMATコマンドを“/S”というスイッチつきで起動します。

例えば、MS-DOSをAドライブから起動し、未使用のフロッピーディスクをBドライブに挿入した場合は、MS-DOSのコマンドラインから次のように入力します。

```
A> format b: /s
```

あとは、画面に表示される指示に従って、図Dのように操作してください。

なお、FORMATコマンドが表示するメッセージは、MS-DOSのバージョンによって若干異なります。

```
A>format b: /s

Format Version 5.10

新しいディスクをドライブ B: に挿入し
どれかキーを押してください

ディスクのタイプは 1: 2DD(640KB) 2: 2HD(1MB) = 2
目的のディスクは 1MB FD です

フォーマットが終了しました
0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
|-----|
システムを転送しました

1250304 バイト 全ディスク容量
154624 バイト システム領域
1095680 バイト 使用可能ディスク容量

別のディスクをフォーマットしますか(Y/N) =
```

図D FORMATコマンドを“/S”スイッチつきで実行

### ●ハードディスク上にファイルを展開する場合

④MS-DOSのコマンドラインから、LHAコマンドを次のように入力する

```
B> lha x adres386 a:¥address¥
```

これで、Aドライブに“¥ADDRESS”というディレクトリがすでに存在する場合は、そのディレクトリに、ADDRESS関連の4つのファイル (ADDRESS.EXE, ADDRESS.HLP, ADDRESS.DOC, CTBL7.FMT) が展開されます。“¥ADDRESS”というディレクトリが存在しない場合は、この名前のディレクトリが新しく作成されたうえで、そこにADDRESS関連のファイルが展開されます。

### ●作業用ディスク上にファイルを展開する場合

④AドライブにMS-DOSのシステムディスクが入っている場合は、システムディスクを抜く

⑤Aドライブに作業用ディスクを挿入する

⑥MS-DOSのコマンドラインから、LHAコマンドを次のように入力する

```
B> lha x adres386 a:
```

これで、Aドライブ(作業用ディスク)に、ADDRESS関連の4つのファイル (ADDRESS.EXE, ADDRESS.HLP, ADDRESS.DOC, CTBL7.FMT) が展開されます。

## ◆アーカイブの展開手順2: 拡張子“.EXE”の場合

本書に収録されたソフトのうち、

- ・ LHA (アーカイブファイル名: LHA255.EXE)
- ・ Quick-Note (M.Suzuki氏作、アーカイブファイル名: QN310B.EXE)




は、「自己展開型」という特殊な形式のアーカイブファイルになっています。この形式のアーカイブファイルは、拡張子が“.EXE”になっていて、アーカイブファイル自身をコマンドとして実行することでファイルを展開します。

**参考** LHAが自己展開型アーカイブとして配布されているのは、LHAのプログラム(LHA.EXE)が収録されているアーカイブを展開するのに、LHAのプログラム自体が必要なのでは意味がないからです。ただし、本書の付属ディスクNo.1～10には、いずれもLHA.EXEが収録されており、すぐにLHAを実行できるようになっています。

では、LHA255.EXEを例にとって、自己展開型アーカイブファイルの展開方法を説明します。LHA255.EXEは付属ディスクNo.4に収録されています。Quick-Noteの自己展開型アーカイブファイルを展開する場合は、ディスクNo.を「2」に、ファイル名を「QN310B.EXE」に読み替えてください。

ここでは、Aドライブを展開先（ハードディスクまたは作業用ディスク）とし、また、Bドライブに付属ディスクを挿入するものとして説明します。ご自分のパソコンのドライブ構成に合わせて、ドライブ名を適宜読み替えて作業を行ってください。

- ①MS-DOSを起動してコマンドラインを表示する
- ②Bドライブに付属ディスクNo.4を挿入する
- ③カレントドライブをBドライブに変更する。具体的には、MS-DOSのコマンドラインから、

```
A> b: 
```


と入力する。プロンプトが“A>”から“B>”に変わるはずなので確認のこと

以後の手順は、ファイルをハードディスクに展開する場合と、フロッピーディスク（作業用ディスク）に展開する場合とで異なります。それぞれの場合に分けて説明します。

## 素朴な疑問⑥ 「カレントドライブ」とは？

MS-DOSでは、常にどこかのドライブが「現在の操作対象ドライブ」として注目されるようになっています。このドライブのことを「カレントドライブ」と呼びます。

例えば、DIRコマンドでファイルの一覧を表示する場合、Bドライブのファイル一覧を見たければ、コマンドラインから次のように入力します。

```
A> dir b: 
```

このとき、単に

```
A> dir 
```

と入力すると、「現在の操作対象ドライブ」すなわち「カレントドライ

ブ」のファイル一覧が表示されます。

MS-DOSでは、（特に設定を変更しない限り）プロンプトにカレントドライブが表示されます。例えば、プロンプトが“A>”となっていればカレントドライブはA、“B>”となっていればカレントドライブはB、ということになります。

カレントドライブを変更するためには、コマンドラインで、変更先のドライブ名をコロン（:）つきで入力します。例えば、カレントドライブをBドライブに変更するときは、次のように入力します。

```
A> b: 
```

これで、カレントドライブはBドライブに変更され、プロンプトも“B>”と表示されるようになります。



## 素朴な疑問⑦ 「ディレクトリ」とは？

MS-DOSでは、1つのドライブの中に含まれるファイルを分類して、グループ単位で管理することができます。ちょうど、広い引き出しに間仕切りを入れ、筆記用具、クリップ類、ノートなどに仕分けして管理するのに似ています。

このようなファイルのグループ（管理単位）のことを「ディレクトリ」と呼びます。ディレクトリは階層構造にすることが可能で、ディレクトリの下に（他のファイルと並べて）ディレクトリを置くこともできます。すべてのディレクトリの根っこにあたるディレクトリのことを「ルートディレクトリ」と呼び、「¥」と表現します。

例えば、図Eでは、ルートディレクトリ（¥）の下に“TMP” “USR” “BIN”という3つのディレクトリがあり、さらに、“USR”の下に“BIN” “DOC”という2つのディレクトリがあります。

「ルートディレクトリの下“BIN”」と、「“USR”の下“BIN”」とは、そのままでは区別できません。そこで、ディレクトリの階層構



図E ディレクトリ構造の例

造をそのまま表現することもできるようになっています。すなわち、「ルートディレクトリの下“BIN”」は「¥BIN」、「USR」の下“BIN”」は「¥USR¥BIN」となります（先頭の「¥」はルートディレクトリ、途中の「¥」は区切りの意味です）。

ディレクトリは、必要に応じて自由に作成したり削除したりできます。ディレクトリを作成するためにはMS-DOSのMD（メイクディレクトリ）コマンドを使います。例えば、“TMP”というディレクトリを作るためには、

```
A> md tmp
```

と入力します。また、ディレクトリを削除するためにはRD（リムーブディレクトリ）コマンドを使います。例えば、“TMP”というディレクトリを削除するためには、

```
A> rd tmp
```

と入力します。ただし、削除しようとするディレクトリの下にファイルやディレクトリが存在する場合は、あらかじめそれらを削除しておく必要があります。

ディレクトリの管理方法についての詳細は、MS-DOSの入門書などをお読みください。

### ●ハードディスク上にファイルを展開する場合

④MS-DOSのコマンドラインから次のように入力する

```
B> lha255 a:¥lha
```

⑤LHAについての説明が表示され、「解凍を始めますか？！ [Y/N]」と聞いてくるので、Yキーを押す

これで、Aドライブに“¥LHA”というディレクトリがすでに存在する場合は、そのディレクトリにLHA関連の5つのファイル（LHA.EXE、LHA.DOC、HISTORY.DOC、READ.ME、LHAE.BDF）が展開されます。“¥LHA”というディレクトリが存在しない場合は、この名前のディレクトリが新しく作成されたうえで、そこにLHA関連の5つのファイルが展開されます。なお、ソフトによっては、⑤の操作を必要としないこともあります（Quick-Noteの場合も不要）。


### ●作業用ディスク上にファイルを展開する場合

④AドライブにMS-DOSのシステムディスクが入っている場合は、システムディスクを抜く

⑤Aドライブに作業用ディスクを挿入する

⑥MS-DOSのコマンドラインから次のように入力する



B> lha255 a : 

⑦LHAについての説明が表示され、「解凍を始めますか?! [Y/N]」と聞いてくるので、Yキーを押す

これで、Aドライブ(作業用ディスク)にLHA関連の4つのファイル(LHA.EXE, LHA.DOC, HISTORY.DOC, LHA.E.BDF)が展開されます。なお、ソフトによっては、⑦の操作を必要としないこともあります(Quick-Noteの場合も不要)。

## 展開したソフトの実行方法

アーカイブファイルを展開すると、展開先には、プログラム本体や関連データ、それにドキュメントなどの各種ファイルが配置されます。例えば、住所録データベース「ADDRESS」のアーカイブファイルADRES386.LZHを展開すると、展開先には次の4つのファイルが配置されます。

- ・ ADDRESS.EXE (ADDRESSプログラム本体)
- ・ ADDRESS.HLP (ヘルプメッセージを収録したデータファイル)
- ・ ADDRESS.DOC (プログラムの操作方法などを記載したドキュメント)
- ・ CTBL7.FMT (旧バージョンデータの変換用データファイル)

このうち、ADDRESS.DOCというファイルは、ソフトの内容や操作方法を詳しく説明し

## 素朴な疑問⑧ 「カレントディレクトリ」とは?

ドライブの場合と同様、ディレクトリについても、常にどこかのディレクトリが「現在の操作対象ディレクトリ」として注目されるようになっています。このディレクトリのことを「カレントディレクトリ」と呼びます。


「素朴な疑問6」では、DIRコマンドを単に

A> dir 


と入力したとき、「カレントドライブのファイル一覧が表示される」と説明しましたが、もっと厳密にいうと、「カレントドライブのカレントディレクトリに含まれるファイルの一覧が表示される」ということになります。

カレントディレクトリも、カレントドライブと同様に任意に変更することができます。カレントディレクトリを変更するには、MS-DOSのCD(チェンジディレクトリ)コマンドを使います。



例えば、Aドライブが図E(素朴な疑問7)のようなディレクトリ構造になっているとします。ここで、カレントディレクトリをルートディレクトリからその下の「USR」に変更したい場合は、次のように入力してください。

A> cd usr 

また、ルートディレクトリに戻りたい場合は、次のように入力してください。





A> cd 

カレントディレクトリを変更する際にも、階層構造をそのまま表現することが可能です。例えば、カレントディレクトリを「ルートディレクトリの下「USR」の下「BIN」というディレクトリに変更したい場合は、次のように入力します。

A> cd usrbin

現在のカレントディレクトリを知りたいときは、CDコマンドを次のように実行します。

A> cd 

これで、画面上に「A: USRBIN」というように表示されたら、カレントドライブがAで、カレントディレクトリが「USRBIN」すなわち「ルートディレクトリの下「USR」の下「BIN」」になっていることが分かります。

カレントディレクトリの変更方法についても、詳しくはMS-DOSの入門書などをお読みください。



## 素朴な疑問⑨

## ドキュメントはどうやって読めばいいの？

ドキュメントなどのテキストファイルを手軽に読むためには、MS-DOSのTYPEコマンドを利用するとよいでしょう。例えば、“¥ADDRESS”というディレクトリにあるドキュメントファイルADDRESS.DOCを読むためには、カレントドライブをA、カレントディレクトリを“¥ADDRESS”にしておいてから、次のように入力します。

```
A> type address.doc
```

これで、ADDRESS.DOCの内容が画面に表示されます。ただし、そのままでは画面の下からどんどん新しい行が表示されるので、画面の上のほうは順次消えていってしまいます。表示を途中で停止するためには、CTRLキーを押しながらSキーを押してください。停止した状態

から表示を再開するためには、適当なキーを押します。普通は、CTRLキーをずっと押しっぱなしにしながら、Sキーを押すたびに、表示の停止、再開、停止、再開、……を繰り返していくのが便利でしょう。表示を中断してMS-DOSのコマンドラインに戻るためには、CTRLキーを押しながらCキーを押してください。

MS-DOSには、より便利なMOREコマンドが用意されています。また、「MIEL」（A.Idei氏、Paci氏作、本書に収録）のようなページャを利用する方法もあります。ドキュメントをプリンタで印字するためには、MS-DOSのPRINTコマンドを利用する方法や、ワープロソフトに読み込んで印刷する方法などがあります。これらについて、詳しくはMS-DOSの入門書や、各ソフトの付属マニュアルをお読みください。

たドキュメントであり、MS-DOSの標準テキストファイル形式になっていて、MS-DOSのTYPEコマンドやMOREコマンド、テキストエディタなどで内容を表示することができます [→素朴な疑問9]。

一般に、フリーソフトやシェアウェアには、このようなドキュメント（拡張子は“.DOC” “.MAN” “.TXT” など）がついているので、ソフトを使用する際には、ドキュメントの内容に一通り目を通すようにしましょう。

ソフトを起動するためには、ソフトの展開先ドライブの展開先ディレクトリに移動したうえで、プログラム本体をMS-DOSのコマンドラインから起動するのが普通です。ADDRESSの場合を例に、起動手順を説明してみましょう。

ここでは、ADDRESSの展開先ドライブがAドライブ、展開先ディレクトリが“¥ADDRESS”であり、Bドライブがカレントドライブになっているものとします。

①カレントドライブを展開先ドライブに変更する。具体的には、MS-DOSのコマンドラインから次のように入力する

```
B> a:
```

②カレントディレクトリを展開先ディレクトリに変更する。具体的には、MS-DOSのコマンドラインから次のように入力する

```
A> cd ¥address
```

③プログラム本体を起動する

```
A> address
```

これで、住所録データベースADDRESSが起動します。他のソフトを起動する場合も、展開先ドライブの展開先ディレクトリに移動するところまでは同様ですが、ソフトの起動方法については、ドキュメントの説明に従ってください。



# ■付録ディスクの収録ソフト一覧

種別	ソフト名	動作環境*	掲載ページ	アーカイブファイル名	収録ディスクNo.	備 考
API アプリケーション	ADDRESS	98	34	ADRES386.LZH	1	プログラム本体
	A-WORD	98	34	A-WORD.LZH	1	プログラム本体
	CALPET	98	35	CALP182.LZH	1	プログラム本体
	C-GRAPH 3Dimension	98	35	CGR3D22.LZH	1	プログラム本体
	DDWin	WIN	36	DDW135C.LZH	9	プログラム本体
	EditEngine	98	36	EE075.LZH	1	プログラム本体
	FDB, FDB for Windows	DOS,WIN	37	FDBW106.LZH	1	プログラム本体
	FILMTN	98	37	FM98T233.LZH	1	プログラム本体
	FL	98	38	FL020EX.LZH	1	プログラム本体
	FMWIN	WIN	38	FMWIN096.LZH	9	プログラム本体、要：LHA.DLL
	HF	98	39	HF250.LZH	1	プログラム本体
	JED	98	39	JED159C.LZH	1	プログラム本体
	OZMENU	98	40	OZ176.LZH	2	プログラム本体
	Quick-Note	98	40	QN310B.EXE	2	プログラム本体（自己展開型アーカイブ）
	Real Editor I / II	98	41	RE1V22.LZH	2	RealEditor I プログラム本体
				RE2V22A.LZH	2	RealEditor II（大容量型）
				RE22DOC.LZH	2	ドキュメント
	Tele-Book	98	41	TB14.LZH	2	プログラム本体
	Winhd.exe	WIN	42	WINHD1A.LZH	9	プログラム本体
	YF	98	42	YF101E.LZH	2	プログラム本体
	ψmenu / plus	98	43	PMPL103.LZH	3	プログラム本体
				PALP103.LZH	3	ψMENU（デジタル8色用）
	おかみさんの家計簿	98	43	KAKEI833.LZH	3	プログラム本体
				KAK83DOC.LZH	3	ドキュメント
				CUTTER.LZH	3	データ整理用カッター
	卓駆★ファイルマネージャ	WIN	44	TAC148.LZH	9	プログラム本体
	秘書98	98	44	SC145.LZH	3	プログラム本体
				MINISC.LZH	3	秘書98（機能縮小版）
	秀丸エディタ	WIN	45	HM107.LZH	9	プログラム本体
	ファイル管理のワークシートAUTO123	98ほか	45	A123Z336.LZH	3	マクロ本体、要：Lotus 1-2-3 R2.4J
Tool ツール	BATCP	DOS	46	BATCP125.LZH	3	プログラム本体
	BU (BATUTY)	DOS	46	BU108B.LZH	3	プログラム本体
	comlist	DOS	47	COMLST10.LZH	3	プログラム本体
	compdir	DOS	47	COMPDV15.LZH	3	プログラム本体
	DIET	DOS	48	DIET145S.LZH	3	プログラム本体
	DV.exe	98	48	DV230A.LZH	3	プログラム本体
	izgrep	DOS	49	IZGREP.LZH	4	プログラム本体
	LHA	DOS	49	LHA255.EXE	4	プログラム本体（自己展開型アーカイブ）
				LHA.EXE	1~10	プログラム本体（実行ファイル）
	LHA.DLL	WIN	50	LHDL110.LZH	10	LHA.DLL + サンプルプログラム、要：VBRUN100.DLL
	LHA Tree	98	50	LHT513A.LZH	4	プログラム本体
	LHD	98	51	LHD0222.LZH	4	プログラム本体
	LHQ	98	51	LHQ224.LZH	4	プログラム本体
	LOOK	98	52	LOOK140.LZH	4	プログラム本体
	MIEL	98	52	MIEL249N.LZH	4	プログラム本体
	MS	DOS	53	MS330.LZH	4	プログラム本体



種別	ソフト名	動作環境*	掲載ページ	アーカイブファイル名	収録ディスクNo.	備 考
TOOL ツ ー ル	osanpo.exe	98	53	OSANPO2B.LZH	4	プログラム本体
	PATCH IO.SYS	98	54	PATCH30.LZH	4	プログラム本体
	pm	DOS	54	PM1511.LZH	4	プログラム本体
	PRC.COM	98	55	PRC0330.LZH	4	プログラム本体
	SCOPY	98	55	SCOPY212.LZH	4	プログラム本体
	SDU	98	56	SDU234.LZH	4	プログラム本体
	TODAY	DOS	56	TD210BM.LZH	4	プログラム本体
	uncompak/une2c	DOS	57	UNCOMP05.LZH	4	uncompakプログラム本体
				UNE2C01.LZH	4	une2cプログラム本体
	vlabel	DOS	57	VLABEL111.LZH	4	プログラム本体
	wild/fox	DOS	58	WILD036.LZH	4	wildプログラム本体
				FOX009.LZH	4	foxプログラム本体
	WSP	DOS	58	WSP150.LZH	4	プログラム本体
	zkill	DOS	59	ZKILL002.LZH	4	プログラム本体
	ぐらふいつく ECHO	98	59	GECHO004.LZH	4	プログラム本体
TSR 常 駐 プ ロ グ ラ ム	age.com	98	60	AGE003.LZH	4	プログラム本体
	CHOICE-plus	DOS	60	CHP101.LZH	4	プログラム本体
	CRD	DOS	61	CRD120.LZH	4	プログラム本体
	DOSHGH	98	61	DOSHST13.LZH	4	プログラム本体
	ERDISK	DOS	62	ERD152.LZH	4	プログラム本体
	kframe	WIN	62	KFRAME10.LZH	10	プログラム本体
	OKPP	98	63	OKPP160.LZH	5	プログラム本体
	Q's MOUSE	98	63	QMOUS208.LZH	5	プログラム本体
	REX	98	64	REXN200D.LZH	5	プログラム本体
				DDPAD122.LZH	5	REX用モジュール (ddpad)
				IDPX112.LZH	5	REX用モジュール (IDPICK)
				CRTC142.LZH	5	REX用モジュール (CRTCUT)
	sec.com	98	64	SEC002.LZH	5	プログラム本体
	SIG.EXE	98	65	SIG05.LZH	5	プログラム本体
	TMonCB.EXE	WIN	65	TMCB113.LZH	10	プログラム本体
	Windows History	WIN	66	WH130.LZH	10	プログラム本体
	WinLog.exe	WIN	66	WINLOG14.LZH	10	プログラム本体
	WISER	98	67	WISER533.LZH	10	プログラム本体
				WPAST030.LZH	10	キーボードベースト支援ドライバ
				WSRT088.LZH	10	常駐ファイルソートプログラム
				MTREE060.LZH	10	ディレクトリデータ作成プログラム
				MBIDX010.LZH	10	インデックスファイルコンパイラ
	XRDISK.EXE	DOS	67	XRD103.LZH	5	プログラム本体
	30行BIOS	98	68	30BIOS11.LZH	5	プログラム本体
				30MKMD11.LZH	5	最適なGDCパラメータファイルを作成
				VZ30BIOS.LZH	5	Vz用パッチ
				AT3023.LZH	5	ATOK7/8用パッチ
				VJEP4.LZH	5	VJE-β用パッチ
	49L.COM	98	68	49L132.LZH	5	プログラム本体
	びゅうまるち	98	69	VM510.LZH	5	プログラム本体
	ファイルマネージャ拡張メニュー	WIN	69	FMEXM211.LZH	10	プログラム本体、要：LHA.DLL



種別	ソフト名	動作環境*	掲載 ページ	アーカイブファイル名	収録デ ィスクNo.	備 考
COM 通信	EasyTERM	98	70	ETEXE211.LZH	5	プログラム本体
				ETDOC211.LZH	5	ドキュメント
				ETEMS200.LZH	5	EMSメモリ確保プログラム
				ETOPN08.LZH	5	オマケ
				ETSET02B.LZH	5	セットアップファイル
	NIFMCR3	98ほか	70	NIFMCR3C.LZH	5	マクロ本体、要：WTERM
	NIFP	98	71	NIFP371.LZH	5	プログラム本体
				NIFP371D.LZH	5	CFGファイルコンバータ
	air craft	98	71	AIR120.LZH	5	airプログラム本体
				CRAFT152.LZH	5	craft (NIFTY専用通信環境)
				BPA010A2.LZH	5	専用B-Plusプログラム
GRAPH 画像	WTERM	98	72	WP916SP.LZH	6	プログラム本体
				WTD0C511.LZH	6	ドキュメント
	秀Term	WIN	72	HT203.LZH	10	プログラム本体
	BMPUT	98	73	BMPUT012.LZH	6	プログラム本体
	Canvas-98	98	73	CANV2C30.LZH	6	プログラム本体
	GRIFFON	98	74	GRIF9813.LZH	6	プログラム本体、BANBI.LZHを表示可能
	JPGV98	98	74	JPGV9813.LZH	6	プログラム本体
				BANBI.LZH	6	サンプルデータ
	RNDDOT.EXE	98	75	RNDD116.LZH	6	プログラム本体
	team	98	75	TEAM104A.LZH	6	プログラム本体
				SUMMER93.LZH	6	サンプルデータ
MUSIC 音楽	FMP-SYSTEM	98	77	VR101.lzh	6	プログラム本体
				VRC002.LZH	6	データファイル作成プログラム
				WP21.LZH	6	プログラム本体
				WPEX01.LZH	6	サンプルデータ
				FMP410A.LZH	7	プログラム本体
				FMR111B.LZH	7	常駐型連続ローダ
	Mdrv2 System	98	77	DSP1011.LZH	7	PCMエディタ
				FMF109B.LZH	7	常駐ファイラ
				FMD5071A.LZH	7	データ演奏モニタ
	Ray	98	78	KIDDJN1.LZH	7	サンプルデータ
				MIMPI37B.LZH	6	プログラム本体
				JUKE300.LZH	6	JukeBoxプログラム本体
				OWARA55M.LZH	6	サンプルデータ
				RAY-IV1.LZH	7	Rayプログラム本体
				RAY-IV2.LZH	7	m2rプログラム本体
				RAY-IV3.LZH	7	サンプルデータなど
				RAY-IVDX.LZH	7	Ray DX版
	Windows PCM Player	98	79	KISS1.LZH	7	サンプルデータ
				MASUESC.LZH	7	サンプルデータ
		98	79	WINPCM98.LZH	10	プログラム本体
				WAV140.LZH	10	WABONBE.EXE



種別	ソフト名	動作環境*	掲載ページ	アーカイブファイル名	収録ディスクNo.	備 考
GAME ゲ ー ム	Jazz Bound II	98	79	JAZZ2100.LZH	7	プログラム本体
	Jazz Race	98	80	JRACE102.LZH	7	プログラム本体
	MARKADIA	98	80	MKD104.LZH	7	プログラム本体
	NyaHaX'93	98	81	NX93102.LZH	7	プログラム本体
	SAVANNA	98	81	SVN302N.LZH	8	プログラム本体
	SURAMAUS	98	82	SM101A.LZH	8	プログラム本体
	“100m徒競走”	98	82	100M101A.LZH	8	プログラム本体
	4×4 TILE GAME	98	83	TL4.LZH	8	プログラム本体
	原発(安定装置付)	98	83	GEN50.LZH	8	プログラム本体
	スピード	98	84	CRD.LZH	8	プログラム本体
	大貧民	98	84	DH100.LZH	8	プログラム本体
	どぼん	WIN	85	WDOBON30.LZH	10	プログラム本体、要：VBRJP200.DLL
	マッチメーカー	98	85	MM4612.LZH	8	プログラム本体
				MMMSG463.LZH	8	基本メッセージデータ
				FEMMSG46.LZH	8	女性アナウンサーデータ
				KANMSG46.LZH	8	関西弁拡張メッセージデータ
				KM46V140.LZH	8	ナイトメーカー
				KMDAT462.LZH	8	ナイトメーカーデータセット
				MLC14D.LZH	8	ログコンバータ
	3D mine-sweeper “みつみね” for 98/for win	98,WIN	86	3M201A.LZH	8	98版プログラム本体
				3MW200.LZH	10	Windows版プログラム本体、要：VBRJP200.DLL
	ロールプレイングゲームメーカー	WIN	86	RPGMAKER.LZH	10	プログラム本体、要：VBRJP200.DLL
	RPGrun	WIN	87	RPGRUN.LZH	10	プログラム本体、要：VBRJP200.DLL
JOKE ジ ョ ー ク	HOSop	98	87	HOSOP150.LZH	8	プログラム本体
	Triangle!!	98	88	TRIANI30.LZH	8	プログラム本体
	スクリーンセーバーツクール	98	88	SST0817.LZH	8	プログラム本体
				TANOSIMI.LZH	8	SSTお楽しみパック
	『空飛ぶお釜』	98	89	FJ035.LZH	8	プログラム本体
				FJDATA.LZH	8	画像データ集
	nakimaus 2 dash	98	89	NM2D101A.LZH	8	プログラム本体
	にゃん文字	98	90	CATLET10.LZH	8	プログラム本体
	バイオリズム	WIN	90	WINBIO31.LZH	10	プログラム本体、要：VBRJP200.DLL
DLL .. ..	VBRUN100.DLL	WIN	—	VBRUN100.LZH	9	LHA.DLLで必要
	VBRJP200.DLL	WIN	—	VBRJP200.LZH	9	どぼん/“みつみね” for win/ロールプレイングゲームメーカー/RPGrun/バイオリズムで必要

\*：「動作環境」欄は、「98」—PC-9800シリーズ用、「DOS」—MS-DOS汎用、「WIN」—Microsoft Windows用。ここでの表示は大まかな分類であり、対応機種や動作条件の詳細については「Software Index」(p.34～)の「動作環境」の項目を参照のこと。

\*\*：「DLL」は、Microsoft Visual Basicのランタイムライブラリ（ダイナミックリンクライブラリ）。



# フリーソフトとシェアウェアについて

## フリーソフトとは

### ◆フリーソフトの隆盛

本書には、ワープロソフトや通信ソフトなどのアプリケーションから、ちょっと便利なツールやゲーム、ジョークソフトまで、実にさまざまなジャンルのソフトが収録されています。これらの多くは「フリーソフトウェア」（以下「フリーソフト」と略記）と呼ばれるものです（「シェアウェア」については後述）。フリーソフトの厳密な定義はあとですることにして、大ざっぱに言えば、「主にパソコン通信を通じて配布されている、配布・利用が自由なソフト」のことです。

発表されるフリーソフトの数はパソコン通信の発展とともに増加しつつあり、例えば大手商業パソコン通信サービスの1つ「NIFTY-Serve」のデータライブラリには14万本程度（重複含む）のソフトやデータが登録されています。

質の点でも、市販のパッケージソフトと比べて遜色ないような優れたソフトがいくつも公開されています（図1）。そのことは、本書など「秀作フリーソフトウェア100選」シリーズに収録されたソフトの数々を見てもらえば一目瞭然でしょう。



図1 「フリーソフトウェア大賞'93」を受賞したWTERM（H.INOUE氏、TOMTOM氏作、本書に収録）は、人気・実力とも有力市販ソフトと肩を並べる優秀な通信ソフトだ

こうしたソフトの作者は、仕事以外でのプログラミングが好きなプロのプログラマだったり、ソフト作りを趣味とするアマチュアだったり、あるいは、志を同じくして共同でソフトを制作しているグループだったり、実にさまざまな人たちです。ソフト作成の動機も、自分のパソコン環境を改善するため、技術力をアピールするため、ソフトによる自己表現、いわゆるウケ狙い……など多岐にわたっており、一括りにはできません。

市販ソフトを開発しているソフトハウスが、社内で使っていたツールや、自社製品の機能制限版などを、フリーソフトとして公開することもあります。例えば、市販の日本語入



カシステム「WXII+」が成功した理由の1つは、開発元のエー・アイ・ソフトが、「WXII+」の前身の「WXP」をフリーソフトとして公開し、ユーザーの意見や要望を積極的に取り入れたためだといわれています。

ところで、フリーソフトは「パソコン通信で手に入るソフト」の総称ではありません。確かに、かつてはパソコン通信がほとんど唯一の入手経路だった時期もありますが、最近では、本書のような書籍（または雑誌）の付属ディスクに収録されたり、市販ソフトのパッケージに添付されたり、知り合い同士でフロッピーを回覧したり……と、流通経路が多様化しています。つまり、フリーソフトのユーザーの輪は、パソコン通信を超えて広がっているのです。依然として、パソコン通信で流通させることの利点も多いのですが、これについては「パソコン通信でのフリーソフト獲得術」の項で説明します。

## ◆配布・利用が自由なフリーソフト

フリーソフトがどのようなものなのかを正確に理解するには、パソコンショップなどで販売されているパッケージソフトとの比較が一番です。

「Microsoft Windows」や「一太郎」などのパッケージソフトを購入すると、「使用許諾契約書」という紙片がついてきます。これは、「これこれの条件を守れる人に対してのみソフトの使用を許可する」という使用許諾条件が書かれた契約書なのです。実際の使用許諾契約書には、

- ・1台のマシンにしかインストールしてはならない
- ・無断で複製してはならない
- ・無断で改変してはならない

といった厳しい条件がこまごまと書かれています。これらの条件を守らないと契約違反になりますし、違法コピーをしたりすると著作権法違反にも問われることになります。

フリーソフトの場合も、守るべき条件があるのは当然ですが、パッケージソフトと比べて制限がゆるいのが特徴です。

フリーソフトは、基本的に自由に配布・使用できるソフトです。例えば、本書に収録されているフリーソフトをコピーして友だちに配ったり、自宅と勤め先（あるいは自宅と通学先）の複数のパソコンにインストールして使用することも差し支えありません。また、フリーソフトの大部分は無償です（一部、「寄付」を募っているものもあります）。

フリーソフトの具体的な配布条件や使用条件はソフトごとに異なりますが、例えば次のような条件が課せられます。

- ・配布することで金銭的な利益を得てはならない
- ・試験版につき、再配布を禁ずる
- ・再配布の際に、ソフトのファイル構成を増減してはならない
- ・ソフトの使用結果として生じた障害・損害には責任を負わない

一例として、フリーソフトの一種である高圧縮アーカイバ「LHA」は、図2の条件に従えば自由に配布・使用できます。

図2 LHAの使用・配布に関する条件(LHA.DOCより抜粋)

1. 著作権表示を変更しないこと。
2. この LHA.DOC も同時に配布すること。
3. 変更を加えたとき（移植・改良など）には、変更者の氏名（ペンネーム）・連絡先などとともに、変更が加えられていることを明示すること。
4. このプログラムを使用したことによって生じた損害は、全く保証しない。
5. 作者は、このプログラムに不備があっても、それを訂正する義務を負わない。
6. 雑誌・商品などに添付して再配布する場合には、少なくとも1か所に著作権表示を印刷（タイプ）すること。なお、意図的にバックアップを禁止している（コピープロテクトされている）ソフトとの同時配布は原則として禁止します。

各ソフトの配布条件や使用条件は、ドキュメント（拡張子“.DOC”“.MAN”など）や“COPYING”といった名前のテキストファイルに書かれているのが普通です。ソフトを使用する際には、まずこれらのファイルに目を通す習慣を身につけておきましょう。

なお、次項で述べるシェアウェアは、継続して使用する場合には使用料を支払う必要のある有償ソフトですが、配布に関してはフリーソフトと同様であり、自由に配布できるものが大部分です。

## シェアウェアとは

### ◆シェアウェアの継続利用は有償

本書の収録ソフトのうち、「Quick-Note」「卓駆★」「秘書98」「秀丸エディタ」「osanpo.exe」「WISER」「ファイルマネージャ拡張メニュー」「秀Term」は、「シェアウェア」と呼ばれる有償のソフトです。

シェアウェアは、フリーソフトと同様にパソコン通信などで配布されており、自由に入手できますが、継続して使用するためには「レジストレーションフィー」（あるいは「レジスト」「登録金」）と呼ばれる使用料金を払って正規ユーザーになる必要があります。

ただし、購入前に中身を開けることができないパッケージソフトとは異なり、シェアウェアの多くは、「ある程度の試用期間を経たあと、継続して使用する場合にはレジストを支払う」というシステムをとっています。つまり、シェアウェアを手に入れたユーザーは、お金を払う前にそのソフトを実際に使ってみることができるのです。

パッケージソフトでも、雑誌の付属ディスクなどで無料の試用版を配布する場合がありますが、大切な機能が使えなくなっていたりします。シェアウェアではそういうことも少なく、ソフトの各機能を納得がいくまで試すことができます。

試用期間の長さはソフトによってさまざまですが、この期間を過ぎると何らかの形でレジストの支払いが促されます。使用期間を超えて継続使用しない場合は、速やかにファイル一式を削除してください。レジストを支払わないままシェアウェアを使い続けると、使用許諾条件を無視していることになり、ひいては著作権法違反にも問われます。



## ◆レジストの支払い方(国内)

国内で作成されたシェアウェアの場合、レジストの支払いとして、

- (1) 銀行振込や郵便振替を利用する方法
- (2) NIFTY-Serveの送金代行システムを利用する方法

のどちらか、または両方を指定しているものがほとんどです。それぞれの具体的な方法は次のとおりです。

### (1) 銀行振込・郵便振替

たいていのシェアウェアは、銀行や郵便局からの振り込みによってレジストを支払うことができます。振り込みによる支払いが可能なシェアウェアの場合、必ず、ドキュメントに振込先の銀行名・口座番号・名義などが明記されています。

かつては、振り込み手続きを行なおうとすると、振り込み手続きが可能な時間帯に、銀行や郵便局に直接出向いて、送金先の銀行名・口座番号・名義などの項目を用紙に記入し、窓口の行列に並ぶ……といった面倒がありました。しかしながら、最近はATM(自動現金預払機)が普及し、画面上の操作で簡単に振り込みができるようになっています。昼休みなどを利用して銀行に足を運び、ぜひ早めにレジストを支払うようにしましょう。

ただし、次に述べる(2)の方法では、銀行に行く手間も不要になるので、可能ならばそちらを利用したほうがよいでしょう。

### (2) NIFTY-Serveのシェアウェア送金代行システム

前述のパソコン通信サービス「NIFTY-Serve」では、「シェアウェア送金代行サービス」(GO SWSOKIN)を行なっています。このサービスは、登録されているシェアウェアを固有番号で指定することにより、NIFTY-Serve自体の利用料に加算される形で、指定したシェアウェアに対するレジストがクレジットカードから自動的に引き落とされるというものです。

このサービスを利用するためには、「シェアウェアの作者がNIFTY-Serveの会員であり、かつ、シェアウェアを送金代行システムに登録していること」および「シェアウェアの利用者がNIFTY-Serveの会員であり、かつ、NIFTY-Serveの利用料をカード払いにしていること」という条件を満たしていなければなりません。

「秀丸エディタ」のレジストを実際に送金したときの様子は図3のとおりです。銀行振込などのように銀行や郵便局に出向く必要もなく、パソコン通信上の操作だけで送金できるため、このサービスが始まってからレジストの支払い率が向上し、それに伴って、日本製の優れたシェアウェアも増えてきました。

以上(1)(2)の方法以外にも、現金書留や定額小為替(郵便局で購入できる)、図書券、テレホンカードなどによる支払いが可能なソフトもあります。本書に収録されているシェアウェアのレジスト支払い方法を表1にまとめておきます。



図3 NIFTY-Serveのシェアウェア送金代行システムで「秀丸エディタ」のレジストを送金

```
>GO SWSOKIN

シェアウェア送金代行システム      SWSOKIN

  -送金受領-   ○月分NIFTY-Serve使用料金より代金を引き落とします。

上記メッセージが表示された時点で、送金は完了しています。

数分後にあなたのメールボックスに『送金確認メール』が届きます。多重送金
には充分ご注意ください。詳細は「1:ご案内」をご参照ください。

1. ご案内      2. サービスに入る
>2
送金システム (1:シェアウェア番号指定  2:作者ID指定  E:終了)
>1
最大SW番号: 0238
シェアウェア番号 (改行のみでシェアウェア一覧  E:終了)
: 0122
SW番号 ID      作者名      金額(¥) シェアウェア名
0122 PEH00775  斉藤 秀夫      4,000 秀丸エディタ for Windows
補足説明:
【ソフト説明】Windowsで動くテキストエディタです。秀シリーズの第2弾です。
【登録 FORUM】FWINFのデータライブラリ3番です。
【サポート】サポートはFWINFのデータライブラリ情報交換広場で行います。
秀Termもよろしく(^^;
送金希望 (1:希望する  2:しない  E:終了)
: 1
以下のシェアウェアに送金を代行します。
SW番号 ID      作者名      金額(¥) シェアウェア名
0122 PEH00775  斉藤 秀夫      4,000 秀丸エディタ for Windows
送金(1:送金する  2:しない)
: 1
-送金受領-   10月分NIFTY-Serve使用料金より代金を引き落とします。

送金システム (1:シェアウェア番号指定  2:作者ID指定  E:終了)
>
```

表1 収録シェアウェアのレジスト支払い方法

シェアウェア名	銀行振込	郵便振替	NIFTY*	その他
Quick-Note	×	○	○	定額小為替の郵送可
卓駆★	×	○	○	現金書留、定額小為替の郵送可
秘書98	○	×	○	現金書留の郵送可
秀丸エディタ	○	○	○	
osanpo.exe	○	×	○	
WISER	×	○	○	
ファイルマネージャ拡張メニュー	○	×	○	
秀Term	○	○	○	

\*: 「NIFTY」はNIFTY-Serveのシェアウェア送金代行システム

支払い方法の詳細は、それぞれのソフトのドキュメントに明記されているので、必ずドキュメントを確認したうえで支払うようにしてください。

## ◆レジストの支払い方(海外)

本書には収録されていませんが、パソコン通信サービスには海外で作られた優秀なシェアウェアも数多く登録されています。当然、これらについてもレジストの支払いが必要なので、支払い方法について簡単に説明しておきます。

海外製シェアウェアの多くは、送付先の情報などとともに、レジストに必要な項目が書かれたフォームがテキストファイルとして用意されています(図4)。これに必要事項を記入し、海外のパソコン通信(CompuServeなど)の電子メールで送るか、印刷したものをFAXやエアメールで送ります。

支払いにはクレジットカード(VISAやMASTERCARDなど)を利用するように指定されているものが大部分です。

図4 レジスト用フォームの一例(PKZipの場合)

TO:	FROM:
PKWARE, Inc.	Name: _____
9025 N. Deerwood Dr.	
Brown Deer, WI 53223-2437 (Company):	_____
414-354-8699 Voice	Address: _____
414-354-8559 FAX	
414-354-8670 BBS	City: _____
Today's	
date: _____	State, ZIP Code: _____
	(Country): _____
Daytime	
Phone #: _____	FAX #: _____
PKZIP (R), PKUNZIP (R), and PKSFX (R) for MS-DOS	
INDIVIDUAL USE	
* Diskette with programs and documentation ..... \$47 _____	
MULTIPLE USE	
* SITE LICENSE for the use of PKZIP, PKUNZIP & PKSFX.	
(INCLUDES ONE DISKETTE WITH PROGRAMS AND DOCUMENTATION.)	
2 to 9 computers ..... at \$36 each	# computers ___x 36 _____
10 to 24 computers ..... at \$28 each	# computers ___x 28 _____
25 to 49 computers ..... at \$22 each	# computers ___x 22 _____
50 to 99 computers ..... at \$16 each	# computers ___x 16 _____
100 to 199 computers ..... at \$12 each	# computers ___x 12 _____
200 to 500 computers ..... at \$10 each	# computers ___x 10 _____
WRITE OR CALL FOR PRICING ON QUANTITIES OVER 500.	
Extra program disk & documentation with purchase of	
SITE LICENSES OF 2 OR MORE available at \$8.00 each. ___x 8 _____	
Shipping & Handling (Postal) US & Canada \$5.00/item	
Outside US & Canada \$11.25/item _____	
WISCONSIN RESIDENTS add applicable State & County Sales Tax _____	
TOTAL ENCLOSED US FUNDS US\$ _____	
MasterCard ___ or VISA ___ Expiration Date _____	
Card Number _____	
Card Holder's Signature REQUIRED _____	



## 常駐コマンドとデバイスドライバ

### ◆プログラムの分類

本書に収録されているフリーソフトやシェアウェアは、それぞれ、「プログラム」「データ」「ドキュメント（マニュアル）」などの各種ファイルから構成されています。

ソフトの中核となる「プログラム」は、ファイル形式のうえから「コマンド」と「デバイスドライバ」とに大別できます。

コマンド（実行ファイル）は、MS-DOSのコマンドラインからファイル名を入力することにより、直接実行できるプログラムです。ファイルの拡張子は“.COM”または“.EXE”と決められています。本書に収録されているプログラムの多くはこのタイプです。

コマンドは、さらに「アプリケーション」「ツール（ユーティリティ）」「常駐コマンド（TSR）」に分類できます。アプリケーションとツールとは機能上の分類であり、あまり厳密なものではありません。

アプリケーションは、複数の機能が統合された、ある程度以上の規模のプログラムです。ワープロ、表計算ソフト、通信ソフト、ゲームなどがこれに分類されます。

ツール（ユーティリティ）は、単機能で、アプリケーションに比べると小さなプログラムです。画像ロード、ページャ、アーカイバ、圧縮ソフトなど、さまざまな目的に応じたソフトが作られています。

常駐コマンドは、実行終了後もプログラムがメモリに残り、他のプログラム実行中にも動作を続けるプログラムです。

さて、コマンドと並ぶもう1つのプログラム形式であるデバイスドライバは、コマンドのようにコマンドラインから実行することはできません。デバイスドライバを利用するためには、CONFIG.SYSのDEVICE行で指定しておく必要があります。ファイルの拡張子に制限はありませんが、“.SYS” “.DEV” “.DRV”などがしばしば使われます。

以上のうち、常駐コマンドとデバイスドライバはパッケージソフトの世界では少数派であり、馴染みのない人も多いと思いますので、以下に詳しく説明します。

### ◆常駐コマンド(TSR)

常駐コマンドは、コマンドラインから実行するという点ではアプリケーションやツールと同様で、コマンドの一種といえます。ただし、一般のコマンドが終了時にメモリから消去されるのに対し、常駐コマンドはメモリに残って動作を続けます（これを「常駐する」といいます）。

単にメモリに残っているだけでは何もできないので、常駐コマンドは、他のコマンドの実行中にも自分が動作できるような「仕掛け」を必ず用意しています。例えば、

- ・キー入力を監視して、特定のキー操作が行なわれたときに自分が動作する
- ・タイマ機能を使って、一定時間ごとに自分が呼び出されるようにする

といった具合です。

本書に収録されている「VR-Simulator」（Q太郎氏作）の場合を見てみましょう。このソフトは、仮想空間を回転しながら飛び回る物体を画面に表示するもので、常駐コマンドとして使うことも可能です。

VR-Simulatorをインストールした後、コマンドラインから

```
A> vr -s sei12
```

と入力すると（“A>”はMS-DOSのプロンプト）、陰影のついた12面体が回転しながら画面を飛び回ります（図5）。画面上に、すでに次のプロンプトが表示されていることに注意してください。VR-Simulatorが動作している状態で、さらに他のコマンドを実行することができるのです。

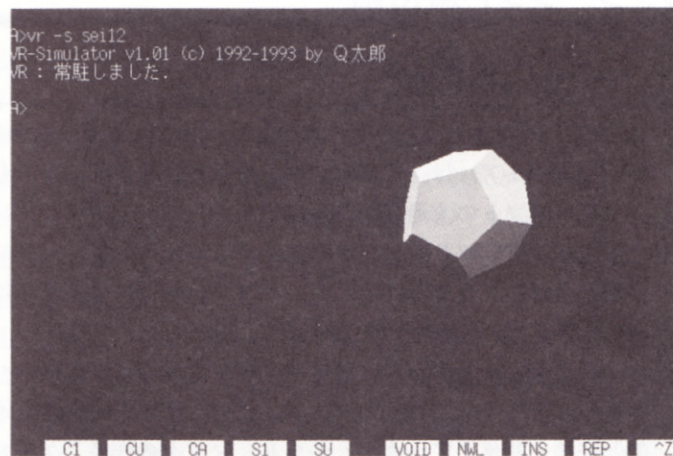


図5 VR-Simulatorを実行して、メモリに常駐させるところ

常駐しているプログラムをメモリから取り除きたい場合は、常駐解除用のコマンドラインオプション（多くの場合は“-r”）をつけて常駐プログラムを実行します。例えば、常駐しているVR-Simulatorを取り除くためには、コマンドラインから

```
A> vr -r
```

と入力します。これで、VR-Simulatorのプログラムがメモリから取り除かれた後、再びプロンプトが表示されます。

## ◆デバイスドライバ

デバイスドライバは、CONFIG.SYSのDEVICE行で指定しておくことにより、MS-DOSを起動する際にメモリに組み込まれるプログラムです。コマンドと違って、コマンドラインから実行することはできません。

メモリに組み込まれたデバイスドライバは、そのまま常駐するものがほとんどであり、その意味では常駐コマンドとよく似ています。ただし、いったん常駐したデバイスドライバをメモリから取り除くことはできません。

デバイスドライバは、コマンドラインから実行できないという点では何かと不便ですが、コマンドの形では実現不可能なプログラム——例えば、RAMディスクドライバや日本語入力システムなど——を作ることができます。

変わり種として、コマンドとデバイスドライバを兼ねているプログラムがあります。例えば、XMS専用RAMディスクドライバ「CRD」(core氏作、本書に収録) もその1つです。



CRDのプログラム本体 (CRD.EXE) がAドライブのディレクトリ “¥BIN” に入っているとき、CONFIG.SYS中で、

DEVICE=A: ¥BIN¥CRD.EXE

と記述しておく、MS-DOSを起動する際にRAMディスクドライバとしてメモリに組み込まれます。その後、CRD.EXEをコマンドラインから実行すると、RAMディスクに関する設定を変更するコマンドとして動作するのです。

## パソコン通信でのフリーソフト獲得術

### ◆最新のフリーソフトはパソコン通信経由で！

「フリーソフトとは」の項で説明したとおり、本書に収録されているフリーソフト（およびシェアウェア）は、主にパソコン通信で配布されているものです。

フリーソフトの流通経路が多様化し、そのユーザーがパソコン通信を超えて広がりつつある現在でも、フリーソフトを入手する方法として、パソコン通信が最も有利であることには変わりはありません。そして、パソコン通信による配布は、フリーソフトを作る側にとっても大きなメリットがあるのです。

作者にもよりますが、一般にフリーソフトでは、市販のパッケージソフトよりも頻繁にバージョンアップが行なわれます。このことは、パソコン通信という双方向メディアの特徴と密接に関係しています。つまり、ソフトの作者とユーザーの間の距離が、パッケージソフトの場合よりもずっと近いのです。

フリーソフトのユーザーは、プログラムの不具合（バグ）を見つけたり、プログラムに対する要望を思いついたりしたときには、パソコン通信の電子メール機能によって気軽に作者に連絡できます。普通の手紙より速く、しかも電話より確実に、情報を伝えることができるのです。

バグを取り除いたり、新しい機能を追加したりして、ソフトがバージョンアップしたら、作者はパソコン通信サービスの「ライブラリ」（ソフトの登録場所）にファイル一式を送信（アップロード）して登録しておきます。ユーザーは、登録されたファイルを、いつでも都合のよいときに自分のパソコンに受信（ダウンロード）できます。

パッケージソフトのように、いちいち各ユーザーから旧バージョンを回収して、新バージョンを個別に送付する必要がなく、気軽にバージョンアップを実施できる——というのが、パソコン通信上でのフリーソフトのバージョンアップが盛んな理由です。

言い換えれば、フリーソフトの最新バージョンをタイムラグなしに使いたいなら、パソコン通信で入手するしかありません。また、本書で紹介したもの以外にも優れたフリーソフトは数多く存在し、また、今後も続々と発表されていくはずで、それらのソフトをいち早く利用するためにも、パソコン通信を始めてみることをお勧めします。

### ◆パソコン通信に必要な機器とソフト

パソコン通信を始めるためには、「パソコン本体」「電話回線」「モデム」および「通信ソフト」が必要です。

このうち、いちばん高価なのはパソコン本体ですが、本書の読者ならばすでにお持ちの

ことと思います。パソコン通信で使う分には、昔のV30マシンや286マシンでも十分役に立ちます。

電話回線は、プッシュ回線でもダイヤル回線でもかまいませんが、モジュラージャック式の端子になっていることが条件です。電話代対策としては、第二電電などのNCC(NTT以外の新電電)に加入したり、NTTの「テレジョーズ」を利用するとよいでしょう。

モデムは、パソコンと電話線との信号のやり取りを仲立ちしてくれる機器です。パソコンとモデムとはRS-232C規格のケーブルで接続し、モデムと電話回線とはモジュラーケーブルで接続します。

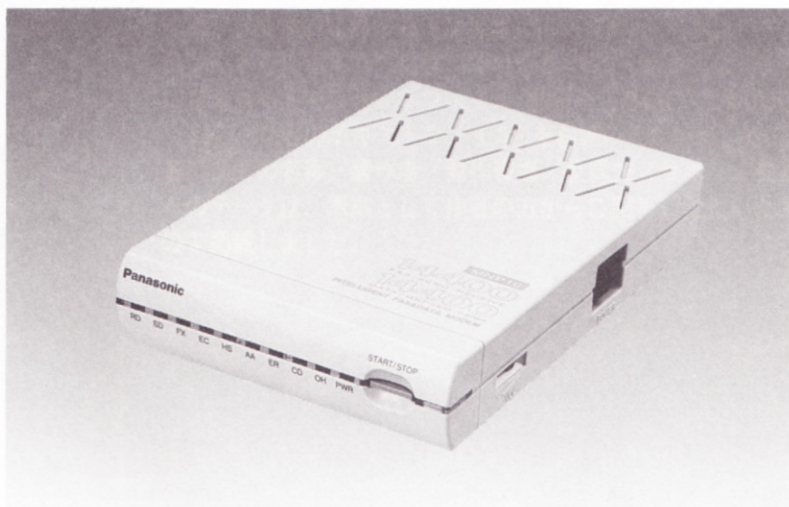
モデムは、機種によって対応可能な通信速度(単位:bps)が異なります。モデムの通信速度は年々高速化する傾向にあり、現在は2400bpsが最低ラインで、ヘビーユーザーは9600bpsないし14400bpsへとシフトしています。また、エラー訂正機能(LAPM、MNP4)やデータ圧縮機能(V.42bis、MNP5)も必須といえるでしょう。

新たにモデムを購入する場合、次の2つの選択があります。

1つは、「2400bps、MNP5(またはLAPM/V.42bis)サポート」という最低ラインのモデムを安価に購入するという選択です。このクラスのモデムは、新品でも実売価格が1~2万円台です。

もう1つは、「14400bps(V.32bis)、LAPM/V.42bisサポート、FAX機能つき」の高速モデムを買うという選択で、できればこちらをお勧めします(図6)。最近では、希望小売り価格4~6万円台の製品が各社から登場しています。主な目的がフリーソフトのダウンロードであれば、購入価格が多少高くても、ランニングコスト(電話代+パソコン通信利用料金)を大幅に節約できる高速モデムのほうが賢明な選択だといえるでしょう。

図6 14400bpsのFAXモデム(Panasonic TO-703B)



通信ソフトは、市販のパッケージソフトのほか、本書に収録されている「WTERM」や「秀Term」のような優秀なフリーソフトを利用することもできます。また、ファイル転送用ソフトや通信記録整理用ソフトなど、各種の通信関連ソフトがフリーソフトとして発表されているので、必要に応じてダウンロードして利用するとよいでしょう。



## ◆フリーソフトの入手先

パソコン通信サービスには、個人で開設している小規模なものから、数十万人の会員を持つ商業サービスまで、さまざまな規模と特徴をもったものがあります。フリーソフトの入手が目的であれば、多数のフリーソフトが登録されている次の4つの商業パソコン通信サービスのうちのどれかに加入することをお勧めします（カッコ内は問い合わせ先）。

- ・ NIFTY-Serve      (ニフティ メンバーサービス部、03-5471-5806)
- ・ PC-VAN            (NEC PC-VAN事務局、03-3454-6909)
- ・ 日経MIX           (日経BP社 読者サービスセンター、03-5696-1111)
- ・ アスキーネット    (アスキー アスキーネット事務局、03-3486-9661)

これらのサービスは有料ですが、全国各地にアクセスポイントを持っており、最寄りのアクセスポイントまでの電話料金で通信できるので、合計コストは遠隔地の無料パソコン通信サービスよりもむしろ小額ですみます。

# Software Index

ここでは、本書の付属ディスクに収録してあるフリーソフトウェアおよびシェアウェア114本のそれぞれについて解説しています。ここでの解説は各ソフトの紹介を目的としたものであり、具体的な操作方法は説明していません。したがって、各ソフトを使用する際には、それぞれのアーカイブファイルに含まれるドキュメントファイル(拡張子“.DOC”“.MAN”“.TXT”などのテキストファイル)をお読みください。なお、各ソフトの名称/著作者/動作環境/登録先/サポート先などのデータは、原則として作者の方からご回答いただいたものを掲載しました。

解説： 小泉 カー  
東 功  
大池 浩一  
青木 達也



# Software Indexの見方

「Software Index」では、本書に収録したソフトウェア114本を紹介します。ソフトは8つの種別（アプリケーション、ツール、常駐プログラムなど）に分類されており、種別ごとにABC順で並んでいます。

## 各ソフトの使用方法

---

「Software Index」では、スペースの都合上、各ソフトの詳しい機能や具体的な操作方法については解説していません。ソフトを実際に利用する際には、それぞれのソフトのアーカイブファイルに含まれるドキュメントファイルをお読みください（一部ソフトでは、ドキュメントがプログラム本体とは別のアーカイブファイルに収録されている場合があります）。アーカイブファイルの展開方法などについては、本書の「付属ディスクの使い方」（p.7～）をお読みください。

ドキュメントファイルには、多くの場合“.DOC” “.MAN” “.TXT”というような拡張子がついています。また、「まず最初に読んでほしい」ドキュメントには、“README.DOC”とか“README” “README.1ST”などのファイル名がついています。ドキュメントファイルの読み方については、「素朴な疑問⑨」（p.15）をご覧ください。

## 「動作環境」について

---

「Software Index」の「動作環境」欄に表示している内容はあくまで目安です。詳しい動作条件については、各アーカイブファイルに含まれるドキュメントファイルをご覧ください。また、フリーソフトの作者は、すべての機種で動作確認を行っていないわけではないので、機種によっては動作しない可能性もあります。この点につき、あらかじめご了承ください。



## ●見出し

ソフトの機能と特長を一言で表現。

## ●正式タイトル

ソフトの正式名称。

数学記号や関数グラフが入力できる数式用ワープロ

## Quick-Note

## ●種別マーク

ソフトの大きな分類を、次の8種類のマークで表示。

- APU** (アプリケーション) …文書編集や表計算、データベースなど、まとまった仕事を行なうソフト。
- TOOL** (ツール) …小型で単機能のソフト (ユーティリティ)。
- TSR** (常驻プログラム) …メモリ内に常驻して動作するソフト。本書では、常驻コマンドやデバイスドライバのほか、Windowsのスタートアップグループに登録するプログラムもTSRに分類している。
- COM** (通信) …パソコン通信用の通信ソフトや関連ユーティリティ。
- IMAPU** (画像) …画像の表示、編集、加工などの処理を行なうソフト。
- AUDC** (音楽) …音楽データの再生など、音に関する処理を行なうソフト。
- GAME** (ゲーム) …ゲームソフトおよびゲーム開発ツール。
- JORI** (ジョーク) …実際に仕事に役立つものではないが、あると楽しいソフト。



操作性に優れた数式用ワープロで、数学記号や関数のグラフが簡単に入力でき、イメージおりの印刷が可能。シェアウェアであり、継続的に使用するには、郵便為替利用の場合で30001円のレジストを支払う必要がある。

数式を編集・印刷するシステムとしては「TeX」というソフトが有名であり、理系系のユーザーには大いに重宝がられている。ところが、TeXは一種のプログラミング言語的な性格を持ち、数式を表現するための規約を覚えなくてはならない。実際の印刷イメージを確認するまでにはいくつかの手続きを踏まなくてはならない。作者の意図は、TeXや一部の数式用ワープロに対する「批判検討」という形でQuick-Noteが誕生したという。そのような経緯から、TeX用文書の入力エディタとしての機能も兼ね備えることになった。

Quick-Noteの特長は、図や数式を含む文章が簡単に入力できるという点である。数学記号の入力は「数式モード」で行なうが、各記号の略称の入力に続いて数式用変換キー「@」を押すことにより、画面に印刷イメージおりの表示が得られる。記号と略称との対応関係は、HELPキーを押せばいつでも表示されるので、覚える必要はない。印字結果はTeXによる印刷ほど高品位ではなく、対応プリンタも現時点では限られているが、日常のレポートなどには十分使えるものである。なお、Quick-Noteにはスクリーン用と印字用のフォントがあり、外字の作成も可能。

スペルチェック機能により、欧文テキストのタイプミスが発見できる。スペルチェックした文章中に3回以上出てきた単語は「正しい」と見なされ、自動的に辞書に登録される。

線分や自由曲線のほか、四角形、円、2次曲線なども簡単に描ける。また、数式や関数式を与えるだけで正確なグラフが描画される機能は注目に値する。扱える関数は、三角関数や対数関数などの初等関数に限られるが、これだけの計算機能がワープロに入っているとは大したものである。

Quick-Noteで作成した文書ファイルは、ファイル選択画面でTeX用の原稿ファイル (\*.TEX) に変換できるため、TeX用エディタとして使うこともできる。ただし、図形やグラフについては、別に「PicTeX」というソフトが必要。(小泉)

## ●シェアウェアマーク

シェアウェアの場合にこのマークを表示。

## ●ディスクNo.マーク

ソフトの収録先ディスク (No.1~10) をマーク (DISK 1 ~ DISK 10) で表示。ランタイムライブラリなど関連ソフトの収録先ディスクは薄いマーク (DISK 1) などに表示。なお、ソフトは原則としてSoftware Indexの掲載順に収録しているが、Windows用ソフトはディスクNo.9~10にまとめた。

## ●解説

ソフトの主な機能や特長、操作にあたってのヒントなどを解説。機能の詳細や具体的な操作方法については、各ソフトのドキュメントファイルを参照のこと。

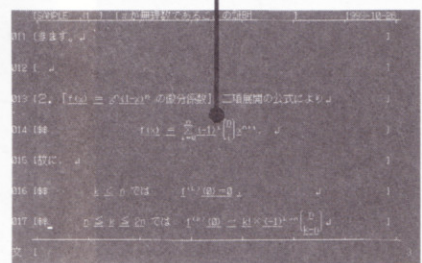
## ●データ

原則として作者からの回答にもとづき、次の情報を記載。  
**著作者**……ソフトの作者名。関連ソフトがある場合はその作者名も併記。一般に、ソフトの作者はそのソフトの著作権を有している。  
**動作環境**……ソフトが動作するために必要な条件。前ページの「動作環境について」も参照のこと。  
**バージョン**……ソフトの収録バージョン。  
**アーカイブ**……収録アーカイブファイルのファイル名。  
**登録先**……ソフトが登録されているパソコン通信ホスト局および会議室などの名称。  
**サポート先**……ソフトのサポートが行なわれているパソコン通信ホスト局および会議室などの名称。  
 なお、登録先/サポート先には、「PC-VAN」「NIFTY (NIFTY-Serve)」「ASCII (アスキーネット)」「MIX (日経MIX)」という4大商用ホスト局に関するデータを中心に掲載した。

## ●画面

ソフトの代表的な画面を掲載。

●著作者 M. Suzuki ●動作環境 ●アーカイブ QN11B.EXE ●登録先 PC-VAN (CIARI/1/2), NIFTY (FGALAP/LIB5, FGALSW/LIB6, FLBO/LIB11) ●サポート先 NIFTY (FGALSW/MC112)





## ADDRESS

APLI

DISK 1

カード型の住所録用データベースプログラム。住所データの登録/修正のほか、データ検索、データの個別/一覧での表示と印刷、自動ダイヤル、テキスト形式でのデータ交換などの機能を持つ。

プログラムを起動すると、まず差出人住所を登録するように要求される。入力したデータはカレントディレクトリのファイルに保存されるため、次の起動時からは初期画面が表示されなくなる。差出人住所としては、和文による表記はもちろん、海外へのエアメールを想定して英文による表記も可能となっている。引っ越しなどで差出人住所を変更するときは、メニュー画面の環境データ設定を利用する。

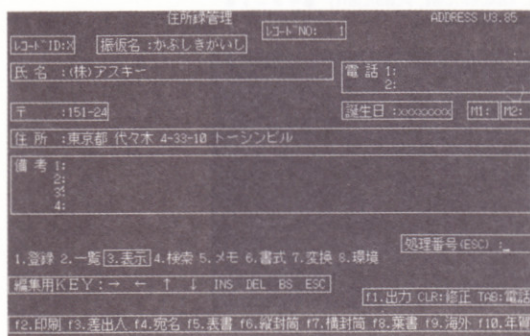
初期画面に続いてデータベース画面が表示され、登録/一覧/表示/検索/メモ/書式/変換/環境のコマンドが選択できるようになる。住所の登録項目はID/氏名/電話番号(2件)/住所/誕生日/備考であり、さらに「ふりがな」という項目の追加も可能。ここで「ID」は、英数字カナまたは記号1文字で指定するものであり、主にデータの区分などに使用する(テキスト出力や宛先印字の際の振り舞いを指定するための特殊なIDも用意されている)。

また、データ登録時に外部から参照データを読み込むこともできる。参照データは、\$N(名前)/\$I(ID)/\$Y(郵便番号)/\$A(住所)/\$T(電話1)/\$F(電話2)/\$B(誕生日)/\$1~\$4(備考)/\$K(ふりがな)というデリミタで区切って記述しておく。

宛先は、葉書や封筒に直接印刷することも、ラベルに印刷することもできる。ラベル印刷時にはフォームの変更も可能。なお、プリンタ出力の際には、あらかじめプリンタドライバを登録しておくこと。データの検索機能では、登録されている全項目を検索対象とすることができ、一覧表作成時には、最大5件のAND条件の指定が可能となっている。

さらに、ヘイズ互換モデム(ATコマンドが使えるモデム)を接続すれば、登録しておいた電話番号を自動的にダイヤルすることも可能。また、メモ機能を利用すれば電話中にメモを取ることもできる。メモ内容の確認などは、データベース画面のメモコマンドを利用する。(東)

●著作者: 石川英明 ●動作環境: PC-9801 ●バージョン: 3.86 ●アーカイブ: ADRES386.LZH ●登録先: NIFTY (FGALAP/LIB4), ASCII (pool msdos) ●サポート先: NIFTY (FGALAP/MES4)



## A-WORD

APLI

DISK 1

エディタライクなキー操作と本格的な印刷機能とを兼ね備えた実用ワープロ。

エディタをワープロがわりに使っているユーザにとって、文書の印刷は工夫のいるところであるが、A-WORDを使えばプリンタ(PC-PR系、NM系、ESC/P系)の機能を十分に活かした印刷が可能だ。具体的には、文字種の指定や文字装飾が自由に行なえ、改行幅や均等/密着割付などの細かい書式設定も可能。各種の罫線を使った表組みも、カーソルキー操作で簡単に行なえる。

A-WORDで扱えるファイルは、専用フォーマットを持ったA-WORD文書ファイル(3つのファイルからなる)と、MS-DOSの標準テキストファイルである。A-WORD文書ファイルには、覚え書き程度の「見出し」をつけることができる。

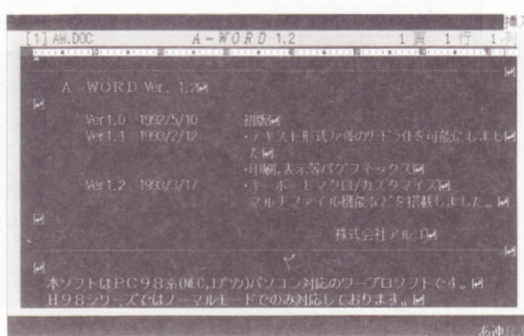
6個のファイルを同時にオープンして編集できる。画面分割によるマルチウィンドウの機能はないが、オープンしているファイルの間で自由にカット&ペーストが可能である。

A-WORDではA~Zに対応した複数のキーマクロが利用できる。マクロの登録と呼び出しはマクロ一覧の画面で行ない、複雑なキー操作を簡単に再現できる。登録したキーマクロはファイルに記録されるので、上書きしない限りいつでも呼び出せる。複数のマクロファイルを使い分けることも可能で、実質的に使えるマクロの個数に制限はない。

コマンド選択はプルダウンメニュー形式だが、便利なショートカットキーも利用できる。A-WORDではかなり自由なキーカスタマイズが可能で、カスタマイズの方法も、A-WORD自身を書き換える方法と、起動時に定義ファイルを読み込む方法とが用意されている。前者の方法では、専用のカスタマイザによって初心者でも簡単にカスタマイズできる。プルダウンメニューをファンクションキーに割り当てれば、市販エディタとほぼ同等のキー操作が可能となる。

このほかにも、カーソル位置に連番を入力するナンバリング機能など気のきいた機能が豊富。普段は使い慣れたエディタ風にカスタマイズしたA-WORDを利用し、報告書などを印刷するときはデフォルトのA-WORDを使ってきちんとした書式で印刷するといえよう。(小泉)

●著作者: ALGO(株式会社アルゴ) ●動作環境: PC-9801 ●バージョン: 1.20 ●アーカイブ: A-WORD.LZH





## CALPET

APLI

DISK  
1

3次元計算やカラフル表示が特長の表計算ソフト。複数の2次元シートを「ページ」という概念で管理することで、3次元スプレッドシートを実現している。

複数の表を同時に扱ったり、画面に複数のウィンドウを同時に表示したりできるなど、MS-DOS用の市販表計算ソフトより優れた面もある。多数の表を同時に眺めたり、表間でのデータの計算やカット&ペーストが簡単にできたりするわけだ。さらに、セルの文字色/背景色や罫線の種類を細かく設定でき、画面表示がカラフルなものも特長だ。

画面構成は一般的な表計算ソフトとほとんど同じで、画面中央のウィンドウにデータを書きこむセルが縦横に並んだワークシートが表示される。CALPETでは、このようなウィンドウを最大8個まで同時に表示できる。

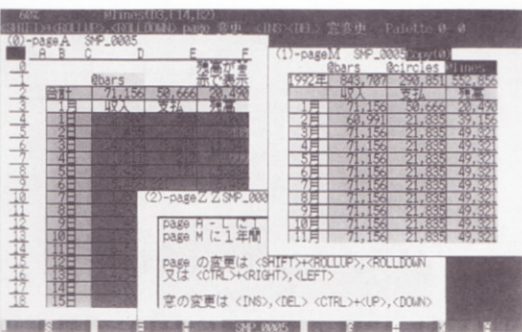
702列×1000行のセルを1ページとして、計702ページの表を扱える。もっとも、メモリの制約などからすべてのセルにデータを入れることはできない。

セルの指定には、列記号と行番号を組み合わせたセル番地(「A0」など)を使う。正式な表記では「A0A」のように末尾にページ記号がつくのだが、同じページ内のセルを示すときにはページ記号を省略できるため、ほとんどの場合は列と行のみの指定で十分だ。もちろん、ページ番号まで指定すれば、ページ間にまたがる串刺し計算が可能となる。

操作には、ファンクションキーやカーソルキーなどを使用する。これらのキーの機能は、SHIFT/CTRL/GRPH/XFERなどと組み合わせることによって変化する。複雑なようだが、ファンクションキーに割り当てられた機能は画面下に表示されるので、階層構造のメニューをたどるよりは楽だ。

複数のウィンドウを開いたり、カラフルな表示を見たりしたければ、付属のサンプルファイル(SMP\*.CPJ)を読みこんでみるとよい。これらのサンプルにはグラフ機能用の関数も埋めこまれている。それぞれの関数が書かれたセルにカーソルを移動させてNFERキーを押すと、画面が切り替わってグラフが表示される。印刷に関しては、データをテキストファイルに出力して他のソフトで印刷する方法のほか、CALPET自身でハードコピーをとることも可能だ。(大池)

●著作者: MILK/BrainStorm ●動作環境: PC-9801, PC-9821 ●バージョン: 1.82 ●アーカイブ: CALP182.LZH ●登録先: NIFTY (FGALAP/LIB7), PC-VAN (CIARI/7/8) ●サポート先: NIFTY (FGALAP/MES7)



## C-GRAPH 3Dimension

APLI

DISK  
1

計測データや2変数関数などの3次元グラフを簡単な操作で描画する。

C-GRAPH3Dは、3つの数値から、3次元空間内の1点をプロットするツールである。つまり、X、Y、Zの各座標の値をデータファイルの形で与え、それに対応する点をプロットし、必要に応じてこれらを直線で結んでグラフ化する。与えるデータファイルとしては、数値をスペース/タブ/カンマのいずれかで区切ったテキストファイルで、各行に同じ個数の数値が並んだものを使う。描画の際には、データファイル中の任意の3列(カラム)を選ぶことができる。

C-GRAPH3Dを起動するとメニュー画面が表示され、対象とするデータファイルの登録に続いて、描画するデータを選択する。描画の方法としては、点を画面上のドットとして表示する方法や、点の間を直線で結んだりデータの間を5点で補間したりする方法も用意されている。

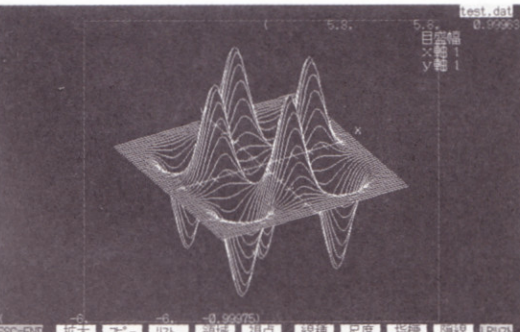
X、Y、Zの各軸のスケールはデータの読み込み時に自動的に設定されるが、これを1:1:1に指定することもできる。処理時間が多少長くなるが、見えない部分を描画しない「陰線消去」も可能である。また、描画方向としてX軸方向、Y軸方向のいずれかを指定できるので、必要に応じて使い分けるとグラフの様子がより分かりやすくなる。

画面上に表示したグラフは、画面1枚分の範囲内で上下に移動できるほか、グラフの一部を拡大して再描画することもできる。また、視点の水平角と俯角を任意に変えて、異なる視点から眺めることができる。なお、画面に表示されたグラフは、PC-PR201系プリンタによってワンタッチで印刷できる。

さらに、C-GRAPH3Dの「アニメーションモード」では、個々の曲線要素を1本ずつ描画することができる。この際、キー操作によって1本単位の前進と後退を繰り返すことができるので、グラフ内部の様子がよく分かる。また、必要に応じてグラフ全体を同時に表示することもできる。

なお、データファイルの内容を画面上に表示し、そこから描画する範囲を任意に選択することが可能で、この機能を利用すれば、途中の部分を飛ばして描画したり、グラフの断面図を見たりすることもできる。(小泉)

●著作者: HORI(堀之内克彦) ●動作環境: PC-9801 ●バージョン: 2.2 ●アーカイブ: CGR3D22.LZH ●登録先: PC-VAN (CIARI/7/8), NIFTY (FGALAP/LIB7)





Windows上で電子ブックやCD-ROMを検索

## DDWin

APLI

DISK 9

Windows上で、電子ブックやEPWING規格のCD-ROMを検索するソフト。

これらのCD-ROMには、国語辞典や英和辞書など便利なものが多いが、専用の電子ブックリーダーでは表示画面がせまく、一度に大量の情報を眺めることができない。また、キーボードが小さいなど操作性にも難がある。そこで、Windows上でこうしたデータを検索・参照できるDDWinのようなソフトがいくつか作られている。

DDWinを利用するには、Windowsが動作するパソコン、CD-ROMドライブ、そしてもちろん電子ブックのCD-ROMが必要だ。キャディにCDを収納するCD-ROMドライブでは、シングルCD用のアダプタをCD-ROMに装着する必要がある。

DDWinを初めて起動したときは、「その他」メニューの「環境設定」を選択し、CD-ROMドライブのドライブ名などの初期設定を行なう必要がある。

電子ブックのCD-ROMをドライブに挿入して「Mount」ボタンを押すと、CD-ROMに格納されている電子ブックのタイトル一覧が表示される。自分が利用したいものを選べば、準備は完了だ。

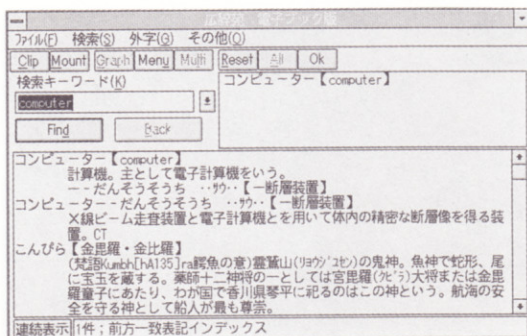
ウィンドウ左上の「検索キーワード」の下テキストボックスに、キーワードを入力し、「Find」ボタンをクリックすると検索が実行される。日本語のキーワードを入力する際には、ひらがなのまま入力することに注意。過去に入力したキーワードは保存されており、「↓」ボタンで遡って選択することができる。

単純な見出しの検索（完全／前方／後方一致）だけでなく、内容のインデックスを検索する条件検索も可能だ（キーワードの最初に「+」をつける）。さらに、複数のキーワードをスペースで区切って、すべてのキーワードに合致するものだけを検索する（AND検索）こともできる。

検索が成功すると、キーワード右の小さなボックスに見出しが、その下の大きなボックスに本文がそれぞれ表示される。本文のフォントタイプやサイズ、見出しの文字色などは、「その他」メニューの「表示設定」でカスタマイズ可能だ。

このほか、クリップボード上のテキストをDDWinのキーワードとして読み込む自動検索機能が用意されている。（大池）

●著者: thakata, 草本和馬 ●動作環境: Windows3.0以上 ●バージョン: 1.35c ●アーカイブ: DDW135C.LZH ●登録先: NIFTY (FWIN/LIB8), MIX (WIN/2lib) ●サポート先: NIFTY (FWIN/MES8), MIX (WIN/mme)



マルチウィンドウ/マルチファイルスクリーンエディタ

## EditEngine

APLI

DISK 1

C言語ライクなマクロを備えたマルチウィンドウ/マルチファイルのスクリーンエディタ。同時に2つまでのウィンドウを画面に表示し、8つまでのファイルを編集することができる。デスク上にテンポラリファイルを作るタイプなので、数メガバイトのテキストでもそのまま編集可能だ。

操作方法は、ファンクションキーなどを使ったメニュー方式と、CTRLキーによるダイレクト方式とが用意されている。操作が分からなくなったときは、HELPキーを押すとヘルプメニューが表示されるので、知りたい項目を選択すればよい。

複数のファイルを読み込んでいるとき、画面に表示するファイルを切り替えるにはF・4キーを押す。マルチウィンドウで別のファイルを見るには、SHIFT+F・3で画面を2分割し（どちらのウィンドウにも同じファイルが表示される）、F・4キーを押して片方のウィンドウに別のファイルを表示すればよい。

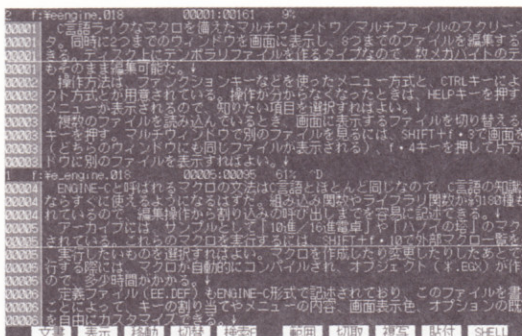
ENGINE-Cと呼ばれるマクロの文法はC言語とほとんど同じなので、C言語の知識がある人ならすぐに使えるようになるはずだ。組み込み関数やライブラリ関数が約180種も用意されているので、編集操作から割り込みの呼び出しまでを容易に記述できる。

アーカイブには、サンプルとして「10進/16進電卓」や「ハノイの塔」のマクロが用意されている。これらのマクロを実行するには、SHIFT+F・10で外部マクロ一覧を表示させ、実行したいものを選択すればよい。マクロを作成したり変更したりしたあとで初めて実行する際には、マクロが自動的にコンパイルされ、オブジェクト(\*.EGX)が作成されるので、多少時間がかかる。

定義ファイル(E.E.DEF)もENGINE-C形式で記述されており、このファイルを書き換えることによって、キーの割り当てやメニューの内容、画面表示色、オプションの既定値などを自由にカスタマイズできる。

定義ファイルの設定を変更したあとでEditEngineを起動すると、プログラムから参照しやすい形式のオブジェクト(E.E.CNF)に自動的に変換される。そのため、変更直後の起動には多少の時間がかかるが、2回目以降は高速に起動するようになる。（大池）

●著者: T.Gaito(新谷垣内達也) ●動作環境: PC-9801 ●バージョン: 0.75 ●アーカイブ: EE075.LZH ●登録先: NIFTY (FGALAP/LIB5) ●サポート先: NIFTY (FGALAP/MES5)





## FDB, FDB for Windows

APL

DISK  
1

ディスク上のファイルのデータベースを作り、フロッピーの山から解放されよう。

ワープロ、表計算ソフトなどのデータファイルや、気の向くままにネットからダウンロードしたアーカイブファイルなどは、ため込むと気がない。こまめにフロッピーディスクに振り分けて管理しているつもりでも、いつの間にかフロッピーディスクの山ができてしまうものだ。

FDBを使うと、各種の媒体（ハードディスクやフロッピーディスク）に記録されたファイルをディスク単位で管理することができる。FDBは、各ディスクにボリュームラベルをつけ、複数のディスクのファイル情報をデータベース化してくれる。

原理的には、各ディスクのディレクトリ情報を、ディスクのボリュームラベルのもとで管理するわけだが、アーカイブ中のファイルまで管理できる点が優れている。また、同じ作者の手による「Hi」というフリーソフトで個々のファイルにコメントをつけておけば、このコメントもデータベース情報として登録できる。

FDBの操作は簡単な会話形式であり、各機能はワンキーコマンドで指示する。データベースの「命」は検索機能である。FDBでは「ディスク単位でファイル情報一覧を表示する」、「grepという検索ツールに準じた検索を行なう」、「MS-DOSのワイルドカードを用いた検索を行なう」などの検索方法が利用可能である。検索の対象としては、ファイル名やディレクトリ名はもとより、コメントがついている場合はコメント中の文字列まで指定できる。

検索結果は、印刷／ファイル出力／ページャでの閲覧／エディタでの編集などが可能。印刷用ソフト／ページャ／エディタなどの指定は、起動時のオプションでもできるが、専用の定義ファイルに記述しておいたほうが便利だ。

このほか、富士通のワープロOASYSの文書ディスクをデータベースに登録することも可能だが、「OASDIR」（きたばん氏、いねむりじい氏作）というフリーソフトが必要となる。

FDBにはWindows (Ver.3.0以上) 版も用意されている。Windows版では、検索結果がクリップボードに出力されるので、印刷や編集などはWindows上のほかのプログラムで処理することになる。

(小泉)

●著作者： ひーくん(稲葉博之) ●動作環境： FDB: MS-DOS汎用, FDB for Windows: Windows ●バージョン： 1.06 ●アーカイブ： FDBW106.LZH ●登録先： NIFTY (FWIN/LIB3, FFM/LIB9, FGALAP/LIB10) ●サポート先： NIFTY (FWIN, FFM, FGALAP)

```

MSCDIRIVE: SHOCK16.LZH 32,412 93-10-10 22:56:01 #FREE#
          > SHOCK16.RCP 96,422 93-10-14 03:32:07
MSCDIRIVE: LITTLE5.LZH 10,178 93-09-14 04:13:05 #FREE#US.DAT#
          > LITTLE5.RCP 47,538 93-09-12 01:00:00
MSCDIRIVE: JAME55.LZH 7,523 93-05-16 22:54:05 #FREE#US.DAT#
          > JAME55.RCP 78,680 93-05-10 23:38:18
MSCDIRIVE: NSE305.LZH 22,668 93-05-16 22:55:25 #FREE#US.DAT#
          > NSE305.RCP 48,214 93-05-10 01:01:00
MSCDIRIVE: SORCE25.LZH 29,999 93-05-16 22:58:22 #FREE#US.DAT#
          > SORCE25.RCP 51,210 93-04-21 22:14:15
MSCDIRIVE: ZHART55.LZH 21,028 93-06-26 05:36:27 #FREE#US.DAT#
          > ZHART55.RCP 48,786 93-06-22 03:01:00
MSCDIRIVE: SEISE.LZH 22,176 93-07-05 14:01:22 #FREE#US.DAT#
          > SEISE.RCP 55,202 93-07-04 00:00:00
MSCDIRIVE: TOO_SHY.LZH 9,102 93-07-05 13:59:02 #FREE#US.DAT#
          > TOO_SHY.RCP 57,574 93-07-04 01:00:00
MSCDIRIVE: NATU55.LZH 9,980 93-07-20 19:51:29 #FREE#0720#
          > NATU55.RCP 72,764 93-07-12 01:00:00
MSCDIRIVE: NATSU0.LZH 72,764 93-07-12 01:00:00 #FREE#0720#
          > NATSU0.RCP
以上 11 件
検索したデータはどうしますか
印刷/出力/出力(F) / 表示(B) / 終了(E)
C1 CU CR SI SU VOID HAL INS REP ^2

```

## FILMTN(フィルメンテ)

APL

DISK  
1

ファイル操作を対話的に行なうソフト（ファイル）。ディレクトリ単位の移動やコピーが行なえるほか、拡張子別のコマンド実行も可能だ。付属のFMCUSTというツールを利用すると、画面表示をはじめ、拡張子別の実行コマンドなどの設定を対話的にカスタマイズすることができる。

起動すると、画面上部にカレントパスやファイル数など、その下にはカレントディレクトリのファイルやサブディレクトリが表示される。反転表示になっているのが、注目しているファイル（カレントファイル）を示すカーソルバーだ。

このカーソルバーを移動させ、処理したいファイルを選択し、コマンドを入力する——という手順でファイルの移動や削除などを行なう。ファイルを選択するには、カーソルバーの示すファイルに対してコマンドを入力する方法と、スペースキーによって複数のファイルにタグをつけておき、最後にコマンドを入力する方法の2つがある。

例えば、適当なテキストにカーソルバーを合わせてからVキーを押すと、内蔵ページャによってそのファイルの内容が画面に表示される。また、複数のテキストにスペースキーでタグ（目印）をつけたあとでEキーを押すと、VZエディタが起動してそれらのファイルを編集できるようになる。

このほか、ディレクトリ構造をツリー表示して、カレントディレクトリの移動を行ったり、移動／コピー先を選択することもできる。移動やコピーの際には、ディレクトリを選択して、その中のファイルを一気に移動／コピーすることも可能だ。同名のファイルが移動／コピー先に存在したときの処理もよく考えられている。文字列入力時には、カーソルキーやCTRLキーによる編集が可能。また、実行したコマンドやコピー先などのパスはそれぞれ45個まで記憶しており、↑キーによって簡単に呼び出すことができる。

なお、FILMTNは「30行BIOS」（lucifer氏作、本書に収録）に対応しており、30行環境でファイル操作を行なうことができる。さらに、30行BIOSのモードを変えるマクロが標準で用意されているため、30行BIOSに対応していないコマンドを実行する前に25行表示に切り替え、実行後は30行表示に戻すといった柔軟な設定が可能だ。

(大池)

●著作者： K.Ishida(石田健仁) ●動作環境： PC-9801 (ハイレゾ対応) ●バージョン： V2.33 ●アーカイブ： FM98T233.LZH ●登録先： NIFTY (FQLD2/LIB2, FGALBT/LIB6) ●サポート先： NIFTY (FQLD2/MES16, FGALBT/MES6)

```

編集 実行 ツリー 検索 移動 複製 削除 移動 複製 削除 移動 複製 削除
MSCDIRIVE: SHOCK16.LZH 32,412 93-10-10 22:56:01 #FREE#
          > SHOCK16.RCP 96,422 93-10-14 03:32:07
MSCDIRIVE: LITTLE5.LZH 10,178 93-09-14 04:13:05 #FREE#US.DAT#
          > LITTLE5.RCP 47,538 93-09-12 01:00:00
MSCDIRIVE: JAME55.LZH 7,523 93-05-16 22:54:05 #FREE#US.DAT#
          > JAME55.RCP 78,680 93-05-10 23:38:18
MSCDIRIVE: NSE305.LZH 22,668 93-05-16 22:55:25 #FREE#US.DAT#
          > NSE305.RCP 48,214 93-05-10 01:01:00
MSCDIRIVE: SORCE25.LZH 29,999 93-05-16 22:58:22 #FREE#US.DAT#
          > SORCE25.RCP 51,210 93-04-21 22:14:15
MSCDIRIVE: ZHART55.LZH 21,028 93-06-26 05:36:27 #FREE#US.DAT#
          > ZHART55.RCP 48,786 93-06-22 03:01:00
MSCDIRIVE: SEISE.LZH 22,176 93-07-05 14:01:22 #FREE#US.DAT#
          > SEISE.RCP 55,202 93-07-04 00:00:00
MSCDIRIVE: TOO_SHY.LZH 9,102 93-07-05 13:59:02 #FREE#US.DAT#
          > TOO_SHY.RCP 57,574 93-07-04 01:00:00
MSCDIRIVE: NATU55.LZH 9,980 93-07-20 19:51:29 #FREE#0720#
          > NATU55.RCP 72,764 93-07-12 01:00:00
MSCDIRIVE: NATSU0.LZH 72,764 93-07-12 01:00:00 #FREE#0720#
          > NATSU0.RCP
以上 11 件
検索したデータはどうしますか
印刷/出力/出力(F) / 表示(B) / 終了(E)
C1 CU CR SI SU VOID HAL INS REP ^2

```



## FL

APLI

DISK 1

複数のディスクに配置されたファイルを1つのファイルで管理するシンプルなデータベース。

FLの機能は、ディスク上のファイルのリスト作成とディスクの空き領域の計算であり、読み取り用と書き込み用の2つのプログラムによってディスク情報の読み書きを行なう。

ディスク情報を読み取る際には、ドライブ名を引数に指定してFLEXEを起動する。指定したドライブのディスクにボリュームラベルがあればこれを「ディスク名」とするが、なければキーボードから任意のディスク名を入力できる。複数のドライブ名を引数に指定した場合は、ドライブごとに読み取り操作が繰り返される。

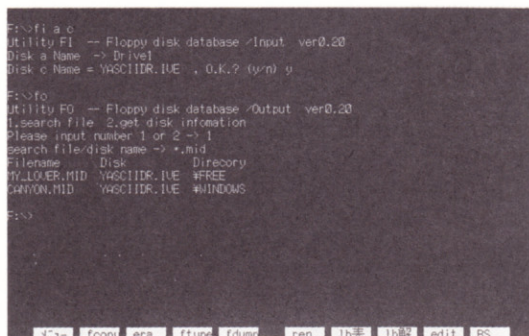
読み取った情報は専用のテキストファイル (FDLIST.FHD) に書き込まれる。このファイルには、ファイル名がディスク単位 (ディレクトリが存在する場合はディレクトリ単位) で記録されており、ユーザーがほかのソフトのデータとして流用することも可能である。ただし、ファイル属性やタイムスタンプなどの情報は記録されず、隠し属性付きのファイルも無視されるので注意が必要である。また、アーカイブされているファイルも対象外である。

FLEXEでテキストファイルに記録されたディスク情報を検索するためには、FO.EXEを利用する。FO.EXEの機能は、特定ファイルの検索と、登録されているディスクの情報 (ボリュームラベルと空き領域) の表示である。これらの機能は起動時のオプションでも指定できるが、オプションで特に指定しない場合には、画面のメッセージに従って、対話形式で操作することになる。ファイルを検索する際には、MS-DOSでおなじみのワイルドカード (?、\*) で検索条件を指定することができる。また、ディスク情報を表示する場合はディスク名を指定する。検索ファイルやディスク名を指定する際に、複数の名前を列記することができないのは残念な点である。

FO.EXEの出力は、MS-DOSの「標準出力」に対して行なわれる。通常、「標準出力」の出力先は画面になっているが、出力先をリダイレクトして、SORT.EXEなどのフィルタコマンドに渡してやれば、出力結果を加工して利用することができる。

(小泉)

●著者: 吉羽要直 ●動作環境: PC-9801 ●バージョン: 0.20 ●アーカイブ: FL020EX.LZH ●サポート先: 作者宛メールにて



## FMWIN

APLI

DISK 9 DISK 10

FILMTN (石田健仁氏作、本書に収録) とほぼ同等のファイル操作をWindows上で行なうファイラ。マルチ・ドキュメント・インターフェイス (MDI) アプリケーションで、ウィンドウの中に複数のウィンドウを開くことができる。

ファイル表示画面のウィンドウには、カレントディレクトリ (タイトルバーに表示されている) のファイルが並んでおり、FILMTNライクなキー操作や、Windows標準のメニュー選択によって、コピーや移動などのファイル操作を行なう。MDIメニューの「New」を選択すれば、新たなファイル表示画面のウィンドウが開くので、複数のディレクトリの内容を確認しながらファイル操作が行なえるわけだ。

複数の画面を開いているときには、ファイル表示画面どうしでドラッグ&ドロップによるファイル (またはディレクトリ) のコピーや移動が可能だ。左ボタンによるドラッグでコピー、右ボタンによるドラッグで移動となる。

また、LHAのアーカイブ (\*.LZH) 内のファイルに対する操作を行なうこともできる。アーカイブファイルにカーソルを合わせてリターンキーを押すと、アーカイブ内のファイルの一覧が新たなウィンドウ内に表示され、これらのファイルに対してコピーや移動、削除などのファイル操作が可能になる。もちろん、ドラッグ&ドロップでファイルを圧縮したり展開したりすることもできる。この機能は、LHA.DLL (Rhizome Project作、本書に収録) というダイナミックリンクライブラリを呼び出すことによって実現しているため、FMWINの実行にはLHA.DLLが必須となっている。

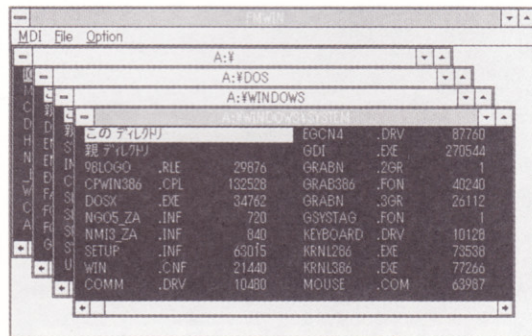
内蔵のページャは、スクロールバーが表示されないなど、Windows上のソフトとしては少し違和感がある。気になるようなら、外部のページャを起動するように設定するとよい。

外部起動するエディタやページャ、内蔵ページャの表示幅の設定などは、Oキーを押すと現われるダイアログで行なうことができる。また、ファイル名の表示に使うフォントの種類は、Optionメニューの「Font」で設定する。

フォントの大きさや拡張子別の実行コマンドのような細かい設定を変更するためには、設定ファイル (FMWIN.INI) をエディタなどで直接編集する。

(大池)

●著者: MOGU ●動作環境: Windows3.1以上 ●バージョン: 0.96 ●アーカイブ: FMWIN096.LZH, LHDL110.LZH ●登録先: NIFTY (FGALEL/LIB1) ●サポート先: NIFTY (FGALEL/MES7)





# HF

APLI DISK 1

鮮やかなバックグラウンドカラーが印象的な、細かい気配りに富んだ多機能ファイラ。

HFのデフォルト状態の画面は、裏VRAMを利用した鮮やかなグラフィックモードであるが、VRAMを利用しないテキストモードも使える。グラフィックモードの背景色や文字色は任意にカスタマイズできる。

ファイル操作では、LZHファイルやishファイルの操作に加え、「DIET」(Teddy Matsumoto氏作)による圧縮などもメニューから操作できる。これらの操作はマークした複数のファイルに対して有効である。内蔵ページャによるファイルの閲覧や、外部エディタを起動したファイルの編集など、他のファイラと同等以上の機能を持つ。

HFでは、豊富な「アドインソフト」が使えるという点特徴的で、各種のユーティリティがサポートされている。アドインソフトに限らず任意のアプリケーションをHFから起動することも可能で、簡易メニューソフトとして使うこともできる。

プログラムを子プロセスとして起動する際に、HFは特別なメモリ操作を行なう。その1つが「常駐量縮小機能」で、子プロセスの起動時にHF本体を「UMB領域→EMSメモリ→ディスク」という優先順位で退避させ、子プロセスのためのメモリを最大限に確保する。また、HF特有の「さまよう機能」を有効にすると、メインメモリの中を「さまよう」ことにより、HFを配置できる空き領域の中で最上位の位置にロードする。この機能によって、HFと他のプログラムとの相互干渉が極力抑えられるので、常駐コマンドを起動したり、FEPなどのキャラクター型デバイスドライバを着脱したり、といったことが安心してできる。

また、ファイルの拡張子によって指定したコマンドを実行する「拡張子連動機能」も充実している。HFの場合、1つの拡張子に最大で7個のコマンドが指定できる。単にリターンキーを押すと最初のコマンドが実行され、GRPH+リターンキーとすると指定された複数のコマンドをメニューから選べる。また、複数のファイルをマークしたうえでこれらのキー操作を行なうと、個々のファイルについて連続してコマンドを実行できる。

(小泉)

●著作者: mo-ca(加藤敬一), うし(牛島徹) ●動作環境: PC-9801 ●バージョン: 2.50 ●アーカイブ: HF\_250.LZH ●登録先: PC-VAN (SLABO/7/3), NIFTY (FGALBT/LIB13) ●サポート先: PC-VAN (SLABO/3/5), NIFTY (FGALBT/MES13)

File name: HF\_250.LZH Page: 1 / 1

File Size	104,006	< RWDIR >	< Vol >	99-10-26	19:10:40	---
		< TRF >	< DIR >	99-10-26	19:10:24	---
Date: 99-10-05	HF	EDSH10	LZH	3,959	99-09-08	02:40:03 A
Time: 01:00:02	HF	COM		59,363	99-09-20	02:50:00 A
	HF	DEF		16,179	99-09-20	02:50:00 A
	HF	DOC		102,711	99-09-20	02:50:00 A
Marked: 3	HF_250	LZH	104,006	99-10-05	01:00:02	A
	179,873	KEY29	DOC	11,279	99-09-20	02:50:00 A
Files: 11	QSA	DOC		19,312	99-09-20	02:50:00 A
	RES0	DEF		3,979	99-09-20	02:50:00 A
	エディタ	3.747	7,734	99-09-20	00:00:02	A
Total	1,426,438					
Used	338,824					
Free	1,087,614					

[New] [Open] [Copy] [Paste] [Rename] [View] [F1] [F2] [F3] [F4] [F5] [F6] [F7] [F8] [F9] [F10] [F11] [F12] [Esc] [Tab] [Enter] [Back] [Fwd] [Up] [Down] [Left] [Right] [Home] [End] [PageUp] [PageDown] [Print] [Help] [Quit] [Cancel] [OK] [F13] [F14] [F15] [F16] [F17] [F18] [F19] [F20] [F21] [F22] [F23] [F24] [F25] [F26] [F27] [F28] [F29] [F30] [F31] [F32] [F33] [F34] [F35] [F36] [F37] [F38] [F39] [F40] [F41] [F42] [F43] [F44] [F45] [F46] [F47] [F48] [F49] [F50] [F51] [F52] [F53] [F54] [F55] [F56] [F57] [F58] [F59] [F60] [F61] [F62] [F63] [F64] [F65] [F66] [F67] [F68] [F69] [F70] [F71] [F72] [F73] [F74] [F75] [F76] [F77] [F78] [F79] [F80] [F81] [F82] [F83] [F84] [F85] [F86] [F87] [F88] [F89] [F90] [F91] [F92] [F93] [F94] [F95] [F96] [F97] [F98] [F99] [F100] [F101] [F102] [F103] [F104] [F105] [F106] [F107] [F108] [F109] [F110] [F111] [F112] [F113] [F114] [F115] [F116] [F117] [F118] [F119] [F120] [F121] [F122] [F123] [F124] [F125] [F126] [F127] [F128] [F129] [F130] [F131] [F132] [F133] [F134] [F135] [F136] [F137] [F138] [F139] [F140] [F141] [F142] [F143] [F144] [F145] [F146] [F147] [F148] [F149] [F150] [F151] [F152] [F153] [F154] [F155] [F156] [F157] [F158] [F159] [F160] [F161] [F162] [F163] [F164] [F165] [F166] [F167] [F168] [F169] [F170] [F171] [F172] [F173] [F174] [F175] [F176] [F177] [F178] [F179] [F180] [F181] [F182] [F183] [F184] [F185] [F186] [F187] [F188] [F189] [F190] [F191] [F192] [F193] [F194] [F195] [F196] [F197] [F198] [F199] [F200] [F201] [F202] [F203] [F204] [F205] [F206] [F207] [F208] [F209] [F210] [F211] [F212] [F213] [F214] [F215] [F216] [F217] [F218] [F219] [F220] [F221] [F222] [F223] [F224] [F225] [F226] [F227] [F228] [F229] [F230] [F231] [F232] [F233] [F234] [F235] [F236] [F237] [F238] [F239] [F240] [F241] [F242] [F243] [F244] [F245] [F246] [F247] [F248] [F249] [F250] [F251] [F252] [F253] [F254] [F255] [F256] [F257] [F258] [F259] [F260] [F261] [F262] [F263] [F264] [F265] [F266] [F267] [F268] [F269] [F270] [F271] [F272] [F273] [F274] [F275] [F276] [F277] [F278] [F279] [F280] [F281] [F282] [F283] [F284] [F285] [F286] [F287] [F288] [F289] [F290] [F291] [F292] [F293] [F294] [F295] [F296] [F297] [F298] [F299] [F300] [F301] [F302] [F303] [F304] [F305] [F306] [F307] [F308] [F309] [F310] [F311] [F312] [F313] [F314] [F315] [F316] [F317] [F318] [F319] [F320] [F321] [F322] [F323] [F324] [F325] [F326] [F327] [F328] [F329] [F330] [F331] [F332] [F333] [F334] [F335] [F336] [F337] [F338] [F339] [F340] [F341] [F342] [F343] [F344] [F345] [F346] [F347] [F348] [F349] [F350] [F351] [F352] [F353] [F354] [F355] [F356] [F357] [F358] [F359] [F360] [F361] [F362] [F363] [F364] [F365] [F366] [F367] [F368] [F369] [F370] [F371] [F372] [F373] [F374] [F375] [F376] [F377] [F378] [F379] [F380] [F381] [F382] [F383] [F384] [F385] [F386] [F387] [F388] [F389] [F390] [F391] [F392] [F393] [F394] [F395] [F396] [F397] [F398] [F399] [F400] [F401] [F402] [F403] [F404] [F405] [F406] [F407] [F408] [F409] [F410] [F411] [F412] [F413] [F414] [F415] [F416] [F417] [F418] [F419] [F420] [F421] [F422] [F423] [F424] [F425] [F426] [F427] [F428] [F429] [F430] [F431] [F432] [F433] [F434] [F435] [F436] [F437] [F438] [F439] [F440] [F441] [F442] [F443] [F444] [F445] [F446] [F447] [F448] [F449] [F450] [F451] [F452] [F453] [F454] [F455] [F456] [F457] [F458] [F459] [F460] [F461] [F462] [F463] [F464] [F465] [F466] [F467] [F468] [F469] [F470] [F471] [F472] [F473] [F474] [F475] [F476] [F477] [F478] [F479] [F480] [F481] [F482] [F483] [F484] [F485] [F486] [F487] [F488] [F489] [F490] [F491] [F492] [F493] [F494] [F495] [F496] [F497] [F498] [F499] [F500] [F501] [F502] [F503] [F504] [F505] [F506] [F507] [F508] [F509] [F510] [F511] [F512] [F513] [F514] [F515] [F516] [F517] [F518] [F519] [F520] [F521] [F522] [F523] [F524] [F525] [F526] [F527] [F528] [F529] [F530] [F531] [F532] [F533] [F534] [F535] [F536] [F537] [F538] [F539] [F540] [F541] [F542] [F543] [F544] [F545] [F546] [F547] [F548] [F549] [F550] [F551] [F552] [F553] [F554] [F555] [F556] [F557] [F558] [F559] [F560] [F561] [F562] [F563] [F564] [F565] [F566] [F567] [F568] [F569] [F570] [F571] [F572] [F573] [F574] [F575] [F576] [F577] [F578] [F579] [F580] [F581] [F582] [F583] [F584] [F585] [F586] [F587] [F588] [F589] [F590] [F591] [F592] [F593] [F594] [F595] [F596] [F597] [F598] [F599] [F600] [F601] [F602] [F603] [F604] [F605] [F606] [F607] [F608] [F609] [F610] [F611] [F612] [F613] [F614] [F615] [F616] [F617] [F618] [F619] [F620] [F621] [F622] [F623] [F624] [F625] [F626] [F627] [F628] [F629] [F630] [F631] [F632] [F633] [F634] [F635] [F636] [F637] [F638] [F639] [F640] [F641] [F642] [F643] [F644] [F645] [F646] [F647] [F648] [F649] [F650] [F651] [F652] [F653] [F654] [F655] [F656] [F657] [F658] [F659] [F660] [F661] [F662] [F663] [F664] [F665] [F666] [F667] [F668] [F669] [F670] [F671] [F672] [F673] [F674] [F675] [F676] [F677] [F678] [F679] [F680] [F681] [F682] [F683] [F684] [F685] [F686] [F687] [F688] [F689] [F690] [F691] [F692] [F693] [F694] [F695] [F696] [F697] [F698] [F699] [F700] [F701] [F702] [F703] [F704] [F705] [F706] [F707] [F708] [F709] [F710] [F711] [F712] [F713] [F714] [F715] [F716] [F717] [F718] [F719] [F720] [F721] [F722] [F723] [F724] [F725] [F726] [F727] [F728] [F729] [F730] [F731] [F732] [F733] [F734] [F735] [F736] [F737] [F738] [F739] [F740] [F741] [F742] [F743] [F744] [F745] [F746] [F747] [F748] [F749] [F750] [F751] [F752] [F753] [F754] [F755] [F756] [F757] [F758] [F759] [F760] [F761] [F762] [F763] [F764] [F765] [F766] [F767] [F768] [F769] [F770] [F771] [F772] [F773] [F774] [F775] [F776] [F777] [F778] [F779] [F780] [F781] [F782] [F783] [F784] [F785] [F786] [F787] [F788] [F789] [F790] [F791] [F792] [F793] [F794] [F795] [F796] [F797] [F798] [F799] [F800] [F801] [F802] [F803] [F804] [F805] [F806] [F807] [F808] [F809] [F810] [F811] [F812] [F813] [F814] [F815] [F816] [F817] [F818] [F819] [F820] [F821] [F822] [F823] [F824] [F825] [F826] [F827] [F828] [F829] [F830] [F831] [F832] [F833] [F834] [F835] [F836] [F837] [F838] [F839] [F840] [F841] [F842] [F843] [F844] [F845] [F846] [F847] [F848] [F849] [F850] [F851] [F852] [F853] [F854] [F855] [F856] [F857] [F858] [F859] [F860] [F861] [F862] [F863] [F864] [F865] [F866] [F867] [F868] [F869] [F870] [F871] [F872] [F873] [F874] [F875] [F876] [F877] [F878] [F879] [F880] [F881] [F882] [F883] [F884] [F885] [F886] [F887] [F888] [F889] [F890] [F891] [F892] [F893] [F894] [F895] [F896] [F897] [F898] [F899] [F900] [F901] [F902] [F903] [F904] [F905] [F906] [F907] [F908] [F909] [F910] [F911] [F912] [F913] [F914] [F915] [F916] [F917] [F918] [F919] [F920] [F921] [F922] [F923] [F924] [F925] [F926] [F927] [F928] [F929] [F930] [F931] [F932] [F933] [F934] [F935] [F936] [F937] [F938] [F939] [F940] [F941] [F942] [F943] [F944] [F945] [F946] [F947] [F948] [F949] [F950] [F951] [F952] [F953] [F954] [F955] [F956] [F957] [F958] [F959] [F960] [F961] [F962] [F963] [F964] [F965] [F966] [F967] [F968] [F969] [F970] [F971] [F972] [F973] [F974] [F975] [F976] [F977] [F978] [F979] [F980] [F981] [F982] [F983] [F984] [F985] [F986] [F987] [F988] [F989] [F990] [F991] [F992] [F993] [F994] [F995] [F996] [F997] [F998] [F999] [F1000] [F1001] [F1002] [F1003] [F1004] [F1005] [F1006] [F1007] [F1008] [F1009] [F1010] [F1011] [F1012] [F1013] [F1014] [F1015] [F1016] [F1017] [F1018] [F1019] [F1020] [F1021] [F1022] [F1023] [F1024] [F1025] [F1026] [F1027] [F1028] [F1029] [F1030] [F1031] [F1032] [F1033] [F1034] [F1035] [F1036] [F1037] [F1038] [F1039] [F1040] [F1041] [F1042] [F1043] [F1044] [F1045] [F1046] [F1047] [F1048] [F1049] [F1050] [F1051] [F1052] [F1053] [F1054] [F1055] [F1056] [F1057] [F1058] [F1059] [F1060] [F1061] [F1062] [F1063] [F1064] [F1065] [F1066] [F1067] [F1068] [F1069] [F1070] [F1071] [F1072] [F1073] [F1074] [F1075] [F1076] [F1077] [F1078] [F1079] [F1080] [F1081] [F1082] [F1083] [F1084] [F1085] [F1086] [F1087] [F1088] [F1089] [F1090] [F1091] [F1092] [F1093] [F1094] [F1095] [F1096] [F1097] [F1098] [F1099] [F1100] [F1101] [F1102] [F1103] [F1104] [F1105] [F1106] [F1107] [F1108] [F1109] [F1110] [F1111] [F1112] [F1113] [F1114] [F1115] [F1116] [F1117] [F1118] [F1119] [F1120] [F1121] [F1122] [F1123] [F1124] [F1125] [F1126] [F1127] [F1128] [F1129] [F1130] [F1131] [F1132] [F1133] [F1134] [F1135] [F1136] [F1137] [F1138] [F1139] [F1140] [F1141] [F1142] [F1143] [F1144] [F1145] [F1146] [F1147] [F1148] [F1149] [F1150] [F1151] [F1152] [F1153] [F1154] [F1155] [F1156] [F1157] [F1158] [F1159] [F1160] [F1161] [F1162] [F1163] [F1164] [F1165] [F1166] [F1167] [F1168] [F1169] [F1170] [F1171] [F1172] [F1173] [F1174] [F1175] [F1176] [F1177] [F1178] [F1179] [F1180] [F1181] [F1182] [F1183] [F1184] [F1185] [F1186] [F1187] [F1188] [F1189] [F1190] [F1191] [F1192] [F1193] [F1194] [F1195] [F1196] [F1197] [F1198] [F1199] [F1200] [F1201] [F1202] [F1203] [F1204] [F1205] [F1206] [F1207] [F1208] [F1209] [F1210] [F1211] [F1212] [F1213] [F1214] [F1215] [F1216] [F1217] [F1218] [F1219] [F1220] [F1221] [F1222] [F1223] [F1224] [F1225] [F1226] [F1227] [F1228] [F1229] [F1230] [F1231] [F1232] [F1233] [F1234] [F1235] [F1236] [F1237] [F1238] [F1239] [F1240] [F1241] [F1242] [F1243] [F1244] [F1245] [F1246] [F1247] [F1248] [F1249] [F1250] [F1251] [F1252] [F1253] [F1254] [F1255] [F1256] [F1257] [F1258] [F1259] [F1260] [F1261] [F1262] [F1263] [F1264] [F1265] [F1266] [F1267] [F1268] [F1269] [F1270] [F1271] [F1272] [F1273] [F1274] [F1275] [F1276] [F1277] [F1278] [F1279] [F1280] [F1281] [F1282] [F1283] [F1284] [F1285] [F1286] [F1287] [F1288] [F1289] [F1290] [F1291] [F1292] [F1293] [F1294] [F1295] [F1296] [F1297] [F1298] [F1299] [F1300] [F1301] [F1302] [F1303] [F1304] [F1305] [F1306] [F1307] [F1308] [F1309] [F1310] [F1311] [F1312] [F1313] [F1314] [F1315] [F1316] [F1317] [F1318] [F1319] [F1320] [F1321] [F1322] [F1323] [F1324] [F1325] [F1326] [F1327] [F1328] [F1329] [F1330] [F1331] [F1332] [F1333] [F1334] [F1335] [F1336] [F1337] [F1338] [F1339] [F1340] [F1341] [F1342] [F1343] [F1344] [F1345] [F1346] [F1347] [F1348] [F1349] [F1350] [F1351] [F1352] [F1353] [F1354] [F1355] [F1356] [F1357] [F1358] [F1359] [F1360] [F1361] [F1362] [F1363] [F1364] [F1365] [F1366] [F1367] [F1368] [F1369] [F1370] [F1371] [F1372] [F1373] [F1374] [F1375] [F1376] [F1377] [F1378] [F1379] [F1380] [F1381] [F1382] [F1383] [F1384] [F1385] [F1386] [F1387] [F1388] [F1389] [F1390] [F1391] [F1392] [F1393] [F1394] [F1395] [F1396] [F1397] [F1398] [F1399] [F1400] [F1401] [F1402] [F1403] [F1404] [F1405] [F1406] [F1407] [F1408] [F1409] [F1410] [F1411] [F1412] [F1413] [F1414] [F1415] [F1416] [F1417] [F1418] [F1419] [F1420] [F1421] [F1422] [F1423] [F1424] [F1425] [F1426] [F1427] [F1428] [F1429] [F1430] [F1431] [F1432] [F1433] [F1434] [F1435] [F1436] [F1437] [F1438] [F1439] [F1440] [F1441] [F1442] [F1443] [F1444] [F1445] [F1446] [F1447] [F1448] [F1449] [F1450] [F1451] [F1452] [F1453] [F1454] [F1455] [F1456] [F1457] [F1458] [F1459] [F1460] [F1461] [F1462] [F1463] [F1464] [F1465] [F1466] [F1467] [F1468] [F1469] [F1470] [F1471] [F1472] [F1473] [F1474] [F1475] [F1476] [F1477] [F1478] [F1479] [F1480] [F1481] [F1482] [F1483] [F1484] [F1485] [F1486] [F1487] [F1488] [F1489] [F1490] [F1491] [F1492] [F1493] [F1494] [F1495] [F1496] [F1497] [F1498] [F1499] [F1500] [F1501] [F1502] [F1503] [F1504] [F1505] [F1506] [F1507] [F1508] [F1509] [F1510] [F1511] [F1512] [F1513] [F1514] [F1515] [F1516] [F1517] [F1518] [F1519] [F1520] [F1521] [F1522] [F1523] [F1524] [F1525] [F1526] [F1527] [F1528] [F1529] [F1530] [F1531] [F1532] [F1533] [F1534] [F1535] [F1536] [F1537] [F1538] [F1539] [F1540] [F1541] [F1542] [F1543] [F1544] [F1545] [F1546] [F1547] [F1548] [F1549] [F1550] [F1551] [F1552] [F1553] [F1554] [F1555] [F1556] [F1557] [F1558] [F1559] [F1560] [F1561] [F1562] [F1563] [F1564] [F1565] [F1566] [F1567] [F1568] [F1569] [F1570] [F1571] [F1572] [F1573] [F1574] [F1575] [F1576] [F1577] [F1578] [F1579] [F1580] [F1581] [F1582] [F1583] [F1584] [F1585] [F1586] [F1587] [F1588] [F1589] [F1590] [F1591] [F1592] [F1593] [F1594] [F1595] [F1596] [F1597] [F1598] [F1599] [F1600] [F1601] [F1602] [F1603] [F1604] [F1605] [F1606] [F1607] [F1608] [F1609] [F1610] [F1611] [F1612] [F1613] [F1614] [F1615] [F1616] [F1617] [F1618] [F1619] [F1620] [F1621] [F1622] [F1623] [F1624] [F1625] [F1626] [F1627] [F1628] [F1629] [F1630] [F1631] [F1632] [F1633] [F1634] [F1635] [F1636] [F1637] [F1638] [F1639]



アプリケーションをマウスで起動するメニュープログラム

## OZMENU

APLI

DISK 2

ハードディスクのアプリケーションを、カラフルなメニューからフルマウスオペレーションで起動できる。

作者の弁に「ψmenuに感銘を受けて制作」とあるように、基本的な仕様は「ψmenu」（大沢次郎氏作）に準じている。OZMENUのインストールは、専用のプログラムを起動して会話形式で行なう。

OZMENUのメニュー画面は魅力あるフルグラフィックで表示され、特に半角英数字については独自の文字フォントで味のある雰囲気を出している。おまけに画面や文字の色は随時調整することが可能で、2種類の独自フォントとノーマルフォントを自由に切り替えられる。

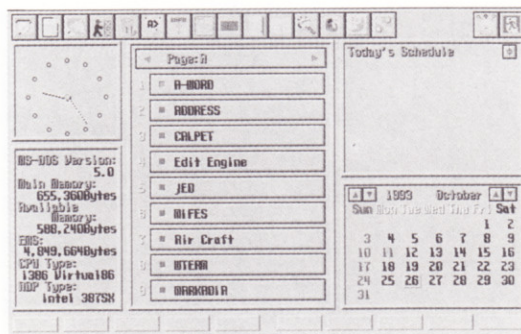
各機能はメニュー上にアイコンの形で表示されており、マウスでクリックすると対応するウィンドウが開いて、Windowsライクな操作で各種の設定を行なうことができる。アイコンの機能はすべてなんらかのキーに対応しており、マウスを使わない操作も可能である。

OZMENUでは、最大263個のアプリケーションをメニューに登録できる（アプリケーションごとに異なるFEPを指定可能）。登録された内容をコピー／移動／削除するのも容易なので、必要に応じて気軽にメニュー構成を変更できる。

アプリケーションの実行時には、OZMENUはメモリから退避され、フルメモリを使用するアプリケーションも問題なく起動できる。実際には、選択したアプリケーションの起動用バッファファイルが臨時に作られ、アプリケーション終了時にOZMENUを再ロードするようになっている。OZMENUの再ロードには若干の待ち時間があるが、大きなメモリを使用しないプログラムについては、OZMENUをメモリに常駐させたまま起動するモードも利用できる。なお、頻繁に利用するアプリケーションについては、ファンクションキーやSHIFT+ファンクションキーを起動キーに割り当てるとよい。

OZMENUでは細かな編集や検索ができるスケジューラが利用できる。予定表のデータは、専用のコンバータによって、ほかのフリーソフトと共有できるようになっている。予定時間に鳴らすアラームは、内蔵BEEP音以外にサウンドボードや外部MIDI音源による音を鳴らすこともできる。（小泉）

●著者： KEITH(中村勝己) ●動作環境： PC-9801 ●バージョン： 1.76 ●アーカイブ： OZ176.LZH ●登録先： PC-VAN (CIARI), NIFTY (FGALBT/LIB7) ●サポート先： PC-VAN (CIARI)



数学記号や関数グラフが入力できる数式用ワープロ

## Quick-Note

APLI

SHARE WARE

DISK 2

操作性に優れた数式用ワープロで、数学記号や関数のグラフが簡単に入力でき、イメージどおりの印刷が可能。シェアウェアであり、継続的に使用するには、郵便為替利用の場合で3000円のレジストを支払う必要がある。

数式を編集／印刷するシステムとしては「TeX」というソフトが有名であり、理工系のユーザーには大いに重宝がられている。ところが、TeXは一種のプログラミング言語的な性格を持ち、数式を表現するための規約を覚えなくてはならない。実際の印刷イメージを確認するまでにいくつかの手続きを踏まなくてはならない。作者の弁によれば、TeXや一部の「数式用ワープロ」に対する「批判検討」という形でQuick-Noteが誕生したという。そのような経緯から、TeX用文書の入力エディタとしての機能も兼ね備えることになった。

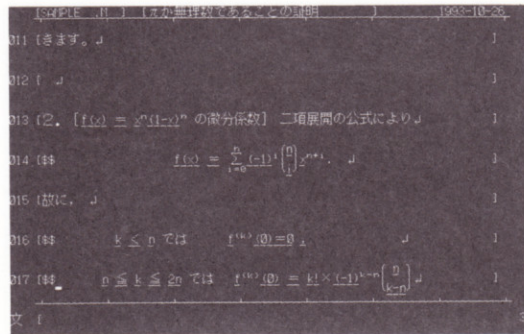
Quick-Noteの特長は、図や数式を含む文章が簡単に入力できるという点である。数学記号の入力は「数式モード」で行なうが、各記号の略称の入力に続いて数式用変換キー「@」を押すことにより、画面に印刷イメージどおりの表示が得られる。記号と略称との対応関係は、HELPキーを押せばいつでも表示されるので、覚える必要はない。印字結果はTeXによる印刷ほど高品位ではなく、対応プリンタも現時点では限られているが、日常のレポートなどには十分使えるものである。なお、Quick-Noteにはスクリーン用と印字用のフォントがあり、外字の作成も可能。

スペルチェック機能により、欧文テキストのタイプミスを発見できる。スペルチェックした文章中に3回以上出てきた単語は「正しい」と見なされ、自動的に辞書に登録される。

線分や自由曲線のほか、四角形、円、2次曲線なども簡単に描ける。また、数式や関数式を与えるだけで正確なグラフが描画される機能は注目値する。扱える関数は、三角関数や対数関数などの初等関数に限られるが、これだけの計算機能がワープロに入っているとは大したものである。

Quick-Noteで作成した文書ファイルは、ファイル選択画面でTeX用の原稿ファイル(\*.TEX)に変換できるため、TeX用エディタとして使うこともできる。ただし、図形やグラフについては、別に「PicTeX」というソフトが必要。（小泉）

●著者： M.Suzuki ●動作環境： PC-9801 ●バージョン： 3.10B ●アーカイブ： QN310B.EXE ●登録先： PC-VAN (CIARI/7/2), NIFTY (FGALAP/LIB5, FGALSW/LIB5, FLBO/LIB11) ●サポート先： NIFTY (FGALSW/MES19)





# Real Editor I Real Editor II

APL

DISK  
2

複数のファイルを同時に扱うことができるマルチファイルエディタ。C言語などによるソースファイルの編集を用途として開発されており、小型でコンパクトに作成されているが、エディタとしての必要機能は揃っている。

同時に扱えるファイル数は、画面構成上の制限から最大7つ。編集可能なファイルサイズは空きメモリサイズに依存し、あまり大きなファイルを扱うことはできない。複数ファイルの編集集中は、画面が縦方向に分割されて表示されるが、各ファイル間はカーソルキーで容易に移動できる。

各種コマンドの入力は、ポップアップウィンドウから選択する方式と、1つ以上のキーの組み合わせで指定する方式とが用意されており、初心者にも上級者にも使いやすい。

カーソルの移動は、カーソルキーとダイヤモンドキー(CTRL+S/D/E/X)が利用でき、ワード移動、行頭/行末/文頭/文末ジャンプなども可能。また、オートインデント機能が用意されており、改行すると自動的に行頭が揃うようになっている。画面のスクロールは、ジャンプスクロールとスムーズスクロールの2タイプが利用可能。速度重視の場合はジャンプスクロールを、可読性重視の場合はスムーズスクロールを使用すればよいだろう。

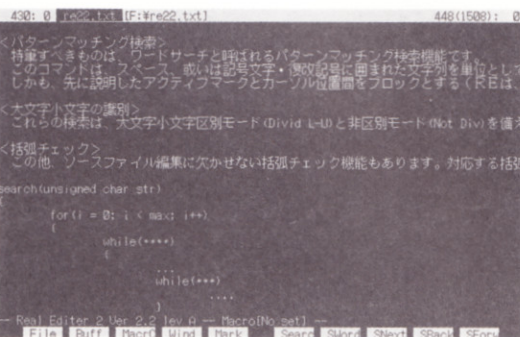
文字列の検索は、コマンドを指定した後に検索文字列を入力する方式であり、検索範囲を指定することもできる。置換は、指定文字列を検索した後、文字列が反転表示されている状態で文字列を入力して行なう。そのほか、ソースファイルの編集集中に重宝する「括弧の対応チェック」機能もサポートされている。

キーカスタマイズ機能によって、キー割り当てを思いどおりに変更することができる。キーカスタマイズ情報を定義ファイルに保存しておけば、以後の起動でも有効となる。

Real Editorのプログラム本体は、速度とコンパクトさを追求したRE1.EXEと、より大容量のファイルを扱えるように拡張したRE2.EXEの2つが用意されているので、用途によって使い分けるとよい。なお、ソースファイルが同梱されているので、Real Editor自体を改造したり、自分自身のプログラミングの参考にしたたりすることができる。

(東)

●著作者：COGA(古賀直行) ●動作環境：PC-9801 ●バージョン：Real Editor I：2.2, Real Editor II：2.2 Rev.A ●アーカイブ：RE1 V22.LZH, RE2V22ALZH, RE22DOC.LZH ●登録先：PC-VAN (CIARI/7/3) ●サポート先：PC-VAN (CIARI/3/14)



# Tele-Book

APL

DISK  
2

モデムをパソコン通信だけに使うのはもったいない。パソコンオペレート中はTele-Book (TB) で電話をかけよう。

モデム本来の役割はデジタル信号とアナログ信号の相互変換にあるのだが、電話回線に接続信号を送る部分の機能を活かして、キーボードからの操作で電話をかけることができるツールがTBである。考えてみれば大げさな作業ではあるが、日ごろキーボードにかじりついている種族には便利な小道具かもしれない。

TBのメインとなる機能は「電話をかける」ことだが、補助的機能として、「電話帳」ファイルを利用したり、「TB-LCR機能」で電話代の安い回線に接続するなどの機能もある。電話帳には、氏名/電話番号/メモなどのほか、1通話の時間(10円でかけられる秒数)や使用回線などを登録する。また、TB-LCR機能でお得な電話回線に接続するためには、利用料金の安い順に登録したファイルを作っておく必要がある。

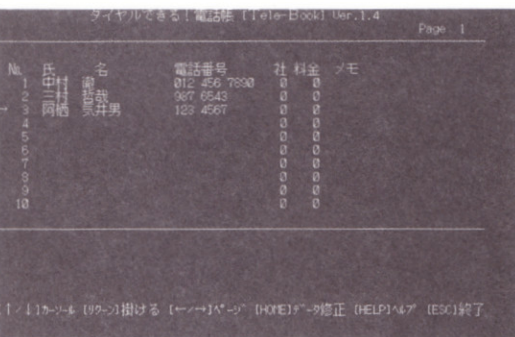
TBを起動すると電話帳が表示され、最大で100件からなるデータベースが利用できる。ページをめくって目的のデータにカーソルを置き、リターンキーを押すだけでダイヤルできる。この際、相手が話し中の場合、自動的にリダイヤルしてくれる。相手が出たのを確認して受話器を取り、すぐリターンキーを押すことによって、通話時間のカウントが開始される。通話中はリアルタイムに経過時間が画面表示され、1通話の時間が登録してあれば通話料金も表示される。通話終了時にはリターンキーを押すことで回線が切れ、同時にログファイルに日付/通話時間/電話代/電話番号/相手先などが記録される。

電話帳では氏名やメモ内容による検索が可能で、該当データを発見してすぐ電話をかけることができる。電話帳にデータを登録したり修正する作業は簡単で、画面に表示されるメッセージに従って入力するだけである。

電話をかけるだけのためにパソコンの電源を入れてTBを起動する必要はないが、常時表示されているメニュープログラムなどの子プロセスとしてTBを起動するように設定しておくとも重宝するだろう。ちなみに、TBからも子プロセスを実行することができる。

(小泉)

●著作者：まこ助 ●動作環境：PC-9801 ●バージョン：1.4 ●アーカイブ：TB14.LZH ●登録先：NIFTY (FGALAP/LIB9) ●サポート先：作者宛てメールにて





## ファイル操作HD Winhd.exe

APU

DISK  
9

オールマウスオペレーションで作業できる、Windows上のファイル管理ツール。

Windowsでファイル操作を行なう場合、標準添付のファイルマネージャも使えるが、MS-DOS用のファイルに慣れてしまったユーザーは、わざわざMS-DOSアプリケーションとしてこれ呼び出すことも少なくない。

Winhd.exeは、MS-DOS用ファイルほど多くの機能は持たないが、基本的なファイル管理機能は完備しており、すべてをマウスで操作できる。ヘルプ機能もしっかりしているので、セットアップしてしまえばマニュアルなどは不要である。よく使う機能は「スピードボタン」というアイコンに表示され、マウスでクリックするだけで実行できる。

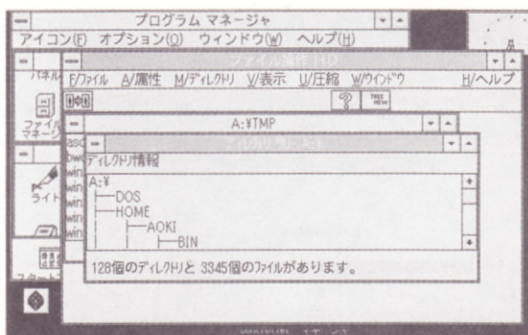
Winhd.exeのアプリケーションウィンドウには、ディレクトリ内のファイル一覧を表示する「ファイルウィンドウ」が開かれる。ファイルウィンドウは複数開くことが可能で、その場合はタイル表示やカスケード表示もできる。また、ファイルウィンドウは個々にアイコン化することができる。

ファイルウィンドウで可能なファイル操作にはコピー／削除／改名／属性変更などがある。ただし、現時点では、複数のファイルを一括処理する機能はサポートされていない。ドライブやディレクトリの移動では、ツリー表示が利用できる。ディレクトリ操作としては、新規作成／削除／ディレクトリ単位のコピーなどがある。

また、特定のファイルを検索して、見つかった場合はそのディレクトリに移動して自動的にファイルウィンドウを開く、という機能がある。ただし、検索対象はパスの通っているディレクトリだけなので、主に実行ファイルの検索に利用するとよい。ファイルウィンドウでは、実行ファイルをダブルクリックすることにより、拡張子が実行形式であるか否かが自動判別されて起動する。

パスの通ったディレクトリに「LHA」（吉崎栄泰氏作）を置いておけば、カーソル上のファイルの圧縮や展開が可能である（ただし、複数のファイルを一括してアーカイブする機能はない）。また、Windowsの「メモ帳」（簡易エディタ）を起動して、カーソル上のファイルを編集することもできる。（小泉）

●著者： T.ito ●動作環境： Windows3.0以上 ●バージョン： 1.0A  
●アーカイブ： WINHD1A.LZH ●登録先： NIFTY (FGALBT/LIB14)  
●サポート先： NIFTY (FGALBT/MES6)



## YF

APU

DISK  
2

ネットワークドライブや仮想ドライブに対応したファイラプログラム。

同様の機能を持つファイラはほかにもいろいろあるが、ネットワークドライブや仮想ドライブには対応していないことが多い。このプログラムは、どういう種類のドライブであっても、すべての機能が使えようになっており、LANに接続されているマシンでも支障なく使用できる。

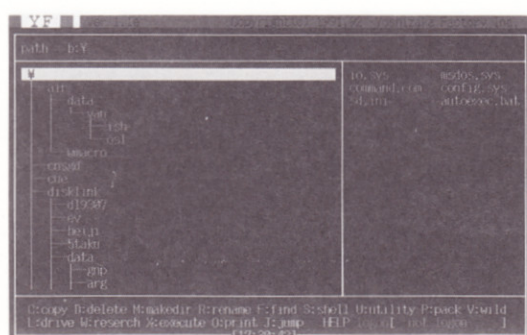
プログラムを起動すると、まず指定したドライブ（指定しなかった場合はカレントドライブ）のディレクトリ情報を読み出してツリー表示する（ツリー画面）。ツリー上のカーソルをカーソルキーによって移動すると、そのディレクトリにあるファイルの一覧が右枠内に表示される。

ツリー画面ではディレクトリに対する操作やディレクトリ単位の処理の指定が可能で、ディレクトリの作成／削除／名前変更、ディレクトリ単位での圧縮／ファイルコピー、ドライブ変更、ファイル検索などの機能が利用できる。また、対象となるファイル名の指定をワイルドカードで行なうことができるので、特定のファイルだけをディレクトリ単位で圧縮したり表示したりすることができる。

ツリー画面でディレクトリを選択してリターンキーを押すとファイル画面に移り、そのディレクトリに含まれるファイルの一覧が表示される。この画面ではファイル単位の処理が可能で、ファイルの複写／移動／削除／名前変更／圧縮／属性変更／表示／編集、アーカイブファイルの展開などの機能が利用できる。ファイルの閲覧は、デフォルトでは内蔵ビューワを使用するので高速であるが、設定によって自分の好みのビューワを使うこともできる。ファイル閲覧の方法は2種類まで選択できるようになっているので、2つのビューワを登録しておいて、ファイルによって使い分けることも容易である。

時計表示／画面モード／キークリック音／画面背景色／LANアクセス表示／起動エディタ／ページ指定／ネットワークOSなどの設定は、同梱されている設定変更プログラム（YFINS.EXE）で変更できる。なお、現在対応しているネットワークOSは、LAN Manager／MS-NetworksとNetWareの2種類である。（東）

●著者： 株式会社 吉坂製作所 ●動作環境： PC-9801及びH98（ノーマル／ハイレン） ●バージョン： 1.1e ●アーカイブ： YF101ELZH ●登録先： PC-VAN (CIARI/7/3), NIFTY (FNEC98/LIB2), ASCII (pool msdos) ●サポート先： 作者宛てメールにて





# ψmenu/plus

APU

DISK  
3

本の目次の感覚で画面のメニューをめくり、目的のアプリケーションをワンタッチで起動できる。

作者の弁に「格言と予定表を表示できるメニューが欲しかったので制作した」とあるように、メニュー画面の半分はスケジューラと時刻表示に使われている。なるほど、起動のたびに異なる格言が表示され、「今回は何を教えられるのか」と期待するのも楽しい。なお、ψmenu/plusの起動は、同梱の起動用バッチ「PM.BAT」で行なう。

スケジューラへの書き込みもメニュー画面から行ない、カレンダーから日付を選んで内蔵の簡易エディタで予定を書き込む。格言／一般的イベント／予定表などの内容は別ファイルに記録されており、エディタで編集すればオリジナルな内容も表示可能。また、予定表やイベントを記録したファイルから文字列を検索し、これを画面に一覧表示することもできる。

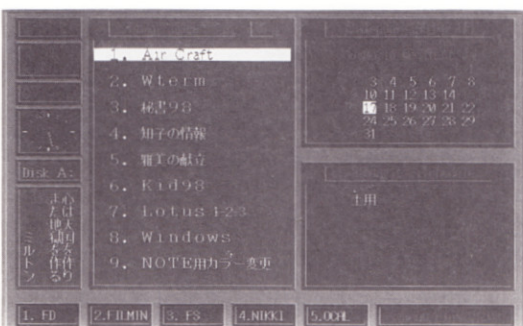
アラームを設定しておけば、指定時刻に内蔵音源を鳴らすことができる。また、プログラムの起動をスケジュールに登録すれば、指定した時刻にプログラムを自動実行させることもできる。

ψmenu/plusにアプリケーションを登録する作業もメニュー画面で行なう。アプリケーションごとに異なるFEPを指定したり、起動オプションや引数の指定も可能。メニューに登録した内容は、簡単な操作で複写／置換／削除ができるので、必要に応じてメニュー構成を容易に変更できる。使用メモリの小さなプログラムについては、一時的に実行する機能が便利である。この際、コマンドの登録を行えば、ψmenu/plusの終了時まで、この履歴を使って再実行できる。

本来のψmenu/plus以外に、「デジタル8色機用ψmenu」と「くつろぎバージョンψmenu」があり、いずれも差分ファイルの形で供給されている。前者は、グラフィック表示のカラー関係をデジタル8色機種に合わせたもので、後者は、マウスボタンによる操作だけでメニュー選択ができるようにしたものである(マウスを使う場合は、マウスドライバを組み込んでおく必要がある)。

同じ作者による「pmpal/plus」を利用すれば、ψmenu/plusの画面表示色を簡単に変更できる。(小泉)

●著作者： じろすけ(大沢次郎)、たきゅうー(大沢卓朗) ●動作環境： PC-9801 ●バージョン： 1.03 ●アーカイブ： PMPL103.LZH, PALP103.LZH ●登録先： PC-VAN (ASIA), NIFTY (FGALBT/LIB12) ●サポート先： PC-VAN (ASIA), NIFTY (FGALBT/MES12)



# おかみさんの家計簿

APU

DISK  
3

必要から生まれた実用的な家計簿ソフトで、まさに「おかみさんにもいじれる」ソフトである。

「おかみさん」とは作者自らがご内儀のことを指すようで、使いやすいさをテーマに開発されたとのこと。

データ入力の際に、家計簿用語は一覧表から数字で選択することができるので、日本語入力が必要なのは備考欄などに限られる。大部分は数字を入力すればよいので、面倒くさい日本語入力に悩まされることはないだろう。ちなみに、金額を入力する場面では「これ使いますか?」といわんばかりに電卓起動キー「=」が表示される。このキーを押せば、それ以降「電卓モード」となり、内蔵電卓による計算結果が自動的に現在の入力欄に取り込まれる。まさに、おかみさんが泣いて喜ぶ機能ではある。メインメニューで再度このキーを押せば「標準モード」に切り替わる。

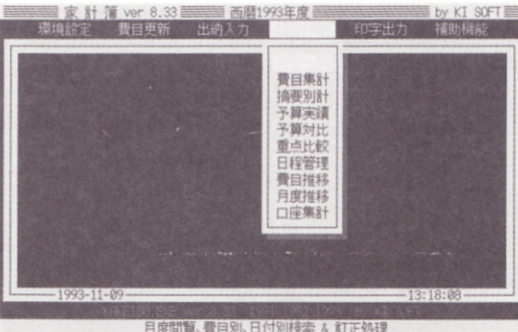
家計簿として必要な機能は完備しており、クレジットカードの処理や公共料金の自動引き落としなどに対応している。単なる仕訳集計の作業にとどまらず、バラエティーに富んだグラフ作成機能は一見の価値がある。「家計簿といえども予算管理は厳しく」というコンセプトがあるようで、「予算に対する支出の割合を棒グラフで表示する」とか「費用別支出金額をバレット分析してグラフ表示する」といった機能まである。各種の一覧表はA4用紙に統一して印刷されるが、グラフについては別途ハードコピー用プログラムを利用することになる。

メインメニューでスペースキーを押すとカレンダーが表示されるというのめが利いている。また、この手のソフトにはつきものであるが、いわゆるメモ機能も備わっている。1日分は78字×3行であるが、家計簿のメモとしては十分だろう。

メニュー画面の表示色を細かく変更できる機能は、モノクロ画面のノートパソコンユーザーにはありがたい。また、98ノートのユーザーにとっては、かなキーがONの状態でも数字が入力できるのも便利。

お金の出入りを管理するためのアプリケーションなので、データのバックアップが自動的に行なわれるようになっているのは心強い。家事に忙しいおかみさんには、手作業でバックアップ作業をする余裕はないのである。(小泉)

●著作者： KISHIDA(石田嘉一)、おかみさんの家計簿データ整理用 Cutter： Maga ●動作環境： PC-9801 ●バージョン： 8.33 ●アーカイブ： KAKE833.LZH, KAK83DOC.LZH, CUTTER.LZH ●登録先： PC-VAN (CIARI), NIFTY (FGALAP/LIB8)





Windows用の本格的ファイル管理ツール

## 卓駆★ファイルマネージャ

APU SHARE WARE

DISK 9

Windows3.1上で軽快に動作する機能満載のファイル管理ソフト。シェアウェアであり、継続的に使用するには、個人利用の場合で4000円のレジストを支払う必要がある。

MS-DOS版のファイラは数多いが、Windows版はまだこれからといったところである。卓駆★はWindowsの特質をよくとらえて開発されたファイラといえる。

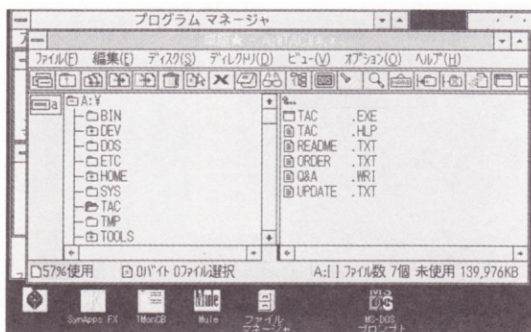
卓駆★のアプリケーションウィンドウは、ドライブリスト/ディレクトリ階層/ファイルリストという3つのウィンドウからなる。また、ツールバーに並ぶボタンをクリックすれば、よく使う機能がワンタッチで利用できる。ステータスバーに表示されるディスク使用率は一目で分かるゲージ表示であり、マークしたファイルの総容量などもここに表示される。一方、メニューバーには、ファイルやディレクトリを管理する機能がジャンルごとのメインメニューに分けて表示される。マウスの右ボタンをクリックして表示されるフローティングメニューには、その場面で必要な機能の一覧が表示される。

卓駆★からは、登録しておいた外部プログラム(MS-DOS用やWindows用のアプリケーション)を実行することができる。また、外部エディタや外部ビューワを登録しておけば、卓駆★の内蔵ビューワやバイナリダンプ機能とあわせて利用できる。また、LZH形式など各種アーカイブの処理も可能で、卓駆★に付属した外部アーカイバを起動することで圧縮/展開/リスト表示などを行なう。

ファイルウィンドウでは、Windows特有の「拡張子関連づけ」機能を利用できる。これは、カーソル上のファイルを指定することにより、その拡張子に応じた処理を行なうものだ。卓駆★では、Windowsで定義された関連づけ(主関連づけ)のほかに、卓駆★独自に定義する関連づけ(副関連づけ)も利用可能。

卓駆★ではフルマウスオペレーションが可能だが、ワンアクションキー操作も完備されているので、MS-DOS用ファイラに慣れているユーザーにも使いやすい。また、マウスでファイルを「つまむ」イメージでファイルのコピーや移動が可能な「ドラッグ&ドロップ操作」も便利である。ヘルプ機能が充実しており、マニュアルは不要だ。(小泉)

●著作者: 株式会社コム 宮内邦昭 ●動作環境: Windows ●バージョン: 1.48 ●アーカイブ: TAC148.LZH ●登録先: NIFTY (FWINF/LIB4, FGALSV/LIB3) ●サポート先: NIFTY (FGALSV/MES11)



「98が秘書代わりになる」スケジューラソフト

## 秘書98

APU SHARE WARE

DISK 3

簡単な操作ででき細かなスケジュール管理ができるカラフルスケジューラ。シェアウェアであり、継続的に使用するには3000円のレジストを支払う必要がある。

秘書98では、スケジュールのデータが「索引順編成ファイル (ISAMファイル)」として管理されるため、高速な検索が特長である。また、データの安全対策として、ID/パスワードやシークレットモードの機能が利用できる。

秘書98では、月単位/週単位/日単位の管理が行なわれる。起動時には、当月と前後月の3か月分のカレンダーが表示され、月単位/年単位でカレンダーを切り替えることができる。1日を3つの時間帯に区分し、その時間帯に予定が入っている場合は色分けして該当日の下に表示されるので、予定の有無が一目で分かる。ちなみに、この色分けを含め、カレンダー画面の配色はユーザーが任意に変更できる。

任意の日付にカーソルを移動してリターンキーを押すと、その日を含む週の検索画面に切り替わる。さらにTABキーを押せば、その日の検索画面に切り替わる。逆に、ESCキーやHELPキーで前の画面に切り替える。

各検索画面では時間帯を指定して予定を書き込み、必要に応じて「フラグ」をつける。フラグは検索対象の1つとして使え、特に「シークレット」というフラグをつけておくと、シークレットモードでは見たり変更したりすることができなくなる。また、重要な予定に「\*」というフラグをつけておけば、「重要データ一覧」にその日までの日数がカウントダウン表示される。

秘書98では、日メモ/週メモ/月メモの各メモを記録することができ、それぞれの一覧表をいつでも表示したり編集したりできる。また、一定期間にわたる予定を最大で100件まで登録しておいて、「期間予定表」に両側矢印で区間表示することができる。

検索機能には、フラグ検索と文字列検索とがある。検索結果は、プリンタで印刷できるほか、テキストファイルに出力することもできる。1週間分または2週間分のデータを印刷する場合は、「1日6件」「1日8件+メモ」「1日12件」のいずれかを選択することができる。このほか、データファイルのバックアップコピーの機能なども備わっている。(小泉)

●著作者: 川村知久 ●動作環境: PC-9801および互換機 ●バージョン: 1.45 ●アーカイブ: SC145.LZH, MINISC.LZH ●登録先: PC-VAN (CIARI/7/3), NIFTY (FGALSW1/LIB5, FGALAP/LIB4) ●サポート先: NIFTY (FGALSW1/MES6)

日付	時間帯	内容
'94.01.16 (1) 日	14:00 ~	デート(○)
'94.01.17 (1) 月		誕生日! 何回かほ秘書(笑)
'94.01.18 (1) 火	19:45 ~ 21:15	授業
'94.01.19 (1) 水		パソコンのロコソの振込日(○)
'94.01.20 (1) 木	19:45 ~ 21:15	ゼミ。忙しい卒業出来ない(○)
'94.01.21 (1) 金		恐怖の強制日だあああ(○)
'94.01.22 (1) 土	18:00 ~ 20:00	池袋でオフライン・ミーティング(○)



秀丸エディタ  
for WindowsAPI SHARE  
WAREDISK  
9

Windowsで高速動作するマルチファイル／マルチウィンドウのスクリーンエディタ。シェアウェアであり、継続的に使用するには、個人利用の場合で4000円のレジストを支払う必要がある。

Windows付属のメモ帳 (NOTEPAD.EXE) は、複数ファイルの編集機能がないなど機能不足で、ちょっとしたテキストの入力やINIファイルの修正程度にしか使えない。これでは、MS-DOSで使っていた高速・高機能なエディタから離れられず、結果的にWindows環境へ移行できないという人もいるのではないだろうか。

秀丸エディタは、こうしたDOSエディタからの乗り換えも可能な高性能エディタだ。動作は高速で、柔軟なカスタマイズが行なえるので、ユーザーの環境や好みに合わせて細かい設定が可能だ。気になるスクロール速度も、「VRAM to VRAM」と「Memory to VRAM」のうちの速いほうを選択できる。Windows用のアクセラレータボードを使用している場合は、テキスト画面のスクロールより速いくらいだ。

標準的なメニュー操作のほかに、アイコンボタンやポップアップメニューなどによる多様な操作が可能なので、自分の好きな方法を選択すればよい。例えば、ファイルの読み込みにしても、「メニュー操作」「アイコンボタン」「ポップアップメニュー」「デスクトップの秀丸アイコンに対するドラッグ&ドロップ」などの方法が用意されている。

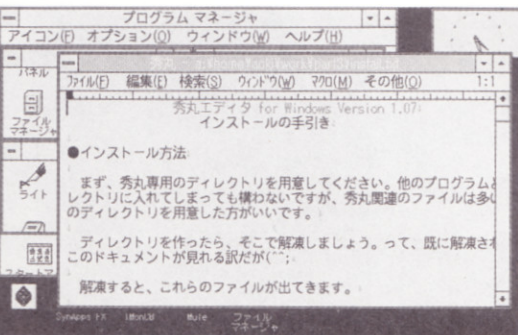
複数のファイルを開くと、ファイルの数だけウィンドウが開き、それぞれ好きな場所に好きな大きさに配置できる。1つのウィンドウ内で画面を分割し、同じファイルの別の箇所を同時に眺めることも可能だ。

プログラマー向けには、指定したヘルプファイルを参照する機能や、C言語の予約語を強調表示する機能など、便利な機能が用意されている。また、禁則処理付きの折り返し表示や、文字種を考慮した単語のマークなど、文書を書く際に重宝する機能も装備している。

フォントや文字色からキー割り当てまで多数のカスタマイズ項目を持っており、すべて秀丸エディタの中からメニューやボタン操作によって変更できる。

(大池)

●著作者： 斉藤秀夫(ひでまるお) ●動作環境： Windows3.1以上 ●バージョン： 1.07 ●アーカイブ： HM107.LZH ●登録先： NIFTY (FWINF) ●サポート先： NIFTY (FWINF)

ファイル管理のワークシート  
AUTO123

API

DISK  
3

1-2-3のマクロで作った、「FD」(出射厚氏作)ライクな1-2-3専用ファイラ。

AUTO123.WJ3はLotus 1-2-3 R2.4J用の自動実行マクロシートであり、1-2-3起動時に自動的に読み込まれてファイル管理機能プログラムが起動する。一般のアプリケーションとは違い、手間のかかるインストールがいらない。「AUTO123.WJ3」(マクロ本体)を1-2-3のデータの入っているディレクトリに置き、同梱の「FDD123.EXE」と「WV.EXE」をバスの通ったディレクトリに置けばよい。なお、フロッピーディスクのフォーマットやワークシートの閲覧を利用しなければ、これらのEXEファイルは不要である。

1-2-3を起動するとこのマクロが自動的に起動し、1-2-3のデータファイルのあるディレクトリ名の入力促される。ここで、フルバス名でディレクトリ名を入力することにより、ワークシート選択画面が表示される。この画面でTキーを押すと、ディレクトリツリーが表示される。AUTO123では、ファイルのコピー／移動／削除などが行なえ、複数のファイルにマークをつけての一括処理も可能だ。ただし、マークつけの方法が変わっているので注意したい。このほかに、ファイルの改名、ディレクトリの新規作成、バスの変更などの機能があり、いずれもファンクションキーや1文字キーによる実行が可能である。

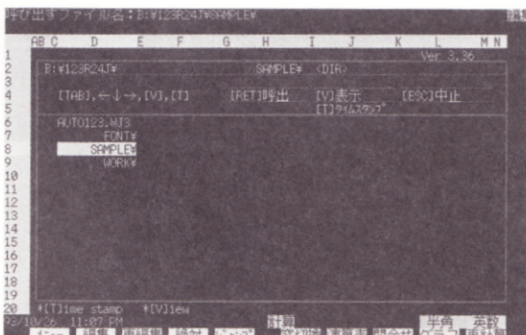
ワークシート選択画面では、呼び出したいファイルにカーソルを合わせてリターンキーを押せば、そのファイルが呼び出される。

一方、FORMATコマンドを呼び出してフロッピーディスクをフォーマットしたり、カレンダーを表示してパソコンの日付データを変更することができる。さらに、子プロセスを起動してMS-DOSのコマンドレベルに入ったり、「WV」(ひげじい氏作)という外部プログラムを実行してワークシートの一部を1-2-3で呼び出さずに画面表示することができる。AUTO123専用のヘルプ機能も装備されており、いつでもHELPキーで内容を参照できる。

AUTO123の動作にはややこしい部分も見られるが、1-2-3のマクロの知識があれば自分なりに手を加えることもできる。

(小泉)

●著作者： 赤工作久良、ひげじい ●動作環境： Lotus 1-2-3 R2.4Jの動作する機種 ●バージョン： 3.36 ●アーカイブ： A123Z336.LZH ●登録先： NIFTY (FGALBT/LIB6) ●サポート先： NIFTY (FGALBT/MES3)





バッチファイルをCOM形式の実行ファイルに変換

## BATCP

TOOL

DISK  
3

バッチファイルをCOM形式の実行ファイルに変換することで、バッチ特有の各種の不便さから解放される。

CやPASCALなどによる本格的なプログラミングはともかく、簡単なバッチファイルを組んだ経験は誰でもあるだろう。バッチファイルの文法はシンプルであり、ちょっとした工夫で意外に便利なオリジナルプログラムが作れるものだが、手軽な反面いろいろな制約があるのも確かである。バッチファイルでは1行ごとにコマンドを読み込んで実行するため、ディスクアクセスが頻繁に繰り返される。また、MS-DOS3.3以前のシステムでは、バッチファイルからバッチファイルを呼び出すと元のバッチファイルに戻れない。強いてこの処理を行なうためには、呼び出すバッチファイルのためにコマンドプロセッサを起動するといった工夫が必要である。さらに、呼び出されたバッチファイルで定義した環境変数は元のバッチファイルでは使えない、という難点もある。

BATCPは、バッチファイルをCOM形式の実行ファイルに変換するツールである。変換された実行ファイルは起動時に一括してメモリに読み込まれるため、ディスクアクセスによる実行速度の低下がない。また、COM形式に変換しておけば、ほかのバッチファイルから呼び出された場合、終了時に元のバッチファイルに戻ることもできるうえ、すべての環境変数が共通に使える。

BATCPの大きな特長は、MS-DOSのバッチ用コマンドとともに、BATCP特有の「拡張コマンド」が使えるということである。拡張コマンドには、ラベルを使った無条件ジャンプやサブルーチンジャンプなどがあり、通常のバッチファイルでは扱いにくい“プログラムの流れ”の制御が可能となる。

バッチファイルをCOM形式の実行ファイルに変換する際には、ほかの実行ファイルを取り込んで一体化することができる。取り込んで変換されたCOM形式の実行ファイルを実行する際には、元の実行ファイルを必要としない。ただし、BATCPで取り込める実行ファイルは、一定の規則に従って作成されたプログラムでなくてはならない(この例としては、同じ作者の手による「BU」や「ぐらふいつくECHO」などがある)。(小泉)

●著作者: Paci(清水洋平) ●動作環境: MS-DOS汎用 ●バージョン: 1.25 ●アーカイブ: BATCP125.LZH ●登録先: NIFTY (FGALST/LIB5), ASCII (pool msdos) ●サポート先: NIFTY (FGALST/MES5), ASCII (salon.pool)

```
F:\>batcp fortune.bat
BATCP (Batch File Compiler) (C)1990-93 by Paci Version 1.25
FORTUNE.COM を作成しました。
F:\>
```

メニュー fcopy era ftvce fdumc ren lhsh lhsh edit BS

バッチファイル中で使えるユーティリティ

## BU(BATUTY)

TOOL

DISK  
3

バッチファイルで手軽に使えるユーティリティが、コマンドの形で満載されたライブラリ。

バッチの中で使える標準のコマンドは、FOR、GOTO、IFなど数えるほどしかなく、しかもほとんどがほかのコマンドを実行するための補助的なものだ。BUは、その引数に「コマンド名」を指定して実行することにより、BU.COMという1つの実行ファイルで数多くの機能を実行できるツールであり、BUを利用すれば、バッチファイルの形で本格的なプログラムが記述できるようになる。

BUでサポートされるコマンドの大部分は、処理結果を「返り値」として「標準出力」(通常は画面)に出力するので、バッチプログラムのデバッグに利用できる。また、「標準出力」に出力された内容を任意の環境変数に代入することも可能であり、キー入力された文字列を環境変数にセットするなどということも容易にできる。

バッチファイルの中にBUのコマンドが並んでいる場合、このバッチファイルを、同じ作者の手による「BATCP」で変換してCOM形式の実行ファイルにすると、実行時にBU本体が不要になるという特長がある。つまり、バッチファイルをCOM形式に変換する際に、記述されたBUのコマンドが変換後のファイルに「取り込まれる」というわけだ。

このような変換を行なわなくても、バッチファイルの中でBUを利用することの価値は大きい。例えば、MS-DOSのECHOコマンドで表示する文字に色をつけるためにはコントロールコードを埋め込んでおく必要があるが、BUのECHOコマンドならば、コントロールコードを簡単に指定できる。また、文字列を表示する際に、BUのPRINTFコマンドを使えば、いろいろな書式で表示できる。キー入力に関連したコマンドも豊富であり、入力された文字列を取得するコマンドや、キー入力待ちを行なうコマンドなどがある。

変わった機能として、環境変数に代入された数値をもとに計算を行ない、結果をERRORLEVEL(環境変数)に返すことができる。I/Oポートとのデータのやり取りや、MS-DOSファンクションコールの利用なども可能であり、本格的な制御プログラムも記述できる。(小泉)

●著作者: Paci(清水洋平) ●動作環境: MS-DOS汎用 ●バージョン: 1.08b ●アーカイブ: BU108B.LZH ●登録先: NIFTY (FGALST/LIB5), MIX (long3), ASCII (pool msdos) ●サポート先: NIFTY (FGALST/MES5), ASCII (salon.pool)

```
F:\>copy con datetime.bat
bu dspdate
bu dsptime
bu dspclock
^Z
1 個のファイルをコピーしました。
F:\>datetime
F:\>bu dspdate
93/10/26
F:\>bu dsptime
23:20:52
F:\>bu dspclock
93/10/26 23:20:52
F:\>
```

メニュー fcopy era ftvce fdumc ren lhsh lhsh edit BS



## comlist

TOOL

DISK  
3

旧バージョンのcompact/exe2com (ish氏作) で変換されたCOMファイルを検索/表示するソフト。

最近のパソコンは、CPUにintel 486DX/SXを使っているのが主力になっている。また、286/386マシンのCPUをCyrix社のCx486DLC/SLCに差し替えて486マシンにすることも広く行なわれている。

これらの486マシンを使っていると、「特定のCOMファイルを実行すると必ず無反応状態になる(ハングする)」という現象に出会うことがある。これは、命令コードの自己書き換えとCPUのプリフェッチキューの衝突が原因で起こっているものだ。

パソコンのCPUは、高速処理のために、現在実行中の命令コードに続くアドレスのコードを先読みして内部に貯えている(プリフェッチキュー)。命令コードが先読み後に書き換えられたとしても、CPUはそれに気づかず以前にコードをそのまま実行してしまう。これがハングの原因となる。

自己書き換えを行なうプログラムは以前からあったのだが、486のプリフェッチキューが386などと比べて大きいため、486マシンの普及に伴ってこうした問題が顕在化してきた。

特に問題となったのは、EXEファイルをCOMファイルに変換するexe2comと、COMファイルの一部の情報を圧縮するcompactだ。どちらも'87年ごろに作られたツールで、当時のフリーソフトには、これらによって変換された状態で配布されたもののがかなりある。変換後のソフトは自己書き換え部分を含むため、486マシンで動作させるとハングしてしまうのだ。

comlistを使うと、コマンドラインで指定したファイルやディレクトリ(内のファイル)のうち、compact/exe2comされたファイルだけを画面に表示することができる。環境変数PATHに設定されたディレクトリ内のファイルを自動的に調べることも可能だ。

comlistで表示されたファイルに対してuncompact/un\_e2c (AssistantIO氏作)を使うと、486マシンでハングしない状態に変換することができる。なお、comlistのアーカイブには、この作業を自動的に行なってくれるawkスクリプト(UNCOM.AWK)が添付されているので、jgawkユーザーはこれを利用するとよい。(大池)

●著作者: Daichi ●動作環境: MS-DOS汎用 ●バージョン: 1.00  
●アーカイブ: COMLIST10.LZH ●登録先: ASCII (pool msdos) ●サポート先: ASCII (salon.pool)

```

F:\>comlist -p
(c:\compact-ed)
c:\tools\bin\ish.com
(c:\compact-ed)
c:\tools\bin\ish.com
(c:\compact-ed)

There are 3 (compact-ed or/and exe2commed) files.

F:\>
  
```

compdir  
—compare two directories

TOOL

DISK  
3

2つのディレクトリを比較して、片方にしかないファイルや、内容が一致しないファイルを表示するソフト。

複数のマシンを使ってソフトの開発や文章の入力を行っていると、「どのファイルに変更を加えたのか」とか「ファイルを新しく作ったり削除したりしたかどうか」などがあいまいになってしまうことがある。関連ファイル一式をフロッピーでやりとりする場合、ファイルサイズやタイムスタンプを人間が比較して、変更のあったファイルだけをフロッピーへ書き戻したりするのはけっこう大変だ。さらに、サイズもタイムスタンプも同じなのに内容が異なるファイルがあったりすると、ファイラなどを使っても見落とす可能性がある。

compdirを使って、  
A>compdir DIR1 DIR2  
とすると、ディレクトリDIR1内とDIR2内のファイルを比較し、片方にしかないファイルはもちろんのこと、内容が一致しないファイルも画面に表示してくれる。例えば、ハードディスクのディレクトリ「A:\¥FOO」内のファイルと、Bドライブのフロッピーのファイルとを比較するには、

A>compdir a:\¥foo b:\¥  
とすればよい。

通常、比較はファイルサイズとタイムスタンプで行なわれるが、オプション指定によって、サイズが同じ場合に内容まで比較する(-c)といったこともできる。

さらに、-eオプションによって、コマンドを指定して実行することも可能だ。このとき、それぞれのファイル名は「\$1」「\$2」、ディレクトリは「\${DIR1}」「\${DIR2}」と書いておけば、実行時に実際のファイル名やディレクトリに置換される。例えば、ハードディスクで変更したファイルや新しく作ったファイルをフロッピーにコピーするためには、次のように入力すればよい。

A>compdir -e "copy \${DIR1}\¥\$1 \${DIR2}\¥\$2" a:\¥foo b:\¥

また、ディレクトリ名のかわりにファイル名を指定すると、特定のファイルだけを比較対象とすることができる。MS-DOSより拡張されたワイルドカードによって、対象ファイル名の柔軟な指定が可能だ。(大池)

●著作者: AssistantIO ●動作環境: MS-DOS汎用 ●バージョン: 1.5  
●アーカイブ: COMPDV15.LZH ●登録先: ASCII (pool msdos)

```

F:\>compdir b:\dos b:\dos5
b:\dos          21599 Oct 12 93 22:54:44 b:\dos5
dosshell.ini    12435 Nov 18 91 00:00:04 dosshell.ini    21599 Aug 25 93 12:22:55
setver.exe      32730 Nov 11 92 00:00:04 setver.exe      12435 Nov 11 92 00:00:04
speed.exe       18462 Nov 11 92 00:00:04
subst.exe       6981 Nov 11 92 00:00:04
tree.com
  
```



実行ファイルやデータファイルを圧縮

## DIET

TOOL

MS-DOSの実行ファイルを、そのまま実行できる形で圧縮するプログラム。実行ファイルはCOM形式でもEXE形式でもよい。また、デバイスドライバ形式(CONFIG.SYSファイル内のDEVICE文で指定できる形式)のファイルも圧縮可能。圧縮された実行ファイルは、実行時に自動的に元のプログラムに復元されて実行されるので、圧縮前の動作と異なることはない。さらに、操作方法は異なるが、実行ファイルだけでなく、データファイルの圧縮/復元もできる。

ファイルを圧縮するためには、ファイル名を指定してDIETを実行するだけでよい。ファイルのタイムスタンプなどはそのまま保存される。実行ファイルの圧縮モードとして「実行速度優先」モードも指定可能であり、ユーザーが圧縮効率をとるか実行速度をとるかを選択できる(デフォルトは「圧縮効率優先」モードとなっている)。

DIETには、圧縮されたファイルを一覧表示する機能もあるので、どのファイルを圧縮したのか記録しておく必要はない。圧縮ファイルを復元するのも簡単で、復元オプション(-R/-RA)とファイル名を指定するだけでよい。

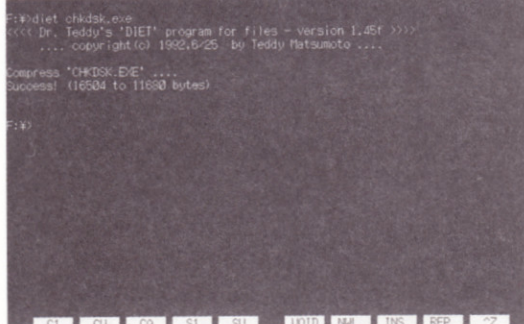
本プログラムをメモリ上に常駐させておけば、データファイルを自動的に復元/圧縮することもできる。この場合、ユーザーはファイルの復元/圧縮を意識する必要がない。例えば、圧縮されたテキストファイルをTYPEコマンドなどで表示させようとすると、常駐しているDIETが自動的にファイルを復元したうえでTYPEコマンドに渡してくれる。

-Pオプションを指定して常駐させたときは、ファイルの自動再圧縮も行なわれる。例えば、圧縮されたファイルをエディタで修正して保存すると、保存する際にも再度自動的に圧縮される。

プログラムの常駐サイズが気になるころだが、EMSメモリが利用できる場合はメインメモリへの常駐量を最小1.6Kバイト程度にすることができ、またUMBメモリが存在する場合はそちらに常駐させることもできるので、メインメモリを圧迫することは少ないだろう。

ハードディスクの容量不足に悩むユーザーにとってはたいへんありがたいソフトである。(東)

●著者: Teddy Matsumoto(松本孝) ●動作環境: MS-DOS汎用 ●バージョン: 1.45S ●アーカイブ: DIET145S.LZH ●登録先: NIFTY (FLABO/LIB1, FGALBT/LIB4) ●サポート先: NIFTY (FGALBT/MES4)



ディスクの詳細情報を表示

## Drive information Viewer(DV.exe)

TOOL

接続されているドライブやSCSI機器の情報を表示するツール。

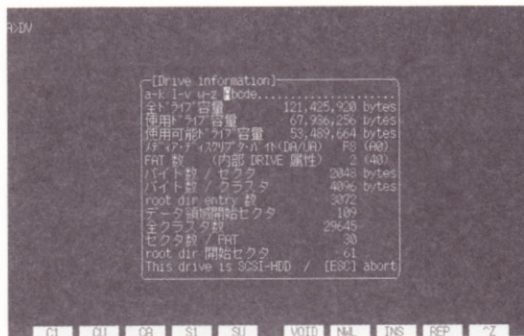
MS-DOSの標準コマンドには、ハードディスクやフロッピーディスクについての詳しい情報を表示してくれるものが存在しない。せいぜいCHKDSKコマンドでディスクの全容量や空き容量、ファイル数などが確認できる程度だ。もちろん、通常はそれでも間に合うかもしれないが、もう少し詳しい情報が欲しい場合もあるだろう。DVは、まさにそんなときのために作られたツールである。

DVをオプションなしで起動すると、画面中央にウィンドウが開き、接続されているドライブについての情報が表示される。ここでは使用可能なドライブの種類(ハードディスク/フロッピーディスクなど)と総容量、空き容量が表示される。それぞれのドライブについてもっと詳しい情報が知りたいときは、カーソルキーを使って表示させたいドライブを選択すればよい。この場合、ディスクの種類や容量などの情報のほかに、ルートディレクトリのエントリ数やデータ領域開始セクタなど、一般ユーザにはあまり必要ではないと思われる情報まで詳しく表示してくれる。もちろん、物理的に接続されているドライブだけでなく、RAMドライブやネットワークドライブなどの情報も表示することが可能だ。

ハードディスクやMOなどのSCSI機器が接続されている場合は、SCSI-IDをオプションとして指定することで、それらの機器の詳しい情報を表示することができる。自分のハードディスクの素性を知りたいときに試してみるのも一興だろう。さらに、この機能をSCSI機器のチェックに利用する方法がドキュメントに明記してある。接続されたSCSI機器が正常に動作しないとき、SCSIインターフェイス/SCSIケーブル/SCSI機器本体のいずれかに問題があった場合には、どれが悪いのかをある程度までつきとめることができる。とはいっても、DVは修理までしてくれるわけではないので、修理に出さなければならないことには変わりはない。

付属のコンフィギュレーションファイル(DV.CNF)をテキストエディタなどで編集すれば、ウィンドウの表示位置や表示色などを変更できる。(青木)

●著者: のろ(H.Maeda) ●動作環境: PC-9801(ハイレゾ含む) ●バージョン: 2.30a ●アーカイブ: DV230A.LZH ●サポート先: NIFTY (FGALST/MES6), ASCII (salon.pool)





# izgrep

TOOL  
DISK 4

テキストファイル中から文字列を高速に表示するツール。

UNIX上の標準的な文字列検索ツールであるgrepには、MS-DOSに移植されたものも含め、さまざまな派生版が存在する(もともと、どれがオリジナルのgrepかといわれると困ってしまうが)。『秀作フリーソフトウェア100選 PART2』に収録されたcgrepや、ここで紹介するizgrepも、grepから派生したツールである。grepは、MS-DOSのFINDコマンドの機能を大幅に拡張したツールだと思えば分かりやすいだろう。

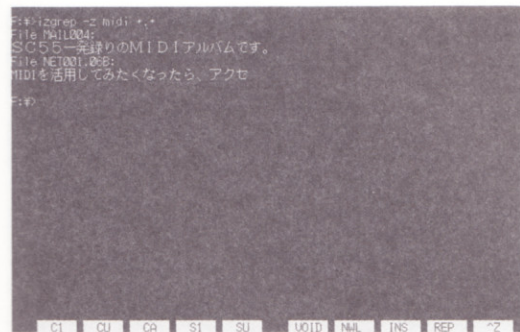
grep系のツールは、検索文字列の指定に正規表現を使用できるという特長がある。正規表現(Regular Expression)とは、文字列を指定するための書式であり、分かりやすくいえば、MS-DOSのワイルドカード(\*、?)を強力に拡張したものである。grep以外にも、sedやawkといったUNIX系ツールの多くで採用されている。UNIXがここまで支持されるようになった理由の1つに、正規表現の存在があげられるのではないだろうか。

正規表現では、メタキャラクタと呼ばれる特殊文字によって文字列を指定する。当然、テキストファイル中に含まれる文字列のほうがファイル名よりも複雑だから、正規表現のルールもワイルドカードより複雑になっている。izgrepの付属ドキュメントにも正規表現の簡単な解説があるが、本気で正規表現をマスターしようとするなら、UNIXの解説書などを一読することをお勧めする。個人的には『sed&awkプログラミング』(アスキー刊)がお勧め(grepという名前の由来も載っている)。

また、正規表現のパリエーションとして、正規表現を拡張した完全正規表現と呼ばれる表記法があるが、izgrepでは、この完全正規表現もサポートしている。さらに、文字の全角と半角、ひらがなとカタカナを無視して検索する「あいまい検索」の機能も備えている。izgrepの優れた点は、これほどの機能を持ちながら、類似プログラムに比べ高速な検索が行なえることだ。

もちろん、izgrepは正規表現なんか知らなくても使うことができる。その場合、高速なFINDコマンドとして使うことになるが、それでもかなり役に立つことは間違いない。(青木)

●著作者: IZ(泉博志) ●動作環境: MS-DOS汎用 ●バージョン: 1.01  
●アーカイブ: IZGREP.LZH ●登録先: ASCII (pool msdos)



# LHA

TOOL  
DISK 4

複数のファイルを圧縮して1個のファイルにまとめるアーカイバ。国内のパソコンユーザーの間で標準的に使われている。まとめられたファイルのことを「アーカイブファイル」または単に「アーカイブ」と呼ぶ。LHAのアーカイブファイルの拡張子は“.LZH”となっている。

MS-DOS用アーカイバの多くはファイルの圧縮機能を備えており、圧縮率の高さが性能を判断する重要な基準になっている。LHAは高い圧縮率を誇っており、フリーソフトとして無料で利用できることも大きな利点である。

フリーソフトを配布する際に、関連ファイルをLHAによって1つのコンパクトなアーカイブにまとめてしまえば、取り扱いも楽だし、通信時間やフロッピー枚数の節約にもなる。

LHAは1つの実行ファイル(LHA.EXE)だけでアーカイブに関するさまざまな処理を行なうため、コマンドラインで与える命令やオプションなどが多数ある。しかし、とりあえず次の4つの命令だけ覚えておけば間に合うはずだ。

- [a].....複数のファイルを圧縮して1つのアーカイブにまとめる(アーカイブする)
- [x].....アーカイブから元の複数のファイルを展開する
- [l].....アーカイブ内のファイル一覧を表示する
- [p].....アーカイブ内のテキストファイルの内容を画面に表示する

例えば、SAMPLE.LZHというアーカイブを展開するためには、

A>lha x sample

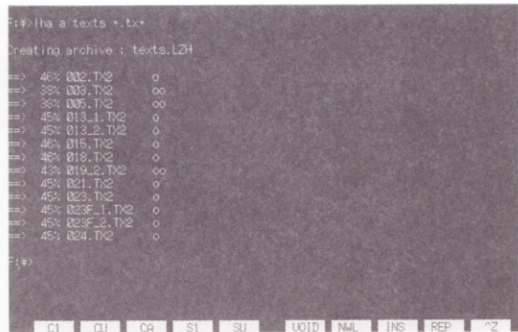
と入力する。一般に、lhaに続けて展開用の命令(x)とアーカイブファイル名を書けばよい。ファイル名の拡張子“.LZH”は省略できる。

特殊なアーカイブファイルとして「自己展開ファイル」と呼ばれるものがある。これは、アーカイブと展開用プログラムとを合体させて実行ファイルにしたものだ。LHA自身も、この形式のアーカイブファイル(LHA255.EXE)として配布されており、

A>lha255

と実行すると、アーカイブされていたファイルがすべて展開される。(大池)

●著作者: 吉崎栄泰 ●動作環境: MS-DOS汎用 ●バージョン: 2.55  
●アーカイブ: LHA255.EXE ●登録先: NIFTY (FLABO), PC-VAN (CIARI), ASCII (pool msdos), ほか多数



TOOL



Windows上でLHAのアーカイブを操作するDLL

## LHA.DLL

TOOL

DISK 9 DISK 10

Windows上でLZH形式ファイルの操作を行なうためのDLL (ダイナミックリンクライブラリ) ファイル。

このDLLは、C言語やVisual Basicなどから呼び出すことができるようになっており、ユーザーがプログラムを作成する際に、LHAアーカイブ (LHA.EXE) に与えるオプションと同じ文字列をパラメータとしてAPIコールすることで、LZH形式のファイルを操作できる。C言語の場合は、同梱されているヘッダファイル (LHA.H) をソースファイル内でインクルードし、リンク時に同梱のライブラリファイル (LHA.LIB) をリンクする。Visual Basicの場合は、フォームの宣言時にLHA.DLLの使用を宣言することで使用可能になる。

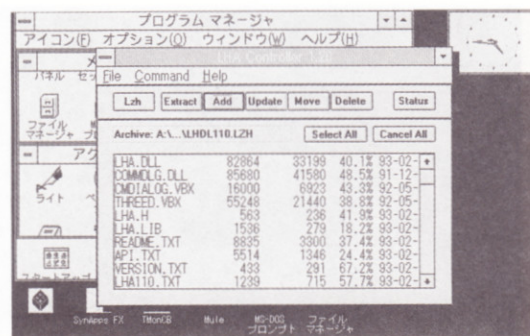
APIとして用意されている9つの関数には、アーカイブファイルに対する圧縮/展開/リスト出力などを行なうものや、LHA.DLLの状態を確認するためのものなどがある。アーカイブ処理をバックグラウンド (タスクを占有しないモード) で処理することもできる。

このDLLを呼び出しているプログラムを実行する際には、あらかじめ、DLL本体 (LHA.DLL) をWindowsディレクトリの下でのSYSTEMディレクトリにコピーしておく必要がある。

LHA.DLLを呼び出すプログラムのサンプルとして、配布アーカイブにはLHCTK.EXEというプログラムが同梱されている。このプログラムは、Microsoft Visual Basic Ver.1.0で作成されたDLLを使用するサンプルプログラムであるが、LZH形式のアーカイブを処理するための基本的な操作ができるようになっているので、Windows上でのアーカイブ管理にそのまま利用可能だ。なお、LHCTK.EXEを実行するためには、LHA.DLLのほかに、英語版Microsoft Visual Basic Ver.1.0のランタイムライブラリ (VBRUN100.DLL、本書に収録) も必要である。また、同梱のTHREED.VBXおよびCMDIALOG.VBXをWindowsディレクトリの下でのSYSTEMディレクトリにコピーしておくこと (Windows3.0の場合には、さらにCOMMMDLG.DLLも必要)。

LHA.DLLの機能は、LHA.DLLだけでは利用できず、LHA.DLLを呼び出しているプログラム (LHCTK.EXEなど) を用意しなければならないことに注意してほしい。(東)

●著作者: Rhizome Project(myo, kom, TakTak) ●動作環境: Windows3.0以上 ●バージョン: 1.10 ●アーカイブ: LHDL110.LZH, VBRUN100.LZH ●登録先: TRY24-Net (L38) ●サポート先: TRY24-Net (B38)



LHAのアーカイブファイルをメニュー形式で閲覧/展開

## LHA Tree

TOOL

DISK 4

LHAで作成したアーカイブファイル内のファイルに対するメニュープログラム。

アーカイブ内のファイルを閲覧/展開するプログラムはほかにもいろいろあるが、このプログラムは、LHAの「-r」「-x」オプションなどで作成されたアーカイブファイルについて、ツリー構造を表示しながらファイルを選択したり、圧縮されたディレクトリ別を選択して展開/削除/閲覧などを行なったりすることができるのが特長である。

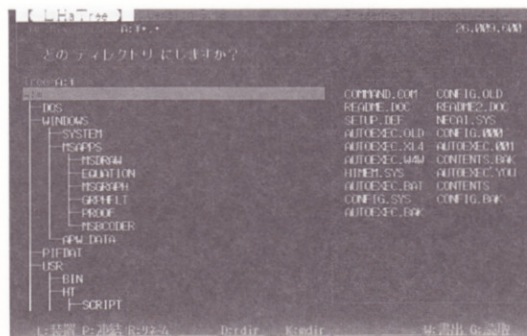
プログラムを起動すると、指定したディレクトリ (デフォルトはカレントディレクトリ) のファイル一覧が表示される (この画面を「セレクト画面」と呼ぶ)。カーソルキーでLZH形式のアーカイブファイルを指定してリターンキーを押すと、アーカイブ内のファイル一覧が表示される (この画面を「ファイル画面」と呼ぶ)。ファイル画面では、セレクト画面と同様にカーソルキーでファイル指定を移動して、ファイルの内容を閲覧したり展開したりできる。また、複数のファイルをマークしておいて同時に展開することもできる。

テキストファイルの内容を閲覧する際には、あらかじめ環境変数PAGERにページプログラムを登録しておくことで、任意のページを起動することができる。また、ファイルの修正を行なうこともできるが、その際には環境変数EDITORに登録しておいたエディタが起動する。なお、アーカイブファイル内のテキストファイルを修正した場合、アーカイブファイル内のファイルが更新されるのではなく、そのコピーがアーカイブ外に作成されることに注意してほしい。

セレクト画面やファイル画面でリターンキーを押したときに、ファイルの拡張子に応じたプログラムを起動することもできる (拡張子ごとの対応プログラムは自由に設定できる)。また、各種のオプション指定やデフォルト起動ページ/エディタの指定などを自分の環境に合わせてカスタマイズすることも可能である。

このプログラムは、アーカイブファイルに対する処理をLHA.EXEに依存しているため、LHA.EXEをカレントディレクトリまたはパスの通っているディレクトリに入れておく必要がある。(東)

●著作者: YY. しょう (山田晋吾) ●動作環境: PC-9801 ●バージョン: 5.13 ●アーカイブ: LH51313.LZH ●登録先: NIFTY (FGALBT/LIB4) ●サポート先: NIFTY (FGALBT/MES4)





## LHD

TOOL

DISK  
4

LHAを使用したハードディスクバックアップツール。

ハードディスクのバックアップが重要なことは分かっているが、数十枚のフロッピーディスクを差し替える手間を考えるとうんざりしてしまう（もちろんMOやストリーマなどがあれば別だが）。なんとか、少しでも楽にバックアップをとれる方法はないものか……。

LHDは、ハードディスクの内容を「ハードディスクに」バックアップするためのツールである。ファイルをLHAで圧縮してからバックアップするので、バックアップ先のハードディスクは比較的小さな容量で足りる。また、2度目のバックアップからは、前回のバックアップ以後に作成または変更されたファイルだけを処理するので、短時間でバックアップできる。

バックアップ用のハードディスクとして、安価なSASIドライブを購入するという手もあるし、もちろん、バックアップ先の媒体としてハードディスク以外のドライブ（例えばMOなど）も使用可能である。

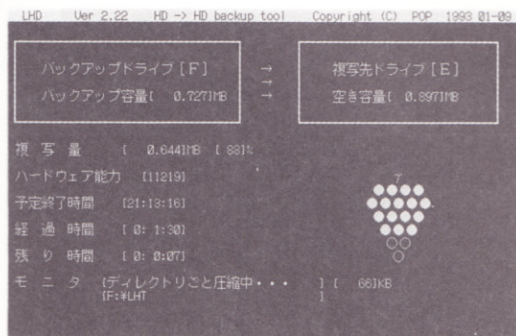
LHDを起動すると、LHDはまずバックアップ対象となるファイルの量を調べ、マシンの処理能力を計測する。そして、予想される所要時間と終了時刻を表示したうえで、バックアップ作業を開始する。画面には葡萄の絵が表示され、処理の進捗状況によって葡萄の粒の色が変わるようになっている。

Aドライブの内容をバックアップする場合は、バックアップ先のドライブに\_A\_というディレクトリが作成される。その下に、元のドライブと同一のディレクトリ構造が作成され、それぞれのディレクトリの内容がLHAで圧縮されて保存される。このとき、アーカイブファイルは必ずLHD\_、LZHという名前で作成される。

LHDを起動する際にディレクトリ名を指定しておけば、ハードディスクの一部だけをバックアップすることができる。この場合は、指定したディレクトリの下ファイルがバックアップされることになる。

LHDでバックアップした内容をリストア（復元）するためには、LHORESTという専用プログラムを利用するのが便利だが、LHAを使って各ディレクトリごとのアーカイブを展開することも可能だ。（青木）

●著者：POP ●動作環境：PC-9801 ●バージョン：2.22 ●アーカイブ：LHD0222.LZH ●登録先：PC-VAN (CIARI/7/3), NIFTY (FGALBT/LIB4) ●サポート先：NIFTY (FGALBT/MES4)



## LHQ

TOOL

DISK  
4

アーカイブファイルに対する処理をメニュー形式で行なうことができるプログラム。

MS-DOS上のアーカイバとしては、LHA/LHarc、PKZIP/PKPAK、PAK、ARJなどがあり、また実行ファイル圧縮ソフトとしてLZEXE、DIET、PKLITEなどがある。これらのプログラムでは、圧縮ファイルの閲覧や展開などのパラメータ指定が微妙に異なっているので、各種のアーカイブファイルを扱うことはかなり熟練を要する作業である。しかしながら、LHQを使えば、同一手順で閲覧や展開ができ、また、アーカイブファイル内のファイルを直接実行したり修正したりすることも可能である。

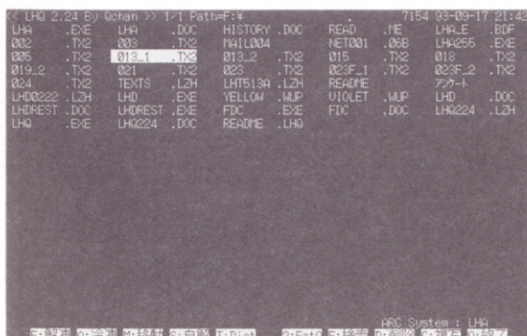
LHQを起動すると、指定したディレクトリのファイル一覧が表示される。このとき、アーカイブファイルの拡張子（.LZH、.ZIP、.ARJなど）になっているファイルは色分けして表示される。

ファイル一覧画面では、カーソルキーなどでファイルを選択することができ、複数ファイルを選択するにはスペースキーでマークすることができる。選択したファイルに対する処理はファンクションキーで指定するか、機能キーを入力することで実行される。デフォルトのアーカイブ指定はLHAになっているが、INS/DELキーによって、LHA/ARJ/ZIP/ZIP(P)（パスワードつきZIPファイル）/PAKを順次切り替えることができる。

また、リターンキーだけを入力した場合は、ファイルの種類によって処理が自動的に選択される。アーカイブファイルの場合はアーカイブ内のファイル一覧を表示し、実行ファイルの場合は実行ファイル圧縮ソフトが呼び出され、その他のファイルの場合はビューワが起動される。ファイルビューワは、デフォルトではMIELが起動されるが、環境変数の設定により変更が可能である。

なお、このプログラムは、ほとんどの処理を外部プログラム（アーカイバ、ページャ、エディタなど）に依存しているので、使用する予定のあるプログラムをカレントディレクトリまたはパスの通っているディレクトリに入れておかなければならない。（東）

●著者：Qちゃん(晴田和夫) ●動作環境：PC-9801 ●バージョン：2.24 ●アーカイブ：LHQ224.LZH ●登録先：NIFTY (FGALBT/LIB4) ●サポート先：NIFTY (FGALBT/MES4)





アーカイブ内のアーカイブも操作できるアーカイブ管理ツール

# LOOK

## TOOL

LHAで作成したアーカイブファイル内のファイルに対するメニュープログラム。

アーカイブ内のファイルを閲覧／展開するプログラムはほかにもいろいろあるが、このプログラムは、アーカイブファイル中に含まれるアーカイブファイルについても、展開／削除／閲覧などを行なうことができるのが特長である。

プログラムを起動すると、指定したディレクトリ(デフォルトはカレントディレクトリ)のファイル一覧が表示される。この画面では、カーソルキーによってファイル指定を移動させることができ、指定したファイルの内容を閲覧/編集したり、アーカイブファイルを展開/作成したりできる。また、複数のファイルをマークしておいて同時に展開することもできる。テキストファイルの内容を閲覧する際には、あらかじめ環境変数PAGERにページプログラムを登録しておくことで、任意のページを起動することができる。また、ファイルの修正を行なうこともできるが、その際には環境変数EDITORに登録しておいたエディタが起動する。

カーソルキーでLZH形式のアーカイブファイルを指定してリターンキーを押すと、アーカイブ内のファイル一覧が表示される。この画面でも通常のファイル一覧画面と同等の機能が用意されているが、アーカイブ内にさらにアーカイブファイルがある場合には、その内容も同様にして確認することができる。アーカイブファイル内のテキストファイルを修正した場合は、アーカイブファイル内のファイルを自動的にアップデートすることができる。

ファイル一覧画面でリターンキーを押したときに、ファイルの拡張子に応じたプログラムを起動することができる。拡張子ごとの対応プログラムは定義ファイル内で指定するようになっているので、自由に変更することが可能。また、定義ファイル内では、このほかに各種オプション指定やデフォルト起動ページ／エディタの指定などができるので、自分の環境に合わせて変更しておくといふ。

なお、このプログラムはK.Kato (MO-CA) 氏作のファイル「HF」と連動して動作することを念頭に置いて開発されており、画面表示その他はすべてHFに合わせてある。(東)

●著作者：谷口岳(GAKU) ●動作環境：PC-9801および互換機 ●バージョン：1.40 ●アーカイブ：LOOK140.LZH ●登録先：PC-VAN(CIARI/7/3), NIFTY (FGALBT/LIB13) ●サポート先：PC-VAN(CIARI, 98CLUB), NIFTY (FGALBT/MES13, MES4)

```

LOOK      C:\F140      Copy into 1993  by GSK (antip)
1993-1927  211829
File name F:#                                     Page: 1-1
                                                Free   345,040 bytes

randisk    0010      021    t.b2      7273    fdc     .doc     62149
ten        0010      023    t.b2      7196    fdc     .doc     1939
tha        36796    023r.1    t.b2      7022    1ha224   .1zh     38473
tha        23951    023r.2    t.b2      6908    1ha     .doc     90864
thafdc     0010      024    t.b2      7136    1ha224   .doc     11343
read       0010      025    t.b2      4855    read     .doc     487
thale      1044    025a1    1h513a   .1zh     55009    look140 .1zh     56130
002        t.b2      7102    read     1589    look     .doc     34745
003        t.b2      10337   727-1    2698    look140 .doc     3599
net1004     849    1h     0100    look     .com     1054
net003     00b     1045    3273-02 .1zh     51218    look     .def     508
thas55     58357   1ha222   .1zh     51218    look     .def     508
005        t.b2      10560    1h     .exe     89755    sample   .1zh     12819
013-1      t.b2      7154    violet   .sup     59      09591    0100    .doc     1054
013-2      t.b2      7148    violet   .sup     59
013-3      t.b2      7258    1h     .doc     16205
014-1      t.b2      7671    1hrest   .doc     3364
019-2      t.b2      8587    1hrest   .exe     73977

```

ファイラ機能を備えた高速ページャ

**MIEL**

## TOOL

ファイラ機能を有したテキストファイル高速ビューワプログラム。LHAのアーカイブファイルにも対応している。

プログラム起動時にファイル名を指定すると、ファイルビューアとして機能し、ファイルの内容が1画面分表示され、カーソルキーやスクロールキーでファイル内容を表示させることができる。ファイル内容の閲覧中には、文字列を検索したり、指定行にジャンプしたり、現在表示しているページに対してマーク&ジャンプしたりといった機能も用意されている。また、このプログラムではファイルの内容をバックグラウンドで読み込むため、サイズの大きいファイルを指定しても起動が非常に高速である。

プログラム起動時に指定されたファイルが、LHAで作成されたLZH形式のアーカイブファイルだった場合には、アーカイブ内のファイル一覧を表示する。このとき、アーカイブファイルを展開することなく、アーカイブ内のテキストファイルの先頭部分を画面下部に表示してくれるので、ファイル内容をすばやく確認できる。ファイル一覧では、ファイルの閲覧や展開、修正などの操作も可能だ。

プログラム起動時にファイル名を指定しなかった場合やディレクトリ名を指定した場合は、ファイアプログラムとして起動し、ディレクトリ内のファイル一覧が表示される。この場合も、テキストファイルの先頭部分が画面下部に表示されるので、内容の確認が容易である。また、LZH形式のアーカイブファイルの場合には、アーカイブされているファイルの一覧が表示される。

同梱されているMIELFILE.COMをバスの通っているディレクトリにコピーしておく、ファイル部分の機能が拡張されて、ファイルの複写/移動/削除/改名/アーカイブ展開などの処理が行なえるようになる。

なお、各種オプション設定やキー定義を変更するプログラム (MIELCUST.COM) が同梱されているので、自分の環境に合わせて変更しておくとういだろう。

特に、アーカイブされたテキストファイルを取り扱う機会が多い人にとって、MIELはたいへん便利なプログラムである。

(東)

●著作者: A.Idei (出射厚), Paci (清水洋平) ●動作環境: PC-9801 ●バージョン: 2.49 ●アーカイブ: MIEL249N.LZH ●登録先: NIFTY (FGALBT/LIB5), MIX (long3), ASCII (pool msdos) ●サポート先: NIFTY (FGALBT/MES5), ASCII (salon.pool)

```

I:\page>dir
             MIEL.DOC           68976  93-08-03   01:49
MIEL249.DOC  MIEL.COM           MIELFILE.COM  MIEL.CFG           MIEL.DOC
MIELCUST.COM MIELCUST.DOC

```

<<< MIEL.COM ver 2.49 >>> Multi text Edit & Look util

```

                                     for PC9801
                                     for FR,PII664
                                     for OAS/4
                                     for IBM DOS-04
                                     for IBM PC-DOS4
                                     for J31004

```

1. MIELとは↓  
=====

MIEL とは、テキストファイル高速 pager です。↓

MIEL の特徴はファイル名の指定に、ワイルドカードが使用できることです。ただ単にワイルドカードが使えるだけでなく、他にも同じ様な物があるかも知れませんが大きく違うのは該当するファイル名(標準設定では 255 最大、2559 まで)を表示し、カーソルでファイルが選べる点です。さらにカーソル



## MS

TOOL

DISK  
4

各種メモリやデバイスなどの情報を表示するツール。

MS-DOSでは、基本的には640Kバイトしかメインメモリとして扱えない。そこで苦しまぎれに考え出されたメモリ拡張方式がバンク切り替え方式(BMS)やEMSである。さらに、80286以上のCPUがアクセスできるアドレスを利用したXMS方式、640Kバイトから1Mバイトまでの空きメモリ空間(UMB)にデバイスドライバなどをロードする方法、最近では80386以上のCPUで1Mバイト以上のメモリ(いわゆるプロテクトメモリ)を扱うための規格であるVCPIやDPMIが考案されている。

ユーザー側としても、少しでも使用可能なメモリを増やそうと四苦八苦しているのだが、残念なことにMS-DOSには、メモリの状況を詳しく報告してくれるコマンドがなかった。MS-DOS5.0では、MEMコマンドが付属するのでまだよいとしても、それ以前のバージョンのMS-DOSでは、CHKDSKコマンドで空きメモリのサイズを調べることくらいしかできない。そんな理由で、MSのようにメモリの情報を表示するためのツールが、フリーソフトとして数多く開発されている。

MSは、当然ながら先にあげたすべてのメモリ拡張方式に対応している。もちろん、MS以外にも同様の機能を持つツールは存在するが、MSではさらにデバイスや割り込みベクタ、ファイルテーブルの情報までも詳しく表示できる。

MSをオプションなしで起動すると、コンベンショナルメモリ(メインメモリ)の状態が表示される。表示される内容は、各プログラムが使用しているメモリのサイズ、プログラム名、フックされている割り込みベクタ、などである。

表示される情報は、MS-DOSのバージョンによって多少異なっていて、MS-DOS5.0では、CONFIG.SYSで指定したファイルテーブル(FILES)やバッファ(BUFFERS)のメモリ占有量まで表示されるが、Ver.3.3までのMS-DOSを使用している場合は表示されない。また、常駐プログラムがメモリ内に常駐している場合、MS-DOS5.0以降ではその名前も表示されるが、それ以前のバージョンでは表示されない。ただし、MS-DOS3.3以前のバージョンでも、AutoName.comというユーティリティを使用することで常駐プログラム名を表示することが可能だ。

(青木)

●著作者: K-CRAFT(笠松勝徳) ●動作環境: MS-DOS汎用 ●バージョン: 3.30 ●アーカイブ: MS330.LZH ●登録先: NIFTY(FGALST) ●サポート先: NIFTY(FGALST)

HEX	SP	Size	Owner name	Param/Dev	Hooked Vectors
0507	0588	8496	mem386	EMT00000	1F 67
070E	079C	14624	vjob	ASPLUE	06 70 71 72 73 7C DC
080E	082F	192	<files>		
0838	083C	256	<rcbs>		
0842	084D	2048	oufferev		
08CD	08CE	528	(lsatdrv)		
08EF	08F0	3936	command.com		22 28 24 2E 2F
08E6	0800	64	(free)		
08EB	08F0	1024	command.com (rev)		
08C7	0800	688	(free)		
08F4	0855	288	exone	21	
0893	0894	11136	zincut	05 18 1B 25 26 28 29	
08AC	0800	588576	(free)	30 F1	

## osanpo.exe

TOOL

SHARE  
WAREDISK  
4

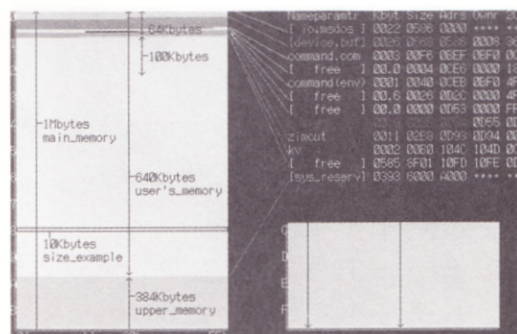
PC-9801のグラフィック画面に現在のメモリの使用状態を表示したり、メモリの内容を表示したりするプログラム。シェアウェアであり、継続的に使用するには1000円のレジストを支払う必要がある。

このプログラムを起動すると、現在のメモリ使用状況が画面の左側と右下にグラフ形式で表示され、画面右側にテキスト形式で表示される。テキスト表示は色分けされており、同じ色でグラフ上にも該当する部分が示される。テキストで表示されているデータは、プログラム名(Nameparamtr)、メモリ使用サイズ(Kバイト単位のKbyt、16進表示のSize)、メモリ常駐アドレス(Adrs)、親プログラムのアドレス(Ownr)、環境領域アドレス(2C2D)。グラフはセグメント0000H~BFFFFHまでが画面左側に表示され、画面右下にセグメントC000H~FFFFFHが表示され、スペースキーを押すと、メモリエリアの説明が表示される。ただし、画面右側のテキスト表示部分が16行以上の場合には、右下のグラフは表示されない。テキスト表示部は最大23行までしか表示されないが、標準出力には表示されているので、出力をリダイレクトすれば確認できる。また、グラフが表示されている状態で、TABキーを押すとグラフ表示色の変更される。表示色は起動時オプションとして指定することもでき、最大7色まで指定可能。カーソルの点滅速度(0~9)を指定することもできる。

グラフが表示されている状態でリターンキーを押すと、メモリ内容表示ウィンドウが開く。このウィンドウには、表示アドレスとそのデータ内容、およびデータに対応するキャラクタが表示される。キャラクタ表示は漢字にも対応しており、[K]マークが反転しているときには漢字が表示されない。表示されているアドレスは、グラフ上とメモリマップ上にカーソルで表示されており、このカーソルを移動させることで表示アドレスを変更することができる。また、メモリ内容表示ウィンドウが表示されている状態で、リターンキーまたはSHIFT+リターンキーを押すと、プログラムが実際に使用している領域を順番に表示することができる。さらに、ウィンドウ表示状態でスペースキーを押すと、表示ウィンドウを縦に二分割することができるので、メモリ内容を比較したりすることができる。

(東)

●著作者: コツガイジュン@Dogw(小番調) ●動作環境: PC-9801 ●バージョン: 2.2b ●アーカイブ: OSANPO2.B.LZH ●登録先: NIFTY(FGALSW, FNEC), ASCII(pool msdos) ●サポート先: NIFTY(FGALSW, FNEC), ASCII(salon.pool)





起動ドライブに関わらずドライブ名を固定

## PATCH IO.SYS

TOOL

DISK  
4

起動ドライブに関係なく、ドライブ番号を固定するためのパッチ。

NEC製のMS-DOSでは、ドライブ番号は起動ドライブによって変化する。フロッピーディスクから起動した場合はフロッピードライブがAドライブになるし、ハードディスクから起動した場合はハードディスクがAドライブになる。これは、どのドライブにどのドライブ番号が割り振られているかを常に意識しなくてはならないため、ユーザにとっては厄介だ。

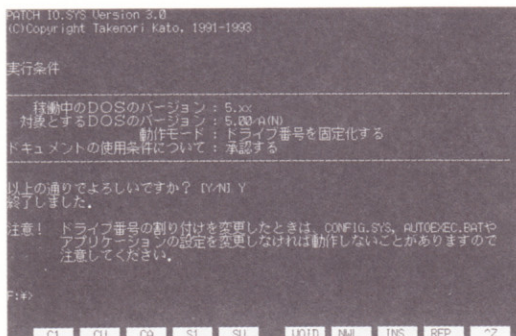
IBMなど他社からリリースされているMS-DOS (IBM製はPC-DOSと呼ばれる) では、起動ドライブがどこであるかに関係なく、常に「フロッピーディスクがAドライブ」「ハードディスクがCドライブ」になるようにドライブ番号が固定された方式が一般的である。どちらが使いやすいかは意見の分かれるところだと思うが、日本国内と海外とで状況が異なるというのは大きな問題であろう。

ドライブ番号が変化して特に困るのは、バッチファイルなどでドライブ番号を指定している場合である。例えば、バッチファイル中でハードディスク上の特定のファイルを参照するような場合、汎用的なバッチファイルにするためには、「現在、ハードディスクにどのドライブ番号が割り振られているか」を判別する処理が必要となる。

また、Windowsの普及によって、海外のWindows用アプリケーションをPC-9801上でも使用できるようになった。これは喜ばしいことだが、アプリケーションによってはハードディスクをCドライブと決めつけているものがあるため、PC-9801ではわざわざフロッピーディスクから起動しなくてはならない場合がある。このようなときに、「PATCH IO.SYS」を使えば、NEC製のMS-DOSでもドライブ番号を固定できる。

このプログラムはPATCHIO.EXEというコマンド形式で供給されており、プログラムを実行すると、MS-DOSのシステムファイルの1つであるIO.SYSにパッチが当てられる (IO.SYSの一部が書き換えられる)。一度パッチを当てたIO.SYSを使っている限り、常にドライブ番号が固定されるようになるので、MS-DOSを起動するたびにPATCHIO.EXEを実行する必要はない。 (青木)

●著作者: Takenori Kato ●動作環境: PC-9801および互換機 ●バージョン: 3.0 ●アーカイブ: PATCH30.LZH ●登録先: NIFTY (FGALST/LIB9) ●サポート先: NIFTY (FGALST/MES9)



バイナリファイル中の文字列を抽出/書き換え

## pm

TOOL

DISK  
4

実行ファイルなどのバイナリファイル中から、英数字や漢字などの文字列を抜き出して画面に表示するツール。バイナリファイル中の文字列を直接書き換えるエディタとしての機能も持っている。

バイナリファイルに直接埋めこまれている文字列を検索したり修正したりしたいという場合、テキストファイル用の検索コマンドやエディタは利用できない。バイナリファイルには、画面に表示できないバイナリデータが含まれているからだ。

pmは、指定したファイルの中から文字列の部分だけを抜き出し、標準出力 (通常は画面) に表示する。文字列をファイルに保存するためにはダイレクト(>)を使えばよい。文字列長の下限、文字列の種類 (英数記号/漢字)、文字列終端記号などの検索条件をオプションで指定することもできる。

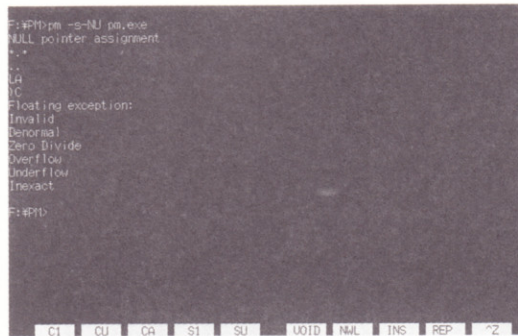
また、バイナリファイル中の文字列を直接修正する場合、文字列を検索するだけでも大変だし、SYMDEBやバイナリエディタを使っても、文字列以外の部分に影響が及ばないように修正するのは難しい。特に、実行ファイルでは、文字列の長さが1バイト違っただけで暴走する危険がある。

pmを「/e」オプションつきで起動すると、文字列部分を自動的に検索して編集モードに移行する。編集モードでは、対話的な操作によって文字列を検索・修正することができる。カーソル移動や削除、カット&ペーストなど、1行だけのエディタのようなキー操作で文字列を修正できるだけでなく、元の文字列の長さを超えないように管理してくれるので、ある程度安全に書き換えが行なえるわけだ。

例えば、COMMAND.COM中の「コマンドまたはファイル名が違います。」という無粋なメッセージを、「旦那様、コマンドをお間違えです。」とか「あんさん、なんやコマンド違っとるで。」などに書き換えると、コマンドを打ち間違えるのが楽しくなるかもしれない。

実際に書き換えを行なう際には、オリジナルのファイルを別に保存しておき、いつでも元に戻せる状態で作業することが望ましい。修正の結果ファイルを破壊してしまっても、責任はすべて自分にある。また、書き換えた実行ファイルを配布することは一般に禁止されているので注意してほしい。 (大池)

●著作者: 若葉忠正 ●動作環境: MS-DOS汎用 ●バージョン: 1.51.1 ●アーカイブ: PM1511.LZH ●登録先: ASCII (pool msdos) ●サポート先: ASCII (salon.pool)





## PRC.COM

TOOL

DISK  
4

CANONのレーザープリンタ「レーザショット」の設定が、コントロールパネルを使わずにパソコン側で行なえる。

最近ではレーザープリンタも手ごろな価格となり、個人ユーザーも多くなった。中でも老舗のCANONから出されているレーザショットは、対応するアプリケーションが多いこともあって、比較的大きなシェアを有している。機能的には優れたレーザショットであるが、機能が豊富なゆえに細かい設定が必要である。使用するアプリケーションがこの設定をコントロールする場合はともかく、通常はプリンタのコントロールパネルを見ながら手で操作しなくてはならない。特に、LIPSモードとPC-PR201エミュレーションモードの切り替えなどはよく行なう操作で、キーボード上でこの切り替えができるとありがたいと思っているユーザーは少なくないだろう。

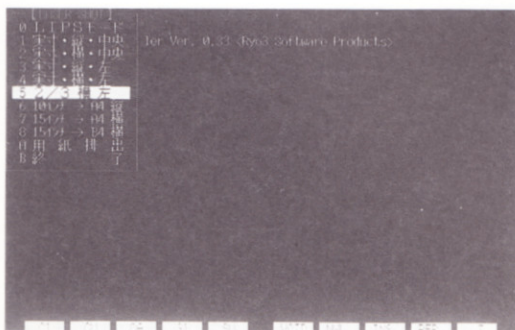
PRCを起動するとレーザショットの設定項目が並んだメニューが表示されるので、カーソルキーで項目を選んでリターンキーを押せば設定完了となる。このメニューでは、LIPSモードへの切り替えや、PC-PR201エミュレーションモードにおける各種の設定がワンタッチで行なえる。

PRCをメモリに常駐させて、ほかのアプリケーション実行中にメニューを呼び出すこともできる。特に、「タイマ起動モード」では、キーボード割り込みでタイマBIOSを呼んで常駐ルーチンを呼び出すことにより、一太郎Ver.4などにも対応できるようになる。

一方、用紙排出を除くメニュー項目の番号を起動オプションに指定してPRCを起動すれば、メニュー表示なしでその設定を行なうことができ、この場合はメモリに常駐することはない。アプリケーションによっては、印刷時に決まったプリンタ設定を利用することがあるが、そのような場合はこの方法でPRCを実行しておくといよい。

なお、コントロールパネルでLIPSモードとPC-PR201エミュレーションモードの切り替えができない初期のレーザショット(いわゆる「無印レーザショット」)については、別のプログラムが同梱されているのがありがたい。このプログラムではモード切り替えが利用できないが、そのほかの用紙設定や用紙排出の設定は可能である。(小泉)

●著作者： 両 ●動作環境： PC-9801 (VMでは動作しない) ●バージョン： 0.33 ●アーカイブ： PRC0330.LZH ●登録先： NIFTY (FGALAP/LIBS)



## SCOPY

TOOL

DISK  
4

フロッピーディスクのフォーマットとディスクコピーとをメニュー形式で実行するツール。

機能的には、FORMATコマンドとDISKCOPYコマンドを1つにまとめたツールである。ただし、これらのコマンドがサポートしていない便利な機能もいくつか持っている。これらの機能は、メニューで設定することも、コマンドラインオプションとして指定することも可能である。

一度に複数のフロッピーディスクをフォーマットしたい場合、(フロッピーディスクドライブを2ドライブ以上搭載していれば) それぞれのドライブに対し交互にフォーマットを実行できる。つまり、片方のドライブでフォーマットを実行している間に、もう片方のドライブのフロッピーディスクを入れ替えることができるのだ。

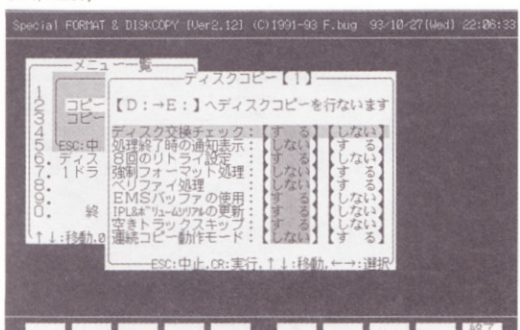
また、フォーマットを実行する前にディスクの内容を表示させることもできるので、必要なファイルが入っているフロッピーディスクを誤ってフォーマットしてしまうことが避けられる。さらに、ペリファイを「する」に設定しておくと、フロッピーディスクに不良セクタがあるかどうかチェックしてくれる。

ディスクコピーの際には、「空きトラックスキップ」を「する」に設定すれば、高速なコピーが可能だ。この場合、コピー元ディスクの未使用領域はコピーされないで、ディスクの空き容量が多いほど効果的だ。コピー先ディスクがフォーマットされていない場合は、自動的にフォーマットしたうえでコピーを行なう。また、フロッピーディスクドライブを3ドライブ以上搭載した機種であれば、1枚のオリジナルディスクから2枚のコピーを同時に作成できる。

本ソフトのアーカイブファイルには、SCOPYの画面の色などを設定するSCOPYSET、DIRコマンドの機能を拡張したSDIR、本体のビーブ音を設定するBEEPSET、MS-DOSのバージョン番号や日付などを環境変数に設定するENVSETといったユーティリティも同梱されている。

SCOPYの過去のバージョンでは、各ドライブの情報を表示するDRIVEというユーティリティも同梱されていたが、現在はDRIVEがSDUという名前になって、独立のフリーソフトとして配布されている(SDUも本書に収録されている)。(青木)

●著作者： F.Bug ●動作環境： PC-9801 ●バージョン： 2.12 ●アーカイブ： SCOPY212.LZH ●登録先： PC-VAN (CIARI/7/3), NIFTY (FLABO/LIB2, FGALST/LIB9, FNEC98D/LIB2) ●サポート先： NIFTY (FLABO/MES2, FGALST/MES9, FNEC98D/MES5, FGALSWI/MES7)





# Software Index

接続されたディスクドライブ/デバイスドライバの情報を表示

## SDU

TOOL

DISK 4

ドライブの全容量/空き容量とともに、使われているデバイスドライバの種類を表示するツール。指定したデバイスのドライブ名を環境変数に設定することも可能だ。

ドライブの容量を一覧表示するソフトはいくつかあるが、SDUの特徴はドライブの種類まで表示する点だ。CD-ROMドライブなどをMS-DOSで利用するためには、それに対応したデバイスドライバをCONFIG.SYSで組み込んでおく必要がある。SDUを使って、

A>sdu map

とすると、どのようなドライブが接続されているかだけでなく、それらがどのメーカーのなんというドライブを使っているか、という情報まで表示されるのだ。

CD-ROMドライブだけでなく、MOドライブや、Disk II + のような圧縮ドライブ、MAXLINKのようなリモートドライブ、JEIDAのカードドライブなどにも幅広く対応している。また、特別なドライブを必要としないFDDやHDDの場合は、種別(2HD、SCSIなど)と容量の表示だけを行なう。圧巻なのがRAMディスクで、MS-DOS付属のRAMDISK.SYSから、MELDISK.SYSのような市販ソフトの付属ドライバ、CRD (core氏作、本書に収録) のようなフリーソフトまで、実に35種類のドライブを判別することができる。

判別されたドライブには、種別ごとのグループ記号(A、B、...)とドライブに固有のコード(1、2、...)が割り振られる。例えば、CRDによるRAMディスクはグループI、コード91といった具合だ。ドライブを必要としないフロッピーディスクドライブなどでは、グループごとに一括してコードが割り振られている(SDU.LSTを参照)。これを利用して、グループ記号やコードを指定して、そのドライブのドライブ名(A:, B:, ...)を環境変数に設定することができる。例えば、

A>sdu TMP=I-1

とすると、RAMディスク(Iグループ)の最初のドライブのドライブ名(例えばD:)が、環境変数TMPに設定される。グループ記号のかわりにコードを指定することも可能だ。この機能を使えば、ドライブ名が頻繁に変化するような環境でも、環境変数の設定を正しく行なうことができる。(大池)

●著者: F.bug ●動作環境: PC-9801 ●バージョン: 2.34 ●アーカイブ: SDU234.LZH ●登録先: NIFTY (FLABO/LIB8) ●サポート先: NIFTY (FGALST/MES8)

```

C:\>sdu map
<<< Special Drive Utility >>> Ver2.34 (C)1992-93 by F.bug

[A:]> [E:] 513K51-HDD UNIT=H0 A= 48435712 F= 31211520 S= 1327104
[B:]> [F:] 1613K51-HDD ID=H0 A= 122459112 F= 73007728 S= 0
[C:]> [F:] 1613K51-HDD ID=H0 A= 121413632 F= 13530528 S= 0
[D:]> [A:] 11240 FDD-Drive UNIT=H0 A= 1250304 F= 79372 S= 0
[E:]> [A:] 11240 FDD-Drive UNIT=H1 A= 1250304 F= 842752 S= 0
[F:]> [I:] 9615K51-Disk (10510) A= 1436432 F= 1115136 S= 0
  
```

旧暦や歴史上の事件など、「今日」の情報を表示

## TODAY

TOOL

DISK 4

今日が「何の日」なのかを教えてくれるソフト。西暦年月日/旧暦/干支/九曜星など日付関連のデータをはじめ、雑誌発売日やお祭りなどのイベント情報、歴史上の出来事、誕生日...など、今日に関するありとあらゆる情報を表示する。

表示データはテキストファイルで与えられており、計33個(200Kバイト)にもものばる。さらに、ユーザーが友人の誕生日などのプライベートなデータを登録したり、個人的な予定を登録して簡単なスケジューラとして利用することも可能だ。

各ジャンルの表示/非表示、読み込むファイル名、表示範囲(昨日/今日/明日)、画面の大きさや使用するページなど、すべての設定は環境定義ファイル(TODAY.CNF)をエディタで編集することによって行なう。

例えば、98を使用している場合には、TODAY.CNFの「#machine=ibm」という行を「machine=98」に変更するとよい。表示画面の桁数/行数を機種依存の方法を使って取得できるようになるので、30行BIOS(lucifer氏作)などを使って行数を拡張していても自動的に対応する。

TODAYの利用法としては、AUTOEXEC.BATに組み込んでおいて、システム起動時に今日のデータを表示させる場合と、コマンドラインから起動して指定した日のデータを表示させる場合が考えられる。

前者の場合は、ジャンルの設定などはTODAY.CNFで済ませておき、オプションなしの「today」という行をAUTOEXEC.BATの最後に追加すればよい。後者の場合、標準の設定では表示されるデータが多すぎるので、オプション指定によって必要なデータだけを表示させるとよい。例えば、

A>today -Ad

とすると、最初のAがすべての表示の抑制、続くdで日付を表示することを指示しているの、日付に関するデータだけが表示される。また、年月日の8桁(または6桁)の数字を指定することによって、その日のデータを表示できる。例えば、

A>today 940101

とすると、1994年1月1日のデータが表示される。年を省略して月日を4桁で指定した場合には、今年のその日に関するデータが表示される。(大池)

●著者: y.mori(森佳史) ●動作環境: MS-DOS汎用 ●バージョン: 2.10B ●アーカイブ: TD210BMLZH ●登録先: NIFTY (FGALAP/LIB4), MIX (long3/9soft (soft.index/long)), ASCII (pool.msdos) ●サポート先: NIFTY (FGALAP/MES4), MIX (soft/main), ASCII (junk.test, salon.pool)

```

F:\>today -N
こんにちは。
きょうは、平成 5年10月27日 (水曜日) 時刻は、22時13分です。
旧暦では、壬午 5年 9月13日 (先負) (中旬) です。
サウザンでは、辛酉 (みすのととり) の年、辛巳 (かのとみ) の日です。
九曜星で、七示 です。

===== きょうの歴史 =====
401859-10-27 吉田弘毅刑死
401890-10-27 かのエッセイ集『渾身』に登場
401930-10-27 東京中央放送局、海外に電波を送る

F:\>
  
```



## uncompak/un\_e2c

TOOL

DISK  
4

旧バージョンのcompact/exe2com (ish氏作) で変換されたCOMファイルを、486マシンでもハングしないように逆変換するソフト。

最近のパソコンは、CPUにintel 486DX/SXを使ったものが主力になっている。また、286/386マシンのCPUをCyrix社のCx486DLC/SLCに差し替えて486マシンにすることも広く行なわれている。これらの486マシンを使っていると、「特定のCOMファイルを実行すると必ず無反応状態になる(ハングする)」という現象に出会うことがある。これは、命令コードの自己書き換えとCPUのプリフェッチキューの衝突が原因で起こっているものだ。

パソコンのCPUは、高速処理のために、現在実行中の命令コードに続くアドレスのコードを先読みして内部に貯えている(プリフェッチキュー)。命令コードが先読み後に書き換えられたとしても、CPUはそれに気づかず以前にコードをそのまま実行してしまう。これがハングの原因となる。

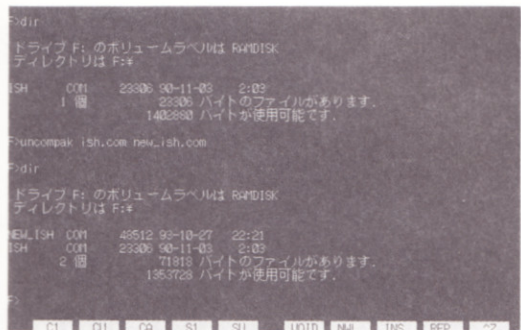
自己書き換えを行なうプログラムは以前からあったのだが、486のプリフェッチキューが386などと比べて大きいため、486マシンの普及に伴ってこうした問題が顕在化してきた。

特に問題となったのは、EXEファイルをCOMファイルに変換するexe2comと、COMファイルの一部の情報を圧縮するcompactだ。どちらも'87年ごろに作られたツールで、当時のフリーソフトには、これらのどちらか、または両方によって変換された状態で配布されたものがある。変換後のソフトは自己書き換え部分を含むため、486マシンで動作させるとハングしてしまうのだ。

compactされたファイルに対してはuncompakを、exe2comされたファイルに対してはun\_e2cを利用すれば、486マシンでもハングしない状態に戻すことができる。実際には、exe2comのあとでさらにcompactされているソフトが多いので、この場合はuncompakしたあとでさらにun\_e2cで変換する。

なお、どのファイルがcompact/exe2comで変換されているかはDIRコマンドなどで得られる情報からでは分からないので、comlist (Daichi作、本書に収録) を利用して調べたい。(大池)

●著作者: AssistantIO ●動作環境: MS-DOS汎用 ●バージョン: uncompak0.5, un\_e2c0.1 ●アーカイブ: UNCOMP05.LZH, UN\_E2C01.LZH ●登録先: ASCII (pool msdos)



## vlabel

TOOL

DISK  
4

ボリュームラベルを表示/変更/削除するツール。

MS-DOSでは、それぞれのディスクに名前(ボリュームラベル)をつけることができる。ボリュームラベルをつけるためには、FORMATコマンドでフォーマットする際に指定するか、あるいはLABELコマンドであとからつけることになる。また、ボリュームラベルを表示するためには、MS-DOSの内部コマンドであるDIRやVOLを使用する。残念ながら、MS-DOSにはボリュームラベルを統合的に操作できるコマンドは備わっていない。

vlabelは、その名のとおりボリュームラベルの操作を目的として作成されたツールであり、これ1つだけで、ボリュームラベルをつけるのはもちろん、変更や削除も行なえる。また、JOINコマンドを使ってマウントされたディスクに対しても、ボリュームラベルの操作が行なえる。

vlabelの実行は簡単で、特定のディスクのボリュームラベルを表示したいときは、コマンド名の後ろにドライブ名を指定すればよい。また、接続されたすべてのディスクのボリュームラベルを表示したいときは、「-a」オプションを指定する。

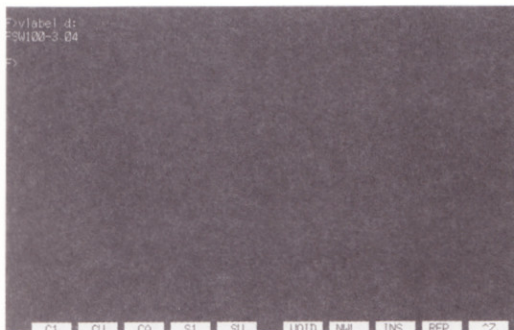
ボリュームラベルをつけたり変更したりするときは、ドライブ名とボリュームラベル名を、それぞれ空白文字で区切って指定する。ただし、ボリュームラベル名に空白文字が含まれる場合は、ボリュームラベル名全体をダブルクォート(“)で囲む必要がある。

ボリュームラベルを削除したいときは、「-d」オプションの後ろにドライブ名を指定する。

また、JOINを使ってディスクをマウントしている場合は、ドライブ名のかわりにマウントしているディレクトリ名を指定することもできる。

さらに、ディスクの状態を表示させる「-v」オプションも用意されている。このオプションを指定すると、ボリュームラベル名に続いて、各ドライブがどのディレクトリにJOINされているかが表示される。このとき、ディレクトリ名の区切りは、MS-DOSで標準となっている“¥”ではなく、UNIX流の“/”で表示されるが、これはおそらく作者の趣味によるものだろう。(青木)

●著作者: Daichi ●動作環境: MS-DOS汎用 ●バージョン: 1.11 ●アーカイブ: VLABEL111.LZH ●登録先: ASCII (pool msdos) ●サポート先: ASCII (salon.pool)





## wild/fox

TOOL

DISK  
4

wildは、コマンドライン上のワイルドカードを展開してコマンドを実行するツール。foxは、コマンドライン上の特殊文字をファイル名に展開し、コマンドを実行するツール。

MS-DOSでは、ファイルの指定にワイルドカードを利用できる。MS-DOSで使用するワイルドカードは「\*」と「?」の2文字で、これらの文字をファイル名のかわりに指定することで、複数のファイルを簡単に指定できるようになっている。

ただし、ファイルの指定にワイルドカードが使えるか否かは、それぞれのコマンドがワイルドカードをサポートしているかどうかによって左右される。例えば、MS-DOSの内部コマンドであるTYPEコマンドは、ワイルドカードでファイル名を指定できない。そこで、wildを使って、TYPEコマンドのかわりにワイルドカードを展開してやれば、あたかもTYPEコマンドでワイルドカードが使えるかのようになる。

さらにwildでは、ファイルを指定する際に、通常のワイルドカード以外のさまざまな文字を拡張ワイルドカードとして使用することができる。それらの文字についてはここでは説明しないが、MS-DOSのワイルドカードよりもはるかにきめ細かくファイルを指定することができる。

wildと組み合わせて使うと便利なのが、同一作者の手になるfoxというツールである。foxの特長として、マルチステートメントをサポートしていることがあげられる。すなわち、1つのコマンドラインに2つ以上のコマンドを記述することによって、「特定のファイルに対してある処理を行なった後に、さらに別の処理を実行する」といったことができる。ただし、foxではファイルの指定に「\$f」というような指定子を使用するため、wildに比べると使い方が難しく感じられるかもしれない。

wildとfoxの具体的な使用例を1つ紹介しよう。「\*.DOC」という拡張子を持つすべてのファイル（「\*.DOC」と表記される）について、内容を表示したあとでBドライブにコピーしたいものとする。wildとfoxを使えば、TYPEコマンドとCOPYコマンドを繰り返し実行するかわりに、

```
A > wild -f fox *.doc type $f : copy $f
b:
```

と入力するだけでよい。

(青木)

●著作者: North(鷺北賢) ●動作環境: MS-DOS汎用 ●バージョン: wild:0.36, fox:0.09 ●アーカイブ: WILD036.LZH, FOX009.LZH ●登録先: ASCII (pool msdos) ●サポート先: ASCII (testlab)

```
F:\wild -v lha a sources *.h
lha a sources main.h disk.h opendir.h kanji.h
Creating archive: sources.LZH
a> 40% MAIN.H o
a> 34% DISK.H o
a> 45% OPENDIR.H o
a> 36% KANJI.H o
C>
```

## WSP

TOOL

DISK  
4

プログラムやデータの差分をファイル化するプログラム。

差分管理プログラムは、パソコン通信などでプログラムのバージョンアップを行なう際に、古いプログラムと新しいプログラムの「違い(差分)」だけをファイル化して送信することにより、データの転送量を減らし、通信時間を削減するために使用されることが多い。しかしながら、パソコン通信だけではなく、各種データを保存する際などに利用することで、ディスク容量を有効に活用することもできるツールである。WSPは、差分データの作成と差分データによるアップデート(更新)とが同じプログラムでできることや、作成される差分ファイルのサイズがかなり小さいことなどが特長である。

差分ファイルは、差分を取る新旧2つのファイル名を指定することで自動的に作成される。1つの差分ファイルに複数の差分情報を登録することもでき、この場合は、アップデートも一度にまとめて行なうことができる。オプションで差分作成時のアルゴリズムを指定することにより、差分データをより小さくすることも可能だ。

WSPは、差分ファイルの扱いが簡単になるような手段をいくつか用意している。その1つは、自己展開形式の差分を作成する機能である。これは、差分データ自体を実行ファイルにすることで、アップデート時に更新用プログラムが不要になるというものである。

初心者にとって、アップデートの手順はなかなか分かりにくいものであるが、この方法では、単に差分ファイルを実行するだけで簡単にアップデート処理が行なえる。差分ファイルを自己展開形式にすると、ファイルサイズが約1KBバイト増加するが、利用する価値は大きいだろう。自己展開形式にしたものも、通常の差分ファイルと同様に扱うこともでき、また、自身が書き換えられていないかどうかのデータチェックを行なうので、ウイルス対策にもなる。

メッセージ表示機能も便利である。この機能は、差分ファイルの中にメッセージを付加しておき、更新作業を開始する前にそのメッセージを表示して確認のキー入力待ちとなるものだ。更新作業をする際に確認しておいてもらいたい情報を呈示することができる。

(東)

●著作者: amaproワキチ(和田浩一) ●動作環境: MS-DOS汎用 ●バージョン: 1.50 ●アーカイブ: WSP150.LZH ●登録先: PC-VAN (CIARI/7/3), NIFTY (FGALBT/LIB4) ●サポート先: NIFTY (FGALBT/MES4)

```
SAMPLE.1 7153 93-03-03 17:07
SAMPLE.2 9572 93-03-03 20:18
2個 15725 バイトのファイルがあります。
1410048 バイトが使用可能です。

F:\wsp sample.1 sample.2
sample.2.MUP を作成します。
0.....10.....20.....30.....40.....50.....60.....70.....80.....90.....100(%)
***** 完了 *****

F:\wdir
ドライブ F: のボリュームラベルは FNDISK
ディレクトリは F:\:

SAMPLE.1 7153 93-03-03 17:07
SAMPLE.2 9572 93-03-03 20:18
SAMPLE.2.MUP 1729 93-11-01 22:48
3個 17448 バイトのファイルがあります。
1408000 バイトが使用可能です。

F:\>
```



# zkill

TOOL

DISK  
4

テキストファイル中のEOFコードをカットするツール。  
一部のエディタやワープロは、テキストファイルをセーブするときに、末尾にEOF(End Of File)コードを挿入する。EOFは、名前からも分かるようにテキストファイルの末尾を表わすコードとして利用されている。このEOFコードがなんらかの原因でテキストファイルの途中に埋め込まれていると、問題が発生する可能性がある。

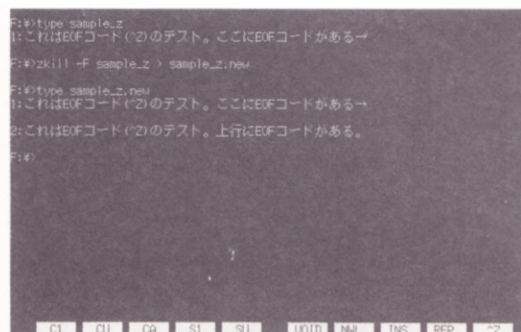
MS-DOSのTYPEコマンドでは、テキストファイルの表示を行なう際、このEOFをチェックして、EOFコードの前までを表示するようになっている。したがって、途中にEOFコードが埋め込まれているテキストファイルの場合は、EOFより後ろの部分が表示されない。COPYコマンドでも、テキストファイルを連結する際(連結したいファイル名を“+”でつないで指定する)、最初のファイルをEOFの直前までしか読み込まないようになっているので、EOFが埋め込まれたテキストファイルは途中で切り捨てられてしまう。

また、エディタやワープロでも、EOFが埋め込まれたテキストファイルを読み込もうとすると、EOF以後が読み込めないことがある。

途中にEOFが埋め込まれたテキストファイルは、パソコン通信のログファイルなどで見かけることが多い。原因としては、通信中の回線異常による文字化けによって発生する場合が考えられるが、最近ではエラー訂正機能を備えたMNPモデムが普及したので、そのようなことは少なくなった。一番あり得るのは、テキストファイルをアップロードする際に、EOFが末尾についたままの状態で登録されてしまい、それがログファイル内に残ってしまう可能性である。

したがって、パソコン通信を行なう際などには、ファイル末尾のEOFコードをあらかじめカットしておくことが望ましい。そこで必要になるのがzkillである。このプログラムはフィルター形式であり、実行結果は標準出力に出力されるので、ファイルに保存するためには“>”記号でリダイレクトする必要がある。デフォルトではファイル末尾のEOFコードだけを削除するが、オプション指定によって、ファイル途中のEOFコードを削除したり、他のコードを削除することもできる。(東)

●著作者: North(藍北賢) ●動作環境: MS-DOS汎用 ●バージョン: 0.02 ●アーカイブ: ZKILL002.LZH ●登録先: ASCII (pool msdos) ●サポート先: ASCII (testlab)



# ぐらふいっくECHO

TOOL

DISK  
4

グラフィカルなカラー文字を自由自在に画面表示して、個性的なオープニング画面を作ろう。

「ぐらふいっくECHO」(GECHO)の作者は、「MIEL」というページの作者の1人として有名であるが、バッチプログラムに役立つツールの作者としても知られている。プログラムの知識のないユーザーが、もっと気軽にバッチプログラムで楽しめるようにと、「BATCP」や「BU」といったアイデアに富んだユーティリティも提供している。

GECHOはバッチファイルで使えるECHOコマンドを拡張したもので、引数として「機能オプション」と表示文字列を指定して実行するだけの簡単操作である。MS-DOSのECHOコマンドとは異なり、GECHOではグラフィック画面に文字を表示できるので、文字の種類(ノーマル・横増幅・ふちどり・斜体・太文字)や拡大文字(上下方向各1~8倍)を自由に選べる。2枚あるVRAMを任意に選んで表示データを書き込めるうえ、これらを自由に切り替えて表示できるので、多様な画面構成が可能だ。ちなみに、グラフィック画面の表示のON/OFFも切り替えることができる。また、表示位置を指定するとき、テキスト画面での位置とグラフィック画面での位置とを使い分けることができる。

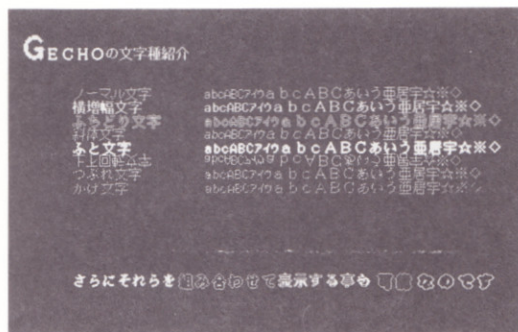
グラフィック画面への表示色は8色または16色から選択でき、各表示色のパレット設定も可能なので、微妙な色合いの変化をもたせることもできる。

このほかに、システム行表示(画面最下行のファンクション表示)やカーソル表示のON/OFFを切り替えたり、次のコマンドを実行するまでの待ち時間を指定したりする機能もあり、凝った画面演出ができる。

GECHOの魅力を味わうには、同梱のGSAMP.BATを実行するのが手っ取り早い。ゲームプログラムのオープニング画面ほど高速な表示は期待できないが、簡単な記述でここまでの演出ができるとなれば、誰も試したくなることだろう。

なお、GECHOが呼び出されているバッチファイルをBATCPで変換してCOM形式の実行ファイルを作ると、実行ファイル中にGECHOコマンドが取り込まれるため、実行時にGECHO本体が不要になる。(小泉)

●著作者: Paci(清水洋平) ●動作環境: PC-8801 ●バージョン: 0.04 ●アーカイブ: GECHO004.LZH ●登録先: ASCII (pool msdos) ●サポート先: ASCII (salon.pool)





西暦と和暦の変換など、年計算を実行

## age.com

TSR

DISK  
4

西暦と和暦の変換など年計算を行なうプログラム。

2つの年の間の計算は、西暦どうしなら簡単でも、西暦と和暦、あるいは、異なる年号の和暦と和暦だと、かなり面倒な作業である。また、西暦と和暦の間の変換もけっこう煩わしい。age.comを利用すれば、このようなややこしい年計算を手軽に行なうことができる。

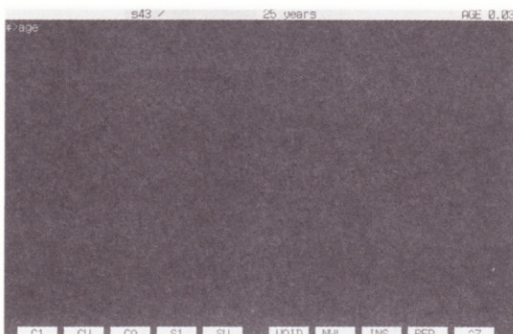
このプログラムは、通常のコマンドとしても、常駐コマンド(TSR)としても動作可能である。コマンドラインからオプションなしで起動すると、通常のコマンドとして起動し、画面最上部に専用ウィンドウが開く。専用ウィンドウには、右から「入力領域」「直前の入力データ」「計算結果」が表示される。年の入力形式は西暦と和暦が許されており、和暦は先頭に年号を表わすアルファベット1文字(M:明治、T:大正、S:昭和、H:平成)を付加する。続いて、“+” “-”をつけた整数値を付加することで、入力した年との間で加減算を行なうことができる。入力された年は、西暦/和暦/干支が表示される。また、“/”で区切って2つの年を入力すると、その2つの年の差が表示される。また、現在年との年数差、基準年を設定しておくことで、その年との年数差を求めることもできる。入力時にリターンキーのみを押すか、またはESCキーを押すと、プログラムが終了する。

常駐コマンドとして起動するためには、コマンドオプションとして“-Z”を指定する。常駐コマンドとして起動された場合は、以後、起動キー(デフォルトは「CTRL+SHIFT+HOME/CLR」、オプションで変更可能)を入力するたびに、専用ウィンドウが開かれる。また、“.”だけ、または“.”とアルファベット1文字を入力すると、入力結果を標準入力として取り入れることができる。“.”だけを入力した場合は西暦を、“.”に続いて年号を表わすアルファベットをつけた場合は和暦を、“E”を入力した場合は干支を取り出す。

常駐させるかどうかに関わらず、起動時オプションによってウィンドウ位置(最上行または最下行)/ウィンドウ表示色/基準年を変更できる。基準年は、デフォルトでは今年が選択される。基準年の指定は、入力ウィンドウで「@」を入力すれば変更可能である。

(東)

●著作者: T.SASA(笹哲彰) ●動作環境: PC-9801 ●バージョン: 0.03a ●アーカイブ: AGE003.LZH ●登録先: PC-VAN (CIARI), ASCII (pool msdos)



デバイスドライバの組み込みをメニュー形式で選択

## CHOICE-plus

TSR

DISK  
4

デバイスドライバの組み込みをMS-DOS起動時にメニューで選択して行なう、画期的なデバイスドライバセレクタ。

MS-DOSの起動時にはCONFIG.SYSの内容がメモリに読み込まれるが、特に「DEVICE=」で指定されるファイルをデバイスドライバという。いわゆる「キャラクタ型」デバイスドライバは、MS-DOS起動後にADDRVコマンドによって組み込むこともできるが、それ以外のデバイスドライバは、MS-DOSの起動時に組み込むしかない。

CHOICE-plusを利用した場合も、MS-DOSの起動時にデバイスドライバを組み込むことには変わりがないが、CONFIG.SYSに記述した複数のデバイスドライバの中から、実際に組み込むドライバをメニューで選択できるようになる。1つのCONFIG.SYSで何通りの環境構築が可能となるので、工夫次第でおもしろい使い方ができる。

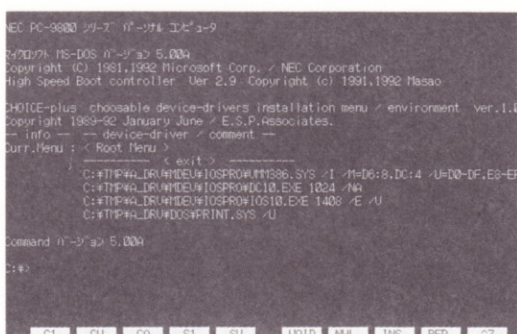
具体的には、組み込む予定のあるデバイスドライバをCONFIG.SYSの中に並べて記述し、その前後を「DEVICE=CHP.SYS」と「DEVICE=\*」で囲むだけでよい。囲まれた範囲内のDEVICE文にはいくつかの「拡張表記」が使える。例えば、1行のDEVICE文に複数のデバイスドライバを並べて指定できるので、常にセットで組み込むデバイスドライバはまとめて選択できる。また、DEVICE文中に「行オプション」を記述することで、メニュー選択時の動作を制御することができる。例えば、デバイスドライバの組み込みと同期してファイルを生じることができるので、特定のデバイスドライバの組み込みの有無を、そのファイルの有無で判断できるようになる(パッチファイルに利用できる)。

スイッチで待ち時間を指定することにより、選択メニュー表示後に一定時間キー入力が必要であれば、デバイスドライバの組み込みを行なわないようにも設定できる。

CHOICE-plusは、MS-DOS5.0のDEVICEHIGH文で組み込むデバイスドライバにも利用できる。また、DOS汎用ツールであるが、選択メニューでカーソル移動したり確定を行なうキーは、マニュアルに指示されたものを使うようにする。国産マシン以外では、キーボードがANSIエスケープシーケンスをサポートしている必要がある。

(小泉)

●著作者: January June ●動作環境: MS-DOS汎用 ●バージョン: 1.01 ●アーカイブ: CHP\_101.LZH ●登録先: NIFTY (FGALST/LIB6) ●サポート先: NIFTY (FGALST/MES8)





## CRD

TSR

DISK  
4

XMS2.0規格のドライバを利用したRAMディスクドライバで、コマンドラインからの追加や削除が自由に行える。

CRDを利用する場合、EMBファンクションを使えるXMSドライバをCONFIG.SYSに組み込む必要がある。身近な例としては、MS-DOS5.0AやWindows3.1に付属してくるHIMEM.SYSがあるが、市販のドライバを使うこともできる。

CRD本体はCRD.EXEというEXEファイルであり、デバイスドライバとしてCONFIG.SYSに組み込むほかに、コマンドラインから実行してRAMディスクを組み込むことができる。CRDのオプションは種類が多く、ほとんどがデバイスドライバ用と実行ファイル用とで共通になっている。

RAMディスクを組み込む際に、ドライブ番号や容量を任意に指定できる。また、クラスタサイズ、ルートディレクトリの最大エントリ数、ボリュームラベルなども指定できる(あとからの変更も可能)。さらに、既存のRAMディスクの内容を保存して起動する「ウォームブート(CRDではホットブート)」にも対応している。

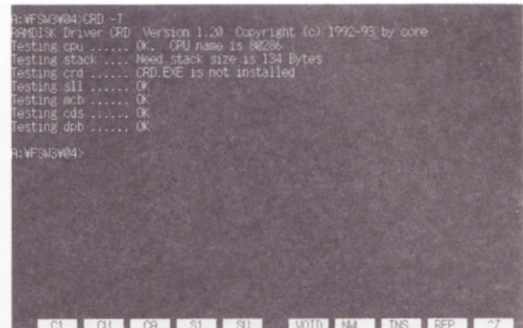
CRDの特長は、コマンドラインからRAMディスクを追加することにより、複数のRAMディスクが組み込めるという点だ。また、追加したRAMディスクを削除したり、既存の内容を保持できる範囲で最小のディスク容量に「縮める」ことができる。既存のRAMディスクの諸元を随時変更することも可能で、この場合も可能な限りRAMディスクの内容を保存する。

任意のRAMディスクにライトプロテクトを設定して読み込み専用のディスクにすることもできる。また、一時的にRAMディスクを解放する「イジェクト」機能を使えば、XMSメモリを使用するアプリケーションが起動できるようになる。イジェクト状態から復帰した際には、可能な限り以前の内容を復元することができる。

また、CRDでは「ダミーメモリ」をかませることにより、RAMディスクとして割り当てるメモリの位置(アドレス)を自由に調整することができる。例えば、スピードの異なるメモリボードを装着している場合、上位の高速メモリにFEPなどを優先的に配置するためには、その部分にダミーメモリを割り当てておけばよい。

(小泉)

●著作者: core(長村伸一) ●動作環境: MS-DOS汎用 ●バージョン: 1.20 ●アーカイブ: CRD120.LZH ●登録先: NIFTY(FGALST/LIB10) ●サポート先: NIFTY(FGALST/MES10)



## DOSHIGH

TSR

DISK  
4

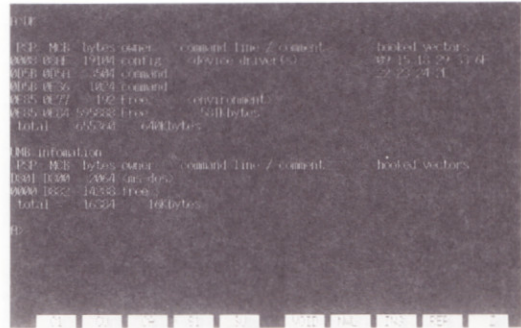
MS-DOS5.0で採用されているDOS=HIGH機能(HMA領域にMS-DOSシステムを転送する機能)をMS-DOS3.3で実現するプログラム。MS-DOS3.3xを使用しており、プロテクトメモリとXMSドライバが使用可能でCPUが80286以上の機種、もしくはUMBを作成することができるドライバが必要である(対応ドライバは後述)。

本プログラムは、CONFIG.SYS内で従来XMSドライバを定義していたDEVICE行とSHELL行とに本プログラムの指定を追加することで有効となる。MS-DOS5.0ではHMA領域にのみシステムを転送できるが、本プログラムでは、オプションによって、システムの移動先をHMA領域またはUMB領域に設定できる。通常はHMA領域に転送すればよいが、他のプログラムでHMAを使用するものがある場合にはUMB領域を選択する。本プログラムによって約33Kバイト分のシステム領域がHMA領域(またはUMB領域)に転送され、その分メインメモリに空きが生ずる。動作が確認されているXMSドライバはVEMS.DRV(メガソフト製)、MELEMM.SYS、MELEMM.386(メルコ製)、VEMM386.SYS(アイ・オー・データ機器製)などである。

なお、DOSHIGHのアーカイブには、ABF.COM(BUFFERS/FILES/LASTDRIVE領域をUMB領域に確保してメインメモリのバッファを解放)、DH.COM(MS-DOS5.0のDEVICEHIGHと同様にデバイスドライバをUMB領域にロードする)などのソフトも同梱され、いっしょに配布されている。

これらのコマンドを組み合わせることにより、MS-DOS3.3xでも、MS-DOS5.0と同じくらいのメインメモリ空間を使用できるようになる。筆者が実際に使用した結果では、本プログラムの利用により20Kバイト程度のフリーエリアを確保することができた(筆者の環境では、従来からvje-βがHMA領域を使用していたため)。現在までのところ、HMAに移動したことによる弊害は発生していない。デバイスドライバや常駐コマンド(TSR)を多く組み込んでいて、メインメモリのフリーエリアが気になる人にお勧めの一本である。ただし、設定にあたって若干のMS-DOSの知識が必要なので注意されたい。(東)

●著作者: Mr.No ●動作環境: PC-9801 ●バージョン: 0.13 ●アーカイブ: DOSHST13.LZH ●登録先: PC-VAN(DATABASE/3/5), NIFTY(FGALST/LIB8), MIX(long3/7soft) ●サポート先: PC-VAN(DATABASE/3/5), NIFTY(FGALST/MES8)





EMS方式のメモリを使用するRAMディスクドライバ

## ERDISK

TSR

DISK 4

セクタ長を変えられる、コンパクトで高速なEMSメモリ専用RAMディスクドライバ。

ERDISKはEMSメモリを利用したRAMディスクドライバで、ファイルサイズが4Kバイト足らずという超軽量ドライバだ。ERDISKはデバイスドライバとしてCONFIG.SYSに登録するが、その際に、各種のオプションによってRAMディスクの諸元を詳細に設定できる。RAMディスクの容量は、確保するEMSメモリのページ数(1ページ=16Kバイト)で指定し、同時に1セクタのバイト数や1クラスタのセクタ数を指定することができる。ERDISKの高速性を引き出すためにはクラスタサイズを大きく取るべきだが、小さなファイルをいくつも保存した場合はRAMディスクの使用効率が悪くなる。

このほかに、FAT数/予約セクタ数/隠しセクタ数を指定することができる。FATのセクタ数はクラスタ数に合わせて最小のセクタを確保し、クラスタ数に連動した16ビットFATにも対応している。

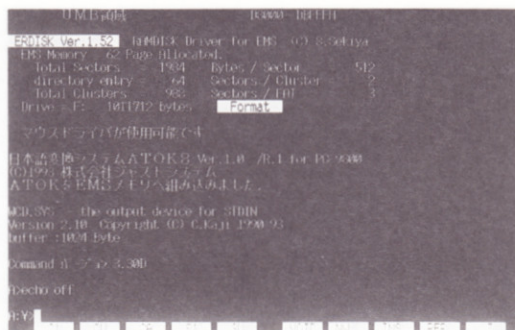
組み込むRAMディスクのドライブ番号は任意に指定できるが、組み込むRAMディスクは1つに限られる。また、指定したドライブ番号の前に8個未満の欠番が許され、ドライブ番号を特に指定しなければ、自動的に現在の接続ドライブの次の番号が指定される。

特にオプションを指定しなければ「ウォームブート」が可能で、既存のRAMディスクの内容を保存して起動する。オプションを指定することにより、起動時に強制的に初期化を行ったり、特定キー(例えばSHIFTキー)が押されていた場合に限り初期化を行なうことも可能。また、RAMディスクにアクセスする際に画面に点灯する「アクセスランプ」の表示の有無や表示位置を指定することもできる。

最近のアプリケーションの中には、EMSメモリに独自のバッファを設置するものがある。このため、EMSメモリに仮想設定されたRAMディスクへのデータ転送には障害が起こることもあるが、ERDISKではあらかじめドライブ内に「中間バッファ」を設けてこれに対応している。このような障害の心配がない場合は、中間バッファを使用しないようにすることでメモリ常駐量を減らすことができる。

(小泉)

●著作者: S.Sekiya ●動作環境: MS-DOS汎用(一部の機能はPC-9801のみ使用可) ●バージョン: 1.52 ●アーカイブ: ERD152.LZH ●登録先: NIFTY(FGALST/LIB10) ●サポート先: NIFTY(FGALST/MES10)



ウィンドウ枠の拡大/縮小をアニメーション表示

## kframe

TSR

DISK 10

Macintoshでは、フォルダを開いたり閉じたりする際に、ウィンドウフレームがアニメーション表示される。kframeは、それと同じことをWindows3.1上で実現するためのプログラムである。

このプログラムを起動すると、システムに常駐し、アイコン化される。この状態で、ウィンドウのアイコン化(Minimize)や、アイコンから元に戻す(Restore)操作を行なうと、ウィンドウ枠の移動に合わせて、フレーム枠がアニメーション表示されるようになる。

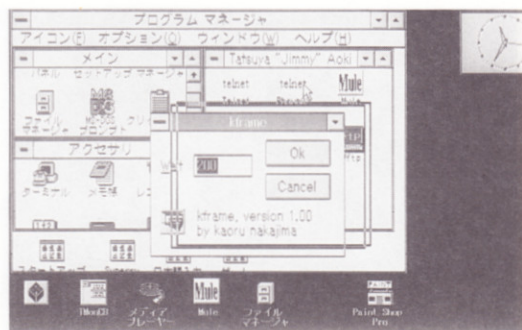
アイコン化されたプログラムを復元すると、ウィンドウ上にWait入力のボックスが表示され、ここでフレームを表示させる速度を指定することができる。Waitの値を大きくすると表示速度は遅くなり、フレームの描画がはっきり分かるようになる。高速な機種ของผู้用一は、この値を大きくするとよい。また、システムメニューからOptionsを選択することで、オプションダイアログを開くことができる。このダイアログボックスでは、フレームを描画する動作の指定(React:ウィンドウの移動/サイズ変更/最大化の指定が可能)、フレームの線の太さの変更(Thickness)、画面上で同時に表示されているフレームの数(Draw)の変更が行なえる。PC-9801のノーマルモードや、IBM-PCのVGAモードでは、Thicknessを「Narrow」にしておくとよいかもしれない。

プログラママネージャの登録時に、コマンドラインに起動時のオプションとして「-h」を指定しておくと、プログラム起動後に、このプログラム自身のウィンドウやアイコンが表示されなくなる。各種の設定が固まったら、プログラママネージャのスタートアップグループにプログラム名を「-h」オプションつきで登録しておけば、あたかもWindowsの基本機能のように見えるはずだ。ただし、この場合には、タスクマネージャ上にもプログラム名が表示されないの注意が必要(もう一度このプログラムを実行すれば、見えるようになる)。

ウィンドウを変化させるたびにフレーム枠が伸びたり縮んだりする様子はなかなかよいと思う。Windowsの使い勝手には関係ないかもしれないが、これはお勧めのプログラムである。

(東)

●著作者: olmy ●動作環境: Windows3.1以上 ●バージョン: 1.00 ●アーカイブ: KFRAME10.LZH ●登録先: NIFTY(FWINF), ASCII(pool windows, testlab) ●サポート先: ASCII(salon.pool, testlab.conf, misc)





## OKPP

TSR

DISK  
5

PC-9801で親指シフトキーボード環境を擬似的に実現する、作者こだわりの逸品で通称“親指びゅん”という。

親指シフトキーボードは富士通が開発した日本語入力用のキーボードであり、両手の親指にシフトキーが割り当てられているのが特徴である。このシフトキーと同時に文字キーを打鍵することにより、シフト状態のかなが入力される。広く普及しているJIS配列のキーボードに比べて、日本語入力の効率が低いといわれている。OKPPの作者自身、このキーボードの愛用者であり、やむにやまれぬ自作とあいなったようである。

OKPPは常駐コマンドであり、起動と同時に、親指シフトキーボードに準じたキーボード環境が実現される。元のキーボード配列に戻すには、解除オプションを指定して再起動すればよい。

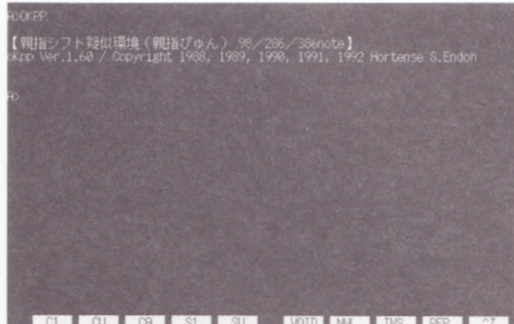
本来の親指シフトキーボードでは、キーボードの手前に2つの親指シフトキーが並んでいるが、PC-9801のキーボードにはこれに該当するキーはないので、NFERキーとスペースキーとで代用している。そのため、左親指と右親指のバランスが取りにくいという難点があるが、オプションで指定することにより、両シフトキーの役割をスペースキーで代用することも可能。この場合、濁音は別のキーによって入力する。

ほかのキーについても完全に親指シフトキーボードに準拠しているというわけではないが、慣れてしまえばそう不便なこともないだろう。記号を入力する際などで、従来の仕様では気に入らないという場合は、オプションによってキーの再定義も可能になっている。また、TABキーでカナシフトするオプションもある。

OKPPのアーカイブには「pt98」(T.Kajikawa氏、Hit-Min/H.Eura氏作)というキーボード練習ソフトが同梱されている。このソフトはOKPPとは直接の関係はないが、なかなか楽しめるプログラムである。天井から次々に落ちてくる文字列を見ながら、同じ文字列をキーボードから懸命に入力するゲームである。落下文字列の中で、入力した文字列に一致する部分があれば「撃ち落とされる」ことになるが、キーボードからの入力が間に合わなければ落下文字列の山ができてゲームオーバーになる。

(小泉)

●著作者: Hortense S. Endoh(バカババウエア) ●動作環境: PC-9801  
●バージョン: 1.60 ●アーカイブ: OKPP160.LZH ●登録先: ASCII  
(pool msdos), MIX (long2/pds5)

Q's MOUSE  
Device Driver

TSR

DISK  
5

アスキー版およびマイクロソフト版互換の常駐型マウスドライバ。

MS-DOSでは、アプリケーションに依存しない機能を、MS-DOS本体とは独立した「デバイスドライバ」という形式でメモリに組み込めるようになっている。MS-DOS本体があらゆる機能を持つのではなく、単機能のデバイスドライバを適宜メモリに組み込む方式になっていることのメリットは、ユーザーが好みのデバイスドライバを簡単に選択できること、使わない機能によってメインメモリが占有されるのを防止できることなどである。

デバイスドライバは、通常はアプリケーションとMS-DOSの間を取り持つような形で動作するため、ユーザーは特にその存在を意識する必要がない。マウスドライバもデバイスドライバの一種であり、MS-DOSでマウスを使用する際に必要である。

98用の主なマウスドライバには、NEC製のMS-DOSに付属するものと、マイクロソフトの製品に付属するものがあり、それ以外のマウスドライバのほとんどはどちらかの系統に属する。アスキーの製品に付属するマウスドライバはマイクロソフト製のマウスドライバと互換性を持っている。

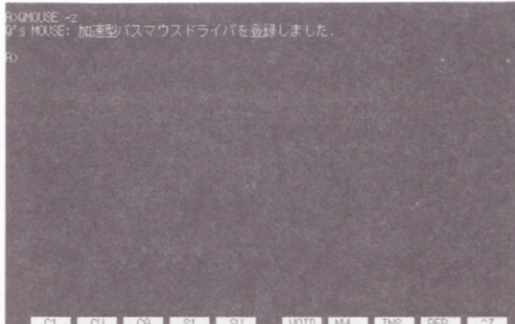
Q's MOUSEは、マイクロソフト/アスキー系のマウスドライバであるが、デバイスドライバではなく、常駐コマンドの形式になっている。そのため、コマンドラインから起動することにより、いつでも常駐したり常駐解除したりすることができるのは大きなメリットである。

Q's MOUSEの特徴としては、常駐させる際のオプション指定によって、加速型および左手用のマウスドライバとしても機能することがあげられる。加速型を指定すると、マウスを移動する速度によってマウスカーソルの移動範囲が異なるようになる。また、左手用を指定するとマウスボタンの左右が逆になるため、左手でマウスを操作する場合に便利である。

さらに、他のマウスドライバが組み込まれているかどうかを判別することもできるので、マウスドライバが組み込まれていない場合にのみ常駐する、というようなバッチファイルを作成するのも容易だ。

(青木)

●著作者: Q太郎(辻誠) ●動作環境: PC-9801 (VM以降またはハイレゾ機種  
のノーマルモード) ●バージョン: 2.08 ●アーカイブ: QMOUS208.LZH ●登録先: NIFTY (FGALST/LIB8) ●サポート先: NIFTY (FGALST/MES8)





プログラムをワンタッチで起動させる常駐型ローダ

## REX -Resident EXecuter-

TSR

DISK  
5

ユーザーによるオリジナルプログラムをワンタッチで起動するための常駐型ローダ。

REXをメモリに常駐させると、REXの規約に従って作成されたプログラム (REX常駐モジュール) を、特定のキー (ホットキーという) を押して起動させることができる。つまり、ホットキーで利用するメモリ常駐型のプログラムを手軽に作れるようにしたツールといえる。

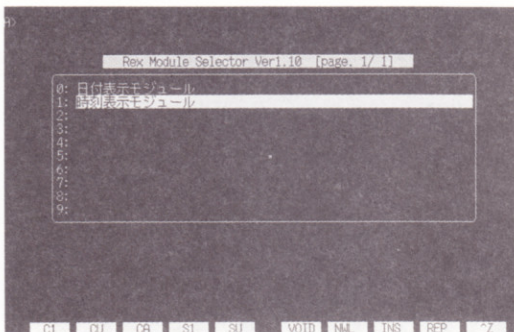
REXを利用するにはEMSメモリ (EMM Ver.4.0以降) が必要である。これは、REXの起動時にモジュールをEMSメモリ上に読み込み、指定されたホットキーが押された時点でモジュールを起動するようになっているためである。常駐させるモジュールやホットキーは、専用の定義ファイルに記述する (最大30件まで)。

各モジュールは、REXが提供するライブラリを利用することが可能で、このライブラリにある機能だけで画面やキーボードとの入出力処理を行なうようにすれば、マシンの機種を超えた汎用性のあるモジュールが作成可能である。また、同梱の「RexSel」というモジュールを定義ファイルに記述しておけば、これを起動することで常駐したモジュールの一覧が表示され、カーソル操作でモジュールを選択して起動させることができる (つまり、RexSelのホットキーだけを覚えておけば、他のモジュールのホットキーは忘れても安心ということ)。

REX用のモジュールの例としては、同じ作者の「IDPICK」「CRTCUT」や、K.South氏の「ddpad」などがある。IDPICKはネット上のIDからハンドルネームを取得するツール、CRTCUTは画面の文字データを範囲指定して切り出してファイル化するツール (グラフィックデータには対応していない) である。また、ddpadは、MS-DOSのプロセス間でテキスト画面の文字列をコピー&ペーストするツールで、カーソルキー操作で範囲選択した文字列をコピーすれば、異なる場面でこれを貼りつけることができる。ちなみに、CRTCUTで切り出したデータを画面に出力したり、ddpadでコピーした文字列を画面にペーストしたりする場合は、REXに同梱されているデバイスドライバ「WCD」 (くわじ氏作) を利用する。

(小泉)

●著作者: H.Yamanaka(ばるちゅす), ddpad: K.South ●動作環境: PC-9801 ●バージョン: 2.00D ●アーカイブ: REXN200D.LZH, DDPAD122.LZH, IDPX112.LZH, CRTC142.LZH ●登録先: NIFTY (FLABO/LIB2, FGALST/LIB8) ●サポート先: NIFTY (FLABO/MES3, FGALST/MES8)





# 常駐型日本語FEP起動キー 変更プログラム SIG.EXE

TSR

DISK  
5

日本語入力FEPの起動キーを、別のキーに変更する。  
日本語入力を伴うアプリケーションではFEPが必要不可欠であるが、FEPを起動するためのキーはたいいて「CTRL+XFER」か「NFER」となっている。最近のFEPの中には起動キーを変更できるものもあるが、すべてがそうであるとは限らない。2つのキーを同時に押してFEPを起動するという動作は、FEPを頻繁に起動／解除する必要があるときには不便を感じることがある。

SIG.EXEをオプションなしで起動すれば、CTRL+XFERとNFERの機能を「入れ替える」ことができる。逆に、起動キーCTRL+XFERの機能を変えないというオプションも指定できる。また、NFERで起動キーXFERのかわりをさせたり、XFERで起動キーCTRL+XFERのかわりをさせるというオプションも可能である。

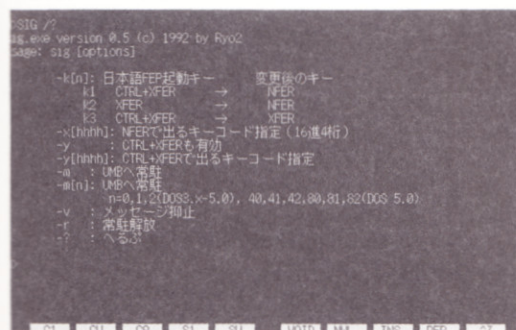
NFERまたはCTRL+XFERを、他の任意のキーのかわりに使うこともできる。この場合は、NFERやCTRL+XFERに代行させるキーのキーコードを、オプションに続けて4桁の16進数で指定する必要がある。ちなみに、任意のキーのキーコードは、同梱のKYECOD.COMを起動することにより、押下したキーのキーコードを画面で確認できる。

SIG.EXEは常駐コマンドであり、いったん実行しておけば、次に解除オプションつきで実行するまでの間、変更したキー操作が有効である。ただし、プログラムによっては、ハードウェアを直接操作してこの設定を解除してしまうことがあるので注意する。なお、SIG.EXEをUMB領域に常駐させるオプションを使えば、特別なUMBロードを必要とせずにUMB領域に読み込ませることができる。

SIG.EXEがメモリに常駐しているとき、SIG.EXEを必要に応じて実行することにより、「設定変更」ができる。

なお、NEC製のMS-DOSに付属している「AIかな漢字変換ドライバ(NECAI)」のユーザーには、専用のSIGN.EXEが用意されている。このプログラムは、自己展開型差分ファイル「SIGN.DIF.COM」として同梱されているので、SIG.EXEとSIG.DOCを同じディレクトリに置いて実行することでSIGN.DOCとともに生成される。(小泉)

●著作者: Ryo2(荒井良重) ●動作環境: PC-9801 ●バージョン: 0.5  
●アーカイブ: SIG85.LZH ●登録先: NIFTY (FGALST/LIB7), ASCII (pool msdos) ●サポート先: NIFTY (FGALST/MES7)



# Task Manager on the Caption Bar(TMonCB.EXE)

TSR

DISK  
10

Windowsアプリケーションの切り替えを、ポップアップメニューからワンタッチで行なう。

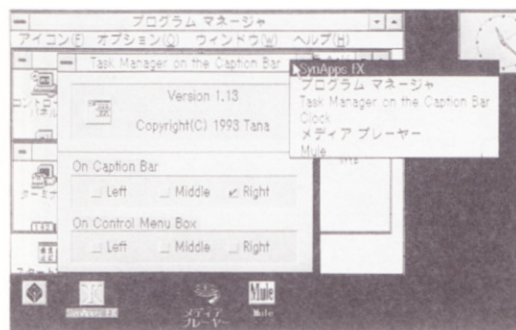
Windowsでは複数のアプリケーションを同時に起動できるが、起動中のアプリケーションを切り替える操作は意外に手間がかかる。切り替えるウィンドウの一部が見えているならこれをクリックすればよいが、アクティブウィンドウは最大化表示することが常である。マウスで切り替えるためには3回ものクリックが必要だし、CTRL+ESCというショートカットキーを利用するのも快適とはいえない。

TMonCB.EXEを利用すれば、アクティブウィンドウのタイトルバーあるいはコントロールメニューボックスをクリックするだけで、切り替え可能なアプリケーションの一覧がポップアップメニューとして表示され、目的のアプリケーションをクリックすることにより切り替えることができる。ポップアップメニューを表示するときにクリックする位置は、タイトルバーとコントロールメニューボックスのいずれか、あるいは両方を指定できる。また、クリックするマウスボタンは、左右あるいは真ん中から任意に指定できる。TMonCB.EXEはWindows起動時に実行して終了まで常駐させておく性格のものであるから、場合によってはWIN.INIファイル先頭の「load=」に登録しておくといだろう。

多くのWindowsアプリケーションではマウスの左ボタンをクリックする操作が使われているが、TMonCB.EXEのポップアップメニュー起動用に左ボタンを指定すると、本来の機能が使えなくなる。このため、ポップアップメニュー起動操作としては、タイトルバーを右ボタンでクリックするように指定しておくといだろう。なお、TMonCB.EXEはクローズしない限りは有効なので、通常はアイコン化しておけばよい。ちなみに、TMonCB.EXEを終了する場合はコントロールメニューボックスの「閉じる」をクリックする。

一般にWindowsアプリケーションでは、OLEやDDEといったデータリンクが利用できる。データを供給する側のサーバーアプリケーションの様子を、受け側にあたるクライアントアプリケーションから即座に確認したい場合などに便利なツールである。(小泉)

●著作者: 棚池博行(Tana) ●動作環境: Windows ●バージョン: 1.13  
●アーカイブ: TMCB113.LZH ●登録先: NIFTY (FWINF) ●サポート先: NIFTY (FWINF/MES5)





Windowsの文字列入力にヒストリー機能を追加

## Windows History

TSR

DISK  
10

Windowsの1行入力時にヒストリー機能を付加するソフト。Windowsの日本語版/英語版、Ver.3.0/3.1を問わず動作する。簡単なキー操作によって以前入力した内容呼び出すため、キーを叩く回数を大幅に減らすことができる。

マウス操作がメインのWindowsでも、グループ/アイコン登録時のタイトル入力や、ファイル名を指定して実行するときのコマンドラインなど、さまざまな場面で1行単位の文字列入力を求められる。標準の1行入力機能（エディットコントロール）では、ダイヤモンドカーソル（CTRL+S、CTRL+D）などのCTRLキーを使った操作はサポートしておらず、historyやKI-Shellでお馴染みのヒストリー機能もない。

Windows History (wh) を実行すると、エディットコントロールの機能を拡張してヒストリー機能やCTRLキーによるカーソル移動が可能になり、1行入力が求められるほとんどの場面でこれらの機能が利用できるようになる。

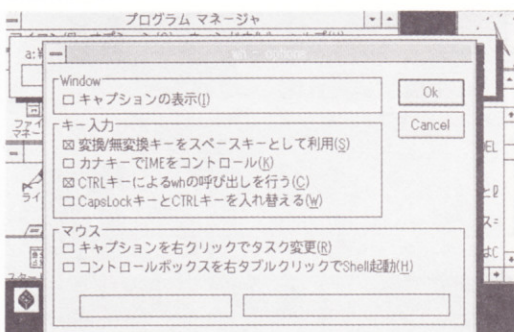
具体的には、CTRL+W（またはCTRL+↑）を押すと、以前入力した行の内容が次々にエディットコントロールに表示される。行きすぎたときはCTRL+E（またはCTRL+↓）によって逆方向に戻ることができる。先頭の何文字かを入力してからキーを押すと、その文字列で始まる入力行だけが検索される。

アイコン状態のwhをダブルクリックするか、CTRLキーを「とととん」と4回たたくと、簡易コマンドシェルを備えたwhのウィンドウが開き、MS-DOSのようにコマンドラインを記述して実行することができる。もちろん、コマンドライン入力中にはヒストリー機能やCTRLキーによるカーソル移動などを利用することが可能だ。

さらに、「Options>>」ボタンを押すと現われるオプション設定用ウィンドウで、「IMEオフの状態に変換/無変換キーをスペースとして使う」といった、ちょっと便利な機能を設定することができる。

Windows起動時にwhを自動的に組み込むには、Ver.3.1では「スタートアップ」グループにアイコンを登録、Ver.3.0ではWIN.INI中の[windows]セクションに、「load=wh.exe」と書いておけばよい。（大池）

●著作者：olmy ●動作環境：Windows3.1以上 ●バージョン：1.30 ●アーカイブ：WH130.LZH ●登録先：NIFTY (FWINF), ASCII (pool windows, testlab) ●サポート先：ASCII (salon.pool, testlab.conf.misc)



Windowsの使用時間を集計/表示

## WinLog.exe for Microsoft Windows

TSR

DISK  
10

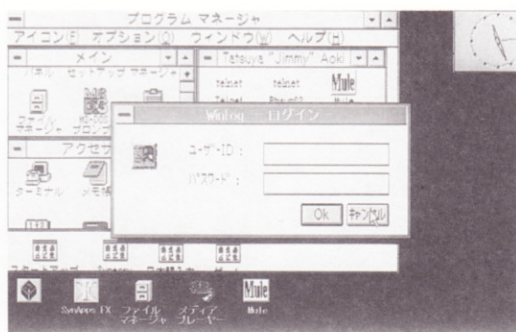
Windows上で動作する、使用時間集計プログラム。端末使用ユーザーの管理にも使える。

本プログラムをファイルマネージャやプログラムマネージャから起動すると、システムに常駐してアイコン状態で動作する。このプログラムは、起動時刻と終了時刻とをファイル(WINLOG.LOG)に記録するもので、プログラム起動中にアイコンタイトルとして使用時間を表示させることもできる。一度起動させると、Windowsを終了させない限り終了できないので、Windowsのスタートアップグループに登録してWindows起動時に自動的に起動させ、Windowsの使用時間を計測する用途で使用するのがよいだろう。アイコン状態のプログラムを復帰させると、現在の使用時間/現在までの総使用回数/使用時間/ラストログアウト時間などがダイアログボックスに表示される。また、メニューコマンドから選択できる機能として、Windowsをシャットダウンする機能やウィンドウロック機能が用意されている。ウィンドウロック機能は、例えば端末の前を離れるときに設定しておくことで、ロック時に設定したパスワードを入力するまで、Windowsの操作を行なえなくするものである。

このプログラムを端末使用ユーザーの管理プログラムとして動作させる場合は、Windows起動ディレクトリにユーザー管理用データファイル(WINPASWD)を格納する。このファイルがWindows起動ディレクトリに存在する場合には、プログラム起動時にログインダイアログが表示されるようになり、ユーザーIDとパスワードの入力を求めるようになる。このダイアログボックスで正しくログインできない場合は、フォーカスがほかに移動しないので、Windows自体の使用を制限することができる。このモードで動作中は、使用時間などの集計は各ユーザー単位で行なわれる。ユーザー名の登録などは、管理者属性を持つID（デフォルトではSYSOP）でログインした場合にのみ行なえる。

Windowsのスタートアップグループに登録して、ユーザー管理モードで動作させておけば、Windowsにユーザーセキュリティ機能が加わったことになるので、複数のユーザーで1つのマシンを共有するときに便利だ。（東）

●著作者：M.Okabe(うっほっほ) ●動作環境：Windows ●バージョン：1.4 ●アーカイブ：WINLOG14.LZH ●登録先：PC-VAN (WINDOWS/7/1) ●サポート先：PC-VAN (WINDOWS/3/3)





## WISER

TSR  
SHARE  
WAREDISK  
10

アプリケーション実行中にいつでも利用できるマルチタスクアクセサリ。シェアウェアであり、継続的に使用するには、個人利用の場合で3000円のレジストを支払う必要がある。

WISERは常駐コマンドであり、アプリケーションの実行中にCTRL+ROLLUPというキー操作で専用ウィンドウが開く。このウィンドウには「ページ画面」と「メニュー画面」があり、前者には各種情報が表示され、後者ではキーボードから文字列を入力する。ウィンドウの縦幅とその上下位置はキー操作で任意に変えられるので、起動中のアプリケーション（「表ソフト」という）の画面（「表画面」という）が見づらくなることはない。

WISERの大きな特長は「マルチタスク」機能で、ウィンドウで作業をしていても表ソフトは停止しないようになっている。この機能は、表ソフトとWISERの作業タイミングをうまくとることで、双方が同時に動いているように振る舞わせるものである。実際、かなり大きなアプリケーションとのマルチタスクも可能で、表ソフトとディスク上のファイルとの間のインターフェイスの役割を果たす。この際、ウィンドウを開いたまま表画面にカーソルを移す「すり抜けモード」により、表と裏の切り替えが瞬時に行なえる。さらに、各種のデータバッファを使って、表画面とウィンドウとの間で自由に文字列のカット&ペーストが行なえる。

ページ画面では任意のテキストファイルが閲覧できる。特に「固定ファイルチャンネル」を利用すれば、指定したファイルを瞬時に閲覧できる。また、WISER自身のオンラインヘルプも強力で、関連項目へのジャンプ機能によって徹底的な解説が行なわれる。

一方、メニュー画面では内蔵エディタによるメモの読み書きや簡易電卓が利用でき、これらの出力はワンタッチで表画面にペーストできる。さらにWISER独自の多彩な「特殊コマンド」を入力してこれを実行することもできる。

WISERは汎用性に富んだツールであり、裏を返せばある程度使いこなさないとその魅力に触れることができない。とりあえずは、同梱のREADMAN.BATを実行してWISERの基本的使用方法を体験することをお奨めする。（小泉）

●著作者：DAIKI(山崎秀) ●動作環境：PC-9801および互換機 ●バージョン：5.33 ●アーカイブ：WISER533.LZH, WPAST030.LZH, WSR0088.LZH, MTREE060.LZH, MBID010.LZH ●登録先：PC-VAN(CIARI/7/3), NIFTY(FGALSW/LIB5) ●サポート先：PC-VAN(CIARI/3/14), NIFTY(FGALSW/MES7)



## XRDISK.EXE

TSR

DISK  
5

XMS2.0規格のEMBメモリを利用した、デバイスドライバと実行ファイル兼用のコンパクトRAMディスクドライバ。

XRDISK.EXEをインストールするには、通常のデバイスドライバのようにCONFIG.SYSに組み込む方法と、コマンドラインからXRDISK.EXEを実行する方法とがある。また、XRDISK.EXEのファイルサイズは8.5Kバイト余りで、メモリ上の最小常駐サイズも400バイト足らず(MS-DOS5.0Aの場合)というコンパクトな設計になっている。

XRDISK.EXEを利用するには、プロテクトメモリのほかにEMBファンクション対応のXMSドライバが必要であり、CONFIG.SYSではXMSドライバのあとにXRDISK.EXEを登録する。XMSドライバとしては、MS-DOS5.0AやWindows3.1に付属しているHIMEM.SYSなどが利用できる。

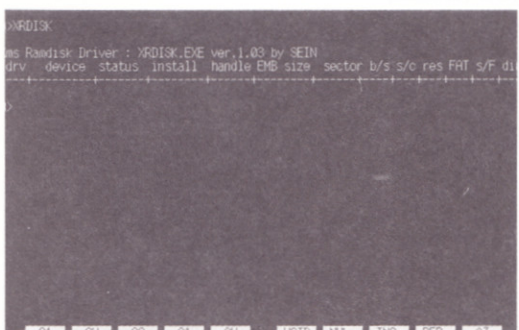
CONFIG.SYSによって組み込む場合は、「DEVICE=XRDISK.EXE」に続けて各種のオプションを指定する。強制的に初期化するオプションを指定しなければ、起動時に既存のRAMディスクの内容を保存する「ウォームブート」が利用できる。また、特定のキーを押しながら起動させた場合にのみ初期化を行なう「初期化ホットキー」も便利だ。

RAMディスクにはボリュームラベルを設定できるほか、ドライブ番号やディスク容量(20Kバイト以上)を任意に指定できる。途中で未登録のドライブ番号があってもよいが、実際に登録できるRAMディスクは1つである。さらに、必要に応じてルートディレクトリの最大エントリ数やクラスタ当たりのセクタ数も指定できる。

コマンドラインからXRDISK.EXEを実行して常駐させる場合も、CONFIG.SYSにXMSドライバを登録しておく必要がある。また、XRDISK.EXEをCONFIG.SYSで組み込んでいるときは、コマンドラインから追加することはできない。

いずれの方法で組み込んだ場合も、強制的初期化、容量の変更、最大エントリ数の変更、セクタ数の変更、ボリュームラベルの変更などが可能である。これらの操作はコマンドラインからXRDISK.EXEを実行して行なう。一時的にEMBを解放してRAMディスクを「SLEEP」状態にしたり、アクティブ状態に戻したりすることも可能である。（小泉）

●著作者：SEIN ●動作環境：MS-DOS汎用 ●バージョン：1.03 ●アーカイブ：XRD103.LZH ●登録先：NIFTY(FGALST/LIB10) ●サポート先：NIFTY(FGALST/MES10)





98のテキスト表示行数を25行以上に拡張

## 30行BIOS

TSR

DISK 5

98ノーマルモードのテキスト表示を25行以上に拡張する常駐ソフト。こうした拡張は「30行表示」と呼ばれる。

MS-DOSの内部コマンドをはじめ、MS-DOSの文字出力だけを使うツールはそのまま使えるし、日本語入力FEPやエディタなどのアプリケーションも、パッチ当てやオプション指定によって30行表示対応となる。フリーソフトのなかには、最初から30行表示に対応しているものも少なくない。

日本語入力FEPでは、WXII+が標準で30行表示に対応しているほか、ATOKはATOK30、VJE-βはvjepというパッチ当てツールを利用することによって、30行表示でも問題なく利用できることになる。

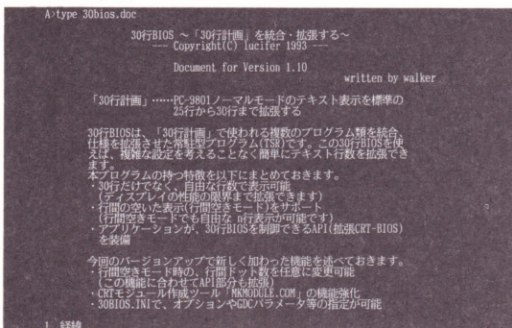
テキスト表示行数を拡張するためのソフトは、元祖「30行計画」をはじめとして、いくつか存在する。30行BIOSの特長は、画面行数が可変であること、行間空きモードを備えていること、アプリケーション側から設定変更を行なうのに便利なAPIを備えていること、ディスプレイに適合したパラメータの作成が可能なこと、などである。

使用しているディスプレイで表示可能な範囲内なら、自由に行数を変更することができる。垂直同期を調整することで、最近のディスプレイなら30行まではほぼ確実に対応でき、性能のよいものなら37行程度まで表示できる場合がある。拡張した行をそのまま利用するのもいいが、読みやすい行間空きモード(CTRL+I・6)もお勧めだ。

表示行数や行間空きモードなどの設定は、APIを利用してアプリケーション側から変更することもできる。すでにフリーソフトや一部市販ソフトには、このAPIを利用して行数の変更などを行なうソフトも登場している。

もし、標準の画面設定でうまくいかないときは、付属のMKMODULEというツールによって、自分のディスプレイに適合したCRTモジュールを作成するといふ。CRTモジュールは、30行BIOSの起動時に「-@」オプションで組み込むことができる。なお、30行BIOSはディスプレイの走査線数を増やすことによって行数を拡張しているため、液晶ディスプレイには対応できない。(大池)

●著作者: lucifer, walker, ATOK30: JARETH(市田俊彦), 30biosでVJE-βを利用するパッチ: 高崎(高崎伸裕) ●動作環境: PC-9801 (ハイレズを除く) ●バージョン: 1.10 ●アーカイブ: 30BIOS11.LZH, 30MKMD11.LZH, VZ30BIOS.LZH, AT30\_23.LZH, VJEP\_4.LZH ●登録先: MIX (long3/9soft), ASCII (pool msdos) ●サポート先: MIX (soft会談), ASCII (salon.pool)



98で画面に表示される行数を倍にする

## 49L.COM

TSR

DISK 5

PC-9801で49行表示させるためのプログラム。

Windowsなどのハイレズ表示と見比べてみると、伝統的な98の画面(80字×25行)の狭さが気になってくる人も多いだろう。広い画面が欲しければ、とりあえずWindowsに移行するというのも手だが、たとえ機種を買い換えなくても、Windowsやアプリケーションを購入したり、アクセラレータボードを積んだり、メモリやハードディスクを増強したり、という出費が必要になる。

そういう負担なしで、ソフトウェア的に表示行数を増やしてしまおう、という試みが最近いくつか行なわれている。本書に収録した30行BIOSもその1つであり、ここで紹介する49L.COMも同様である。

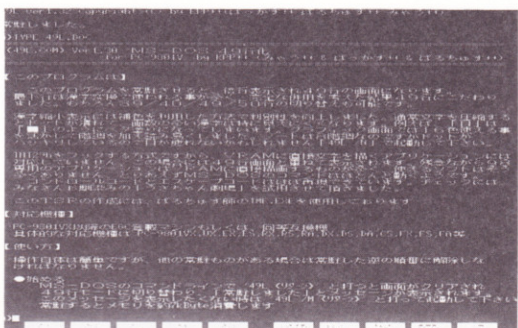
ディスプレイに送る信号を変化させて行数を増やす30行BIOSと違い、49L.COMでは1行の縦ドット数を16ドットから8ドット(つまり半分)に減らすことで表示行数を2倍にしている。したがって、使用するディスプレイに依存することなく、また、ノートパソコンの液晶ディスプレイでも確実に行数を増やすことができる。ちなみに、25行を2倍にしても50行にならないのは、日本語入力FEPが最下行を使用するため、ユーザーは実質49行しか使えないからだ。といっても、画面にはちゃんと50行表示される。もちろん、20行の2倍である39行(40行)モードでも使用可能だ。

さて、単純に1行を8ドットで表示すると、画数の多い文字(特に横線の多い文字)はつぶれて読めなくなってしまう。そこで、49Lでは補色を使用して文字の判別性を向上させている。表示された文字の細部をよく見ると、色が微妙に異なっているのが分かるはずだ。

注意してほしいのは、VRAMに直接文字を書き込むタイプのアプリケーションでは49行表示が不可能な点だ。このようなアプリケーションを起動すると、アプリケーションの画面と49行表示の画面が重なって表示されてしまう。一方、MS-DOSの通常の文字出力を使用したソフトウェアならば、どんなものでも49行表示が可能だ。

なお、ページのtlessなどいくつかのフリーソフトが、49L.COMを使った49行表示に対応している。(青木)

●著作者: KPP++(みやう++ & ばつ++ & ばるちゅ++) ●動作環境: PC-9801 (VX21以降) ●バージョン: 1.32 ●アーカイブ: 49L132.LZH ●登録先: NIFTY (FGALST/LIB7)





びゅうまるち

TSR

**DISK**  
**5**

PC-9801に内蔵されている漢字ROMは、「旧JIS」(’78年)に準拠しているが、最近の他の機種やプリンタは主に「新JIS」(’83年、’90年)に準拠した文字セットを採用している。旧JISと新JISとは、異体字の扱いや記号の種類が一部異なっているため、画面に表示した文字とプリンタに出力した文字の形状が違っていたり、パソコン通信経由で受け取ったテキストの中に表示できない文字があったりする。このプログラムは、PC-9801のユーザー定義文字機能を利用して、新JISのフォントを擬似的に表示するプログラムである。

このプログラムは常駐コマンド (TSR) とデバイスドライバを兼ねており、CONFIG.SYSの「DEVICE=」行にプログラムを登録するか、またはコマンドラインで実行することによって、メモリに常駐させることができる。

オプションでの指定によって、富士通のOASYS（専用ワープロ）で使用されているハートマークなど5種類の文字を表示させることもできる。また、まるもじフォントやMYFONTなど、他のプログラムで使用されているフォントファイルを利用して、それらのプログラムに特有の文字を表示させることも可能である（これらのフォントを表示させるには、別途それぞれのフォントファイルを入手する必要がある）。

このプログラムと同等の機能を有するプログラムはすでにいくつか公開されているが、「びゅうまるち」の最大の特長は対応ソフトの多さである。標準出力に出力された文字はもちろん、MIFESやVZのように文字を直接VRAMに書くプログラムでも、強引に変換することができる。

また、変換モードの指定が可能になっており、ノーパワー（変換しない）／ハーフパワー／フルパワーが選択できる。これは、日本語入力FEPの単語登録などを行なう場合に、画面上で変換されたデータを取り込んで登録すると問題があるためで、この場合にはノーパワーを指定してから単語登録すればよい。

実際、この原稿を書く際に「びゅうまるち+まるもじフォント」を常駐させてみたが、日本語入力FEP上の文字までが変換されて表示されるのには、新鮮な驚きがあった。通常のフォントに飽きている向きにはお勧めできる。 (東)

●著作者: みこたん ●動作環境: PC-9801 ●バージョン: 5.1.0 ●アーカイブ: VM510.LZH ●登録先: PC-VAN (CIARI), NIFTY (FLABO/LIB1, FGALST/LIB7), ASCII (pool msdos)

```

MitoTools (R) Jisyo/Oasy/FonTest(TounMode) Version 2.00 (Code/NITS/SJits)

      II 7630/EFBE 7670/49/EBE 067650/EBCE 767660/VEBE 767670/VEBE
      767680/VEBE 767690/VEBE 767700/VEBE 767710/VEBE
      767620/EFB0 IV7632/EBD 767640/EBD 767652/EBD 767662/EBE 767672/EFB0
      767682/EFB1 IV7633/EBE1 767643/EBE1 767653/EBE1 767663/VEE1 767673/EFB1
      767684/EBD2 IV7634/EBE2 767644/EBD2 767654/EBD2 767664/EBE2 767674/EBE2
      767685/VEB5 IV7635/EBE5 767645/EBD5 767655/EBD5 767665/EBE5 767675/EBE5
      767686/VEB6 IV7636/EBE6 767646/EBD6 767656/EBD6 767666/EBE6 767676/EBE6
      767687/VEB7 IV7637/EBE7 767647/EBD7 767657/EBD7 767667/EBE7 767677/EBE7
      767688/VEB8 IV7638/EBE8 767648/EBD8 767658/EBD8 767668/EBE8 767678/EBE8
      767689/VEB9 IV7639/EBE9 767649/EBD9 767659/EBD9 767669/EBE9 767679/EBE9
      767690/VEB0 IV7640/EBE0 767650/EBD0 767660/EBE0 767670/EBE0
      767691/VEB1 IV7641/EBE1 767651/EBD1 767661/EBE1 767671/EBE1
      767692/VEB2 IV7642/EBE2 767652/EBD2 767662/EBE2 767672/EBE2
      767693/VEB3 IV7643/EBE3 767653/EBD3 767663/EBE3 767673/EBE3
      767694/VEB4 IV7644/EBE4 767654/EBD4 767664/EBE4 767674/EBE4
      767695/VEB5 IV7645/EBE5 767655/EBD5 767665/EBE5 767675/EBE5
      767696/VEB6 IV7646/EBE6 767656/EBD6 767666/EBE6 767676/EBE6
      767697/VEB7 IV7647/EBE7 767657/EBD7 767667/EBE7 767677/EBE7
      767698/VEB8 IV7648/EBE8 767658/EBD8 767668/EBE8 767678/EBE8
      767699/VEB9 IV7649/EBE9 767659/EBD9 767669/EBE9 767679/EBE9
      767700/VEB0 IV7650/EBE0 767660/EBD0 767670/EBE0
      767701/VEB1 IV7651/EBE1 767661/EBD1 767671/EBE1
      767702/VEB2 IV7652/EBE2 767662/EBD2 767672/EBE2
      767703/VEB3 IV7653/EBE3 767663/EBD3 767673/EBE3
      767704/VEB4 IV7654/EBE4 767664/EBD4 767674/EBE4
      767705/VEB5 IV7655/EBE5 767665/EBD5 767675/EBE5
      767706/VEB6 IV7656/EBE6 767666/EBD6 767676/EBE6
      767707/VEB7 IV7657/EBE7 767667/EBD7 767677/EBE7
      767708/VEB8 IV7658/EBE8 767668/EBD8 767678/EBE8
      767709/VEB9 IV7659/EBE9 767669/EBD9 767679/EBE9
      767710/VEB0 IV7660/EBE0 767670/EBD0 767700/VEB0
      767711/VEB1 IV7661/EBE1 767671/EBD1 767701/VEB1
      767712/VEB2 IV7662/EBE2 767672/EBD2 767702/VEB2
      767713/VEB3 IV7663/EBE3 767673/EBD3 767703/VEB3
      767714/VEB4 IV7664/EBE4 767674/EBD4 767704/VEB4
      767715/VEB5 IV7665/EBE5 767675/EBD5 767705/VEB5
      767716/VEB6 IV7666/EBE6 767676/EBD6 767706/VEB6
      767717/VEB7 IV7667/EBE7 767677/EBD7 767707/VEB7
      767718/VEB8 IV7668/EBE8 767678/EBD8 767708/VEB8
      767719/VEB9 IV7669/EBE9 767679/EBD9 767709/VEB9
      767720/VEB0 IV7670/EBE0 767680/EBD0 767710/VEB0
      767721/VEB1 IV7671/EBE1 767681/EBD1 767711/VEB1
      767722/VEB2 IV7672/EBE2 767682/EBD2 767712/VEB2
      767723/VEB3 IV7673/EBE3 767683/EBD3 767713/VEB3
      767724/VEB4 IV7674/EBE4 767684/EBD4 767714/VEB4
      767725/VEB5 IV7675/EBE5 767685/EBD5 767715/VEB5
      767726/VEB6 IV7676/EBE6 767686/EBD6 767716/VEB6
      767727/VEB7 IV7677/EBE7 767687/EBD7 767717/VEB7
      767728/VEB8 IV7678/EBE8 767688/EBD8 767718/VEB8
      767729/VEB9 IV7679/EBE9 767689/EBD9 767719/VEB9
      767730/VEB0 IV7680/EBE0 767690/EBD0 767720/VEB0
      767731/VEB1 IV7681/EBE1 767691/EBD1 767721/VEB1
      767732/VEB2 IV7682/EBE2 767692/EBD2 767722/VEB2
      767733/VEB3 IV7683/EBE3 767693/EBD3 767723/VEB3
      767734/VEB4 IV7684/EBE4 767694/EBD4 767724/VEB4
      767735/VEB5 IV7685/EBE5 767695/EBD5 767725/VEB5
      767736/VEB6 IV7686/EBE6 767696/EBD6 767726/VEB6
      767737/VEB7 IV7687/EBE7 767697/EBD7 767727/VEB7
      767738/VEB8 IV7688/EBE8 767698/EBD8 767728/VEB8
      767739/VEB9 IV7689/EBE9 767699/EBD9 767729/VEB9
      767740/VEB0 IV7690/EBE0 767700/EBD0 767730/VEB0
      767741/VEB1 IV7691/EBE1 767701/EBD1 767731/VEB1
      767742/VEB2 IV7692/EBE2 767702/EBD2 767732/VEB2
      767743/VEB3 IV7693/EBE3 767703/EBD3 767733/VEB3
      767744/VEB4 IV7694/EBE4 767704/EBD4 767734/VEB4
      767745/VEB5 IV7695/EBE5 767705/EBD5 767735/VEB5
      767746/VEB6 IV7696/EBE6 767706/EBD6 767736/VEB6
      767747/VEB7 IV7697/EBE7 767707/EBD7 767737/VEB7
      767748/VEB8 IV7698/EBE8 767708/EBD8 767738/VEB8
      767749/VEB9 IV7699/EBE9 767709/EBD9 767739/VEB9
      767750/VEB0 IV7700/EBE0 767710/EBD0 767740/VEB0
      767751/VEB1 IV7701/EBE1 767711/EBD1 767741/VEB1
      767752/VEB2 IV7702/EBE2 767712/EBD2 767742/VEB2
      767753/VEB3 IV7703/EBE3 767713/EBD3 767743/VEB3
      767754/VEB4 IV7704/EBE4 767714/EBD4 767744/VEB4
      767755/VEB5 IV7705/EBE5 767715/EBD5 767745/VEB5
      767756/VEB6 IV7706/EBE6 767716/EBD6 767746/VEB6
      767757/VEB7 IV7707/EBE7 767717/EBD7 767747/VEB7
      767758/VEB8 IV7708/EBE8 767718/EBD8 767748/VEB8
      767759/VEB9 IV7709/EBE9 767719/EBD9 767749/VEB9
      767760/VEB0 IV7710/EBE0 767720/EBD0 767750/VEB0
      767761/VEB1 IV7711/EBE1 767721/EBD1 767751/VEB1
      767762/VEB2 IV7712/EBE2 767722/EBD2 767752/VEB2
      767763/VEB3 IV7713/EBE3 767723/EBD3 767753/VEB3
      767764/VEB4 IV7714/EBE4 767724/EBD4 767754/VEB4
      767765/VEB5 IV7715/EBE5 767725/EBD5
```

準備ができたならどれかキーを押してください。

## Windowsのファイルマネージャの機能を拡張

## ファイルマネージャ 拡張メニュー

TSR SHAREWARE

**DISK  
10**

Windows3.1にビューワ機能とアーカイブ機能を組み込んで、“Windows版FD”的に使えるソフト。シェアウェアであり、継続的に使用するには、個人利用の場合で1000円のレジストを支払う必要がある。

Windows3.1のファイルマネージャは、従来のものと比べれば多少よくなったものの、相変わらず使い勝手の悪さが指摘される。特に「FD」(出射厚氏作)などのMS-DOS版ファイル愛用しているユーザーにとっては、ファイルのアーカイブ操作が面倒なのはなんとかしてほしいところだ。

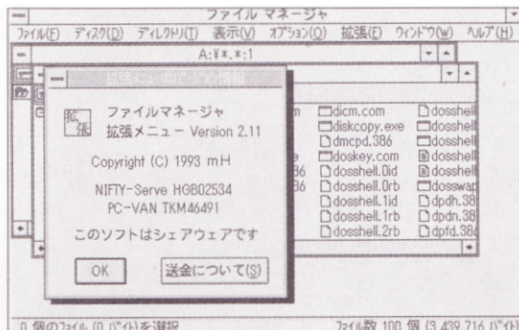
ファイルマネージャ拡張メニューをインストールすると、ファイルマネージャのメニューバーに「拡張 (E)」というメニューが追加される。このメニューを開くと、「タイムスタンプの変更」「ビューワ」「アーカイブ操作」「メモリ情報の表示」などの機能が利用できる。アーカイブ操作は、Windows3.1上のアーカイバ「LHA. DLL」(Rhizome Project作、本書に収録)を呼び出して行なうが、圧縮/展開/リスト表示などをファイル一覧と連動して簡単に実行できる。当然のことながら、LHA. DLLがバスの通ったディレクトリにあり、アーカイブ操作に必要な作業領域が十分確保される必要がある。

「CTRLキー+クリック」あるいは「SHIFTキー+ドラッグ」というマウス操作で複数のファイルを選択しておけば、これらを一括してアーカイブできる。この際、「参照 (B)」ボタンをクリックすると、圧縮先ファイルをダイアログボックスでワンタッチで選べる。展開やリスト表示は、1つのアーカイブファイルを選択して行なう。展開作業では、展開先をフルパス名で指定する。リスト表示では、アーカイブ内のファイル一覧を表示するが、必要に応じてワイルドカードを指定すれば、該当するファイルだけの一覧も表示できる。いずれの作業においても、実行結果はウィンドウ表示され、必要に応じて「コピー (C)」ボタンでクリップボードに複写できる。

テキストファイルを選択してビュー機能を実行すれば、専用ウィンドウに内容が表示され、必要に応じてこの内容をクリップボードに複写できる。メモリ情報表示を実行すれば、各種のメモリ状況を一覧できる。珍しい機能としては、各モジュールのメモリ使用量一覧を表示できる。

(小泉)

●著作者: mH(広山雅明) ●動作環境: Windows3.1以上 ●バージョン: 2.11 ●アーカイブ: FMEXM211.LZH, LHDL110.LZH ●登録先: PC-VAN (WINDOWS/7/1), NIFTY (FWINF/LIB5) ●サポート先: NIFTY (FWINF/MES5)





バックグラウンドエディタを内蔵した通信ソフト

## EasyTERM

COM

DISK 5

並列動作するエディタを内蔵した、高性能で使いやすい通信ソフト。

オートダイアルやテキストファイルの送受信はもちろん、オートログイン、バックスクロール、外部のプロトコル対応ソフトの自動起動、EMS対応、電話料金計算など、機能は市販の通信ソフトにひけをとらない。また、30行BIOS (lucifer氏作、本書に収録) にも対応している。

最大の特長は、なんといってもバックグラウンドで動作する内蔵エディタを備えていること。ファイルをアップロード/ダウンロードしている最中に、エディタで文章を編集できる。

また、オートダイアルもバックグラウンド動作が可能なので、接続するまで文章を読んだり、ゲームで遊んでいることができる。同じ番号にリダイヤルするだけでなく、選択した複数の番号に順次ダイヤルするマルチダイヤルも装備している。

通信中の操作は、ファンクションキーなどの特殊キーを押すか、ESCキーと内部コマンド (1文字) を入力することで行なう。メニュー選択方式と比べるととちょっと大変だが、慣れればこちらのほうが素早く操作できる。

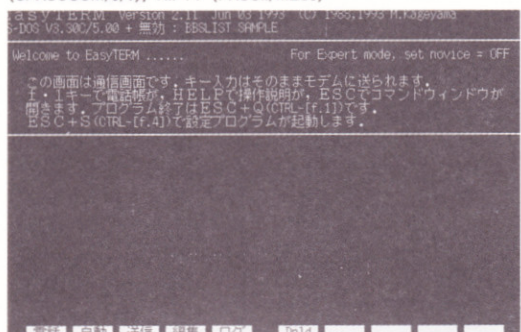
通信速度や回線種別、モデムの初期化コマンドなどの初期設定や、電話番号/ID/パスワード/ログイン手順などBBSごとの設定は、いずれもBBSリストファイル (ET.DAT) に書かれている。このファイルを変更するには、ETSETという専用ツールを利用する。対話的な操作で設定できるので、初心者やET.DATの書式に慣れていない人でも簡単に内容を変更できる。ファイル自体はテキストデータなので、慣れたらエディタを使って直接変更してもよい。

このほか、オープニング画面を表示するET.COM、スクロールバッファやエディタバッファをEMSメモリに確保するETEMSといったツールが付属する。

搭載しているマクロ (バッチ) は、ローカル変数や再帰呼び出しが使えなどかなり本格的なもので、オートログインはもちろん、ログアウトまでの処理を自動化することも可能だ。指定した時刻まで実行を停止するオプションも用意されているので、電話料金の安い深夜に無人運転を行なうこともできる。

(大池)

●著作者: Jack (薩山雅昭) ●動作環境: PC-9801 (ハイレゾを除く)  
●バージョン: 2.11 ●アーカイブ: ETSEX211.LZH, ETDOC211.LZH, ETEMS200.LZH, ETOPN08.LZH, ETSET02B.LZH ●登録先: PC-VAN (SPASOCOM/7/1), NIFTY (FASCII/LIB5) ●サポート先: PC-VAN (SPASOCOM/3/1), NIFTY (FASCII/MES3)



NIFTYのオートパイロットを実現するWTERM用マクロ

## NIFMCR3

COM

DISK 5 DISK 6

NIFTY-Serveでオートパイロットを実行するための、WTERM用マクロプログラム。

NIFMCR3は、「WTERM」(H.INOUE氏、TOMTOM氏作、本書に収録) 用のマクロ「NIFMCR.MAC」と、WTERM起動用の実行ファイル「NIFMCR.EXE」からなる。

NIFMCR3の基本的な機能はフォーラムの自動巡回であり、この過程で会議室の読み出し/発言、ライブラリのリスト取得/ダウンロードを行なう。また、メールの送受信やホームパーティー/パティオの巡回/発言も行なう。

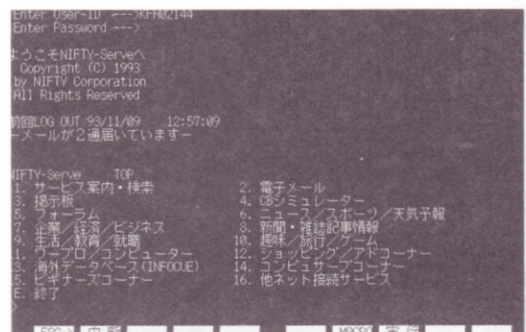
このようなオートパイロットは、WTERMのマクロプログラムを組みれば可能だが、NIFMCR3を利用すれば初心者でも簡単に実現できる。具体的には、NIFMCR3用のマクロ命令で記述した「実行指示ファイル」を作り、これをNIFMCR.MACと同じディレクトリに置いて、NIFMCR.EXEを実行する。この際、NIFMCR.EXEの引数として、WTERMのBBSリストのNIFTY-Serveに登録した番号を指定する。NIFMCR.EXEは簡単な前処理を行なった後にWTERMを起動し、実行指示ファイルに記述された内容に従ってオートパイロットを実行する。簡単にいえば、NIFMCR.MACは実行指示ファイルの内容をWTERMのマクロ機能に引き渡す役目をしてるのである。

NIFMCR3の実行指示ファイルは3種類からなり、フォーラム巡回前の処理 (ライブラリの新着リストを取得するなど)/巡回中の処理/巡回後の処理 (課金リストを取得するなど) を別々のファイルに記述する。フォーラム巡回中の処理では、フォーラム名に続いて巡回する会議室番号や巡回する曜日を指定することができる。これらのほかに、「ポストファイル」というファイルを作ることで、会議室での発言やメールの送信を行なうことができる。また、「巡回グループ」を指定することにより、ユーザーが登録しているフォーラムをグループ化して、まとめて巡回させることができる。

WTERMのマクロプログラムを直接記述する場合ほどの複雑な処理は望めないが、フォーラムの巡回やメールの処理を日常的に行なっているユーザーにとっては便利なツールである。

(小泉)

●著作者: 安富伸浩 ●動作環境: WTERMの動作する環境 ●バージョン: 3.12 ●アーカイブ: NIFMCR3C.LZH, WP916SP.LZH ●登録先: NIFTY (FGALWT/LIB4) ●サポート先: NIFTY (FGALWT/MES5)





# NIFP (NIFTYログ専用簡単ページャ)

COM

DISK  
5

NIFTY-Serve専用のログブラウザ兼ログカッター。未処理の生ログをそのまま処理できるため、初心者にも使いやすい。

通信記録をファイルに保存したものをログというが、特に手を加えていないものを「生ログ」という。生ログにはネットからの「決まり文句」やコマンドのやり取りなども記録されているため、そのままでは見づらい。そこで、通常はメールやフォーラムごとに切り分けたファイルを作り、さらに各フォーラム用のファイルを会議室ごとのファイルに分割して必要な部分だけを選んで閲覧する。ログを各ファイルに切り分けるプログラムを「ログカッター」といい、ファイルの内容を閲覧するプログラムを「ログブラウザ」という。

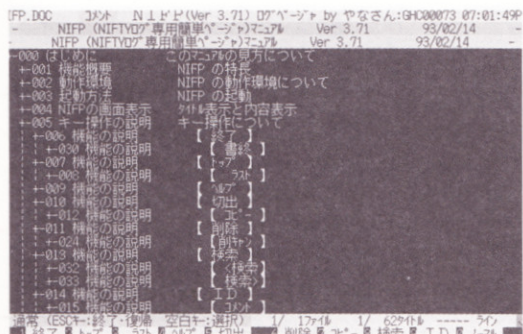
NIFPは生ログのままでフォーラムや会議室ごとの閲覧が可能なログブラウザである。また、NIFP自身にログカッターの機能があり、特にファイル化の必要がある部分を任意に切り取ることもできる。

生ログファイル名を指定してNIFPを起動すると、ネットのサービスが画面にタイトル表示される(書籍でいえば目次ページに当たる)。起動時には、生ログを最後まで読み込むため、ファイルの大きさによっては待ち時間があるが、高速モードに設定すれば画面表示に必要な範囲だけを読み込んでタイトル画面が表示される。

各フォーラムの会議室での発言については、発言者とタイトルだけの一覧が表示され、カーソルキーで選択してリターンキーを押せばその内容を閲覧できる。画面を「コメントモード」に切り替えと、会議室における発言の相互関係がツリー表示され、「誰の発言に誰が答えている」という関係が一目で分かるようになる。また「IDモード」にすると、特定会員の発言だけを一覧表示したり、同一会員の発言に関係する発言をツリー表示することができる。さらに、検索機能による「絞り込み表示」を利用すれば、いくつかの条件に合ったタイトルだけを一覧表示できる。NIFPでは、タイトルと内容の両面から検索が行なわれ、「AND検索」や「OR検索」をうまく利用すれば、条件に当てはまるタイトルを容易に探し出せる。

添付のドキュメントファイルをNIFPによって閲覧すれば、読みやすいオンラインヘルプとして使える。(小泉)

●著作者：やなさん(柳田繁樹) ●動作環境：PC-9801 ●バージョン：3.71 ●アーカイブ：NIFP371.LZH, NIFP371D.LZH ●登録先：NIFTY (FGALTM/LIB1) ●サポート先：NIFTY (FGALTM/MES7)



# air craft

COM

DISK  
5

NIFTY-Serve専用的高速オートパイロットシステム。

「air craft」は「Program of the air」(以下「air」と略記)と「craft」という2つのソフトの総称である。前者は通信用の基本OSという性格を持ち、後者はその上で動作する通信環境構築アプリケーションといえる。

craftはNIFTY-Serve専用のソフトであるが、「統合された通信環境の構築」という目的を持っており、単なる通信ソフトの枠には収まらない。手近な使い方としてはcraftによるオートパイロット機能があげられる。これは、ネットへのログインからログアウトまでをすべて自動化する機能で、ファイルのアップロードやダウンロード、フォーラムなど各種サービスの巡回、メールの送信や受信などをcraft自身が行なってくれる。操作内容があらかじめ決まっている場合は、この機能を利用することによって時間と手間と経費を節約できる。

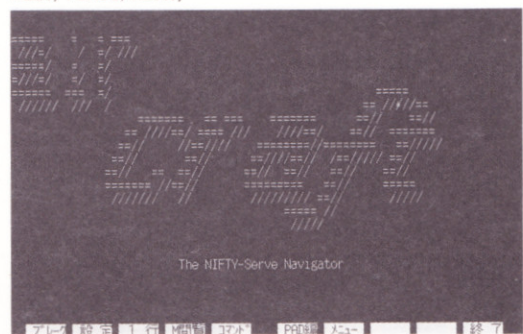
巡回リストを定義しておくことで、会議室や掲示板の読み取りを定期的に行なうことができる。また、各種のコマンドを記述したPADファイルを利用すれば、これらのコマンドを一括処理することができる。

オートパイロット機能は、他の通信ソフトではマクロプログラムを組んで実現するものだが、craftの場合は会話形式で必要事項を入力していくだけの簡単操作で利用できる。また、モデムやダイヤルリストなどの設定もすべてメニュー形式で行なうことができる。

オンライン状態での支援機能も豊富で、ファイルのダウンロードやリアルタイム会議などで大いに重宝する。さらに、巡回中に読み出した内容は、会議室や掲示板ごとに分割されたログファイルとして保存され、外部ブラウザを起動していつでも閲覧できる。ちなみに、craftからは外部プログラムを実行することが可能で、ログブラウザのほかにエディタや転送プログラム(例えば、同じ作者による「BPA」)などを登録しておくことができる。

craftはNIFTY-Serve専用という特殊性を持つが、それゆえに完成度の高いソフトであるといえる。パワーユーザーにとっては汎用性のあるマクロなどの利用が望まれるだろうが、今後の発展が大いに期待できる秀作だ。(小泉)

●著作者：DUDE(飯塚豊), craft: Black bird(原作), B-Plus for air: Yoshi(原作) ●動作環境：PC-9801 ●バージョン：1.20 ●アーカイブ：AIR120.LZH, CRAFT152.LZH, BPA010A2.LZH ●登録先：NIFTY (FLABO/LIB2, FGALTM/LIB4) ●サポート先：NIFTY (FGALTM/MES4, FLABO/MES16)





初心者でも安心して使える「定番」通信ソフト

## WTERM

COM

DISK 6

いまや国内のネットワークの間で定番となった傑作通信ソフト。

作者の言葉によれば、「初心者から精通者まで誰でも簡単操作のWTERM」が開発の基本コンセプトであり、ベテランネットワークのアイデアと工夫が凝縮された逸品である。WTERMは長年にわたって多くのユーザーに育まれたという経緯があり、それに応える形で作者の誠意あるサポートが続けられている。各社のパソコンに対応するバージョンが豊富に用意されており、実質的にどのマシンでも使えるソフトといえる。また、WTERMがサポートしているモデムの種類も数多く、それぞれのモデムを使う場合についてマニュアルに丁寧な解説もあるので、初心者でも安心して導入できる。

WTERMは単一の実行ファイルであり、これを起動するだけで使えるので、特別なインストールは不要である。モデムの設定やBBSリストへの登録についても、ほとんどの部分が選択肢に答えるだけでよく、主要なネットへのオートログイン文字列はメニューから選択できる。仮に導入段階でトラブルが起きた場合でも、マニュアルに掲載されている「Q&A」など至れり尽くせりの解説でほとんど解決できるはずだ。

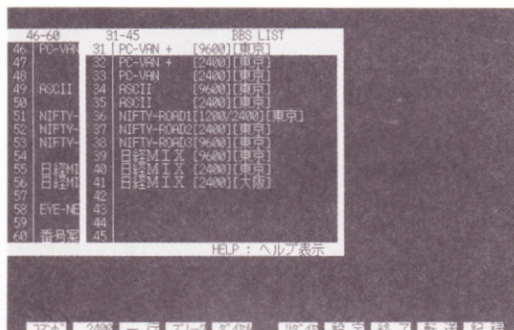
フリーソフトなどのバイナリファイルの転送には特殊なプロトコルが使われるが、WTERMではこれらをメニューから選べる。ちなみに、本書に収録したWTERM SUPER版は、各種の転送プログラム(ZMODEM、MLINK、TransIt、B Plus)を内蔵したバージョンである。

通信中の記録はログファイルに保存することができ、ワンタッチで外部エディタによる編集が可能だ。また、登録した外部プログラムをメニューから選択して実行したり、一時的にMS-DOSのコマンドレベルに入ったりすることもできる。

プログラミングの経験者にとっては、複雑なオートパイロットも実現できる強力なマクロ機能が魅力だろう。

WTERMの機能は非常に充実しているが、運用中の画面にはその複雑さが感じられない。WTERMの初心者から中級者に移行するにつれて、膨大だがしっかりしたマニュアルから自分に必要な機能を順次学んでいくことができるのも特長である。(小泉)

●著作者: H.IINOUE(井上博嗣), TOMTOM(関口潔) ●動作環境: PC-9801 ●バージョン: 9.16SUPER版 ●アーカイブ: WP916SP.LZH, WTD0C511.LZH ●登録先: PC-VAN (WTERM/7/1), NIFTY (FWTERM) ●サポート先: PC-VAN (WTERM/3/2), NIFTY (FWTERM)



Windows用高速/高機能通信ソフト

## 秀Term for Windows

COM

SHARE WARE

DISK 10

Windows3.1上で動作する高速・高機能な通信ソフト。快適な動作のためには6Mバイト以上のメモリを必要とする。シェアウェアであり、継続的に使用するには5000円のレジストを支払う必要がある。

通信速度は19200bpsまで対応し、スクロール速度も十分に速い。スムーズスクロール機能により、スクロール中の文字がとて読みやすい。過去の書き込みを逆スクロールで遡ったり、コピー&ペーストで発言を引用することも可能だ。

インストールには、専用のツール (HTINST.EXE) を使用する。画面の指示に従い、インストール先ディレクトリなどを答えていくだけでインストールは終了する。あとは、プログラムマネージャに秀Termのアイコンを登録すればよい。

初めて起動したときには、「設定」メニューの「通信ポート」を選択して、通信速度などを初期設定する必要がある。このほかにも画面表示やキー割り当てに関する設定も可能だ。

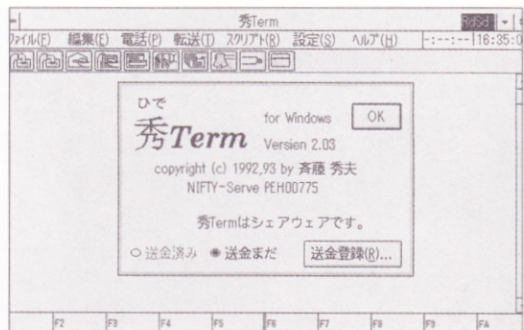
「電話」メニューの「ホスト一覧」を選択するか、電話を掛けているアイコンボタンをクリックすると、パソコン通信のホスト一覧が表示される。さらに、「登録情報」ボタンを押すと、現在選択されているホストに関する設定が表示される。

NIFTY-Serve/PC-VAN/アスキーネットについては、最初からオートログイン用のマクロまで用意されている。ユーザーは、最寄りのアクセスポイントの電話番号を設定し、通信速度などの設定を行なうだけでよい。設定が終わったら、ホスト一覧画面で「接続」ボタンを押すと、オートダイヤル/オートログインが行なわれる。その他のホストの場合、電話番号などを設定すればオートダイヤルは可能だが、オートログインするには専用のマクロを書く必要がある。

秀TermのマクロはC言語やBASICに似た形式で、自動運転も可能な強力なものだ。付属のNIFTY-Serve用スクリプト (NIF.SCR) には、簡単なフォーラム自動巡回用のマクロまで用意されている。

なお、98のWindows3.1Jで秀Termを使用する場合、エンハンスモードでは動作速度が極端に遅くなるというトラブルが発生することがある。「ヘルプ」の「トラブル対処の例」に、この問題を回避する方法が載っている。(大池)

●著作者: 斉藤秀夫(ひでまるお) ●動作環境: Windows3.1以上 ●バージョン: 2.03 ●アーカイブ: HT203.LZH ●登録先: NIFTY (FWINF) ●サポート先: NIFTY (FWINF)





## BMPUT

GRAPH

DISK  
6

MS-DOS標準の画像データファイルとWindows標準の画像データファイルとを相互変換するグラフィックツール。

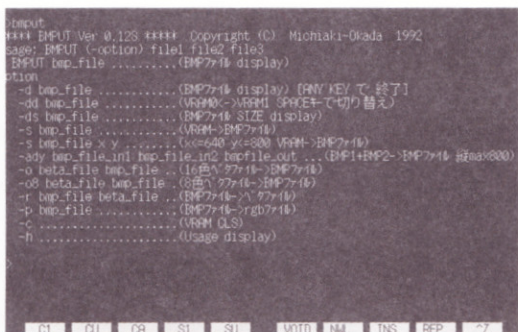
Windowsでは、画像データを主にBMPファイル（\*.BMP）として扱う。ところが、従来のMS-DOSアプリケーションでは、ベタファイル（\*.R1/\*、G1/\*、B1のセットで、\*.E1が加わる場合もある）が標準的な画像ファイルであり、アプリケーションによっては独自の画像フォーマットを使うこともある。このため、従来の画像データを直接Windowsで扱う場合には不便が生じる。

BMPUTは、ベタファイルとBMPファイルとを相互変換するツールであり、VRAM上のデータをBMPファイルに出力する機能も持っている。既存の画像ファイル（8色あるいは16色のベタファイル）は、BMPファイルに変換することによってWindows上で利用できるようになる。逆に、Windows上で作成された画像ファイル（BMPファイル）も、ベタファイルに変換することによってMS-DOS上のグラフィックツールで利用できるようになる。さらに、ベタファイル以外の形式の画像データでも、なんらかの方法で画面に表示させることさえできれば、BMPUTでBMPファイルに出力できる。

PC-9801では、現在のカラーパレットの設定を取得することができないため、VRAMのデータをBMPファイルに出力する際には、98の標準カラーパレットが使用される。したがって、出力されたBMPファイルを画面に再表示すると、元の画像の色合いが再現されないことになってしまう。そこで、BMPUTではRGBファイルを読み込みながらBMPファイルに出力できるようになっており、パレット情報をRGBファイルの形で用意しておけば、元の画像と同じ色合いでBMPファイルに出力できる。ちなみに、BMPUTには、BMPファイルからRGBファイルに出力する機能も備わっている。

BMPファイルに出力する画面の大きさはドット単位で指定できる（最大で横640×縦800ドット）。縦方向が800ドットまで指定できるので、2枚あるVRAM（横640×縦400×2枚）を同時に出力できる。逆に、横640×縦800ドットで記録されたBMPファイルを画面表示したときには、表VRAMと裏VRAMの表示をスペースキーで切り替えることができる。（小泉）

●著作者：岡田倫明(MIKKI) ●動作環境：PC-9801 ●バージョン：0.12 ●アーカイブ：BMPUT012.LZH ●登録先：NIFTY (FGALAV/LIB7) ●サポート先：NIFTY (FGALAV/MES7)



## Canvas-98

GRAPH

DISK  
6

ちょっとした画像の修正や落書きなどに主眼を置いたペイント系グラフィックエディタ。マウスとキーボードで操作する。

実行ファイルのサイズは57Kバイトとコンパクトながら、基本機能はすべて備えており、各機能の処理はかなり高速だ。ベタ形式と専用形式の画像に対応しているほか、外部ローダ/セーブ呼び出し機能を利用して、MAGフォーマットなどの画像を読み書きすることもできる。この機能を利用するには、拡張子とそれに対応するローダ/セーブを定義ファイル（CANVAS.DEF）に設定しておけばよい。

色や機能の選択はメニューバーを使って行なう。メニューバーは、最初は画面下部にあるが、画面の好きな位置に移動できる。また、絵を描いている最中は、邪魔にならないように一時的に消えるようになっている。

機能メニューは「Tool」「Pen」「Lupe」「File」と、画面に表示されない「外部ツールメニュー」の5つにジャンル分けされており、選択するとそれぞれの内容がポップアップする。

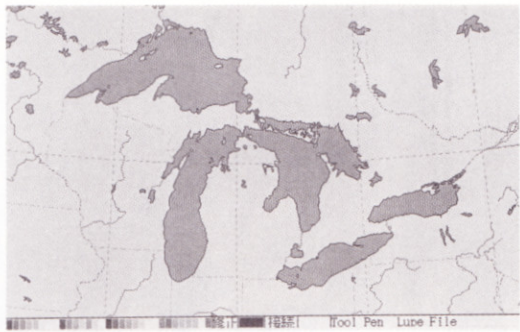
例えば、Toolメニューを選択すると、文字/色変換/線取り/塗装/複写の5項目がポップアップし、左ボタンクリックによって各機能を実行することができる。

また、Penメニューで選択するペン形状のうち、■や●は右ボタンをドラッグすることによって大きさを任意に変更できる。また、16×16ドットの大きさで、パターンを自由に設定できるペン先も用意されている。

メニューバー右端のX座標表示に隠されている外部ツールメニューでは、選択した外部ツールを子プロセスで実行することができる。外部ツールの設定は定義ファイル（CANVAS.DEF）で行なう。

Canvas-98独特の機能として、特別な色として扱われる「修正」がある。これは、現在の画面に対し、Undo画面の同位置の内容をコピーする「部分Undo」機能だ。例えば、筆がすべて他の領域にはみ出してしまったとき、これを使えばはみ出した部分だけ元の画像を復活させることができる。このほかにも、マスキングテープのように下の絵を保護する「マスク」など、実際に絵を描いたり修正したりするときに重宝する機能がそろっている。（大池）

●著作者：志塚昭彦 ●動作環境：PC-9801 (要16色) ●バージョン：1992/12/30版 ●アーカイブ：CANV2C30.LZH ●登録先：ArtsLink la femy (junk.test.pool.msos) ●サポート先：NIFTY (FGALAV/MES6), ArtsLink la femy (junk.test)





JPEG形式の画像ファイルを擬似多色表示

## GRIFON

GRAPH

DISK 6

グラフィック画面の高速切り替えによって擬似多色表示を行なうJPEGローダ (JPEGについては次項「JPGV98」参照)。16色しか表示できない98でも、ある程度きれいにJPEG圧縮によるフルカラー画像を表示できる。400ラインを超える画像はスムーズスクロールするが、遡って見ることはできない。

擬似多色表示とは、単純に言えば、「白と黒を交互に切り替えると灰色に見える」という目の錯覚を利用するものだ。どの程度の間隔で切り替えを行なうかによって、表示可能な擬似表示色数は変化する。

JPEGはフルカラー画像のための国際的な圧縮形式で、元の画像の情報を完全には復元できない非可逆圧縮を行なうのが特徴だ。JPEGが主な対象としている自然画 (写真など) では、このような圧縮を行なっても、展開された画像はオリジナルの画像とそう遜色はない。圧縮率を上げるとファイルのサイズは小さくなるが、画質は徐々に落ちていく。

こうしたフルカラーのJPEG画像を、16色しか同時表示できない98で表示するには、どうしても減色という処理が必要だ。その際、「16個のパレットをどのような色に割り当てるか」というパレットの最適化が問題となる。

GRIFONでも、このような減色機能を「簡易減色」として備えているが、16色パレットを画像内部に記録した「ASURAフォーマット」や、外部パレットファイルからの読み込みを推奨している。これは、「減色という作業は画像の改変に当たるのだから、その際に使われるパレットの値は画像作者側で指定したものを使うべきだ」という考えがもとになっている。ASURAフォーマットのファイルを作るには、QOV98というツールで減色した16色パレットを、jaddpalというツールを利用して画像に埋め込めばよい。いずれもGRIFONと同じ作者が開発したソフトだ。

画像作者が16色パレットを用意していないときは、簡易減色機能を利用する。パレットの最適化のためには、一度画像ファイルを最後まで読んで、使用している色を調べなければならない。GRIFONでは、クイックスキャンと呼ばれる1/8縮小表示ルーチンを利用して色を調べるため、QOV98を使った場合よりもパレットの最適化は甘くなる。 (大池)

●著者： 戦うクラリス(五ノ井敏行) ●動作環境： PC-9801 ●バージョン： 1.03 ●アーカイブ： GRIF9813.LZH, BANBI.LZH ●登録先： NIFTY (FGALAV/LIB5, FQLD1/LIB1) ●サポート先： NIFTY (FGALAV/MES5, FQLD2/MES11)



JPEG形式の画像ファイルを16色に減色表示

## JPGV98

GRAPH

DISK 6

JPEGとは、ISO (国際標準化機構) とCCITT (国際電信電話諮問委員会) が組織したJoint Photographic Experts Group (頭文字を取ると「JPEG」) が制定した、フルカラーおよびグレースケール画像のための圧縮方式の名称で、非常に高い圧縮率が特徴である。JPEGの実現にはいろいろな手段があり、その手段によりデータの互換性がない場合もあるが、現在ではC-Cube Microsystems社が提唱した「JFIF」フォーマットが標準となりつつある。

JPGV98は、このJPEG形式のグラフィックデータを表示するプログラムで、PC-9801 (アナログ16色表示可能な機種) に対応している。データ表示の際には、データファイルからフルカラー情報をスキャンし、アナログパレットを最適化することにより、PC-9801で表示可能な16色に減色して表示する。画像表示後はピープ音が鳴り、デフォルトではキー入力待ちになる。このときESCキーを押すと、画像を画面に表示したままプログラムを終了する。スペースキーまたはリターンキーによって終了した場合は、グラフィック表示をOFFにして終了する (グラフィックデータ自体は消去しない)。

オプションを指定することにより、画像の表示方法 (パレット選択アルゴリズム/減色表示アルゴリズム/減色時の誤差限界など) をかなり詳細に設定できるようになっている。画像の性質によって表示方法を変えることで、より鮮明な画像の再現が可能である。

縦400ラインを超える縦長の画像は800ラインまでスクロールしながら表示することもできる。横640ドットを超える画像の場合は、オプション指定により、画像の右側を基準に表示することができる。縦長の画像をスクロール表示した場合は、画像表示後にカーソルキーで遡って表示することも可能。また、画像全体のサイズを1/2または1/8に縮小して表示する機能もある。

「ASURAフォーマット」と呼ばれる拡張表示形式にも対応している。これは、圧縮されたフルカラー画像を復元する場合の減色情報 (パレット情報など) を画像と同時に送るもので、作者らのグループが考案したものである。この方式を使えば、画像作成者の意図に沿った復元が可能になる。 (東)

●著者： 戦うクラリス(五ノ井敏行) ●動作環境： PC-9801 ●バージョン： 1.03 ●アーカイブ： JPGV9813.LZH, BANBI.LZH ●登録先： NIFTY (FGALAV/LIB5, FQLD1/LIB1) ●サポート先： NIFTY (FGALAV/MES5, FQLD2/MES11)





# ランダムドットで3D!! RNDDOT.EXE

GRAPH

DISK  
6

立体画像の一種であるランダムドット・ステレオグラムを作成/表示するプログラム。

'92年の後半から'93年にかけて流行し、多くの作品集が刊行された「ランダムドット・ステレオグラム」については、まだ記憶に新しいところだと思う。メジャーな雑誌の表紙や本文中に掲載されるケースもけっこうあったので、ランダムドット・ステレオグラムという名前は聞いたことがなくても、たいていの方は実物を見たことがあるはずである。

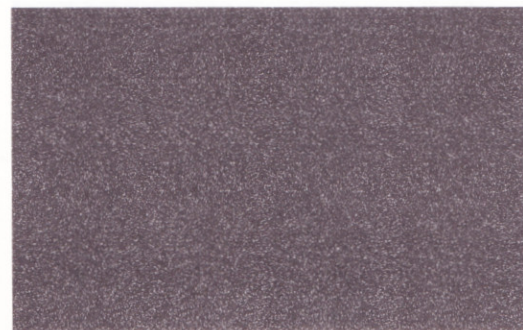
ランダムドット・ステレオグラムとは、ただ見ただけではテレビのホワイトノイズ（いわゆる「砂の嵐」）のようにしか見えませんが、紙面（あるいは画面）から目の焦点をずらすことにより、文字や画像などが立体的に見えてくる、というもの。RNDDOT.EXEは、このランダムドット・ステレオグラムを作成するプログラムである。

RNDDOT.EXEでは、もともになる文字や画像のデータをユーザーが自由に作成することができる。このデータファイルは、通常のテキストファイルであるため、テキストエディタなどを使用すれば簡単に作成できる。元データの形式も簡単で、80字×25行以内に、任意のパターンを描くだけだ。また、パターンそのものは高さを表す文字（デフォルトでは数字あるいはA~Iのアルファベット）で描画する。そのままだと、データファイルを見ただけで描画内容が分かってしまうので、データファイルに簡単な変換処理を行なって、データファイルを見ただけでは何が描いてあるか分からないようにすることもできる。データファイルのサンプルがいくつか付属しているので、詳しくはドキュメントやサンプルファイルを参照してほしい。

マシンの処理速度やデータファイルの内容にもよるが、20秒程度でランダムドット・ステレオグラム画像を作成することができる。ただし、RNDDOT.EXEは画像を作成し画面に表示する機能しか持っていないので、作成された画像を保存することはできない。保存したい場合は、他のグラフィックユーティリティを使用する。

ドキュメントによると、RNDDOT.EXEをWindows用に移植したプログラムも存在するようだ。興味のある方はそちらも入手してみたいだろうか。（青木）

●著作者：わたやん ●動作環境：PC-9801 ●バージョン：1.16 ●アーカイブ：RNDD116.LZH ●登録先：NIFTY (FGALAV/LIB6) ●サポート先：NIFTY (FGALAV/MES6)



# team

GRAPH

DISK  
6

MAG形式の画像を高速に画面表示するロード。

MAG形式はペイント系の16色画像に適したフォーマットで、主にPC-9801やX68000で使われている。MAG形式の画像ファイルを作成するには、市販のグラフィックエディタ「マルチペイント」による方法のほか、画面に表示された画像をMAG形式用のセーブによって保存する方法もある。画像を表示するMAGロードはいくつもあるが、現時点ではteamが最高速とされている。速度だけでなく、画像のあるディレクトリを指定して一括表示を行ったり、キー操作によって表示する画像を切り替えたり、といった機能も充実している。

最大の特長として、LZH形式のアーカイブ内の画像を直接画面に表示する機能があげられる。LHAの展開ルーチンに相当するプログラムを内蔵しており、LHAなどを起動することなく、アーカイブ内のファイルを高速に展開して表示してくれるのだ。画像ファイルをため込んでハードディスクの容量が残り少ない人には、まさに天の恵みのようなソフトといえるだろう。具体的には、コマンドラインで、

A>team アーカイブ名

とすると（拡張子“.LZH”は省略できない）、アーカイブ内のそれぞれのファイルの拡張子に応じて適切な処理が行われる。

team自身が行なうのは、「MAG形式の画像(\*.MAG)を直接グラフィック画面に展開/表示する」「アナログパレットファイル(\*.RGB)を常駐パレットに設定する」「ドキュメントファイル(\*.DOC、\*.TXT)を表示する」という3種類の処理だけだ。それ以外のファイルは、設定ファイル(Team.CFG)の記述に従って、それぞれの拡張子に対応するコマンドを起動するようになっている。この場合、アーカイブからファイルを展開し、指定されたコマンドを起動するという手続きを踏むため、team自身がすべてを処理する場合と比べていくぶん遅くなる。

teamのアーカイブに含まれるTeam.CFGには、他の画像フォーマット(Pi/PIC/MAKI)のファイル用の設定などが書かれているが、これらはそれぞれの画像に対応したロードがなければ表示できないので注意してほしい。（大池）

●著作者：TEA ●動作環境：PC-9801 ●バージョン：1.04a ●アーカイブ：TEAM104A.LZH、SUMMER93.LZH ●登録先：NIFTY (FGALAV/LIB5) ●サポート先：NIFTY (FGALAV/MES5)





回転しながら移動する立体の動きをシミュレート

## VR-Simulator

GRAPH

DISK  
6

仮想3次元空間を、回転しながらリアルに飛び回る立体は、しゃれたスクリーンセーバに最適である。

VR-Simulatorの作者は、アイデアに富んだいくつかのシェアウェアを供給していることでも知られている。VR-Simulator自体は、空間を回転しながら移動する立体の動きをシミュレートするプログラムであり、決して大がかりなプログラムではない、しかし、その動きは高速かつリアルであり、見ていて心地よさを感じる。

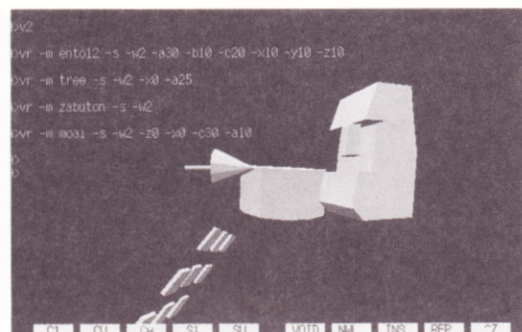
プログラムの起動時にはグラフィックデータファイル名（拡張子は不要）を引数とするが、細かな動きはいくつかのオプションスイッチで指定する。いくつかのデータファイルとデモ用のパッチファイルが同梱されており、これを実行すればVR-Simulatorの世界を一望することができる。また、同じ作者による「VRC」を利用すれば、VR-Simulator用のデータファイルを作成して楽しむこともできる。

立体の運動は、基本的に回転移動と平行移動の組み合わせでシミュレートされている。回転移動については、単位時間に回転する角度を、X、Y、Zの各軸について個々に指定する。平行移動についても、単位時間に平行移動する距離を、X、Y、Zの各軸について個々に指定する。いずれの値も、起動時のオプションスイッチとして指定する。また、ワイアフレーム表示のオプションスイッチを指定することにより、立体の骨組みを表示させることもできる。さらに、1秒間の表示コマ数の指定や、背景色の指定も可能だ。

VR-Simulatorを続けて起動することにより、複数の立体を同時に表示させることができる。通常は、なんらかのキーを押すことでシミュレーションは中断されるが、オプションスイッチによりメモリに常駐させてしまうことも可能である。VRAMを使わないプログラムなら、立体の飛び回る中でも実行できるだろう。なお、メモリ常駐のオプションスイッチに数値をつけて指定すれば、スクリーンセーバとして常駐させることもできる。このときの数値はキー入力の待機秒数であり、1~1000秒の範囲内で指定する。当然のことだが、スクリーンセーバとして常駐させる場合に背景色を指定してしまつては意味がない。

(小泉)

●著作者：Q太郎(辻誠) ●動作環境：PC-9801 (VM以降またはハイレン機種)のノーマルモード ●バージョン：1.01 ●アーカイブ：VR101.lzh, VRC002.LZH ●登録先：NIFTY (FGALAM/LIB6) ●サポート先：NIFTY (FGALAM/MES6)



壁紙風のステレオグラムを作成/表示

## 壁紙効果風ステレオグラム作成 WP.EXE

GRAPH

DISK  
6

ベタ形式の画像データをもとにカラーステレオグラムを作成する。

ステレオグラム（立体画像）の一種に、近年流行の「ランダムドット・ステレオグラム」というのがあるが、WP.EXEで作成されるステレオグラムはそれとは異なっている。といっても、作成された画像を立体視できるのはどちらも同様である。本書にはランダムドット・ステレオグラムを作成する「RNDDOT.EXE」も収録されているので、それぞれがどのように異なっているかを確認してほしい。

ステレオグラムを作成するには、WP.EXE本体のほかに「壁紙テクスチャー画像」（元になる画像が収められている）と、「高さ画像」（立体表示される際の高さを指定する）の2つのファイルが必要になる。いずれもベタ形式の画像ファイルを使用するが、それぞれ元になる画像の表示範囲に制限があるので、詳しくはドキュメントを参照してほしい。なお、高さ画像ファイルのファイル名は任意だが、壁紙テクスチャー画像ファイルのファイル名は、残念ながらTEX.\*に固定されていて、それ以外のファイル名を指定することはできない。

WP.EXEを起動する際には、必ずコマンドラインで高さ画像ファイルの名前を指定しなければならないので注意してほしい。正常に起動すると、ステレオグラムの描画が開始される。ステレオグラムをすべて描画するには、マシンによって異なるが20秒程度の時間がかかる。また、作成されたステレオグラムは、終了時にWPOUT.\*という名前のベタ形式ファイルに保存される。

付属ディスクに収録されているWP01.LZHには壁紙テクスチャー画像ファイルのサンプルが、またWP21.LZHには高さ画像ファイルのサンプルHANA.\*がそれぞれ収められている。

WP01.LZHに収められた壁紙テクスチャー画像には、それぞれTEX01.\*~TEX04.\*という名前がつけられている。前述したように、壁紙テクスチャー画像ファイルのファイル名は固定されているので、そのままでは使用できない。RENコマンドなどを使用してファイル名を変更する必要があるので注意してほしい。

(青木)

●著作者：RKJ ●動作環境：PC-9801 ●バージョン：2.1 ●アーカイブ：WP21.LZH, WP01.LZH ●登録先：NIFTY (FGALAM/LIB6, FGALAV/LIB6)





# FM音源ドライバー FMP-SYSTEM

MUSIC

DISK  
7

PC-9801のFM音源を使用してBGM機能を付加するプログラム。対応する音源ボードは「PC-9801-26K」(NEC純正)、「スピークボード」(アイドルジャパン製)などで、FMとSSGの両方に対応。「スピークボード」を使用している場合はリズムとPCMにも対応し、FMは6音までの再現が可能。

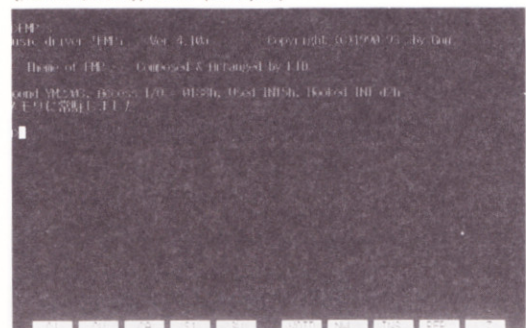
プログラム本体(FMP.EXE)は常駐コマンドであり、プログラムを起動してメインメモリに常駐させることでFM音源をコントロールする。常駐する際には、音源ボードの自動認識を行ない、音源ボードの種類やI/Oポートアドレスなどを表示し、FM音源を使ったテスト音を奏でる。このプログラムはサウンドBIOSを必要としないので、EMSとの共存のためにメモリスイッチなどでサウンドBIOSを未使用の状態にしてあっても支障はない。

プログラムが常駐した状態で、専用のプレイバック(PLAY.COM)で曲データの演奏を指定すると、ファイルデータを読み込み、常駐している本体部分にデータを渡してデータの演奏が始まる。演奏はバックグラウンドで行なわれるため、演奏中も他の作業を続けることができる。

FMPが認識できるのは、独自のバイナリ形式の曲データのみであるが、MML(Music Macro Language)形式のデータからFMP用データへの変換プログラム(FMC.EXE)が用意されている。MMLの言語仕様はFMP用に拡張されており、FMPを手軽にコントロールできる。また、メニュー形式のプレイバック(FMM.EXE)を利用すれば、多くの曲データを選択して演奏することが簡単になる。FMM.EXEでは、データファイル内に埋めこまれたタイトル名などの情報を画面に表示できるので、演奏前に内容を確認したり、リピート指定やフェードアウト指定などを行なうこともできる。

このほかにも、複数ファイルを読み込んでシステムに常駐し、BGM演奏を行なう「FMR.EXE」、システムに常駐してホットキー入力で立ち上げ可能なFMP専用ファイラ「FMP.FEXE」、グラフィック画面をフルに利用した美麗なデータ演奏モニタープログラム「FMDSP.COM」など、FMPをサポートする関連ソフトは数多い。(東)

●著作者: ぐう, Directory Search Pro 86k: ていさす, FMP用常駐ファイラ: FMP: SG, FMDSP: HypS, KIDの同人ミュージック集その1: KID  
●動作環境: PC-9801およびEPSON機 ●バージョン: 4.10a ●アーカイブ: FMP410A.LZH, FMR111B.LZH, DSP1011.LZH, FMP109B.LZH, FMDSP01A.LZH, KIDDJN1.LZH ●登録先: PC-VAN (CIARI/7/4), NIFTY (FGALAV/LIB4), ASCII (pool msdos) ●サポート先: NIFTY (FGALAV/MES4), ASCII (salon.pool)



# Mdrv2 System

MUSIC

DISK  
7

各種の音源ボードに対応したミュージックコンパイラとドライバ。このセットで構成される環境を「トライデントシステム」と呼ぶ。

従来のFM音源ボード(PC-9801-26K)でも演奏は可能だが、OPNA+PCMという構成の音源ボードでその威力を最大限に発揮する。例えば、「スピークボード」や「音美ちゃん」などではFM(6または12音)+SSG(3音)+リズム(6音)+PCM、PC-9821などの音源ではFM(6音)+SSG(3音)+リズム(6音)による演奏をサポートしている。

コンパイラとドライバとは、別々の実行ファイルになっている。コンパイラ(MCOMP)は、ミュージックマクロランゲージ(MML)で書かれたソースファイル(\*.MD2)から、演奏可能なオブジェクトファイル(\*.MDT)を作成する。ソースファイルは単なるテキストファイルなので、好きなエディタで作成すればよい。

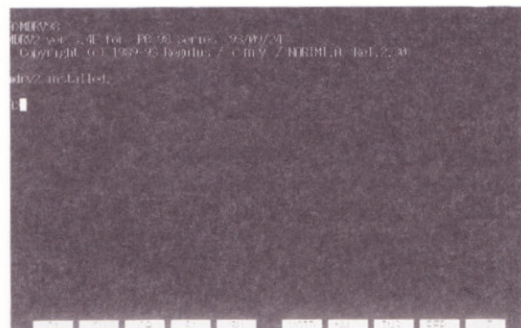
ドライバ(MDRV2)は、メモリに常駐してバックグラウンドで動作する常駐コマンドで、他の処理をしている最中にも音楽の演奏や効果音の発生が可能である。また、FM音源BIOSを切り離した状態で演奏することができるので、FM音源BIOSと領域が重なるEMSとの併用も問題ない。実際のファイル名は、98用ということでMDRV98.COMとなっている。

MDRV2を常駐させた状態で、オブジェクトファイルを指定してプレイヤー(MDP)を起動すると、実際に演奏を開始する。付属のサンプル曲データを聴いてみるとよいだろう。演奏を中断するには、MDPを「-s」オプションつきで実行する。

ゲームなどのプログラム中からMDRV2を利用するため、ソフトウェア割り込みによる外部コントロール機能が用意されている。MARKADIA(羊男氏作、本書に収録)では、この機能を利用してゲーム中のBGM演奏を行なっている。

トライデントシステムとしては、ここで紹介したもの以外にも、PC-8801やX1turboなどで動作するものが作られており、ソースレベルでは互換性は完全で、オブジェクトレベルでも(音源の特性にもよるが)ほぼ同程度まで再現可能だという。MDRV2用に作られた曲データは、PC-VANの88VAクラブなどに多数登録されている。(大池)

●著作者: Regulus ●動作環境: PC-9801 ●バージョン: Rel.2.30  
●アーカイブ: MDRV9230.LZH ●登録先: PC-VAN (SOUND/7) ●サポート先: PC-VAN (SOUND/3/3, 88VA/3/4)





MIDI音源用の各種音楽データを再生

## MIMPI

MUSIC

DISK 6

MIDI音源用に作られた音楽データを再生するソフト。  
「レコンポーザ98」「Ballade3」「ミュージ郎」など、現在市販されているほとんどのMIDIコンポーザ（作曲ソフト）の音楽データをそのまま再生することができる。また、MIDIデータの標準規格である標準MIDIファイルにも対応している。つまり、このソフトさえあれば、市販のMIDIデータ集やパソコン通信のライブラリに登録された各種のMIDIデータを聴くことができるわけだ。

MIMPIによる本格的な再生のためにはMIDI音源が必要だ。最近の主流であるGS/GM音源（SC-55mk IIなど）と、以前よく使われていたMT-32/CM-64のいずれにも対応しており、GS/GM音源でCM-64をシミュレートする機能なども持っている。MIDI音源とパソコンを接続するには、MIDIインターフェイスやRS-232Cを利用する。

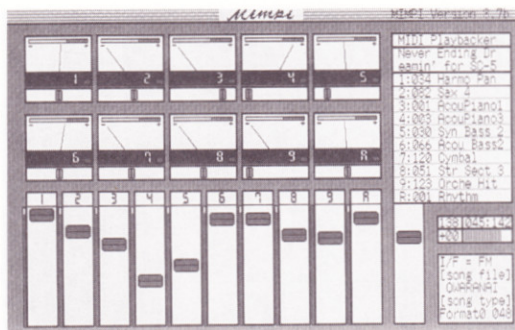
MIDI音源のかわりにFM音源やビープ音を使うことも可能だが、サウンドの質はかなり落ちる。どの音源やインターフェイスを利用するかは自動的に判別されるが、オプションによって強制的に割り当てすることも可能だ。

再生中は、10チャンネルのミキサー画面が表示され、キー操作によってボリューム（全体/チャンネル別）やテンポなどを調節できる。変わった機能としてドラム機能があり、ファンクションキーなどを押すとドラムや効果音が鳴るので、再生中の音楽にドラマーとして参加（乱入?）することが可能だ。

また、ミキサー画面のかわりに、あらかじめ音楽データとともに用意された画像ファイル（\*.PHO）や歌詞ファイル（\*.WRD）を表示することもできる。凝ったものでは、歌詞ファイルのマクロコマンドを利用して簡単なアニメーションを行なうものまである。

MIMPIには、音源やインターフェイスの選択をはじめとして多くのオプションが用意されており、毎回指定するのは大変だ。また、コマンドラインで指定するMIDIデータのファイル名にはワイルドカード（\*,?）が使えない。これらの問題を解決するソフトとして、対話的なオプション設定や連続/ランダム演奏を可能にするJukeBox（PAPA氏作、本書に収録）などの支援ツールが作られている。（大池）

●著作者：[斎藤], JUKEBOX: 宝来慎(PAPA) ●動作環境：PC-9801  
●バージョン：3.7b ●アーカイブ：MIMPI37B.LZH, JUKE300.LZH, OWARA55M.LZH ●登録先：PC-VAN (CIARI), NIFTY (FMIDITOL/LIB2) ●サポート先：NIFTY (FMIDITOL/MES3), マスターネット



演奏も画像も楽しめるAudio&Visual統合ソフト

## Ray

MUSIC

DISK 7

手軽に画像つきの演奏を楽しむことができるAudio&Visual統合ソフト。

コンピュータを使って音楽を奏でるには、実際に音を出す機能を持つハードウェア、すなわち音源が必要であり、現時点ではMIDI音源とFM音源の2つが一般的だ。MIDI音源の場合、音質面ではCD程度のクオリティを持つが、コンピュータ本体のほかにMIDIインターフェイスおよびMIDI音源などを購入しなくてはならない。一方、FM音源は、音質こそ貧弱なもの、PC-9801の最近の機種では本体に内蔵されているため、手軽な音源といえる。

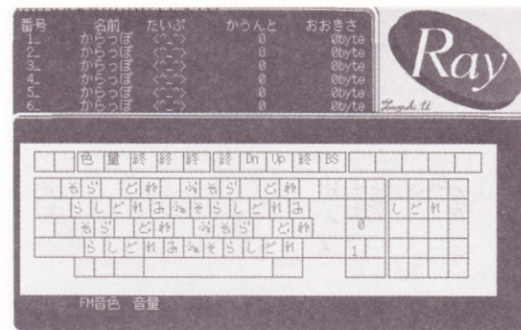
音源関係のハードウェアのほかに、音源をコントロールするためのソフトウェアが必要であり、これをシーケンス（自動演奏）ソフトと呼ぶ。ほとんどのシーケンスソフトは、楽曲の再生を主眼において開発されているが、データ編集機能も備わっており、作曲から演奏・再生までのほとんどの作業を行なうことができる。

Rayは、基本的にはFM音源を使用するタイプのシーケンスソフトであるが、Rayがユニークなのは、もともと（コンピュータの）キーボードを使って演奏することを目的に作成されたという点だ。演奏機能の実行中は、画面にキーボードの絵が表示され、対応するキーを押すとその音が出るようになっていく（思いどおりに演奏できるようになるには、かなりの練習が必要かもしれない）。演奏をファイルに記録するための“録音”機能も備えている。

ただし、市販のシーケンスソフトほどデータ編集機能が豊富ではないため、Ray用のデータを作成する場合、テキストエディタなどでMMLという形式のデータを作成し、それを変換するほうが簡単だろう。ちなみに、小中学校で習った程度の音楽の知識があれば、MMLデータを作ることができる。また、Ray用のデータを作成するためのソフトも公開されているので、そちらを使うのも1つの方法だ。

Audio&VisualのVisual部としては、曲の演奏中に文字や画像を表示することができるため、これを活用することでカラオケとして使うこともできるだろう。画像データがない場合は鍵盤が表示され、どの音が鳴っているかが分かる。（青木）

●著作者：ともゆき(内田友幸) ●動作環境：PC-9801 ●バージョン：4.0 ●アーカイブ：RAY-IV1.LZH, RAY-IV2.LZH, RAY-IV3.LZH, RAY-IVDX.LZH, KISS1.LZH, MASU\_ETC.LZH ●登録先：PC-VAN (SOUND/7/1), NIFTY (FGALRAY/LIB14) ●サポート先：PC-VAN (SOUND/3/4), NIFTY (FGALRAY/MES14)





# Windows PCM Player

MUSIC

DISK  
10

Windows3.1からはMME (マルチメディア拡張システム) の機能が標準で装備され、音声データファイルやMIDIファイルなどが扱えるようになって、気軽にマルチメディア番組を楽しむ環境が整ってきた。ただし、PC-9801でMME機能を利用するためには、専用のPCM音源ボードを用意してはならない。

このプログラムは、「PCM音源を持たないPC-9801でWindowsの音源データファイル (拡張子“.WAV”) を再生する」ためのダイナミックリンクライブラリ (DLL) である。このDLLを使用するには、まず、アーカイブに同梱されているPCM.DLLとVPCMDRVD.386をWindowsディレクトリの下にSYSTEMディレクトリにコピーする。そして、WindowsディレクトリにあるSYSTEM.INIファイルを修正し、[386Enh] セクションに次の2行を追加する。

[386Enh]

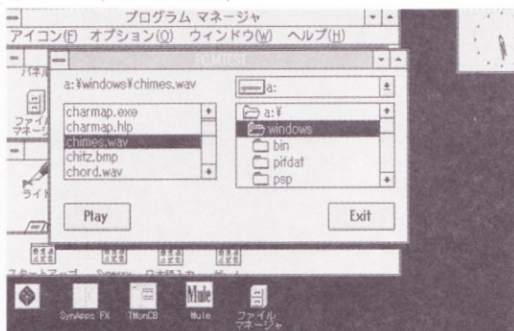
device=vpcmdrvd.386

SYSTEM.INIの修正後は、Windowsを立ち上げなおしておく必要がある。なお、使用している機種のCPUが80286の場合は、VPCMDRVD.386は不要であり、SYSTEM.INIを修正する必要もない。

これで、ユーザープログラムからPCM.DLLが使用可能となり、void FAR PASCAL PCMPPLAY関数によってPCMデータを再生することができる。対応しているデータ形式は11/22/44kHzのRIFFデータである。

PCM.DLLを使ってWindows音声データファイルを再生するプログラムがWAVONBE.EXEである。PCM.DLLを上記の手順に従ってセットアップしておくことで、数種類のイベントにあわせてWAVファイルが再生できる。また、ユーザーが指定した時刻 (5つまで) に指定したWAVファイルを再生することもできる。時刻指定では、時報のように毎時の同一の分を指定することも可能。もちろん、演奏時の音量とテンポも指定できる。各種設定を行なった後、このプログラムをスタートアップグループに登録しておけば、音源ボードを持たない機種でも各種イベントごとに音声データなどを再生できるので、Windows環境が楽しいものとなるだろう。 (東)

●著作者: IRUKA, WAVONBE.EXE: ゆ太郎 ●動作環境: PC-9801 (VX以降) および互換機, Windows3.0以上 ●バージョン: 0.20 ●アーカイブ: WINPCM98.LZH, WAV140.LZH ●登録先: PC-VAN (WINDOWS/1/2, CIARI/1/1), NIFTY (FWINF/LIB8, FGALAV/LIB12) ●サポート先: NIFTY (FWINF/FGALAV)



# Jazz Bound II

GAME

DISK  
7

画面を飛び回るボールを避けながらエリアを塗り潰していくアクションゲーム。快適に遊ぶには286マシン以上が望ましい。効果音やBGMは本体のBEEP音を使用する。

起動後、軽快なBGMとともにメニュー画面が表示される。スペースキーを押して「Start Game」を選択すればゲーム開始だ。

画面中央に表示されている長方形がゲームエリアで、その中には赤や青のボールが飛び交っている。赤いボールは青いボールよりも移動速度が遅い。画面上部には現在のレベル (面)、残りLife、このレベルでのスコア、塗り潰した割合、残り時間などが表示され、画面下部にはこれまでのスコアの合計が表示されている。

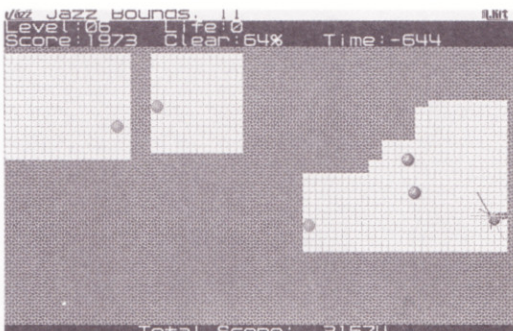
プレイヤーは、エリアの外周に位置する菱形のカーソルをテンキーやカーソルキーで上下左右に移動させ、ボールを含まないようにエリアの一部を囲いこんで塗り潰していく。外周や塗り潰された領域は自由に上下左右に移動できる。囲んだ領域にボールがある場合は塗り潰されないが、辺の部分 (カーソルの軌跡) は自由に移動することができる。

注意してほしいのは、新たなエリアを塗り潰すために移動しているときには、後ろに下がれないということだ。このとき飛んでくるボールに衝突すると、Lifeが1つ失われて、そのレベルはやり直しとなる。Lifeが0の状態では衝突するとゲームオーバーだ。逆に、衝突せずにエリアの75%以上を塗り潰すことができれば、そのレベルをクリアして次のレベルに進む。全部で10レベルが用意されており、上のレベルになるほどボールの数が増え、難易度が高くなる。

クリア時のスコアは塗り潰した面積によるが、クリアした際の残り時間 (5000から減少) もボーナスとして加算される。慎重すぎて時間がマイナスになると、スコアもマイナスされてしまうから、ボールの動きに注意しつつすばやく塗り潰していくのが高得点の秘訣だ。

このゲームのコンセプトは、「片手でコーヒーでも飲みながら、ちょっとした暇を見て気楽に遊べる」こと。1回のプレイに要する時間は短いので、仕事の合間の息抜きにもぴったりだ。 (大池)

●著作者: M.Kit (北谷昌宏) ●動作環境: PC-9801 ●バージョン: 1.00 ●アーカイブ: JAZZ2100.LZH ●登録先: NIFTY (FGALAM/LIB7), ArtsLink la femy (junk.test) ●サポート先: ArtsLink la femy (junk.test)



MUSIC

GAME



ヘビを操作して餌を食べるゲーム

## Jazz Race

GAME

DISK 7

PC-9801上で動作するアクションゲーム。UNIX上の古典的「worm」に似ているが、グラフィック画面を使用したきれいな画面で、BGMや効果音も用意されており、ジョイスティックによる操作も可能である。

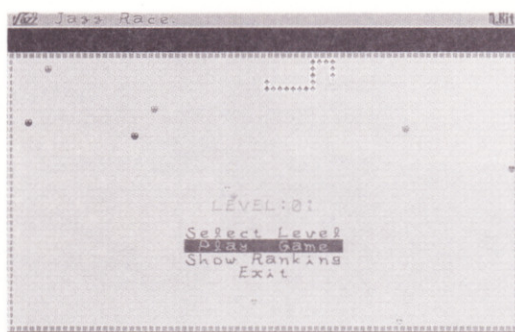
ゲームの目的は、画面上に表示されたヘビを操作して、盤面上に配置された餌をすべて食べること。ヘビの動作は、カーソルキー、テンキー(2、4、6、8)、アルファベットキー(h、j、k、l)、ジョイスティックなどで操作することができる。ゲーム中にESCキーを押すとポーズ状態になり、スペースキーでゲームに復帰、再度ESCキーを押すとゲームを終了してメニューに戻る。

盤面の周囲の壁や自分自身にぶつかるとlifeが1つ減り、そのレベルからやり直しとなる。lifeが0のときにぶつかると、ゲームオーバーになる。また、ゲーム中の残り時間が30000になるとlifeが1つ減る。盤面のすべての餌を食い尽くすとレベルクリアとなり、残り時間がボーナスポイントとして加算された後、次のレベルに進むことができる(レベルは15まである)。残り時間がマイナスの場合には、ボーナスポイントは加算されないが、マイナスされることはない。

ゲームオーバー時にはスコアが判定され、ベスト10に入賞すると名前を登録できる。スコアはメニューから表示させることもでき、またゲーム終了時にはスコアファイルがセーブされるので、次回ゲーム時にも前回のスコアを引き継げる。起動時のオプション設定により、効果音やBGMをOFFにしてゲームを行なうことができる。

ヘビの身体は餌を食べるごとに長くなっていき、自分自身の進路の障害となる。また、レベル6からは、盤面に障害物(壁)が出現し、レベル11からは敵(赤い蛇)が出現する。赤い蛇は、自分の体に当たられる分には問題ないが、自分から当たっていくとlifeが1つ減る。いかに無駄なく盤面を巡回するかが、高得点への秘訣だろう。あわてて操作すると、とんでもないミスをする事が多いので、制限時間内はじっくりと腰を落ち着けてプレイするのがよいだろう。なお、メインメニューでゲームレベルを選択して、任意のレベルからゲームをスタートすることもできる。(東)

●著作者: M.Kit(北谷昌宏) ●動作環境: PC-9801 ●バージョン: 1.02  
●アーカイブ: JRACE102.LZH ●登録先: NIFTY (FGALAM/LIB7), ArtsLink la femy (junk.test) ●サポート先: ArtsLink la femy (junk.test)



「正統派」縦スクロール型シューティングゲーム

## MARKADIA

GAME

DISK 7

動きの滑らかな正統派縦スクロール型シューティングゲーム。操作にはキーボードのほか、FM音源ボードなどに接続するタイプのジョイスティックも利用可能だ。また、音源ボードがあるなら、MKD.BAT中の「rem」を削除することにより、Mdrv2 System (Regulus氏作、本書に収録) でのBGMや効果音を楽しむことができる。

各面の背景や敵のデザインもさることながら、秀逸なのはその「動き」だ。98のシューティングゲームでは、グラフィック画面の構造上8ドット単位でキャラの移動を行なうものが多いのだが、このゲームでは1ドット単位の処理を行なっている。その滑らかな移動パターンや爆発シーンに思わず目を奪われてしまい、気がついたら目の前は弾の嵐、ということも少なくない。ただし、快適にプレイするためには、98FELLOW/MATE程度の486マシンが必要だ。

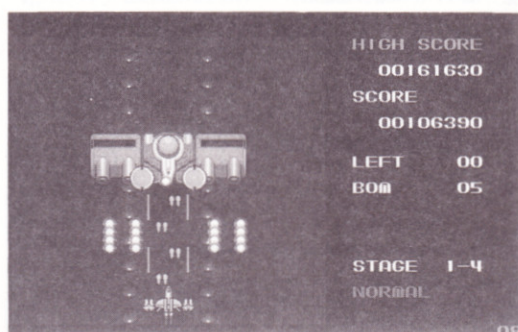
ゲームの内容は、正統派を名乗るだけあって、連射可能なショットと破壊力の大きいボムによる攻撃、特定の敵を倒すと現われるアイテムによるパワーアップなど、オーソドックスな構成。宇宙面/地上面/生物面など全5面が用意されており、クリアするとボーナスが加算されて1面に戻る。もちろん、各面の最後には「お約束」の巨大ボスキャラが登場だ。

アイテムは、スピードアップ(S)やボムの追加(B)など6種類が用意されている。このうちオプションアイテム(O)には黄色と青色があり、それぞれワイドショットとレーザーショットが自機の左右のオプションから発射されるようになる。ザコ敵が多いところではワイドショット、ボスキャラに集中攻撃するときにはレーザーショット、など場面に応じたオプションの選択が鍵となる。

ボムは破壊力が大きいのが、個数に限りがある(最初は3個)。ボスキャラに対して使うのが本来の使い方が、敵に囲まれたときは躊躇せず使おう。使い惜しみしてボムを残したまま撃破されてはなんにもならない。

なお、タイトル画面のメニューで「CONFIG.SYS」を選択すると、ゲームの難易度や自機/ボムの数などを設定することができる。こうした設定によって、初心者からプロ級のマニアまでそれぞれのレベルに合わせて楽しめる。(大池)

●著作者: 羊男(増谷正夫) ●動作環境: PC-9801(VM以降), PC-9821 ●バージョン: 1.04 ●アーカイブ: MKD104.LZH, MDRV9230.LZH ●登録先: ASCII (pool msdos) ●サポート先: ASCII (bio.test.bio)





制限時間内に敵を撃破するシューティングゲーム

## NyaHaX'93

GAME

DISK  
7

3分の制限時間の中でできるだけ敵をやっつけるタイムトライアルシューティングゲーム。快適にプレイするには386マシン以上が望ましい。

「GAME START」を選択してゲームを開始すると、画面上部にコミカルな敵キャラ、下部にピンクのクマが操縦する自機が表示される。しばらくすると、左右に動いていた敵が急降下しながら攻撃してくるので、敵機や弾を避けて自機を前後左右に移動させながら、弾を発射して敵を破壊する。

攻撃中の敵を撃ち落としたほうが点数は高いのだが、3分という制限時間があるため、攻撃してくるのを待ってはられない。どんどん撃ちまくろう!

敵をすべて破壊するとそのレベル(面)はクリアで、次のレベルへ進む。逆に、自機が破壊されるとプレイ時間が10秒減り、そのレベルは最初からやり直しだ。何回もやられているようでは高得点は望めない。

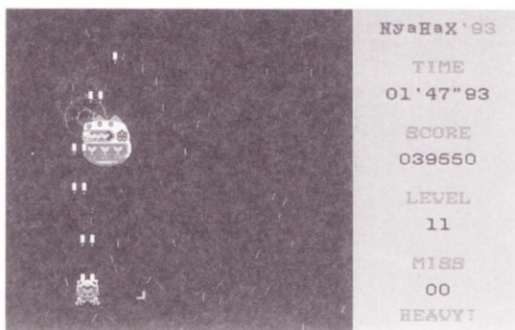
敵の中には、こちらの仲間のイカやタコを捕らえているものもいる。こうした敵を倒して、落ちてきた仲間と合体すると、「弾が2連射になる(イカ)」「横や後ろからの弾が無効になる(タコ)」などのパワーアップが行なわれる。ただし、どちらか一方としか合体できないので(あとで合体したほうが有効)、ボス面近くでは攻撃を重視してイカ、横や後ろから弾が来る場合は防御を重視してタコ、といったように攻守のバランスを考えて使い分けるとよい。どの面でどちらを取ればよいかは、実際にゲームを進めていくと分かるはずだ。

5、11、17、23、29レベルでは、個性ある巨大ボスが登場する。ボスたちはかなり「固く」、弾を何発も当てないと破壊できない。イカによるパワーアップが有効だ。

ボスを倒すと15秒間のボーナス面が待っている。敵のジャンプターに弾を当てると、各種のアイテムが落ちてくる。アイテムにはスコアアップ/プレイ時間延長などのよいものと、動きが止まる/プレイ時間短縮/ボーナス面終了などの悪いものとがある。悪いアイテムをうまく避けながら、プレイ時間延長アイテム(特に「+10秒」)を拾うことが高得点の秘訣だ。

制限時間内に全29面をクリアすれば、感動のエンディングが待っている。あなたは果たして見られるだろうか。(大池)

●著作者: alty(森栄樹), IJU(梅野能理子) ●動作環境: PC-9801, PC-9821 ●バージョン: 1.02 ●アーカイブ: NX93\_102.LZH ●登録先: PC-VAN (CIARI/1/6), NIFTY (FGALAM/LIB4), ASCII (pool msdos) ●サポート先: NIFTY (FGALAM/MES4), ASCII (bio.test.bio)



画面上で生物が増殖/減少の様子をシミュレート

## SAVANNA

GAME

DISK  
8

生物の行動と個体数のシミュレーションプログラム。

ディスプレイの中という仮想的な空間で、生物がどのように増殖または減少していくかをシミュレートするためのソフトウェア。扱う生物は、草食または肉食動物で、最大7種類(種族)まで設定することができる。

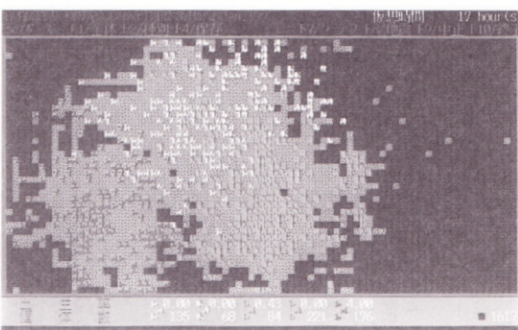
シミュレーションを開始すると、それぞれの動物が与えられたパラメータによって行動し、あるものは増え、あるものは減っていく様子が眺められる。各生物には平均寿命が設定されていて(もちろん個体によって実際の寿命は異なる)、行動することに寿命が減っていく。草食動物の場合は草を、肉食動物の場合は草食動物を食べると寿命が若干延びるが、餌がなくなれば死んでしまう。

画面では分からないが、各個体にはオス/メスの区別があり、1度でも餌を食べたことのあるオスとメスが出会うと子供が生まれる。子供の生まれる割合は、各種族ごとに出生率として画面下部に表示される。ただし、出生率が高くなると個体数が増えると、相対的に餌は減少するので、いずれは個体数が減少することになる。

SAVANNAはもともと教育用に作られたものらしく、通常の意味での「ゲーム性」はほとんどない。ユーザーは、各種のパラメータを変化させることによって、シミュレーションを楽しむことになる。パラメータの設定によっては、平均寿命が長い種族とか、群を作りにくい種族(群を作らないと出生率が下がる)などを作ることができる。生物以外のパラメータとして、草が生える割合や運河の数などを設定できるので、状況によってどのように各種族が増減していくかをシミュレートすることが可能だ。また、各種族の個体数の変化は、シミュレーションの実行中にF・7キーを押すことでグラフとして表示される。このとき、PC-PR201モードを持つプリンタがあれば、グラフをプリンタに出力することができる。

SAVANNAでは、ユーザーは基本的に画面を眺めていることしかできない。それだけでは物足りないというユーザーのために(?)、F・8キーを押すことで地震を発生させることができるようになっていて、どういう事態になるかは、実際に試してみたい。(青木)

●著作者: SAVANNA(原慎二) ●動作環境: PC-9801 ●バージョン: 3.02 ●アーカイブ: SVN302NLZH ●登録先: NIFTY (FGALAM/LIB6) ●サポート先: NIFTY (FGALAM/MES6)





マウスを使って操作するスキーゲーム

## ArtsJoke vol.3 SURAMAUS

GAME

DISK  
8

フリーソフト制作集団「葵館」謹製、マウスを使ったジョークプログラムシリーズ「ArtsJoke」の第3作に当たるスキーゲーム。

プログラムを起動すると、画面上部に「0」の形をしたマウスカーソルが表示されるとともに、画面下方よりコースが表示され、すぐにゲームが開始される。コースが下方から順次せり上がってくるので、表示されたカーソルをマウスで左右にコントロールし、コース上の障害物に触れないようにして進んでいく。マウスの左右ボタンで加速/減速ができるようになっており、現在のスピードはマウスカーソル(0~8)として表示される。コースを1ラインクリアするごとにポイントが1ポイントずつ加算され、一定時間以内にどれだけクリアできるかを競う。時間の経過はマウスカーソルの色(緑→黄→赤)によって表わされる。コース上の障害物に触れると、5ポイント減点されるとともにスピードが初期値(0)に戻ってしまう。コースの途中にはボーナスポイントが用意されており、それに触れるとボーナスがもらえる。ボーナスには、得点ボーナス(「P」:獲得ポイントに5ポイント加算)とタイムボーナス(「T」:残りタイムに0.5秒加算)の2種類がある。

ゲームをプレイするごとに、毎回違ったコースがランダムに表示されるので、繰り返しプレイしても飽きることはないだろう。ゲーム終了時にマウスの右ボタンをクリックするか、ゲーム中にESCキーを押すと、プログラムが終了して、それまでのハイスコアがファイルに保存される(次のゲーム起動時に自動的に読み込まれる)。

コースデータをテキストファイルとして作成し、プログラム起動時にファイル名を指定することで、オリジナルコースを楽しむこともできる。配布アーカイブにも「SPEED.SMC」(スピード重視型直線コース)、「CRANK.SMC」(シケインの連続するテクニカルコース)、「EIGHT.SMC」(コースが左右に分離する)の3種類のデータが用意されている。なお、オリジナルコースでプレイした場合は、ハイスコアファイルがコースごとに保存されるので、コース別のスコアを競うことができる。なお、マウスドライバは内蔵されているので、別途用意する必要はない。(東)

●著作者: mau/葵館(平野正喜) ●動作環境: PC-9801 ●バージョン: 1.01 ●アーカイブ: SM101ALZH ●登録先: NIFTY (FGALAM/LIB4), ASCII (pool msdos)

```

=====
===== time = 28 point = 285
===== time = 28 point = 286
===== time = 29 point = 287
===== time = 29 point = 288
===== time = 29 point = 289
===== time = 29 point = 290
===== time = 29 point = 291
===== time = 29 point = 292
===== time = 29 point = 293
===== time = 29 point = 294
===== time = 29 point = 295
===== time = 29 point = 296
===== time = 29 point = 297
===== time = 29 point = 298
===== time = 29 point = 299
===== time = 29 point = 300
=====
Time out ! Your score is 300
Then, Your best score is 494
Play again ? [YES:左クリック NO:右クリック/キー]
=====
SURAMAUS: Your Mouse wants to go to ski ! ver.1.01
(c) 1993 mau / 葵館
R:\FS\MSDOS>
=====
C1 OU CH S1 SU VOID NAL INS REP 2

```

マウスを使って100メートル競走を行なうゲーム

## 葵館スポーツvol.1 “100m徒競走”

GAME

DISK  
8

マウスで100メートル競走をするゲームプログラム。フリーソフト制作集団「葵館」謹製の「Aoikan Sports」シリーズ第1作。

プログラムを起動すると、オープニング画面に続いてゲーム画面が表示される。ゲーム画面は、画面上部にコースとプレイヤーが表示され、画面下部がタイム表示エリアとなっている。ゲーム画面で、マウスの左ボタンをクリックするとスタートのカウントダウンが開始され、「GO!」の表示に合わせてマウスを移動させるとプレイヤーがコース上を走り出す。「GO!」が表示される前にマウスを動かすとフライングとなり失格、再度トライする必要がある。

画面上には25メートルごとにチェックポイントが設けられており、そのポイントを経過するごとにラップタイムと経過タイム、トータルタイムが表示される。ハイスコアをマークするとファンファーレで知らせてくれる。ゴール後はマウスをクリックするとREADY状態に戻る。また、カウントダウン中、およびゲーム中にESCキーを押すことでゲームをキャンセルしてREADY状態に戻ることができる。それ以外の状態でESCキーを押すとプログラムを終了する。

プログラム終了時にはハイスコアがカレントディレクトリのスコアファイル(100M.SCR)にセーブされるので、そのファイルを保存しておくことで次回以降のゲーム時に自動的にハイスコア情報を読み込んでゲームを行なうことができる。

マウスの動作に合わせて画面上を走るキャラクタの動きが妙に可愛い。高得点のコツはマウスの移動方法にあるので、画面中央に表示されているパワーゲージの振れ方をチェックしながら、いろいろと試行錯誤してみるとよい。最初はなかなかゴールできないかもしれないが、慣れてくると実際の100メートル競走と同様のタイムが出せる。

キャラクタの動作はマウスの感度に左右されるので、自分が使用しているマウスの感度に合わせて、オプションでマウスの感度を指定してゲームを行なうこと(マウス感度のデフォルトは200カウント、指定範囲は100~900カウント)。なお、マウスドライバの機能は内蔵されているので、特に用意する必要はない。(東)

●著作者: mau/葵館(平野正喜) ●動作環境: PC-9801 ●バージョン: 1.01 ●アーカイブ: 100M101ALZH ●登録先: NIFTY (FGALAM/LIB4), ASCII (pool msdos)

```

AOIKAN SPORTS VOL.1 (100m) VER.1.01
=====
0 25 50 75 100
=====
YOU UPDATE THE RECORD!
NOW 02'35 05'07 07'44 10'03
LAPTIME 02'21 02'37 02'53
RECORD 02'35 05'07 07'44 10'03
LAPTIME 02'21 02'37 02'53
BESTLAP 02'35 05'07 07'44 10'03
02'21 02'37 02'53
=====
POWER
=====

```



# 4×4 TILE GAME

GAME

DISK  
8

3×3または4×4の盤面にタイルを置いて遊ぶゲーム。

ルールは簡単で、盤面の空いたところに交互に自分の色のタイルを置き、向かい合った自分の辺と辺を、先につないだ方が勝ちとなる。3×3の盤面の場合、次の図の①は■の勝ち、②は□の勝ちである。



一直線につながってなくてもよいが、③の■はまだつながったことにならない。また、もう1つのルールとして「切り換え」というものがある。これは斜めに並んだ相手のタイルを切るように打つと、相手のタイルを消すことができるというもので、例えば次の図のAの位置に■のタイルを置くと、□のタイルを消すことができる。

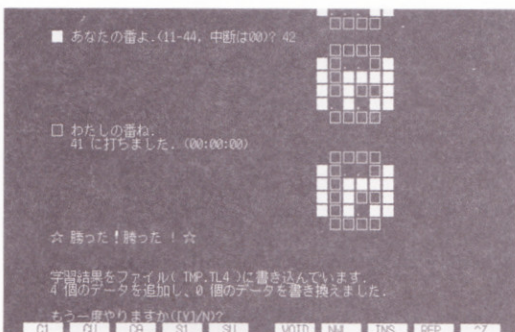


また、ゲーム中のパスは許されていないので、不利な場所しか残っていないか必ずどこかにタイルを置か、あるいはギブアップするしかない。

プログラムはTL3.COMが3×3、TL4.COMが4×4の盤面用である。TL4.COMにはゲーム内容を学習する機能が組み込まれており、一度負けた手は二度と指さないようになっているので、ゲームを進めるごとにコンピュータが強くなっていく。また、同梱されている記録ファイル (BASIC.TL4) には約4000手のデータが格納されており、これを使うように指定すれば、最初からコンピュータを強力なプレイヤーにすることができる。

筆者がプレイしたところ、記録ファイルなしでは数回勝つことができたが、記録ファイルを指定した場合は全敗だった。記録ファイルがない場合でもかなり強いと感じたが、パズルゲームが得意な人はぜひ一度対戦してみたい。制限時間はないので、じっくりと腰を落ち着けて対戦できる。(東)

●著作者: T.SASA(笹哲彰) ●動作環境: PC-9801 ●バージョン: 1.06 ●アーカイブ: TL4.LZH ●登録先: PC-VAN (CIARI), ASCII (pool msdos)



# 原発(安定装置付)

GAME

DISK  
8

原子炉内に設置された中性子砲を操作して、中性子を核燃料につけて発電を促進する、というテキストタイプのシューティングゲーム。

起動すると、画面下部に中性子砲(≦≦≦)が表示され、しばらくすると核燃料(@)がランダムに現われ、どんどん増えていく。中性子砲をテンキーの4、6で左右に移動させ、SHIFTキーを押すと中性子(↑)が発射される。SHIFTキーを押し続けると、中性子を連射することができる。

中性子と核燃料が衝突すると分裂反応(?)が起こって発電量(スコア)が増える。また、核燃料が消滅するかわりに2個の中性子が発生して左右に飛んでいき、さらに核のゴミ(\*)が下に落ちてくる。また、核燃料に衝突することなく上や左右の壁に衝突した中性子はそのまま反射する。

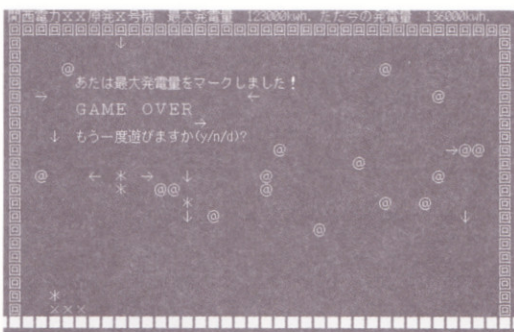
核のゴミや中性子に中性子砲が接触すると即ゲームオーバーだ。つまり、中性子を発射したら、それが核燃料に衝突するにしろしないにしろ、何かしら元の位置に戻ってくるので、中性子砲を移動させないと破壊されてしまう。核燃料は時間とともに自動的に供給されるため、ゲームオーバーになるのは自分がミスをした場合だけだ。巨大なボスキャラや華麗なエンディングなどは用意されていない。

終了後、Yキーを押せばリプレイ、Nキーを押せばMS-DOSに戻る。また、Dキーを押すと始まるデモでは、ハイスコアを取った際のプレイが再現される。とりあえずは、ハイスコアの初期値である発電量50000kWhを突破して、自分のプレイをデモに残すことが目標となるだろう。

このゲームでは、一般のシューティングゲームと違って、攻撃を仕掛けてくるような「敵」がおらず、自分の発射した中性子や、その結果生まれた核のゴミに衝突して破壊される、というところがミソだ。単純なルールながら、核燃料に衝突すると中性子の数が倍増する「連鎖反応」によって、むやみな連射が命取りになるように調整されている。

当たりどころが悪い(よい)と、一発発射しただけなのに、連鎖反応によって核のゴミや中性子が雨あられのように降ってくることもある。そんなときは、しばらく中性子を発射せずに、ひたすら避けることに専念するしかない。(大池)

●著作者: Tsukasa(中井悦司) ●動作環境: PC-9801 ●バージョン: 5.0 ●アーカイブ: GEN50.LZH





## リアルタイム型カードゲーム

### スピード

GAME

DISK  
8

コンピュータと対戦するリアルタイム型のカードゲーム。小学生のころ、トランプを折ったり欠いたりしながら腕を競った覚えのある人もいるのではないだろうか。

ルールは単純で、場の中央に出ている2枚の「マスターカード」のどちらかの数字につながる(前後の数字の)カードを、手持ちのカードから出していくというもの。出したカードが新たなマスターカードになる。キング(K)とエース(A)とはつながっているものとされ、カードの色やスート(記号)は関係がない。

手元のカードは、常に4枚まで表にすることができる。つまり、マスターカードにつながるカードを出したら、伏せていたカードを1枚めくることができる。カードがつかかりさえすれば、何枚でも連続して出すことができる。

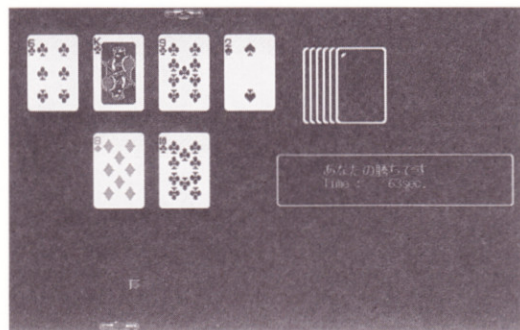
もし、対戦者が2人とも、マスターカードにつながるカードがなくなってしまうと、手持ちの伏せているカード(なければ表にしたカード)の中から1枚を、2人同時に新しいマスターカードとして出す。こうしてゲームを続けて、手持ちのカードを早く出しきったほうが勝ちだ。

キーボードによる操作も可能だが、マウスを利用したほうが楽だ。この場合、同梱の常駐コマンドZUMI.COMが必要だが、起動用のパッチファイル(CRD.BAT)を利用すれば、ZUMI.COMの組み込みと解除は自動的に行なわれる。プレイ中、マウスボタンの操作は、「カーソル位置のカードを出す」(左クリック)、「伏せていたカードをめくる」(右クリック)の2つだけだ。

最初のうちはコンピュータの動きが遅いので簡単に勝てるが、勝ち続けるうちに次第にコンピュータのスピードが上がっていく。勝ったときに相手のカードが多く残っているほど、つまり大勝すればするほどコンピュータのスピードの上がり方が速い。実際のところ、最高スピード(1)で勝てる人間がいるとはとても思えない。こちらが負けた場合には、コンピュータのスピードは逆に下がるようになっている。

勝った試合の中で、最も速かったコンピュータのスピードがスコアとなる。ゲームを終了した時点で20位までにランクインしていれば、ハイスコアに名前を残すことができる。(大池)

●著作者：市川泉(Zumi) ●動作環境：PC-9801 (VM以降) および互換機  
●バージョン：特になし ●アーカイブ：CRD.LZH ●登録先：PC-VAN (CIARI), NIFTY (FGALAM), ASCII (pool msdos) ●サポート先：NIFTY (FGALAM), ASCII (salon.pool)



## シンプルルールの古典的カードゲーム

### 大貧民

GAME

DISK  
8

PC-9801のグラフィック画面を使った、シンプルだが熱中できるカードゲーム。

大貧民は、4~10人程度でプレイする古典的なカードゲームで、ルールもいたって単純。読者のなかにも、修学旅行や研修旅行などで夜を徹してプレイした人も少なくないだろう。このプログラムではコンピュータが4人分を担当し、プレイヤーとあわせて5人でゲームを行なう。

ゲームの操作には、キーボードまたはマウスが使える。マウスを使用する場合は事前にNEC版のマウスドライバを登録しておくこと。

プログラムを起動するとデモ画面になり、スペースキーを押すかマウスボタンをクリックするとゲームがスタートする。初回は全員が「平民」であり、カードが配布され、スタートプレイヤーがランダムに決定される。

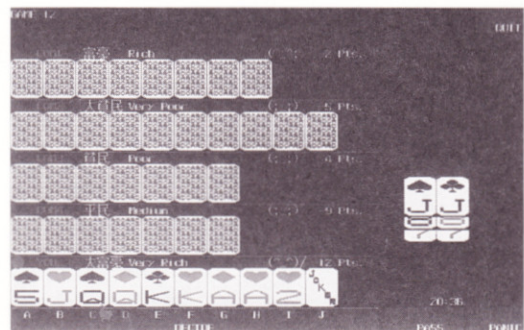
プレイヤーに順番が回ってきたとき、出せるカードがあるかどうかをコンピュータが自動的に判断し、出せるカードがない場合にはスキップされる。出せるカードがある場合には、アルファベットキーを入力するかマウスでカードをクリックすることでカードを選択し、スペースキーを入力するか「DECIDE」をクリックすることでカードを出す。パスする場合には、Pキーを押すか「PASS」をクリックする。このような操作の繰り返しで、全員の順位が決定すると1ゲーム終了となる。

2回目以降は、前回の成績によって「大富豪」「富豪」「平民」「貧民」「大貧民」のランクがつけられ、カード配布後にカードチェンジ(「大富豪」←→「大貧民」2枚、「富豪」←→「貧民」1枚)が行なわれてからゲームがスタートする。

ゲーム回数による制限はなく、ゲームを終了する場合にはQキーを2回押すか、「QUIT」をクリックする。また、緊急用(?)のパニック画面も用意されており、ゲーム中にリターンキーを押すとパニック画面が表示される。もう一度リターンキーを押すとゲーム画面に戻る。

ルールの大半は通常の「大貧民」と同じで、ジョーカーが最強のカードであり、ワイルドカードとして使用できる。ただし、特別ルールとして、一度に4枚のカードが呈示されたときにカードの強さが逆転するルールがある。(東)

●著作者：ないじえる ●動作環境：PC-9801 ●バージョン：1.00 ●アーカイブ：DH100.LZH ●登録先：PC-VAN (CIARI/7/5)





## どぼん

GAME

DISK  
9DISK  
10

Windows上で動作するカードゲーム「どぼん」。

「どぼん」はページワンなどに似たゲームで、手持ちのカードの合計数と同じ数のカードが場に出されたときに「上がり」となる。

このプログラムは4人の対戦ゲームとなっており、対戦相手3人分をコンピュータが担当する。対戦相手はゲーム開始時にランダムに選択されるが、ダイアログボックスに表示されている他のグループに変更することもできる。

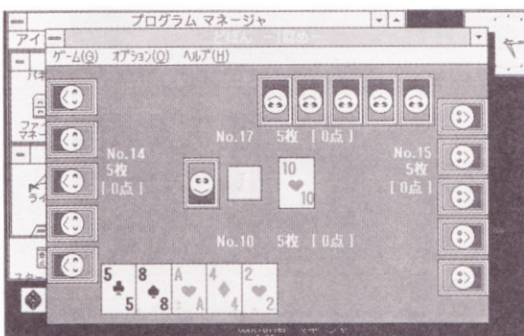
対戦相手が決定したらカードが4枚表示され、そのうち「エース」のカードを引いたプレイヤーが親となって、ゲームがスタートする。なお、対戦相手はゲーム中にメニューから変更することもできる。

各プレイヤーは、順番が回ってきたときに「場」（画面中央）に表示されたカードと同じ数字か、同じ絵柄のカードを捨てることができる。手持ちのカード内に同じ数字か同じ絵柄のカードがなく、捨てることのできない場合には、画面中央に積まれたカードの「山」からカードを1枚引かなければならない。また、手持ちのカードの最後の1枚を捨てることはできないので、この場合もカードを1枚引くことになる。このほか、捨てられるカードを持っている場合にも、意図的にパスすることが許されており、その場合もカードを引くことになる。ただし、手札が10枚になった場合はゲーム終了となる。

カードには、1人飛ばし／順序逆転／カード強制増加など特殊な意味を持つものもあり、これらが「場」に出された場合には、そのカードに従って順番が変更されたり、捨てられるカードを持っても「山」からカードを強制的に引かなければならない場合がある。自分が捨てたカードで他のプレイヤーが「上がった」場合、自分の手札の合計が捨てたカードと同じとき「どぼん返し」となるという特殊な逆転ルールもある。ゲームは8回戦を1ゲームとし、最終的な点数によって勝ち負けが決まる。特殊な意味を持ったカードの設定は自由に変更することができ、またゲームの回戦数も変更可能である。

なお、このプログラムの実行にはMicrosoft Visual Basic Ver.2.0のランタイムライブラリ（VBRJP200.DLL、本書に収録）が必要である。（東）

●著作者： M.Okabe(うっぽっほ) ●動作環境： Windows3.0以上 ●バージョン： 3.0 ●アーカイブ： WDOBON30.LZH,VBRJP200.LZH ●登録先： PC-VAN (WINDOWS/7/1) ●サポート先： PC-VAN (WINDOWS/3/3)



## マッチメーカー

GAME

DISK  
8

ロボットどうしを戦闘させるシミュレーションゲーム。ロボットやパイロットを成長させるというロールプレイングゲーム的な楽しみ方もできる。

マッチメーカーの基本的な流れは、アーマナーナイトと呼ばれるロボットを作成し、それを戦闘させることである。ユーザーはまず、アーマナーナイト作成用プログラム「ナイトメーカー」によって好みのアーマナーナイトを作成する。アーマナーナイトは、フレーム／エンジン／搭載コンピュータ／武装といった各種の部品を組み合わせて作成する。これらの部品にはそれぞれ値段があり、高価なものほど高性能になっている。手持ちの資金は限られているので、その範囲内で最適と思われる部品の組み合わせを選択しなければならない。

ナイトメーカーでは、アーマナーナイトを操る「パイロット」や、所有者である「オーナー」などの設定も可能。これらはアーマナーナイトの性能と直接関係があるわけではないが、マメに設定しておいたほうが戦闘時に楽しめる。

アーマナーナイトを作成したら、戦闘用プログラム「マッチメーカー」によってアーマナーナイトどうしによる格闘試合を行なわせることになる。試合は、基本的にアナウンサーによる実況中継で進行していくが、それ以外にパイロットやコンピュータのセリフも入るので、文字だけとはいえかなり楽しめる。勝利条件は試合によって異なるが、相手の頭部などを破壊すれば勝ちになる。負けたほうのアーマナーナイトが爆発してしまったり、パイロットが死んでしまったりすることもある。

試合に出場すると、ファイトマネーの収入があるので、それを資金としてアーマナーナイトを修理したりパワーアップしたりすることができる。

試合中の様子をテキストファイルに保存することもできるので、これに手を加えて物語の形にするという楽しみ方もある。また、友だちが作ったアーマナーナイトと格闘させることもできるが、友だちとの関係が悪化したとしても作者は責任を負わないので注意してほしい。（青木）

●著作者： 篠崎砂美, TAKOSASI, あんらつきい伸, 芳賀楓夢, マッチメーカー用基本メッセージ： 篠崎砂美, マッチメーカー用女性アナ拡張メッセージ： 道化師, マッチメーカー用関西弁拡張メッセージ： ギリス, ナイトメーカー： GERTY, ナイトメーカー用武装データ： 蓮川龍司郎, マッチメーカーログコンバーター： ベける ●動作環境： PC-9801 ●バージョン： 4.02 ●アーカイブ： MM4612.LZH, MMMSG463.LZH, FEMMSG46.LZH, KANMSG46.LZH, KM46V140.LZH, KMDAT462.LZH, MLC14.DLZH ●登録先： NIFTY (FGALAM/LIB5, FCGAMER/LIB9) ●サポート先： NIFTY (FGALAM/MES15, FCGAMER/MES9)





# Software Index

「mine sweeper」に似た3次元パズルゲーム

## 3D mine-sweeper “みつみね” for 98/for win

GAME

DISK 8

DISK 9

DISK 10

配置された地雷に接触しないように3次元のフィールドを開いていくパズルゲーム。Windows3.1付属の「mine sweeper」に似ているが、フィールドに上下方向が加わったため、地雷のない場所を見つけるのがさらに難しくなっている。マウスまたはキーボードで操作できる。

起動すると、4×4ブロックのフロアが4面、計64個のブロックが表示される。各フロアには地雷が1個ずつ隠されているが、起動直後はどのブロックも「?」（未知）になっている。

紫色のテキストカーソルをマウスカーソルキーで移動させ、左クリックかリターンキーでブロックを開いていく。開いたブロックに地雷がなかった場合には、隣接する前後左右上下（斜め方向含む）のブロックに隠されている地雷の数が0～4の数字で表示される。地雷が1つも隣接していない場合は、地雷に隣接するまで周囲のブロックが自動的に開く。

地雷があると思われるブロックが判明したら、右クリックかスペースキーによってそのブロックに旗を立てる。4カ所の地雷すべてに旗を立て、残りのブロックをすべて開けばクリアだ。逆に、開いたブロックに地雷があれば、その時点でゲームオーバーとなる。

以上は基本となる「easy」モードのルールだが、ブロックが移動／回転する難易度の高い5種類の上級者用モードも用意されている。例えば「elevate」モードでは、ブロックに対する操作は最上段に対してしか行なえず、旗を立てるとブロック全体が1段上に平行移動する。

過去に解いたモードのパネルは青で表示され、まだ解いていないモードと区別がつくようになっている。すべてのモードを解けばミッションクリアのBGMが流れるので、全モードクリアを目指して頑張ってほしい。

このゲームのスコアの計算方法は少し変わっていて、クリアするまでの時間ではなく、カーソルをどれだけ動かしたかを基準に計算される。じっくり腰を据えて考え、開いたブロックの周りから順に開いていくのが高得点の秘訣だ。

なお、Windows版の実行にはMicrosoft Visual Basic Ver. 2.0のランタイムライブラリ（VBRJP200.DLL、本書に収録）が必要である。（大池）

●著作者： mau/葵館(平野正喜) ●動作環境： PC-9801 ●バージョン： “みつみね” for 98： 2.01, “みつみね” for win： 2.00 ●アーカイブ： 3 M201A.LZH, 3MW200.LZH, VBRJP200.LZH ●登録先： NIFTY (FGALAM/LIB5, FGALAM/LIB13), ASCII (pool msdos, pool windows)



Windows用RPGのシナリオを作成

## ロールプレイングゲームメーカー

GAME

DISK 9

DISK 10

Windows上で動作するロールプレイングゲームのシナリオ作成プログラム。

ファイルマネージャなどからプログラムを起動するとメインウィンドウが表示され、すべての作業はこのウィンドウ上で行なうことができる。

このプログラムでサポートされている機能としては、シナリオ／マップ／メッセージ／イベント／キャラクタ作成、それぞれのデータのセーブ／ロード、作成したシナリオの実行などがある。ロールプレイングゲームの内容を相当細かなところまで設定できるが、設定自体はアイコンなどによる簡単操作で行なえる。例えば、マップ作成の際には、アイコンとして用意されている部品を、マップ上にドラッグ&ドロップして貼り付けていくだけでよい。マップどうしを接続したり、マップ上にキャラクタを配置したり、キャラクタの属性を設定したりするのも、同様にアイコンのドラッグ&ドロップ操作で行なえる。

ゲーム中に発生するイベントの設定は、毎回同じイベントが発生するタイプのものと、ゲーム時間の経過によって発生するイベントが変化するタイプのものが設定可能であり、これらを組み合わせることで、より複雑な設定を行なうこともできる。また、複数のプレイヤーによるパーティプレイ（最大3人）も可能だ。作成したゲームシナリオは、実際にプレイして動作やゲームバランスなどを確認することができる。

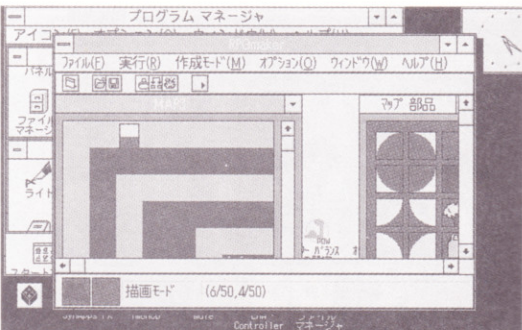
ヘルプファイルの内容も充実しており、ゲーム作成中に操作が分からなくなったときにも困ることはないだろう。

配布アーカイブには、サンプルシナリオが5本同梱されており、それらを参考にすることで、簡単なシナリオならすぐにも作成できるはずだ。

操作方法も、マウスによるアイコン操作がほとんどなので、パソコンの初心者でも簡単にロールプレイングゲームを作ることができるだろう。

なお、ロールプレイングゲームメーカーの実行にはMicrosoft Visual Basic Ver.2.0のランタイムライブラリ（VBRJP200.DLL、本書に収録）が必要である。また、このプログラムは「Windows GrandPrix '93」でアイデア賞を獲得している。（東）

●著作者： Mono/梅木泰宏 ●動作環境： Windows3.1以上 ●バージョン： 1.23 ●アーカイブ： RPGMAKER.LZH, VBRJP200.LZH ●登録先： ASCII (pool windows) ●サポート先： 作者宛てメールにて





## RPGrun

GAME

DISK 9 DISK 10

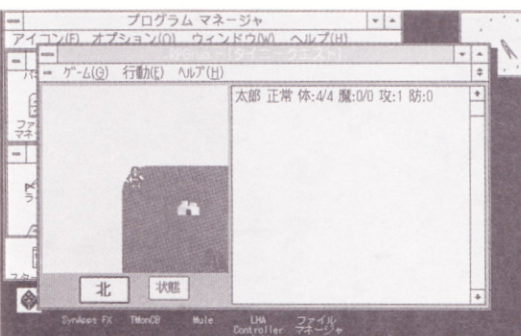
Windows上で動作するロールプレイングゲームのシナリオ実行プログラム。このプログラムで動作するシナリオは、「ロールプレイングゲームメーカー」(RPGmaker、本書に収録)で作成されたものに限られる。

ファイルマネージャなどからRPGrunプログラムを起動すると、まずシナリオデータファイルの入力ダイアログが表示される。配布アーカイブには2種類のサンプルシナリオ (SAMPLE1.RPG、SAMPLE5.RPG) が含まれているので、プログラム起動時の「シナリオを開く」ダイアログボックスでどちらかを選択することで、ゲームウィンドウが表示される。ゲームウィンドウには、現在の周囲の状況を示すマップ画面、イベントやキャラクタの状態の変化などを表示する情報表示画面、マウスでクリックすることでキャラクタを移動させる移動ボタン、キャラクタのステータスを表示する状態ボタンが表示される。ゲーム開始後は、マップ画面に自分のキャラクタが表示されているので、移動ボタンをマウスでクリックしてキャラクタを移動させる。

マップ上では、キャラクタが建物や洞窟などのシンボルの上に乗るとその中に入ったことになり、マップが切り替わる。マップ上の人物などとの会話は、相手のキャラクタの上に乗ることで自動的に行なわれる。洞窟内などのマップ上を移動しているとき、モンスターと遭遇した場合にはマップ上にモンスターが表示され、自動的に戦闘モードになる。戦闘モードでは、各キャラクタごとに行動 (打撃/呪文/逃げるなど) を指定することができる。呪文には攻撃用のものと回復用のものがあり、一定の呪文ポイントを消費する。戦闘はどちらかが全滅するか逃げるまで続く。ゲーム状態のセーブは、特定の位置 (データ保存用シンボルの上) で行なえるようになっており、セーブした情報はシナリオのロード時に自動的に読み込まれる。また、Windowsに付属のアイコンエディタで作成したデータで、キャラクタデータを変更したり、WAVファイルを入れ替えることで効果音を変更したりできるようになっている。

なお、このプログラムの実行にはMicrosoft Visual Basic Ver.2.0のランタイムライブラリ (VBRJP200.DLL、本書に収録) が必要である。 (東)

●著作者: Mono/梅木泰宏 ●動作環境: Windows3.1以上 ●バージョン: 1.23 ●アーカイブ: RPGRUN.LZH, VBRJP200.LZH ●登録先: ASCII (pool windows) ●サポート先: 作者宛てメールにて



## HOSop

JOKE

DISK 8

アニメーション「機動警察パトレイバー」の劇場版第1作「PATOLABOR THE MOVIE」に登場した、篠原重工製レイバー用OS「HOS (Hyper Operating System)」の起動画面とパスワード入力部をシミュレートするソフト。原作者のゆうきまさみ先生のコンピュータ部屋の98にも組み込まれていたという。

ビジュアル面では、図形の回転や拡大、色の変化など、劇場版に登場するHOSの起動画面をほぼ完全に再現している。劇場版ではマスターコピーの起動画面と零式の起動画面という、それぞれ異なる色合いのHOSが登場するが、HOSopではどちらの色合いで表示するかを選択可能だ(「-b」オプション)。

オーディオ面では、ビーブ音による効果音のほか、最新版ではサンプリングされたADPCMファイルを再生する機能も備えている(「-v」オプション)。再生にはビーブ音を利用するので、音源ボードなどは必要ない。

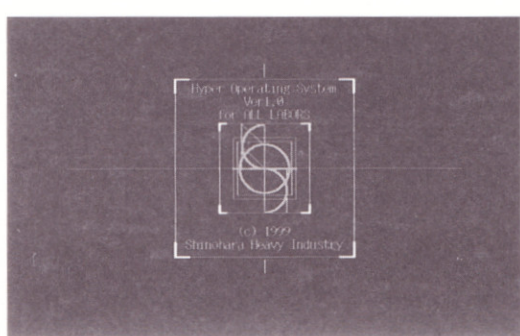
さらに、「-p」(「-P」)オプションに続けてパスワードを指定すると、起動画面を表示した後でパスワード入力部に移行する。ここで入力した文字列がパスワードと一致しない場合、英文メッセージを表示してキー入力を受け付けなくなっていく (f・1～f・10キーを全部押せば脱出できる)。

AUTOEXEC.BATやCONFIG.SYSにパスワードを指定したHOSopを組み込めば、自分のマシンを他人に使われないようにするツールとして使うことができる。オプション指定によって、パスワードを暗号化したり、脱出時に使用するファンクションキーの組み合わせを変更することも可能だ。

このほか、「実行前にテキスト/グラフィック画面を保存するかどうか」とか、効果音/字幕の有無など、さまざまな設定をオプションによって行なう。こうしたオプションは、コマンドラインで指定するだけでなく、設定ファイル (HOSOP.CFG) 中に記述しておくことも可能だ。

なお、「-?」オプションでヘルプを表示させると、各オプションの意味とともに現在の設定値が反転表示される。設定ファイルの内容も反映されるので、現在のオプションの設定値が分からなくなったときに便利だ。 (大池)

●著作者: Daichi ●動作環境: PC-9801 (VM以降) ●バージョン: 1.50 ●アーカイブ: HOSOP150.LZH ●登録先: ASCII (pool msdos) ●サポート先: ASCII (salon.pool)



GAME

JOKE



三角形が画面を飛び回る非常駐型スクリーンセーバ

## Triangle!!

JOKE

DISK  
8

色とりどりの三角形が画面を飛び回る非常駐型スクリーンセーバ。快適に使うには386以上のマシンが望ましい。

三角形の各頂点は独立して動いており、画面の端に達すると向きと速さを変えるので、形や大きさの変化にはほとんど無限のバリエーションがある。次第に色が変化していく三角形が残像を残しながら飛び回る様子は、見ていて思わず引き込まれそう。キーボード上のキーやマウスボタンを押すと、実行を中断してコマンドラインに戻る。

画面に表示される三角形は通常1個だが、「-d」オプションに続けて個数を指定することによって変更できる。例えば、  
A>triangle -d2

とすると、2個の三角形が画面を飛び回るようになる。最大5個まで指定できるが、個数が多くなると画面がごちゃごちゃするので、2~3個にとどめておいたほうがよいかもしれない。

また、色の変わる瞬間を楽しみたいという人には、「-c」オプションに続けて小さな数値(0など)を指定して、色の変化の周期を短くすることをお勧めする。このほかにも、飛び回るスピードを変更するオプションが用意されている。

さて、画面最下行のファンクションキー表示のように、CRT画面に同じ文字を長い間表示し続けていると、画面にその文字が残ってしまう「焼き付き」現象の原因となる。そこで、一定時間キーボードが押されなかったら画面を消去(または動きのある画面を表示)して、焼き付きを防ぐのがスクリーンセーバだ。

Triangle!!をスクリーンセーバとして使う場合、KI-Shell(石野恵一郎/広瀬雄二/堀田俊哉氏作)と併用すると、常駐型のスクリーンセーバと同様の効果を得ることができる。具体的には、KI-Shellのinvokeコマンドを利用して、

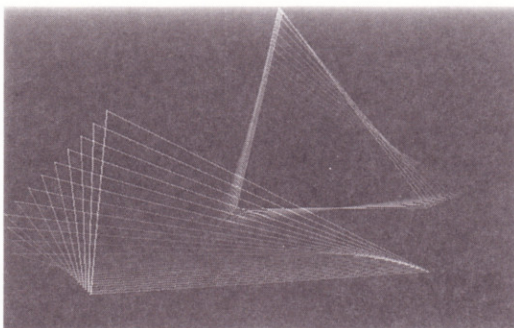
A>invoke \*分 triangle

とする。例えば、

A>invoke \*3 triangle -d2

とすると、3分間キーボードが押されなかった場合、自動的にTriangle!!が起動して、2個の三角形が画面を飛び回るようになる。もちろん、時間やTriangle!!のオプションは好きなように設定してかまわない。(大池)

●著作者：黒木進矢 ●動作環境：PC-9801 (VM以降) ●バージョン：1.30 ●アーカイブ：TRIANG130.LZH ●登録先：ASCII (pool msdos)



パターンの自作が可能な常駐型スクリーンセーバ

## スクリーンセーバーツクール (SST)

JOKE

DISK  
8

PC-9801用のスクリーンセーバプログラム。

このプログラムを起動しておくと、一定時間キーボードやマウスからの入力がない場合に自動的に画面を切り替えてくれるので、画面の焼き付きを防ぐことができる。表示パターンの自作も可能だ。

このプログラムは常駐コマンド(TSR)で、起動するとメモリに常駐し、以後キーボード入力やマウス入力を監視して、一定時間入力がない場合には表示画面を保存し、指定されたパターンを画面に表示する。

起動時のパラメータとして、スクリーンセーバ起動までの時間指定や、マウス使用の有無を指定することができる。起動時間は、1/60秒単位で、1秒から1092秒(約18分)まで指定できる。

スクリーンセーバ画面の表示パターンファイルを指定することができる(デフォルトでは6種類のパターンが指定されている)。これらを起動時に指定することで、スクリーンセーバ画面での表示パターンを変化させることができる。また、時間経過を待たずに特定のキー操作でスクリーンセーバ画面を呼び出す機能や、セーバパターン確認用の非常駐モードでの実行機能なども用意されている。

このプログラムと同様の機能を持つスクリーンセーバはほかにも公開されているが、このプログラムの特長は、スクリーンセーバ画面を自作できることだろう。これは、リソースファイル内で、セーバパターンファイル名や、それぞれのパターンの動作を指示して、同梱されている作成プログラム(SSTMAKE.EXE)を使用してパターンファイルに変換するものである。リソースファイル内で指定できるパターンの動作には、パターン初期位置/移動上下限/移動速度/移動パターンなどがある。また、2つのパターンを交互に表示することでアニメーション効果を出せるようになっている。グラフィックデータとして、MAG形式のファイルも指定できるので、別途入手したMAG形式のグラフィックスをセーバパターンに使用することができる。

お仕着せのスクリーンセーバ画面に飽きたらないユーザーにとっては嬉しいソフトといえよう。(東)

●著作者：長谷川裕之、崎修視 ●動作環境：PC-9801 ●バージョン：0.817 ●アーカイブ：SST0817.LZH, TANOSIMI.LZH ●登録先：NIFTY (FGALAM/LIB7) ●サポート先：NIFTY (FGALAM/MES7)





『空飛ぶお釜』  
(Flying Jar)

JOKE

DISK  
8

「お釜」が画面を飛び回る非常駐型スクリーンセーバ。

画面最下行のファンクションキー表示のように、CRT画面に同じ文字を長い間表示しつづけていると、画面にその文字が残る「焼き付き」現象の原因となる。そこで、一定時間キーボードが押されなかったら画面を消去（または動きのある画面を表示）して、焼き付きを防ぐのがスクリーンセーバだ。

MacintoshやWindows向けの市販スクリーンセーバ「After Dark」（パークレイシステムズ製）には、羽の生えたトースターと焼いた食パンが空を飛ぶ「Flying Toasters」という名作がある。これに対しFlying Jarでは、作者が「ここは折角日本人が作るのですから和風に見せよう」とドキュメントで語っているように、トースターならぬ「お釜」が空を飛び回る。食パンのかわりには「どんぶり飯」（笑）だ。

起動すると、お釜やどんぶり飯、箸などが画面を飛び回る。任意のキー（SHIFTキーやCTRLキーも可）やマウスボタンを押すか、マウスを移動させると、画面が消去されてコマンドラインに戻る。オプション指定によって、一定時間で終了するようにしたり、画面を飛び回るキャラクタの数や移動速度、動き方などを変更することが可能だ。

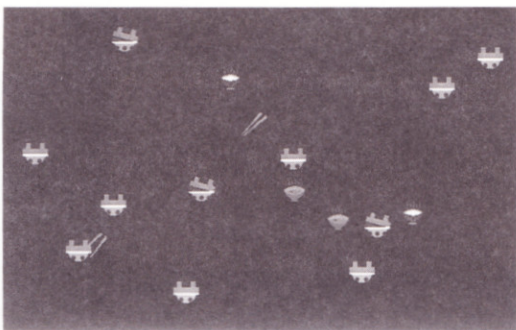
Flying Jarをスクリーンセーバとして使う場合、KI-Shell（石野恵一郎／広瀬雄二／堀田俊哉氏作）と併用すると、常駐型のスクリーンセーバと同様の効果を得ることができる。

具体的には、KI-Shellのinvokeコマンドを利用して、  
A>invoke \*分 fj  
と入力する。例えば、  
A>invoke \*3 fj  
とすると、キーボードが3分間押されなかった場合、自動的にFlying Jarが起動し、お釜が画面を飛び回る。もちろん、時間は自由に設定できる。キー／マウス操作を行なうとFlying Jarは終了し、コマンドラインに戻る。

また、起動時に画像データを指定することにより、画面を飛び回る物体を変更することができる。Flying Jar用の画像データ集（FJ\_DATA.LZH、本書に収録）には、馬やサンタクロースなど計10種類の画像データが集められている。

（大池）

●著作者： M.Kit（北谷昌宏） ●動作環境： PC-9801 ●バージョン： 0.35  
●アーカイブ： FJ035.LZH, FJ\_DATA.LZH ●登録先： NIFTY (FGALAM/LIB7), ArtsLink la femy (junk.test) ●サポート先： Arts-Link la femy (junk.test)

ArtsJoke vol.1"  
nakimaus 2 dash

JOKE

DISK  
8

フリーソフト制作集団「葵館」謹製、マウスを使って音楽を楽しむジョークプログラムの第1弾「なきまうす」の別バージョン「なきまうす2だっしゅ」。

プログラムを起動するとメッセージが表示され、PC-9801内蔵スピーカーから一定の音が流れ始める。

画面中央にマウスポインタが表示され、それをマウスを使って移動させることで、その動作に合わせて内蔵スピーカーからの音程が変化する。

マウスの移動量により音程の変化の度合いが変わるので、マウスの移動速度を変えたり、移動方向や移動方法を変えたりすることで、マウスによって即興のメロディー(?)を奏でることができる。

プログラム動作中に、マウスボタンをクリックするか、キーボード入力を行なうとプログラムを終了することができる。

プログラム起動時に、オプション指定によりマウスの感度（「1」:100カウント／「3」:300カウント／「4」:400カウント）の指定が可能なので、自分の使用しているマウスの感度に合わせて指定すること（デフォルトは200カウントマウスになっている）。

例えば、400カウントのマウスの場合は、

A>nm" 4

というように起動する。

もともと、マウス感度が異なってもとくに動作に支障はないような気もしないでもない。逆に、ちょっと違った雰囲気(?)を味わえるかもしれない。

このプログラムの元になっている「なきまうす」では、マウスの動きに合わせてキャラクタの顔文字が表示されたが、このプログラムではマウスの動きに合わせてグラフィック画面に大きな顔が現われたり消えたりする。

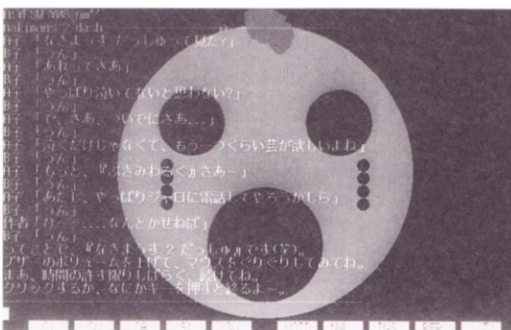
少し毛色が変わったプログラムだが、疲れた頭のリフレッシュにはよいかもしれない。

何も考えずぐりぐりとマウスを動作させて、流れる音楽に身を任せる…のは、ほどほどにしておくほうが身のためかもしれない。

なお、マウスドライバは内蔵されているので、別に用意する必要はない。

（東）

●著作者： mau/葵館（平野正喜） ●動作環境： PC-9801 ●バージョン： 1.01 ●アーカイブ： NMD101A.LZH ●登録先： NIFTY (FGALAM/LIB7), ASCII (pool msdos)





たくさんの猫が文字を作る「猫文字」を表示

## にゃん文字

JOKE

DISK 8

人文字ならぬ「猫文字」を画面に表示するソフト。快適に使うには386以上のマシンが望ましい。たくさんの小さな猫が一致団結して文字を作る様子は見ているだけで楽しいものだし、スクリーンセーバとして利用することもできる。

にゃん文字 (CATLET) を実行するには、表示したい文字列をコマンドラインで指定すればよい。例えば、

A>catlet CATLET

とすると、最初に「C」、次に「A」というように、何匹もの小さな猫が協力して1文字ずつ文字を作っていく。最後の文字を表示し終わると最初に戻り、スペース/リターン/ESC/Qのいずれかが押されるまで永久にこれを繰り返す。

文字列には漢字などの2バイト文字も指定できるから、

A>catlet にゃん文字

とすると、今度は「に」「ゃ」「ん」が順番に表示される。大量の猫が見たかったら、「■」や「鬱」など「高密度の」記号や漢字を指定するとよい。

こうした文字列は、1バイト文字/2バイト文字ともに最大16字まで指定することができる。ただし、1バイトカナには対応していない。

さて、画面最下行のファンクションキー表示のように、CRT画面に同じ文字を長い間表示し続けていると、画面にその文字が残る「焼き付き」現象の原因となる。そこで、一定時間キーボードが押されなかったら画面を消去（または動きのある画面を表示）して、焼き付きを防ぐのがスクリーンセーバだ。

にゃん文字をスクリーンセーバとして使う場合、KI-Shell (石野恵一郎/広瀬雄二/堀田俊哉氏作) と併用すると、常駐型のスクリーンセーバと同様の効果を得ることができる。具体的には、KI-Shellのinvokeコマンドを利用して、

A>invoke \*分 catlet 文字列

とする。例えば、

A>invoke \*3 catlet にゃん文字

とすると、3分間キーボードが押されなかった場合、自動的ににゃん文字が起動して、「にゃん文字」という文字列を表示するようになる。前述のキー操作によってにゃん文字は終了し、コマンドラインに戻る。 (大池)

●著者: alty(森栄樹), IJU(梅野能理子) ●動作環境: PC-9801, PC-9821 ●バージョン: 1.0 ●アーカイブ: CATLET10.LZH ●登録先: PC-VAN (CIARI/7/6), NIFTY (FGALAM/LIB7), ASCII (pool msdos) ●サポート先: NIFTY (FGALAM/MES7), ASCII (bio.test.bio)



Windows用のバイオリズム表示プログラム

## バイオリズム

JOKE

DISK 9

DISK 10

バイオリズムを表示するWindowsアプリケーション。

初めて起動すると、生年月日をたずねるダイアログが表示されるので、誕生日を入力する。生年は必ず西暦4桁で入力しなければならない。入力後は(OKボタンを押す前に)「登録」ボタンを押して、入力した生年月日をファイルに記録しておく。これで次回からは、ダイアログ左側のコンボボックスの↓を押して、表示される生年月日の中から選択するだけで済むようになる。

OKボタンを押すとダイアログが消え、「バイオリズム」のウィンドウが表示される。しばらく待っていると計算が終了して、画面に3色のバイオリズムが表示される。これらはそれぞれ、

青……身体リズム

赤……感情リズム

緑……知性リズム

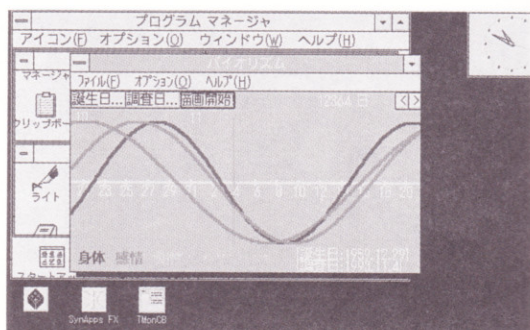
を表わしている。横軸には約1カ月分の日付が表示され、今日の部分には縦線が引かれている。

別の日のバイオリズムを調べるには、「調査日…」ボタンを押して日付を入力後に「描画開始!」ボタンを押すか、ウィンドウ右上の矢印ボタンで1カ月ずつ前/後に移動すればよい。違う人のバイオリズムを調べる場合には、同様に「誕生日…」ボタンを押して、新たに生年月日を入力する。「バイオリズム」を終了するには、ファイルメニューの「バイオリズムの終了」を選択すればよい。

バイオリズムは、23日周期の身体リズムが身体的能力と耐久力の増減をコントロールし、28日周期の感情リズムが感情と情緒の振幅を左右し、33日周期の知性リズムが知的活動を支配する、という原理にもとづいている。リズムがマイナスからプラス、プラスからマイナスへと移る日(横軸と交わる日)は「要注意日」と呼ばれ、身体的/精神的なミスや事故を起こしやすいとされている。ウィンドウ上で右ボタンを押すと、調査日の状況に対するアドバイスのダイアログが画面に表示されるので、参考にしてほしい。

なお、このプログラムの実行にはMicrosoft Visual Basic Ver.2.0のランタイムライブラリ (VBRJP200.DLL、本書に収録) が必要である。 (大池)

●著者: M.Okabe(うっほっほ) ●動作環境: Windows3.0以上 ●バージョン: 3.1 ●アーカイブ: WINBIO31.LZH, VBRJP200.LZH ●登録先: PC-VAN (WINDOWS/7/1) ●サポート先: PC-VAN (WINDOWS/3/3)





# サンプルデータについて

本書には、画像／音楽関連のソフトのために、サンプルデータも収録してあります。収録したサンプルデータのアーカイブファイルは次の表のとおりです。

## ■サンプルデータのアーカイブファイル一覧

アーカイブファイル名	データ名	対応ソフト	著作者	収録ディスクNo.
BANBI.LZH	BANBI	GRIFFON, JPGV98	杉山剛大	6
SUMMER93.LZH	暑中見舞い1号	team	Aoi.H	6
KIDDJN1.LZH	KIDの同人ミュージック集その1	FMP	KID	7
OWARA55M.LZH	終わらない夢	MIMPI	安福聡 (syaski)	6
KISS1.LZH	Beach Lovers	Ray	しめやん	7
MASU_ESC.LZH	シューベルト「鱒」	Ray	YUKO, 香魚, DoRa, AKKO	7

これらのデータも、フリーソフトと同様、それぞれの著作者のご好意によって収録させていただいたものです。これらのデータの著作権はそれぞれの著作者が保持しています。利用に当たっては、フリーソフトの場合と同様、ドキュメントをよくお読みいただき、著作者の権利を侵害することのないようご注意ください。

また、パソコン通信上では、本書に収録したもの以外にも数多くの画像データや音楽データが配布されています。ソフトの登録先（「Software Index」の「登録先」欄に記載されている場所）には、プログラム本体のほかに、そのプログラムで表示したり再生したりすることができるデータも多数登録されています。興味を持たれた方はぜひパソコン通信に加入し、お好みのデータを入手することをお勧めします。



## A

ADDRESS .....	34
age.com .....	60
air .....	71
air craft .....	71
ArtsJoke vol.1" nakimaus 2 dash .....	89
ArtsJoke vol.3 SURAMAUS .....	82
AUTO123.....	45
A-WORD .....	34

## B

BATCP .....	46
BATUTY .....	46
BMPUT .....	73
BU (BATUTY) .....	46

## C

CALPET .....	35
Canvas-98 .....	73
C-GRAPH 3Dimension .....	35
CHOICE-plus .....	60
comlist .....	47
compdir - compare two directories .....	47
craft.....	71
CRD .....	61

## D

DDWin.....	36
DIET .....	48
DOSHIGH .....	61
Drive information Viewer (DV.exe) .....	48
DV.exe .....	48

## E

EasyTERM .....	70
EditEngine .....	36
ERDISK .....	62

## F

FDB, FDB for Windows .....	37
FILMTN (フィルメンテ) .....	37
FL .....	38
Flying Jar .....	89
FMP-SYSTEM .....	77
FMWIN .....	38
FM音源ドライバー FMP-SYSTEM .....	77
fox .....	58

## G

GECHO .....	59
GRIFFON.....	74

## H

HF .....	39
HOSop .....	87

## I

izgrep .....	49
--------------	----

## J

Jazz Bound II .....	79
Jazz Race .....	80
JED .....	39
JPGV98 .....	74

## K

kframe.....	62
-------------	----

## L

LHA .....	49
LHA.DLL .....	50
LHA Tree .....	50
LHD .....	51
LHQ .....	51
LOOK .....	52

## M

MARKADIA .....	80
Mdrv2 System .....	77
MIEL .....	52
MIMPI .....	78
MS .....	53

## N

nakimaus 2 dash .....	89
NIFMCR3 .....	70
NIFP (NIFTYログ専用簡単ページャ) .....	71
NyaHaX'93 .....	81

## O

OKPP .....	63
osanpo.exe .....	53
OZMENU.....	40

## P

PATCH IO.SYS .....	54
pm .....	54
PRC.COM .....	55

## Q

Q's MOUSE Device Driver .....	63
Quick-Note.....	40



## R

Ray .....	78
Real Editor I, Real Editor II .....	41
REX - Resident EXecuter - .....	64
RNDDOT.EXE .....	75
RPGRun .....	87

## S

SAVANNA .....	81
SCOPY .....	55
SDU .....	56
sec.com .....	64
SIG.EXE .....	65
SST .....	88
SURAMAUS .....	82

## T

Task Manager on the Caption Bar (TMonCB.EXE) .....	65
team .....	75
Tele-Book .....	41
TMonCB.EXE .....	65
TODAY .....	56
Triangle!! .....	88

## U

uncompak .....	57
uncompak/un_e2c .....	57
un_e2c .....	57

## V

vlabel .....	57
VR-Simulator .....	76

## W

wild .....	58
wild/fox .....	58
WINBIO .....	90
Windows History .....	66
Windows PCM Player .....	79
Winhd.exe .....	42
WinLog.exe for Microsoft Windows .....	66
WISER .....	67
WP.EXE .....	76
WSP .....	58
WTERM .....	72

## XYZ

XRDISK.EXE .....	67
YF .....	42
zkill .....	59

## 数字/記号

"100m徒競走" .....	82
3D mine-sweeper "みつみね" for 98/for win .....	86
30行BIOS .....	68
49L.COM .....	68
4×4 TITLEGAME .....	83
ψ/menu/plus .....	43

## ア

葵館スポーツ vol.1 "100m徒競走" .....	82
おかみさんの家計簿 .....	43
親指びゅん .....	63

## カ

壁紙効果風ステレオグラム作成 WP.EXE .....	76
ぐらふいっくECHO .....	59
原発 (安定装置付) .....	83

## サ

常駐型日本語FEP起動キー変更プログラム SIG.EXE .....	65
スクリーンセ이버ツクール (SST) .....	88
スピード .....	84
『空飛ぶお釜』 (Flying Jar) .....	89

## タ

大貧民 .....	84
卓駆★ファイルマネージャ .....	44
どぼん .....	85

## ナ

にゃん文字 .....	90
-------------	----

## ハ

バイオリズム .....	90
秘書98 .....	44
秀Term for Windows .....	72
秀丸エディタ for Windows .....	45
びゅうまるち .....	69
ファイル管理のワークシート AUTO123 .....	45
ファイル操作HD Winhd.exe .....	42
ファイルマネージャ拡張メニュー .....	69
フィルメンテ .....	37

## マ

マッチメーカー .....	85
みつみね .....	86

## ラ

ランダムドットで3D!! RNDDOT.EXE .....	75
ロールプレイングゲームメーカー .....	86



## ■解説者プロフィール

### 小泉 カー（こいずみ りきいち） ハンドル：りきちゃん

生まれも育ちも東京の下町両国だが、名前の由来は相撲と関係ない。現在、高校にて教鞭をとる。フリーソフトウェアとの出会いは名作NEKOであった。その昔、PC-VANが無料であった時代に通信を始め、有料化と同時に鳴りをひそめる。その後、仕事上の必要性からアスキーネットやNIFTY-Serveを徘徊するようになる。縁あってファイラの定番FDを解説した『FD+LHA=かしこいMS-DOS』（アスキー刊）を世に出す。これをきっかけに、アプリンク誌やNetWorks誌にフリーソフトウェア活用記事連載し始める。フリーソフトウェアには作者の勝手なポリシーがあり、どんな作品にも敬意をもって楽しませてもらっている。

### 東 功（あづま いさお） ハンドル：Lupin

外資系ソフトウェア会社に勤務するかたわら、3年前から月刊アスキー誌「Free Software Index」のWindowsおよびMS-DOS関係の紹介記事を担当。パソコン通信は、アスキーネットの正式運営開始と同時に始め、1年半前からは自宅でホストを開設している。今まで4～5本のFree Softwareを作成して公開しているが、作るよりも使うほうが多く、気に入ったプログラムを見つけては作者に動作レポートや要望などを報告している。最近ではWindows関連のプログラムに興味を示すことが多く、CompuServeなどを徘徊しては、Windows関連のShareware、Free Softwareなどの収集を行なっている。所有IDは、アスキーネット：pcs26776、NIFTY-Serve：GGC00014、日経MIX：lupinなど。

### 大池 浩一（おおいけ こういち）

フリーライター。NetWorks誌に出井一名義で「オンライン・ソフトウェア・レビュー」を連載中。『PC-9801版MS-DOS定番フリーソフトウェア集』（アスキー刊）、『PC-98全生活の知恵』（翔泳社刊）などフリーソフト関係の著書多数。使用機種は、486DLCに換装したPC-9801RA21と、PC互換機のGATEWAY2000 4DX2-66V、持ち歩くのに便利なThinkPad220。3つともキー配列が異なっているのが困りもの。みずからもDOS用ツールや98用ゲームをいくつかフリーソフトとして公開している。最近ではPC互換機やWindowsに興味に移りつつあるが、まだプログラムをバリバリ作れるレベルではない。

### 青木 “見掛け倒し” 達也（あおき たつや）

現在売り出し中の若手ライター。と自分で言うのもおこがましいが、実はそれは表向きの顔であり、裏ではギターを弾いたりもしているらしい(笑)。ギタリストにありがちな時代錯誤的長髪のためか、一見コワイヒトに見えるらしいが、決してそんなことはない。また、すべてをノリと気合いで解決しようとするのが欠点である。ちなみに現在、歌を歌ってくれる人（女性に限る）を募集している。原稿執筆を生業としているためか、フリーソフトウェアでは主にテキスト処理に関するものに興味がある。となるとUNIX系のツールが集まるのは当然であり、特にGNU関係のソフトウェアは、DOSでもUNIXでもたいへんお世話になっている。



## ■謝辞

本書の制作にあたり、本書に収録したフリーソフトウェア／シェアウェア／サンプルデータの作者および関係者の皆様には大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。

## ■編集協力

石島 鉄朗  
加賀 誠人  
安福 聡  
山崎 均



## 秀作フリーソフトウェア100選 PART3

### 3.5インチユーザー版

1994年1月10日 初版発行  
1994年3月25日 第1版第2刷発行

編 者 ネットワークス編集部／月刊アスキー編集部

発行人 藤井章生

編集人 遠藤 諭

発行所 株式会社アスキー

〒151-24 東京都渋谷区代々木4-33-10 トーシンビル

振 替 東京4-161144

電 話 大代表 (03)5351-8111

出版営業部ダイヤルイン (03)5351-8194

編集部ダイヤルイン (03)5351-8140

●本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部について（ソフトウェアおよびプログラムを含む）、株式会社アスキーから文書による許諾を得ずに、いかなる方法によっても無断で複写・複製することは禁じられています。ただし、フリーソフトウェアおよびシェアウェアについては、各ソフトウェアの配布規定に従って再配布できます。

●本書の内容に関するご質問は、小社第一雑誌編集部まで封書（返信用切手同封）にてお送りください。電話によるお問い合わせはお受けしておりません。また、本書の範囲を超えるご質問にはお答えできかねる場合もありますので、あらかじめご了承ください。

●落丁本・乱丁本は、お手数ですが小社出版営業部までお送りください。送料小社負担にてお取り替えいたします。

編 集 小暮謙作

表紙デザイン 杉山剛大

本文デザイン スペース ワイ

電算写植 三光デジプロ

印 刷 共同印刷株式会社

ISBN4-7561-0548-3

Printed in Japan

●1310801









秀作  
フリーソフトウェア

D I S K

2

2HD

(1.2MB)

for PC-9801

35インチユーザー版  
付属ディスク No.2

100  
PART 3  
選

秀作  
フリーソフトウェア

D I S K

1

2HD

(1.2MB)

for PC-9801

35インチユーザー版  
付属ディスク No.1

100  
PART 3  
選



秀作  
フリーソフトウェア

D I S K

4

2HD

(1.2MB)

for PC-9801

35インチユーザー版  
付属ディスク No.4

100  
PART 3  
選

秀作  
フリーソフトウェア

D I S K

3

2HD

(1.2MB)

for PC-9801

35インチユーザー版  
付属ディスク No.3

100  
PART 3  
選



秀作  
フリーソフトウェア

D I S K

5

2HD

(1.2MB)

for PC-9801

35インチユーザー版  
付属ディスク No.5

100  
PART 3  
選





秀作  
フリーソフトウェア

DISK

7

2HD

(1.2MB)

for PC-9801

3.5インチユーザー版  
付属ディスク No.7

100選  
PART 3

秀作  
フリーソフトウェア

DISK

6

2HD

(1.2MB)

for PC-9801

3.5インチユーザー版  
付属ディスク No.6

100選  
PART 3



秀作  
フリーソフトウェア

DISK

9

2HD

(1.2MB)

for PC-9801

3.5インチユーザー版  
付属ディスク No.9

100選  
PART 3

秀作  
フリーソフトウェア

DISK

8

2HD

(1.2MB)

for PC-9801

3.5インチユーザー版  
付属ディスク No.8

100選  
PART 3



秀作  
フリーソフトウェア

DISK

10

2HD

(1.2MB)

for PC-9801

3.5インチユーザー版  
付属ディスク No.10

100選  
PART 3